
男女共同参画に関する意識調査 報告書

令和4年1月

鹿児島県 曾於市

目 次

I	調査概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査時期.....	1
3	調査対象.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	集計上の留意点.....	1
II	調査結果.....	2
	あなたのことについて.....	2
	男女平等に関する意識について.....	3
	家庭生活等について.....	3
	社会活動，地域活動への参加・参画について.....	3
	就労について.....	3
	人権・暴力について.....	3
	男女共同参画全般について.....	3
	自由記述回答.....	3

I 調査概要

1 調査の目的

誰にとっても住みよいまち，男女共同参画社会の実現のために「第2次曾於市男女共同参画プラン」を平成30年3月に策定し，現在その中間評価に取り組んでいる。曾於市民の男女の人権，家庭・地域などに対する意識と実態を把握し，男女共同参画社会づくりに向けた施策の推進を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査時期

令和3年10月～11月に実施

3 調査対象

曾於市に居住する20歳以上の方を対象に無作為抽出

4 調査方法

郵送による配布・回収及びインターネット上での回収

5 回収状況

配布件数	回収件数	回収率
2,000件	675件	33.8%

※うち2件無効票

6 集計上の留意点

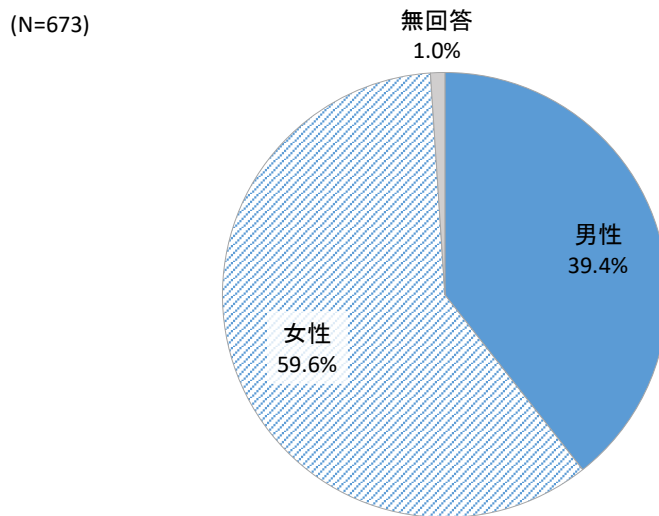
- (1) グラフ中の「N=」は，母数となるサンプル数(回答者数)を示している。
- (2) 集計結果は百分率で算出し，四捨五入の関係上，百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の場合は，回答者実数より多くなっている場合がある。
- (4) 回答者が無い場合の設問では一部集計表・グラフを省いている。

Ⅱ 調査結果

あなたのことについて

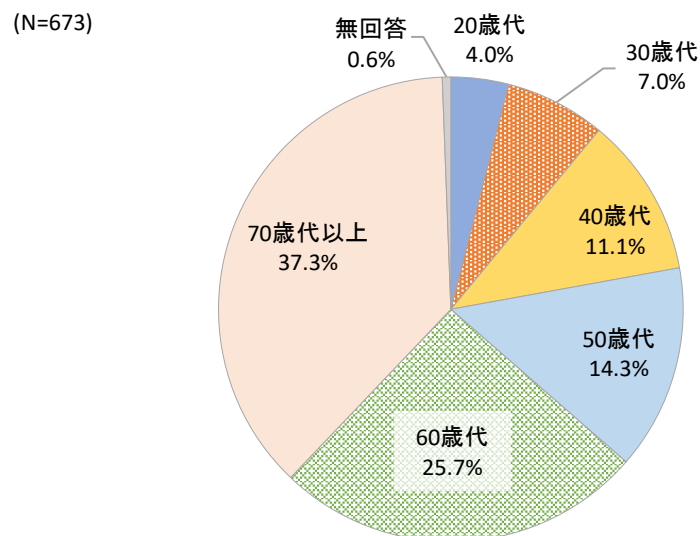
問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

性別については、「男性」が 39.4%、「女性」が 59.6%となっている。



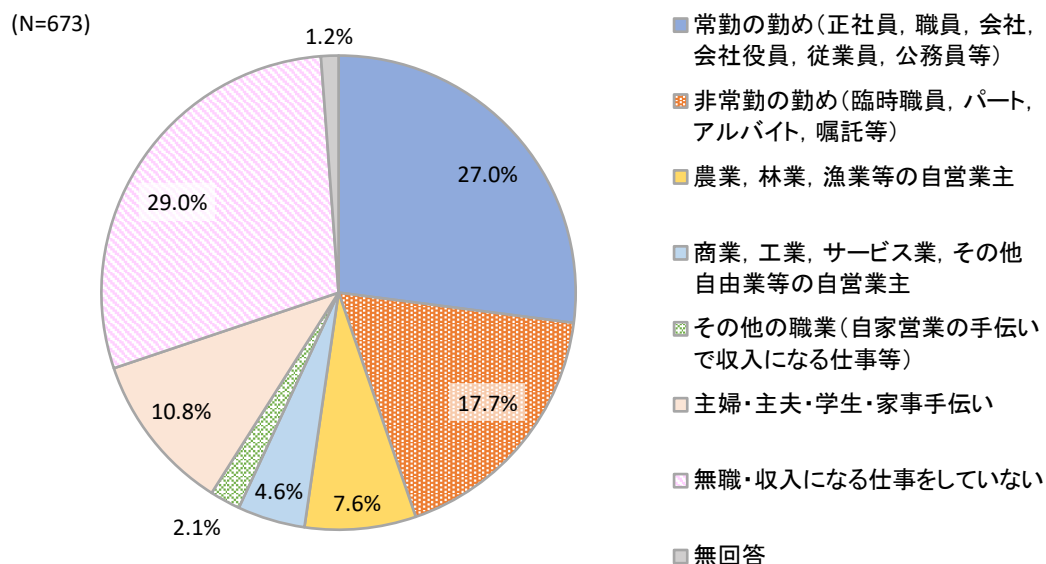
問2 あなたの年齢を教えてください。(令和3年10月1日現在)

年齢については、「70歳以上」が 37.3%と最も多く、次いで「60歳代」が 25.7%、「50歳代」が 14.3%となっている。



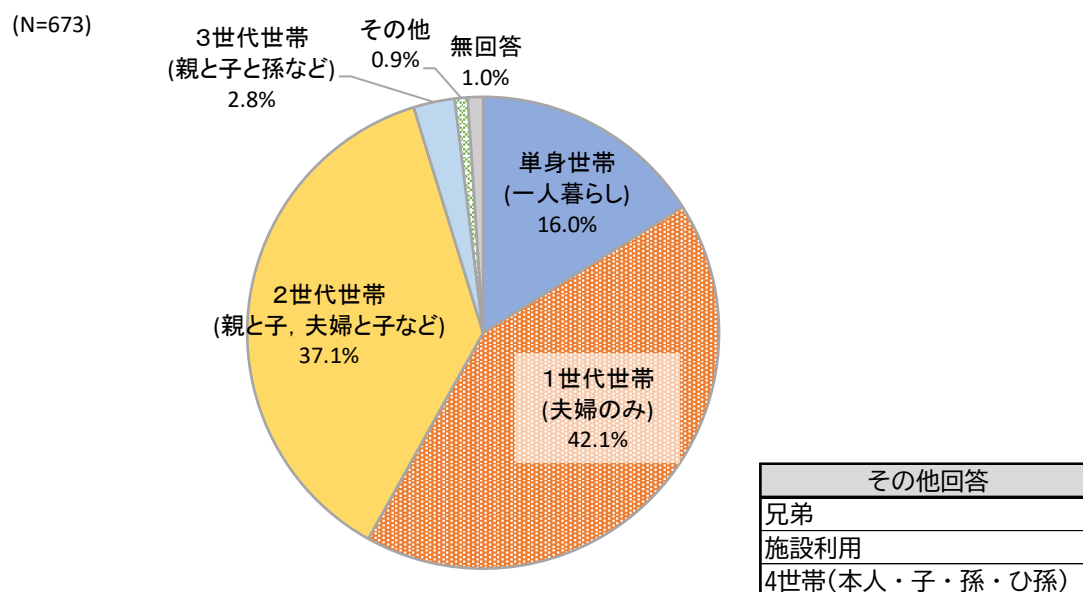
問3 あなたの職業を教えてください。(〇は1つだけ)

職業については、「無職・収入になる仕事をしていない」が29.0%と最も多く、次いで「常勤の勤め(正社員、職員、会社、会社役員、従業員、公務員等)」が27.0%、「非常勤の勤め(臨時職員、パート、アルバイト、嘱託等)」が17.7%となっている。



問4 あなたがお住いの世帯構成を教えてください。(〇は1つだけ)

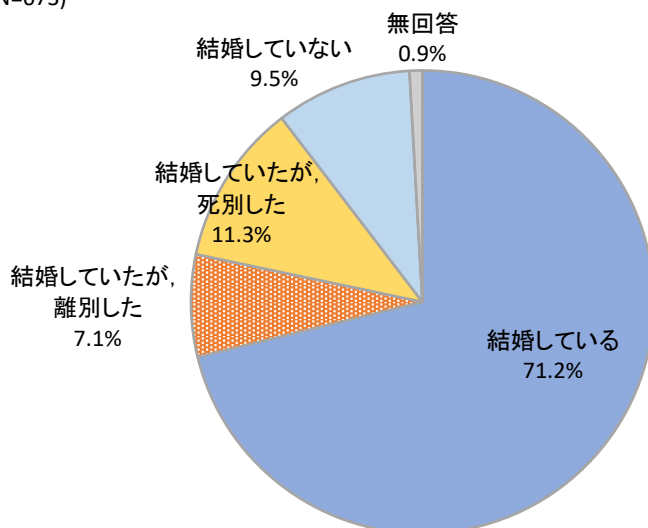
世帯構成については、「1世代世帯(夫婦のみ)」が42.1%と最も多く、次いで「2世代世帯(親と子、夫婦と子など)」が37.1%、「単身世帯(一人暮らし)」が16.0%となっている。



問5 あなたは、現在結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つだけ）

結婚しているかどうかについては、「結婚している」が71.2%と最も多く、次いで「結婚していたが、死別した」が11.3%、「結婚していない」が9.5%となっている。

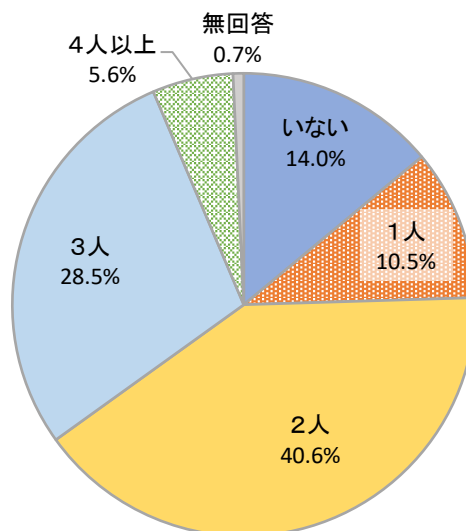
(N=673)



問6 あなたのお子さんは何人ですか。（○は1つだけ）

子どもの人数については、「2人」が40.6%と最も多く、次いで「3人」が28.5%、「いない」が14.0%となっている。

(N=673)

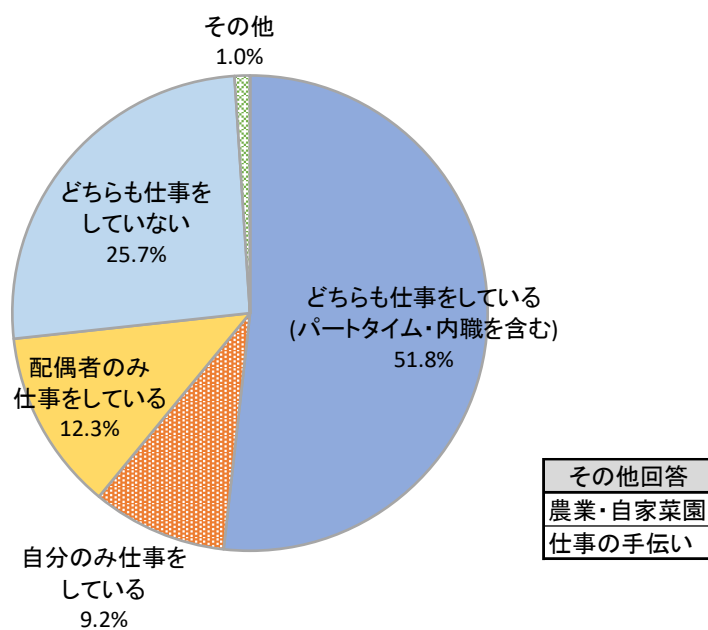


【問5】で「1. 結婚している」を選んだ方におたずねします。

問7 ご夫婦のお仕事の状況について教えてください。(○は1つだけ)

夫婦の仕事の状況については、「どちらも仕事をしている(パートタイム・内職を含む)」が51.8%と最も多く、次いで「どちらも仕事をしていない」が25.7%、「配偶者のみ仕事をしている」が12.3%となっている。

(N=479)



男女平等に関する意識について

問8 あなたは、次にあげるような項目で男女の地位は平等になっていると思いますか。

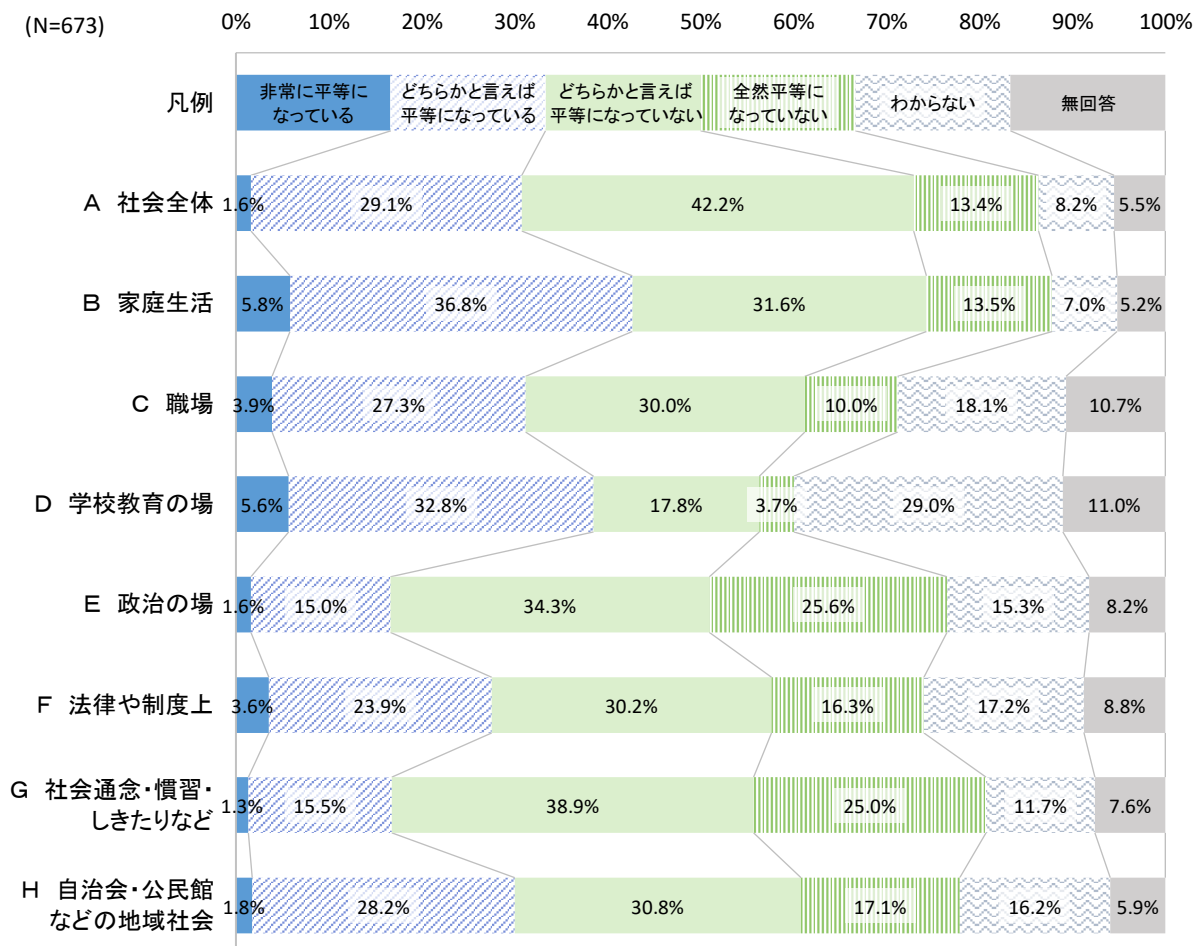
A～Hのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

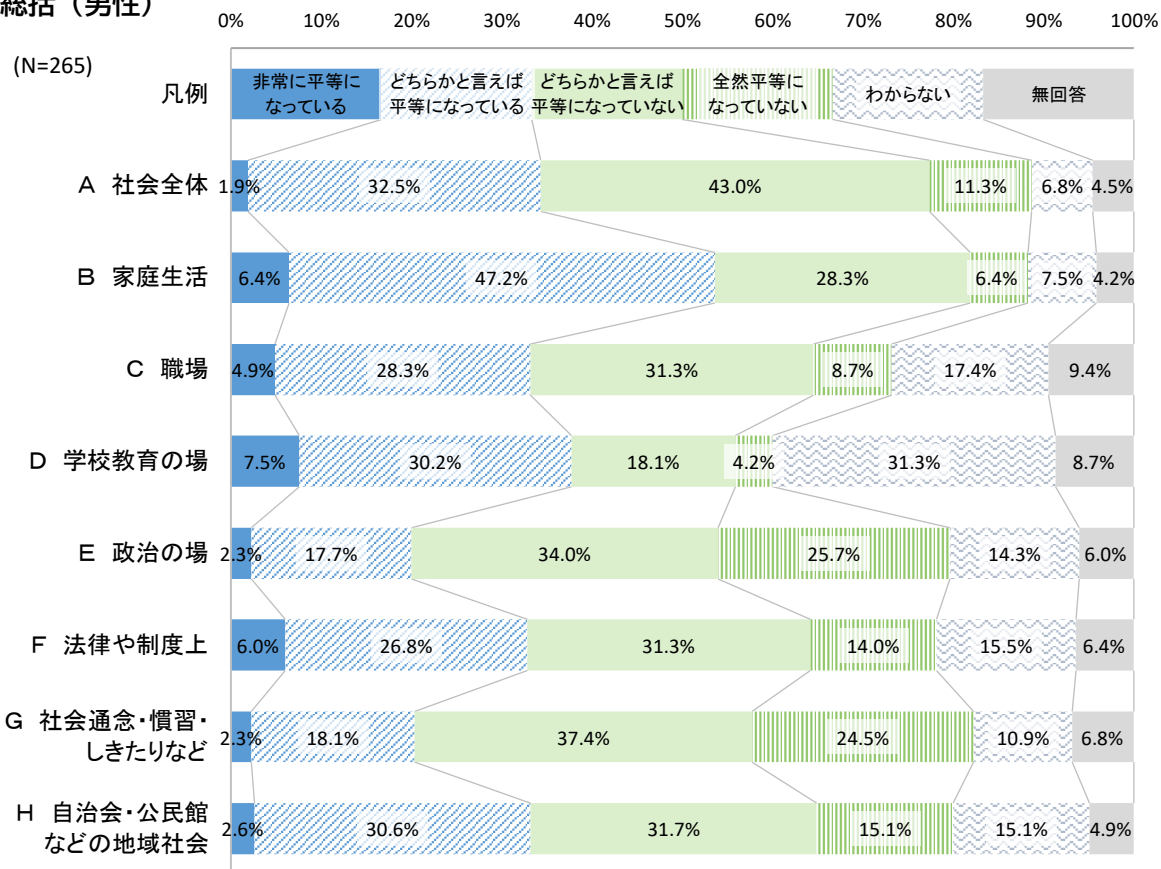
男女の地位について、『平等』（非常に平等になっている+どちらかと言えば平等になっている）と感じているのは「家庭生活」が42.6%で最も多く、次いで「学校教育の場」が38.4%、「職場」が31.2%となっている。

『不平等』（どちらかと言えば平等になっていない+全然平等になっていない）と感じているのは「社会通念・慣習・しきたりなど」が63.9%で最も多く、次いで「政治の場」が59.9%、「社会全体」が55.6%となっている。

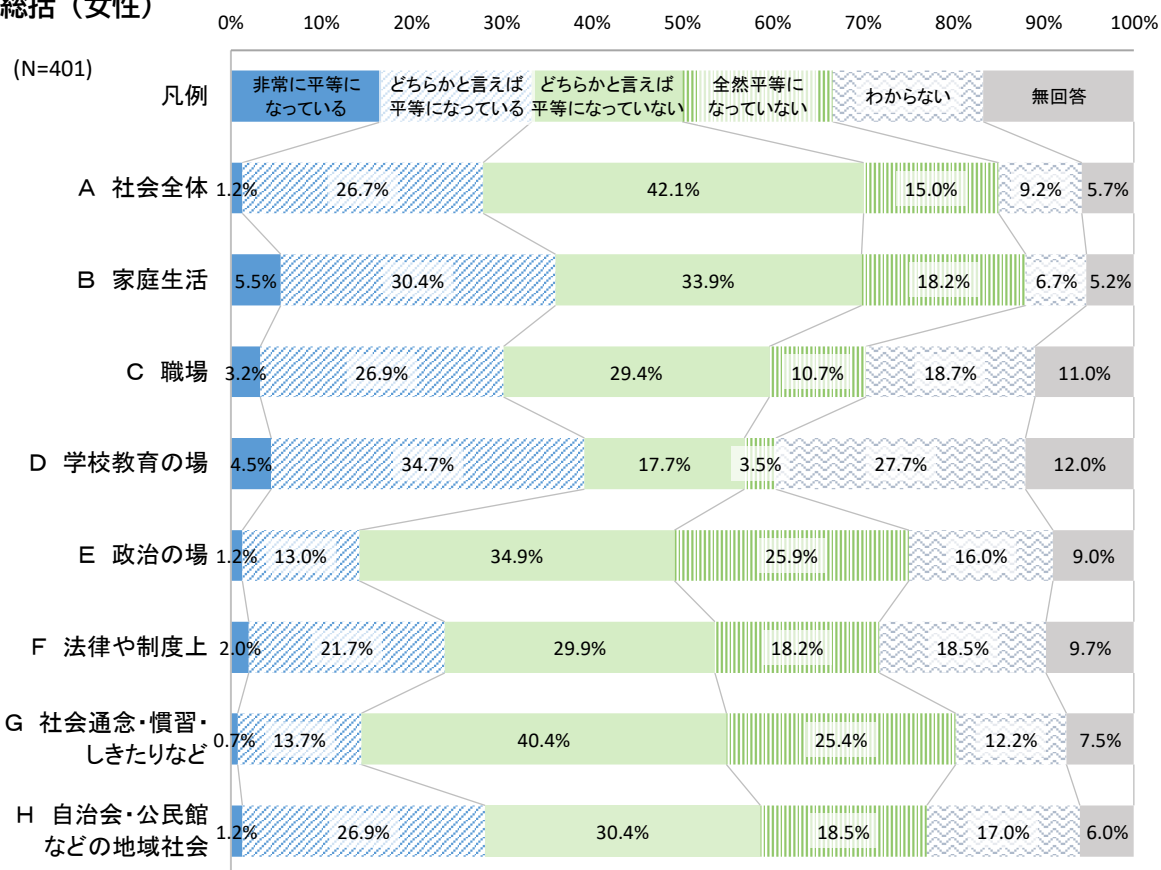
性別でみると、『平等』（2項目合計）と感じているのは、男性では「家庭生活」、女性では「学校教育の場」がそれぞれ最も多く、「学校教育の場」を除いた全ての分野で男性が女性より多くなっている。一方、『不平等』（2項目合計）と感じているのは、男女共に「社会通念・慣習・しきたりなど」が最も多く、「家庭生活」では女性が男性より17.4ポイント高くなっている。



総括（男性）



総括（女性）



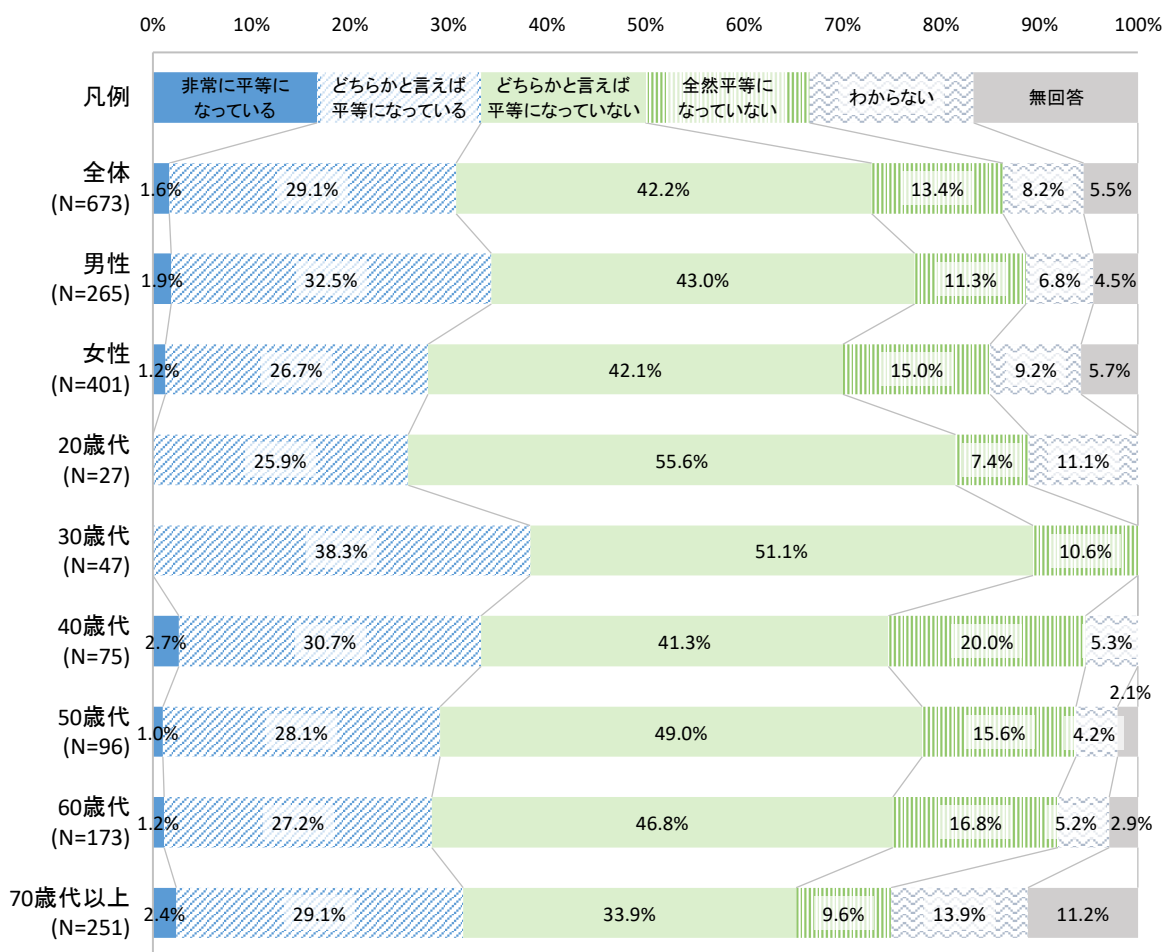
A 社会全体

社会全体について、『平等』（２項目合計）と感じているのは30.7%、『不平等』（２項目合計）と感じているのは55.6%となっている。

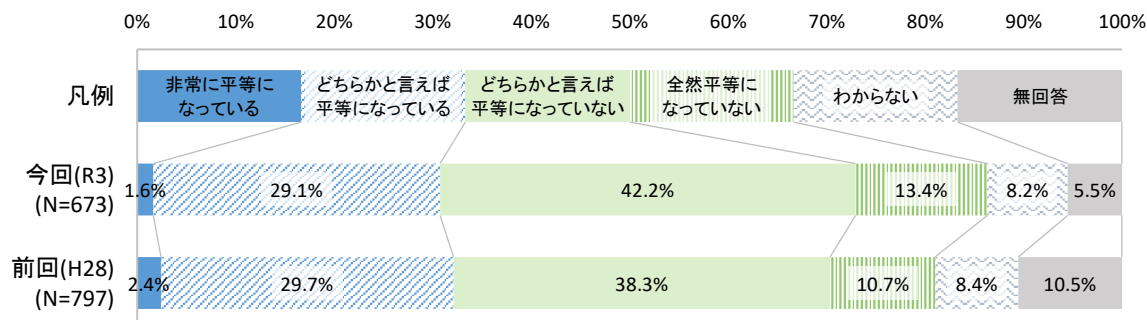
性別でみると、男女共に『不平等』（２項目合計）が多くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『不平等』（２項目合計）が6割以上を占めている。

前回調査と比較すると、『不平等』（２項目合計）が6.6ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



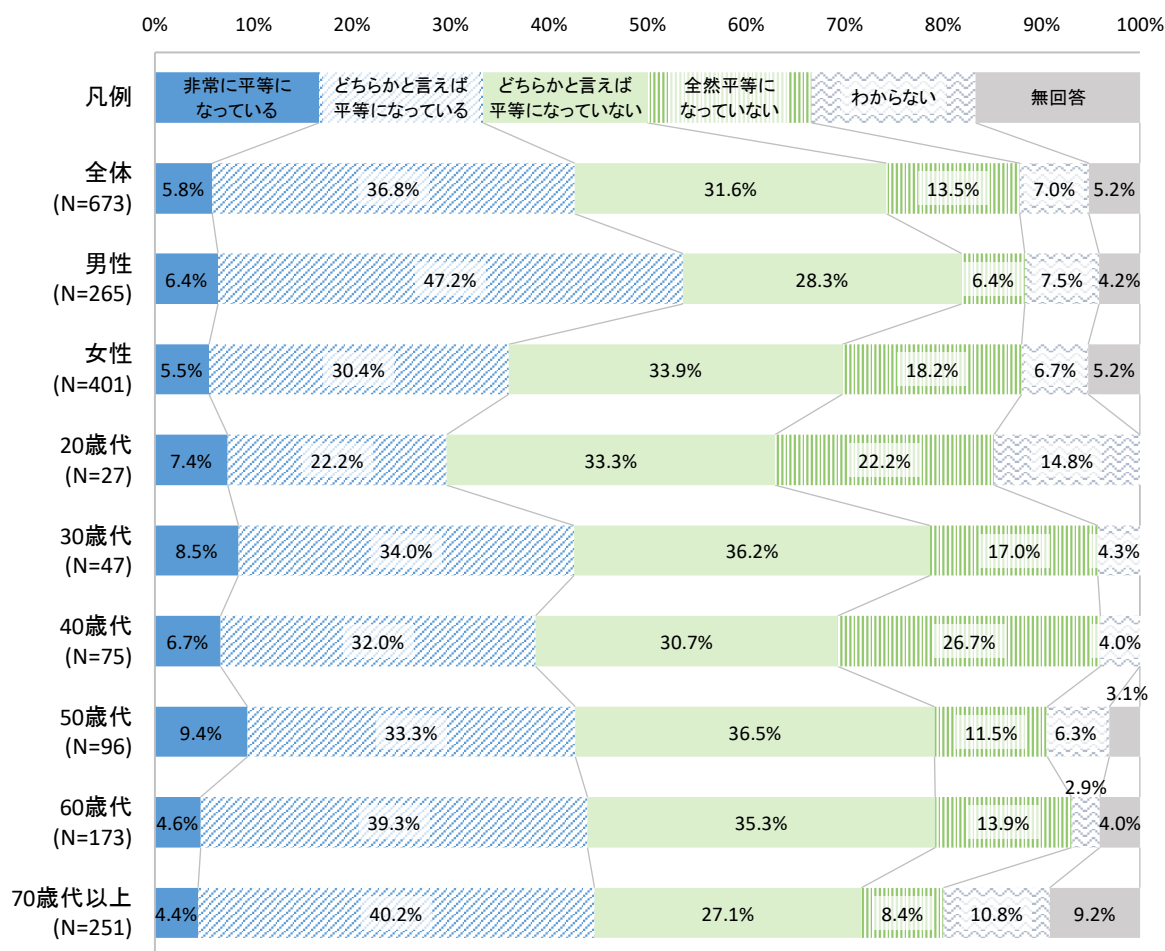
B 家庭生活

家庭生活について、『平等』（２項目合計）と感じているのは 42.6%, 『不平等』（２項目合計）と感じているのは 45.1% となっている。

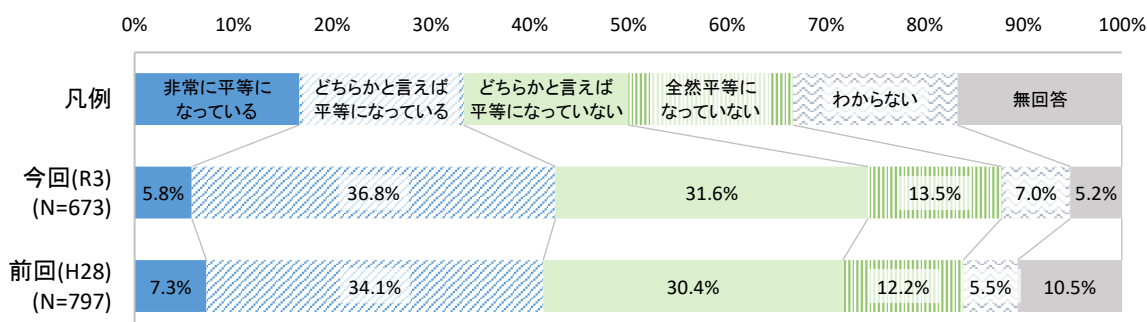
性別でみると、男性は『平等』（２項目合計）、女性は『不平等』（２項目合計）が多くなっており、男性の『平等』（２項目合計）は女性よりも 17.7 ポイント高くなっている。

年代別でみると、70 歳代以上を除いた全ての年代では『不平等』（２項目合計）が多くなっており、40 歳代が 57.4% で最も多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



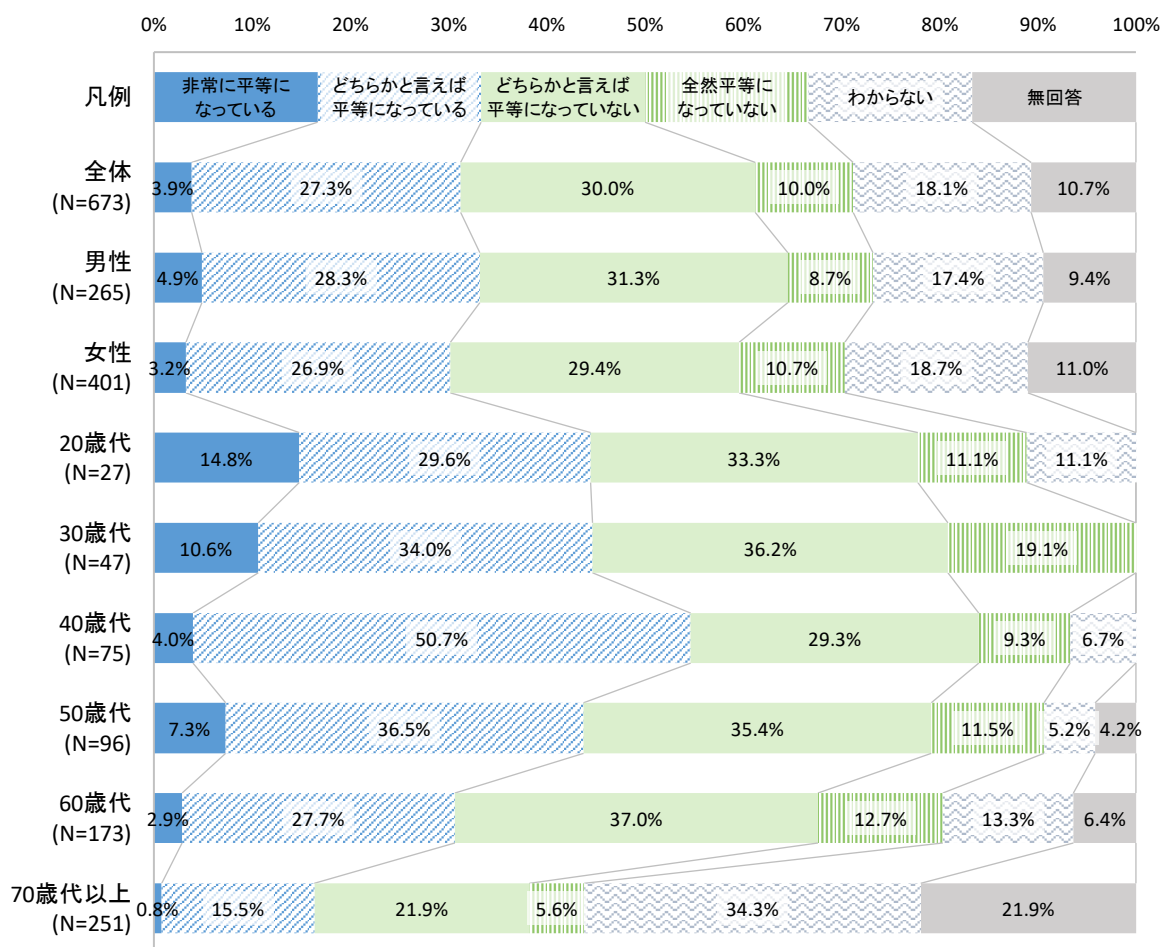
C 職場

職場について、『平等』（２項目合計）と感じているのは 31.2%、「不平等」（２項目合計）と感じているのは 40.0%となっている。

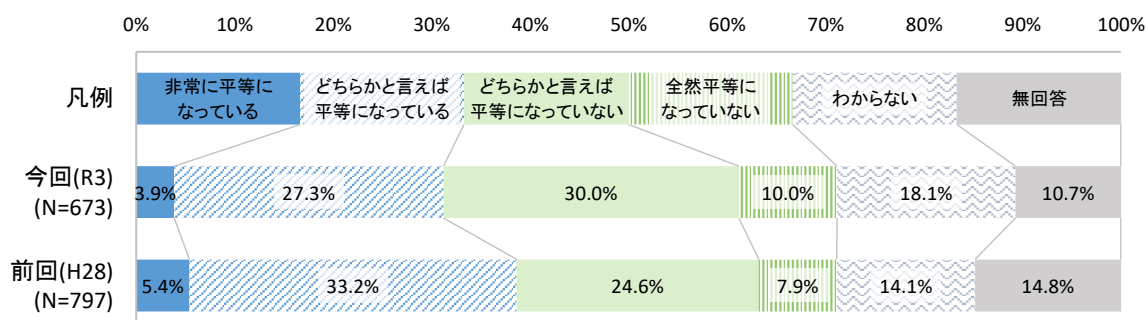
性別でみると、男女共に『不平等』（２項目合計）が多くなっている。

年代別でみると、20 歳代、40 歳代を除いた全ての年代では『不平等』（２項目合計）が多くなっており、30 歳代が 55.3%で最も多くなっている。

前回調査と比較すると、『平等』（２項目合計）が 7.4 ポイント減少、『不平等』（２項目合計）が 7.5 ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



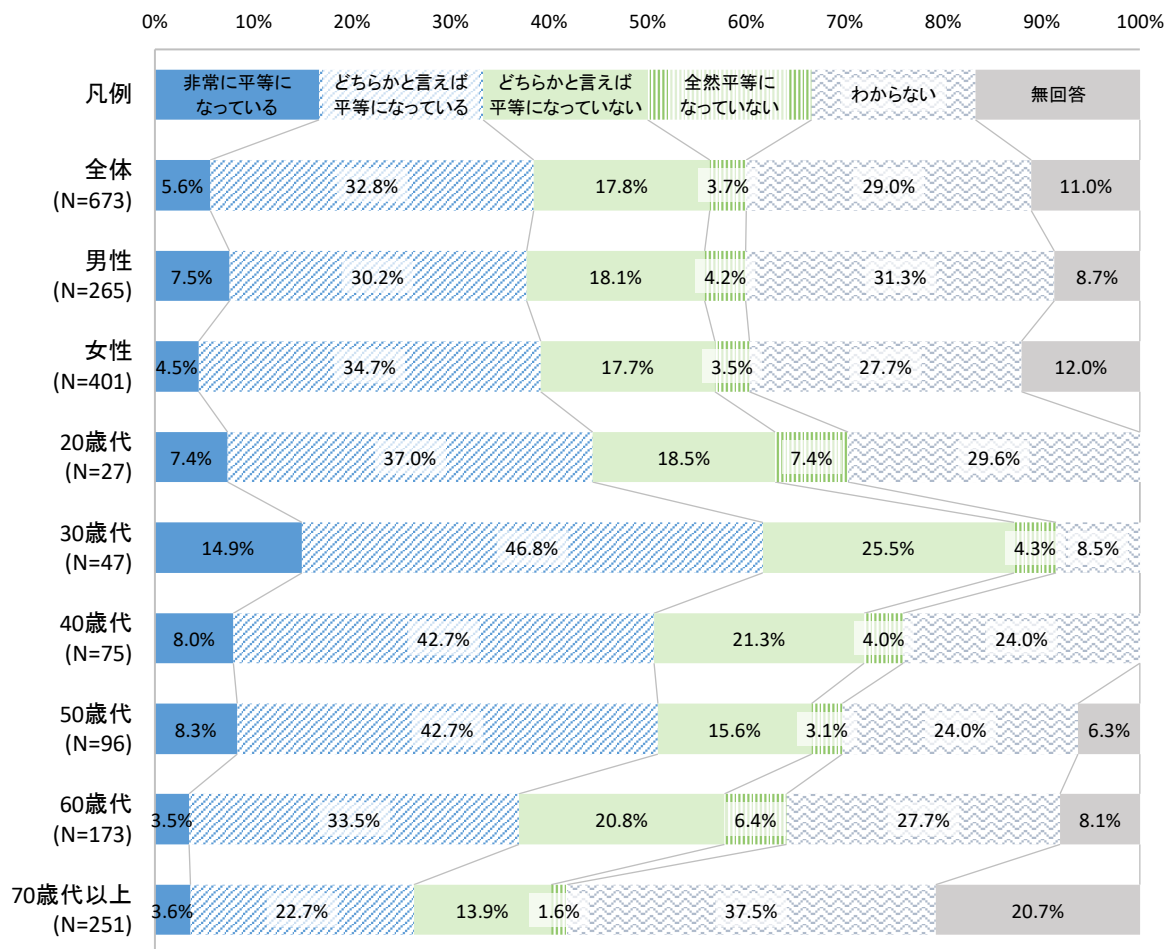
D 学校教育の場

学校教育の場について、『平等』（2項目合計）と感じているのは38.4%、『不平等』（2項目合計）と感じているのは21.5%となっている。

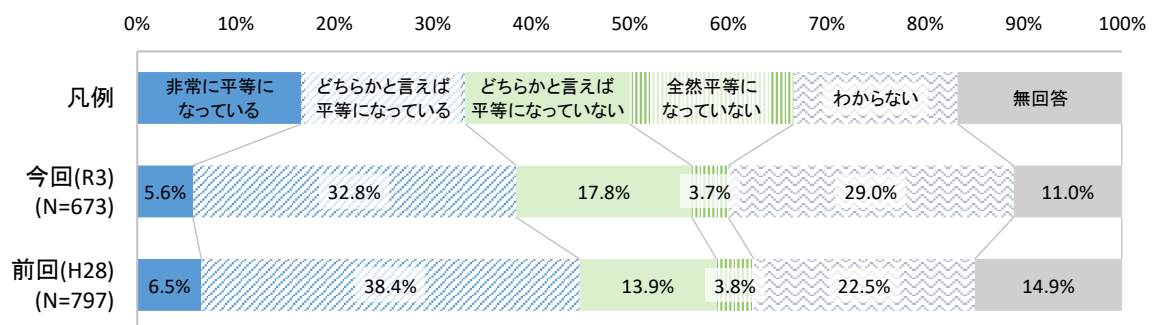
性別でみると、男女共に『平等』（2項目合計）が多くなっている。

年代別でみると、全ての年代において『平等』（2項目合計）が多くなっており、30～50歳代では半数以上を占めている。

前回調査と比較すると、『平等』（2項目合計）が6.5ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



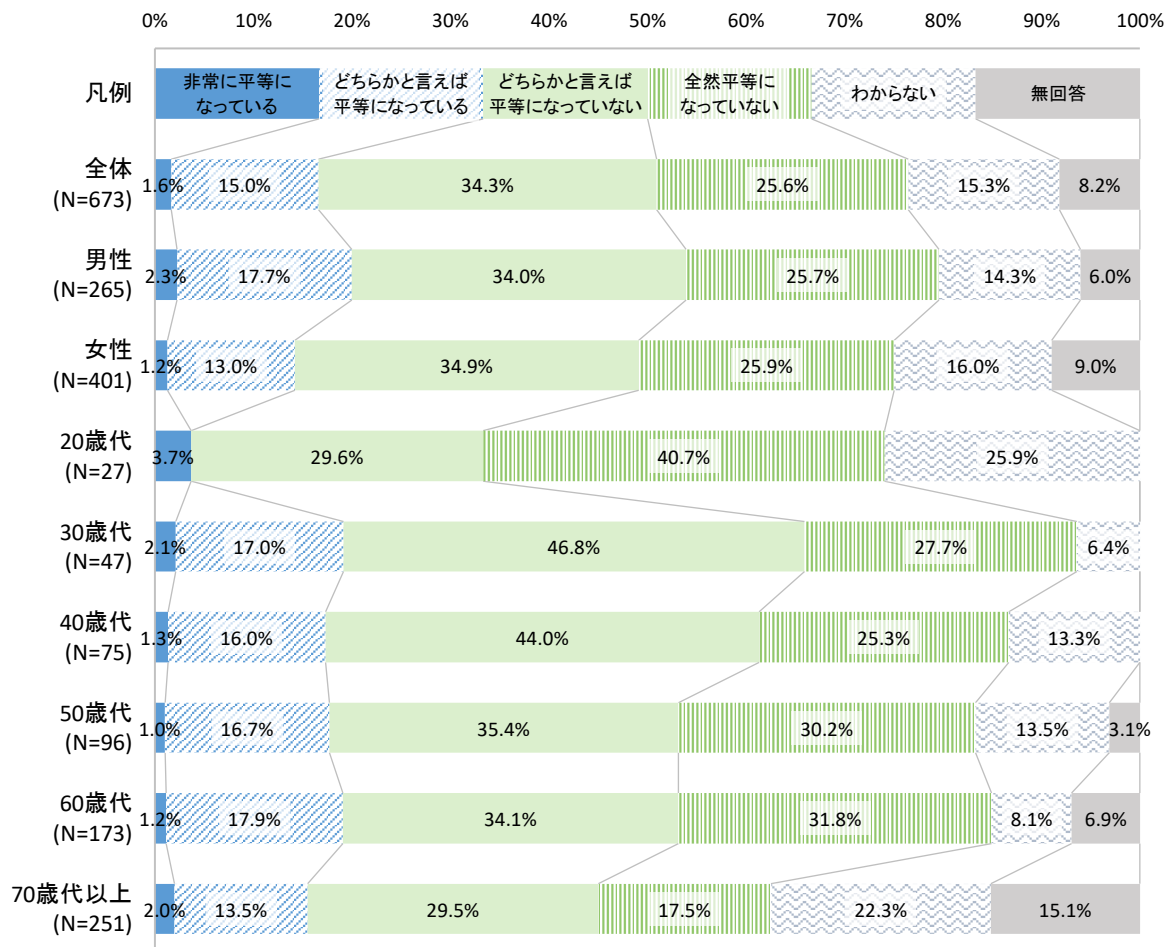
E 政治の場

政治の場について、『平等』（２項目合計）と感じているのは16.6%、『不平等』（２項目合計）と感じているのは59.9%となっている。

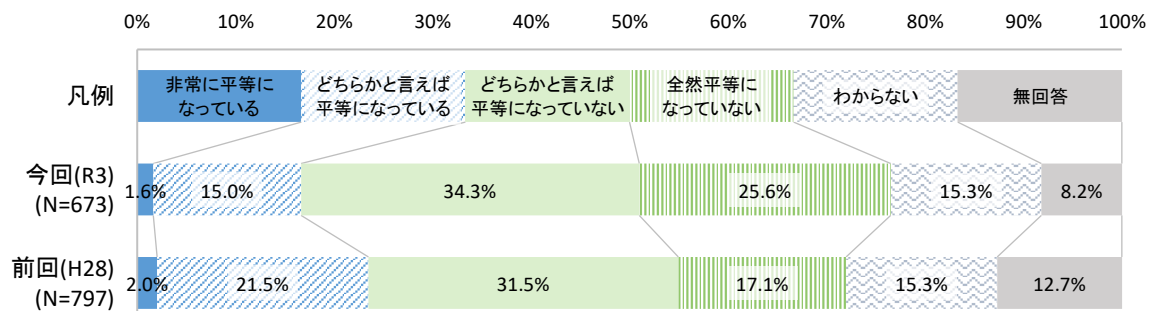
性別でみると、男女共に『不平等』（２項目合計）が多くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『不平等』（２項目合計）が6割以上を占めている。

前回調査と比較すると、『平等』（２項目合計）が6.9ポイント減少し、『不平等』（２項目合計）が11.3ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



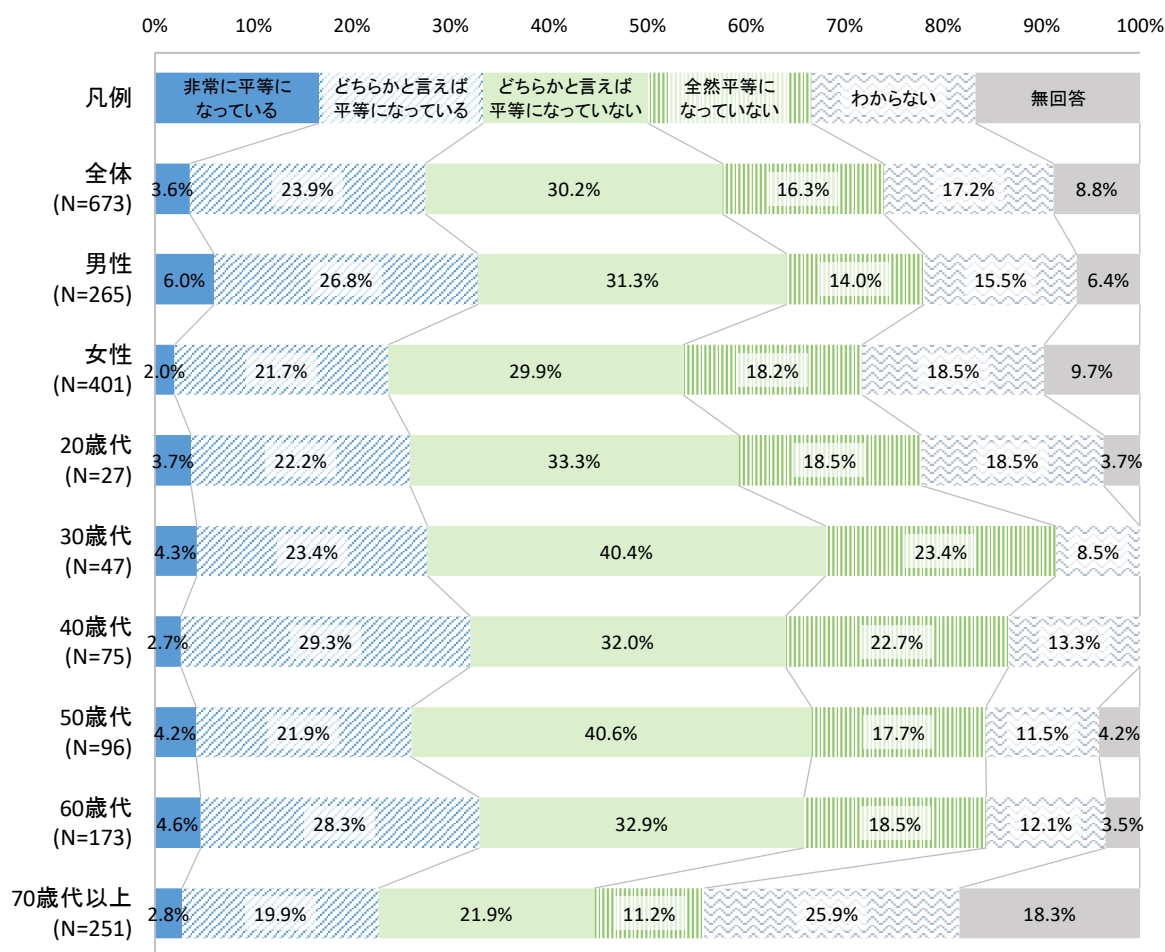
F 法律や制度上

法律や制度上について、『平等』（2項目合計）と感じているのは27.5%、『不平等』（2項目合計）と感じているのは46.5%となっている。

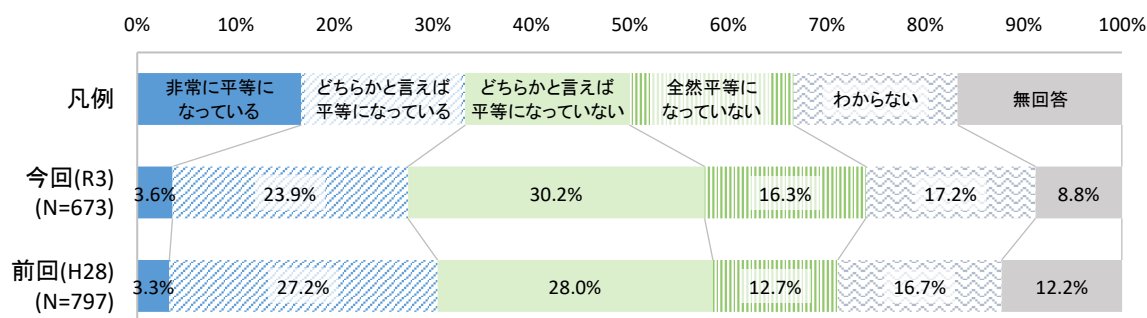
性別でみると、男女共に『不平等』（2項目合計）が多くなっており、男性の『平等』（2項目合計）は女性よりも9.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『不平等』（2項目合計）が半数以上を占めている。

前回調査と比較すると、『不平等』（2項目合計）が5.8ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



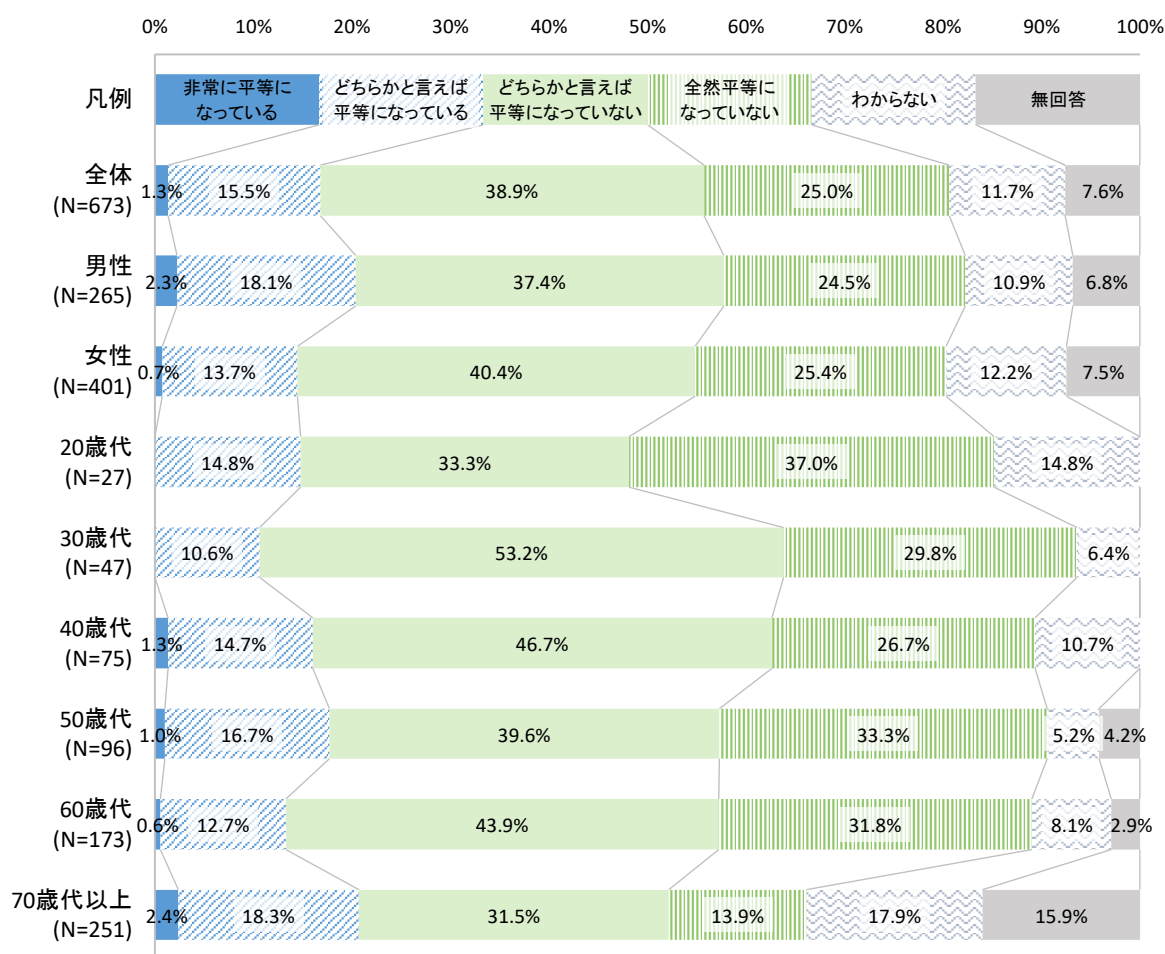
G 社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどについて、『平等』（2項目合計）と感じているのは16.8%、
『不平等』（2項目合計）と感じているのは63.9%となっている。

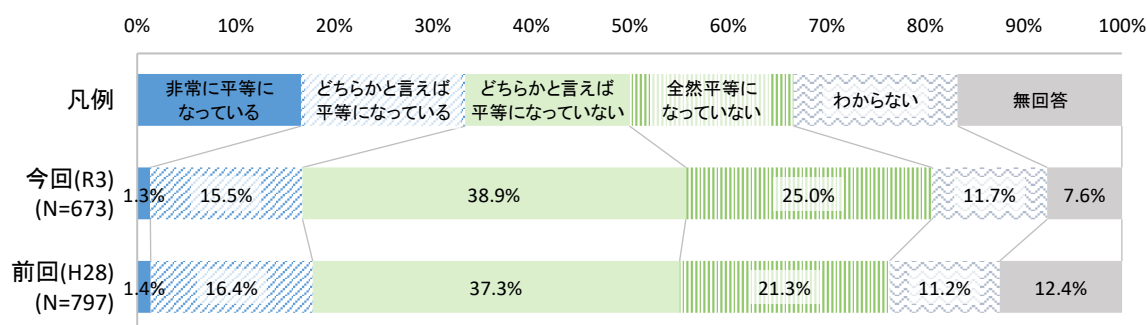
性別でみると、男女共に『不平等』（2項目合計）が多くなっており、男性の『平等』（2項目合計）は女性よりも6.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代において『不平等』（2項目合計）が多くなっている。

前回調査と比較すると、『不平等』（2項目合計）が5.3ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



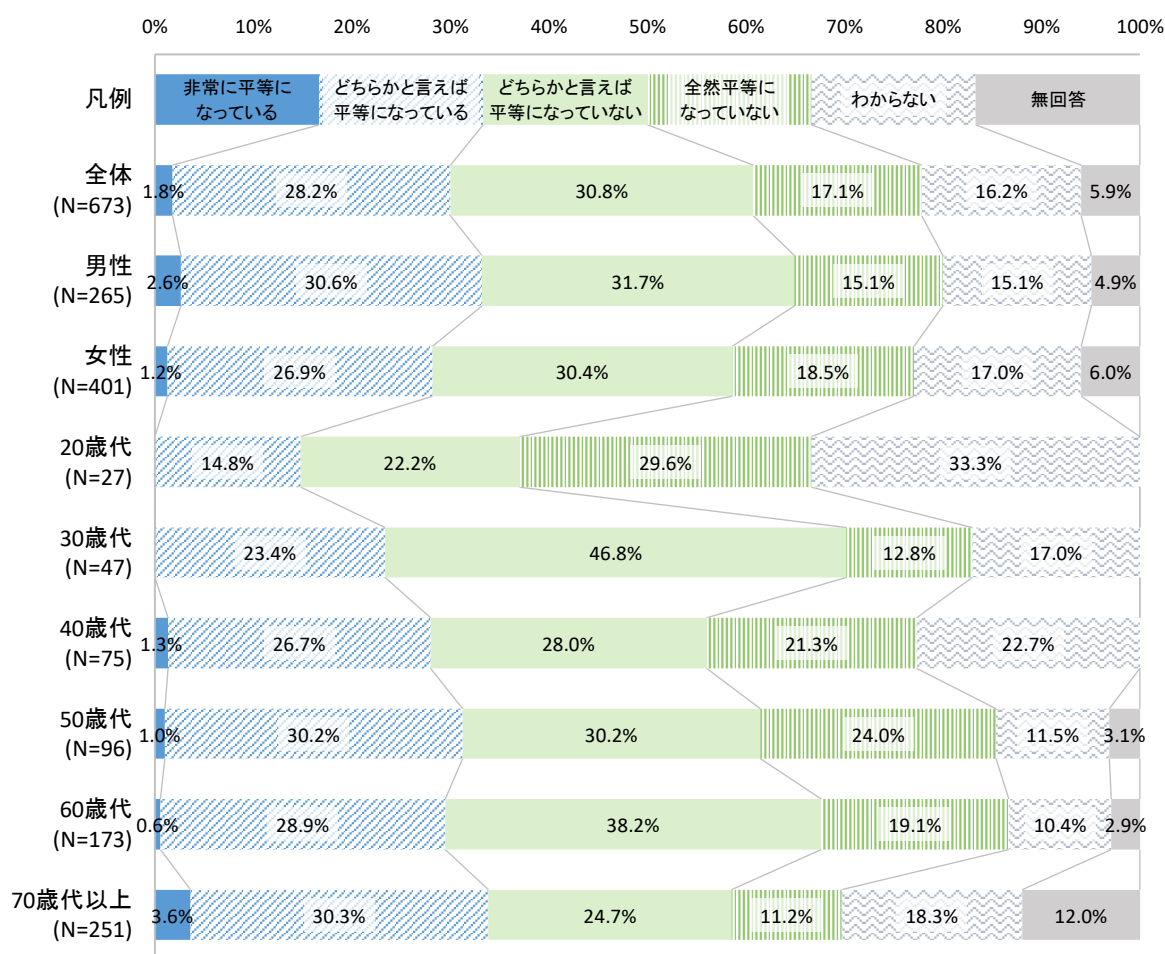
H 自治会・公民館などの地域社会

自治会・公民館などの地域社会について、『平等』（２項目合計）と感じているのは 30.0%、『不平等』（２項目合計）と感じているのは 47.9%となっている。

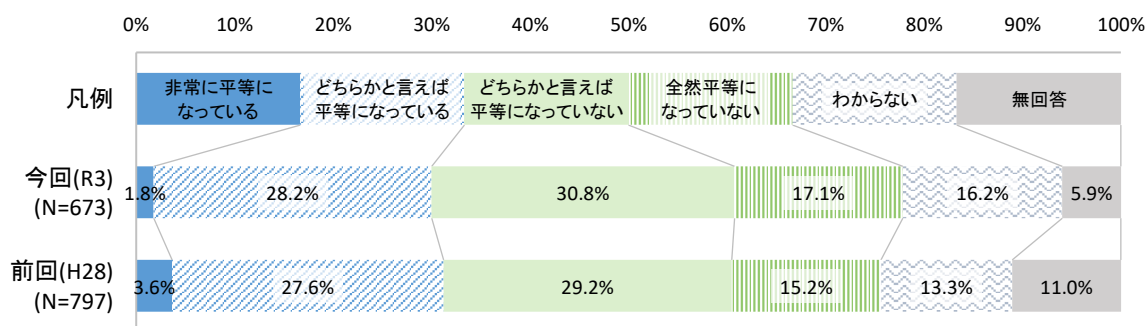
性別でみると、男女共に『不平等』（２項目合計）が多くなっている。

年代別でみると、全ての年代において『不平等』（２項目合計）が多くなっており、30～60 歳代では約半数以上を占めている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



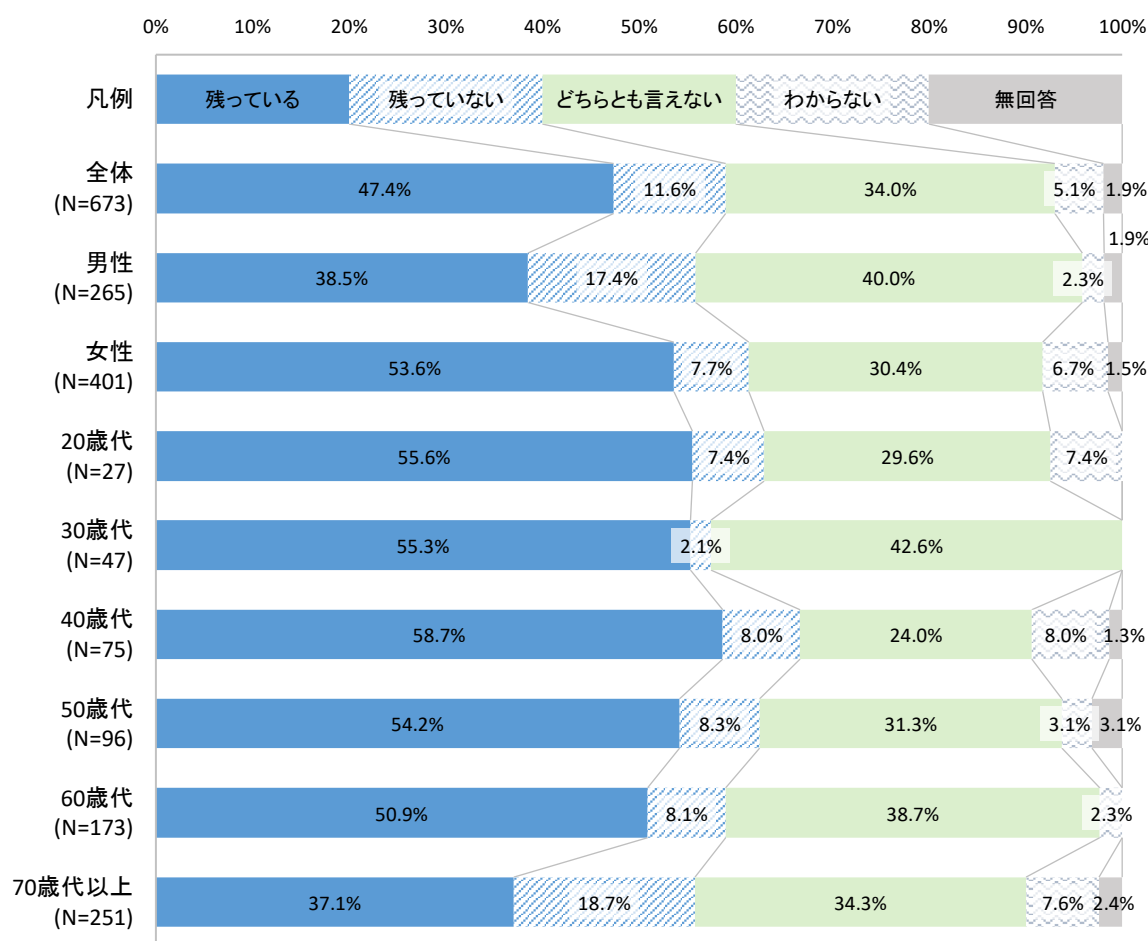
問9 あなたは今でも「男尊女卑」の気風が残っていると思いますか。(○は1つだけ)

「男尊女卑」の気風が残っているかについては、「残っている」が47.4%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が34.0%、「残っていない」が11.6%となっている。

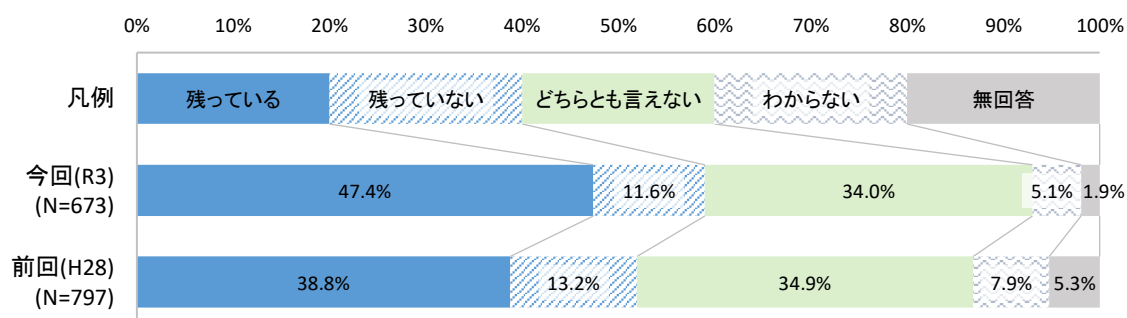
性別でみると、男性は「どちらとも言えない」、女性は「残っている」が多い。「残っている」は、女性が男性より15.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代において「残っている」が多くなっており、40歳代が58.7%で最も多く、次いで20歳代が55.6%、30歳代が55.3%となっている。

前回調査と比較すると、「残っている」が8.6ポイント増加している。



【前回 (H28) との比較】

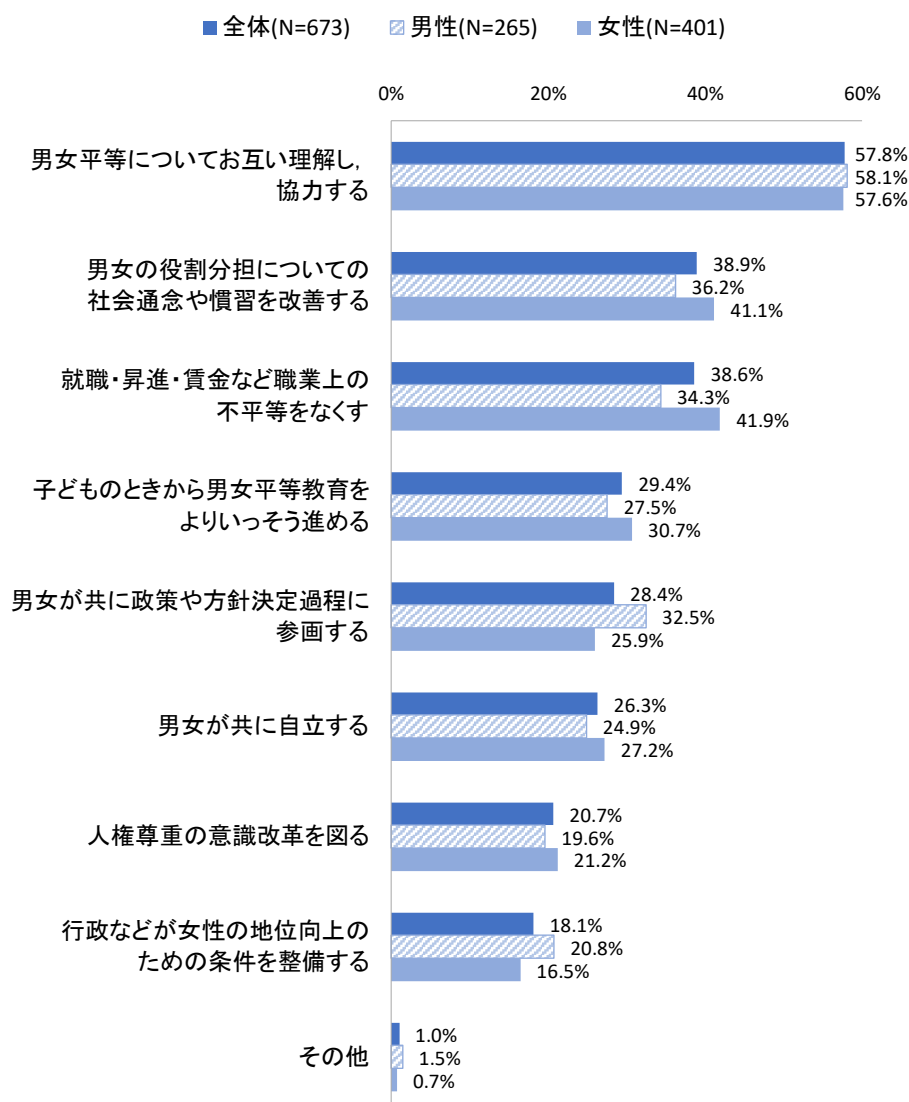


問10 男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

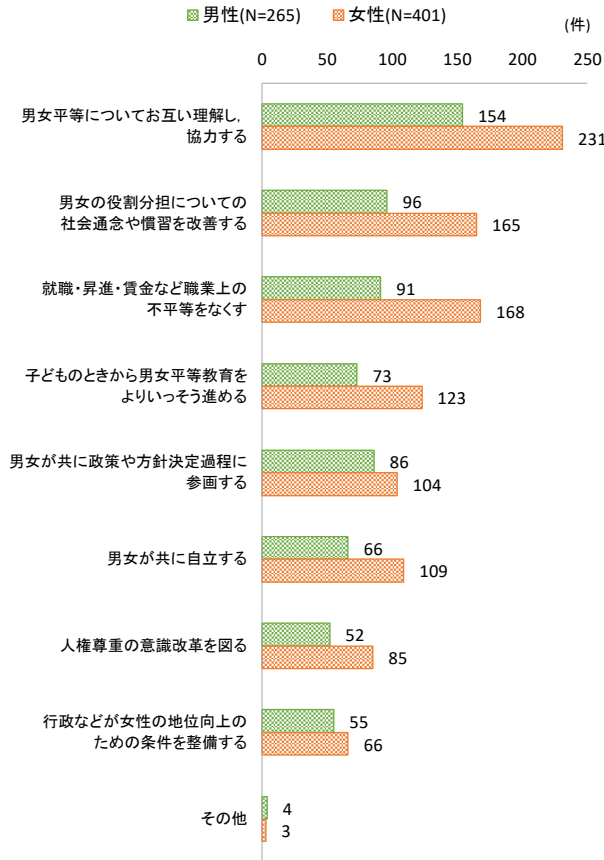
男女共同参画社会の実現に向けて必要なことについては、「男女平等についてお互い理解し、協力する」が57.8%で最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念や慣習を改善する」が38.9%、「就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす」が38.6%となっている。

性別でみると、男女共に「男女平等についてお互い理解し、協力する」が最も多くなっている。「就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす」では男性より女性が、「男女が共に政策や方針決定過程に参画する」では女性より男性が、それぞれ5ポイント以上高くなっている。

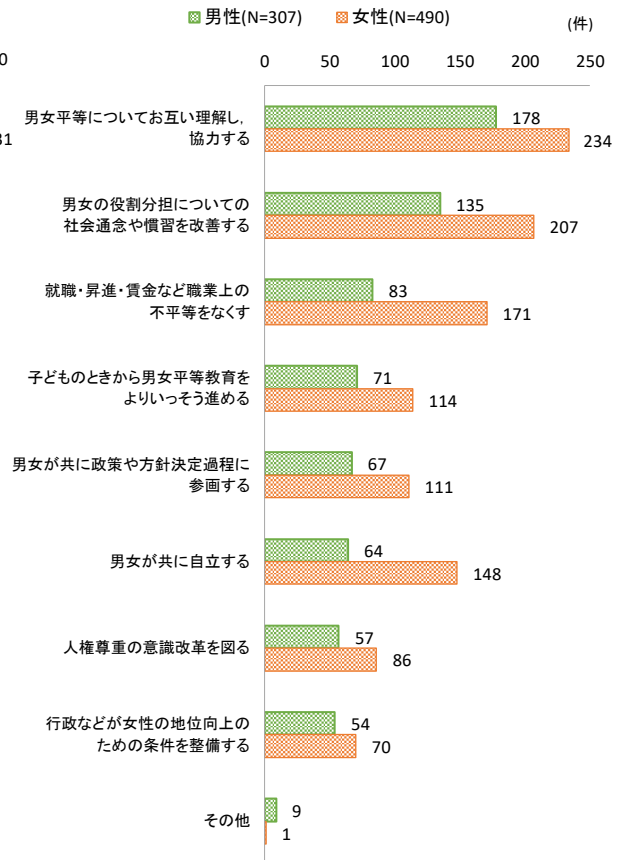
前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【今回（R3）】



【前回（H28）】



その他回答
自分の役割を全うする
高齢の為よくわからない
男と女では考え方が違うという事を分かってもらう場を作る
男性の育児参加の徹底，女性の意識付け
50代以上の男女に平等教育をすべき

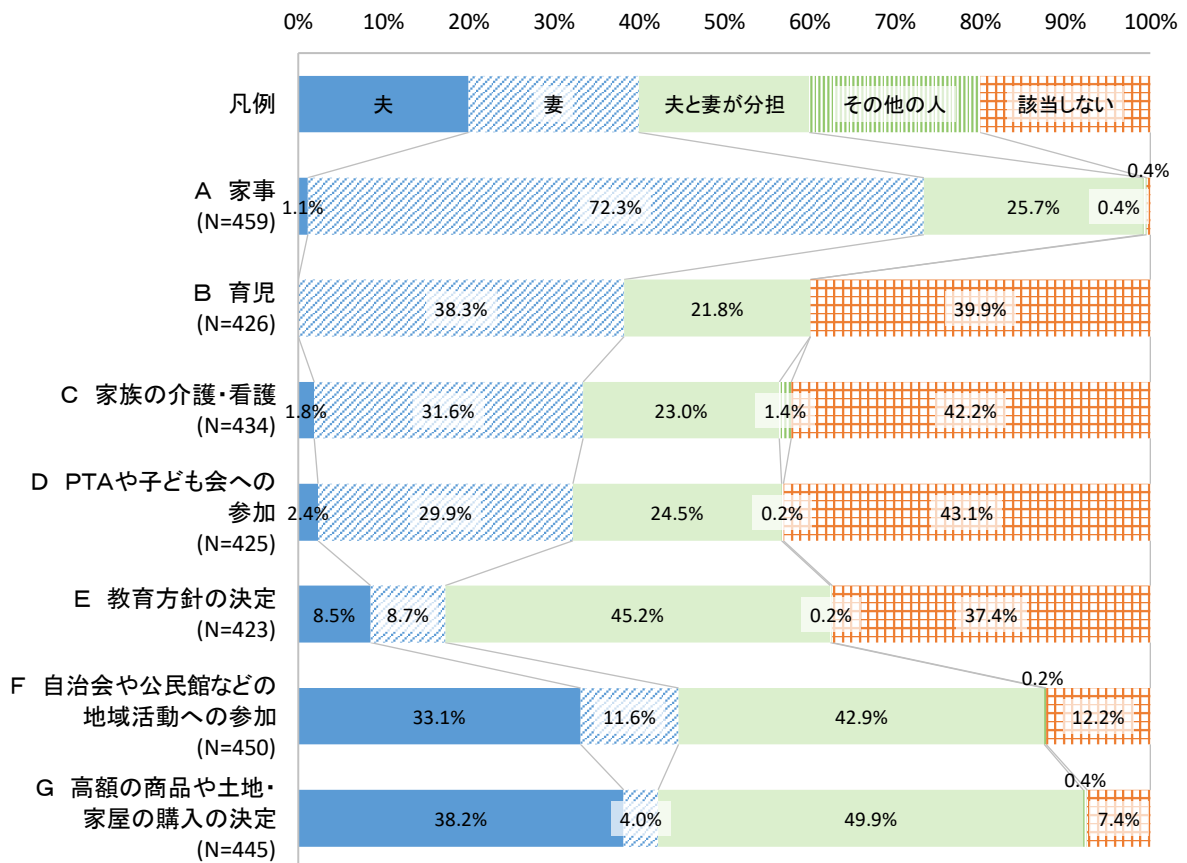
家庭生活等について

【問5】で「1. 結婚している」を選んだ方におたずねします。

問 11 あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の事柄を、主に誰が行っていますか。A～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

家庭内での役割分担については、「家事」「育児」「家族の介護・看護」「PTAや子ども会への参加」は「妻」の割合が高く、「教育方針の決定」「自治会や公民館などの地域活動への参加」「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」は「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。特に「家事」は「妻」の割合が約7割を占めている。



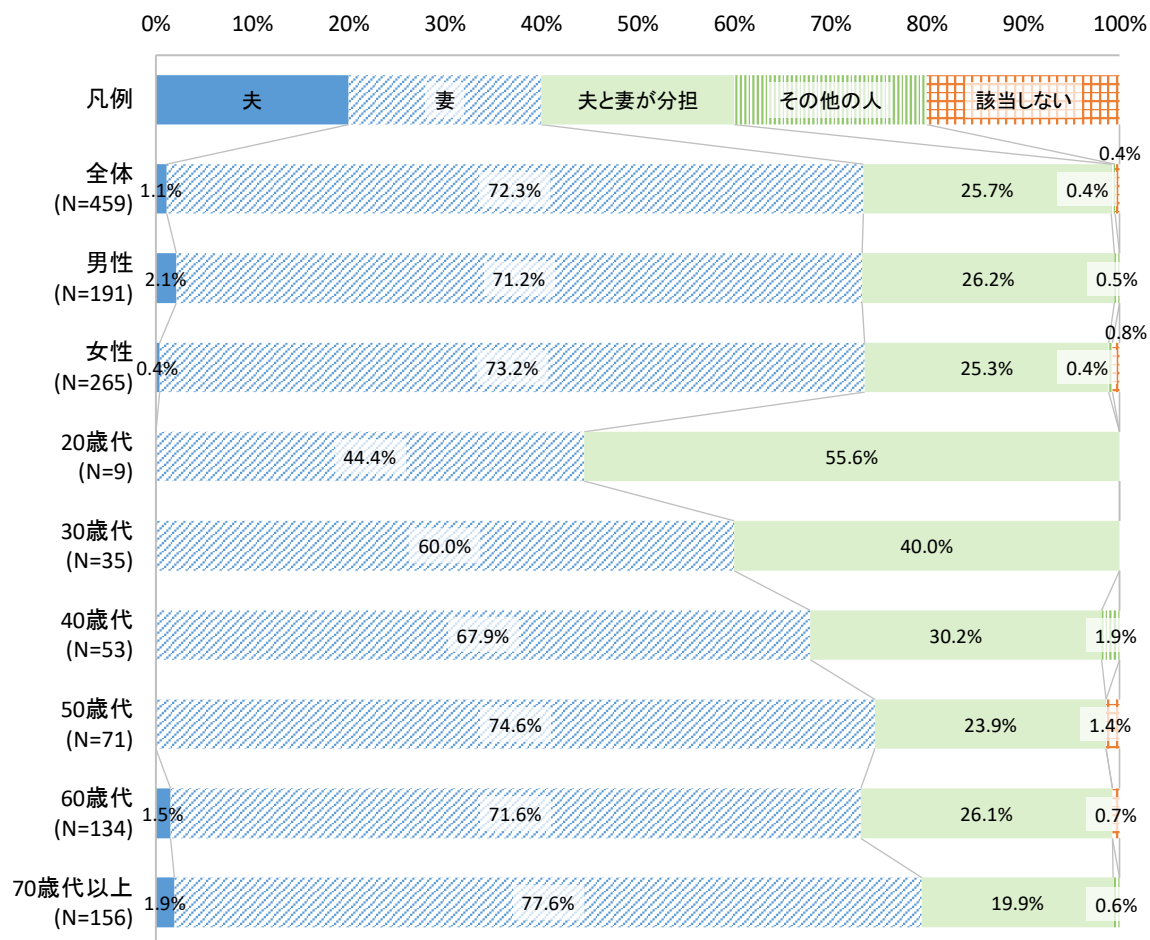
※問 11 では集計の関係上、無回答を除外しています。

A 家事

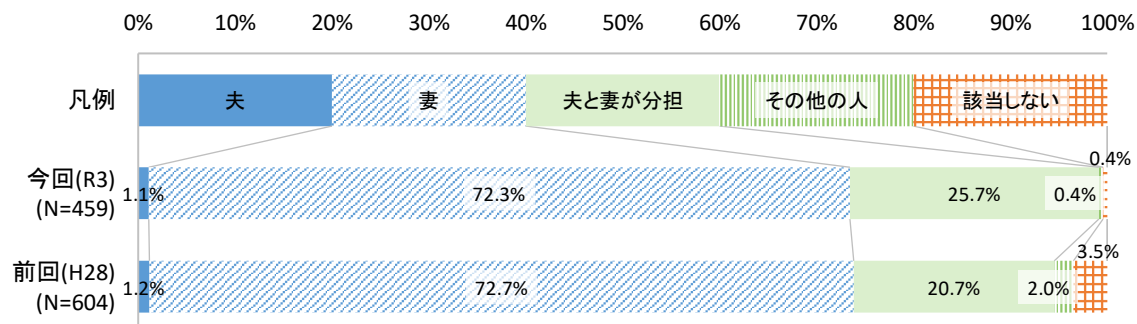
家事については、「妻」が72.3%で最も多く、次いで「夫と妻が分担」が25.7%、「夫」が1.1%となっている。

年代別でみると、20歳代では「夫と妻が分担」が55.6%となっており、高齢になるにつれて少なくなる傾向がみられる。

前回調査と比較すると、「夫と妻が分担」が5.0ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】

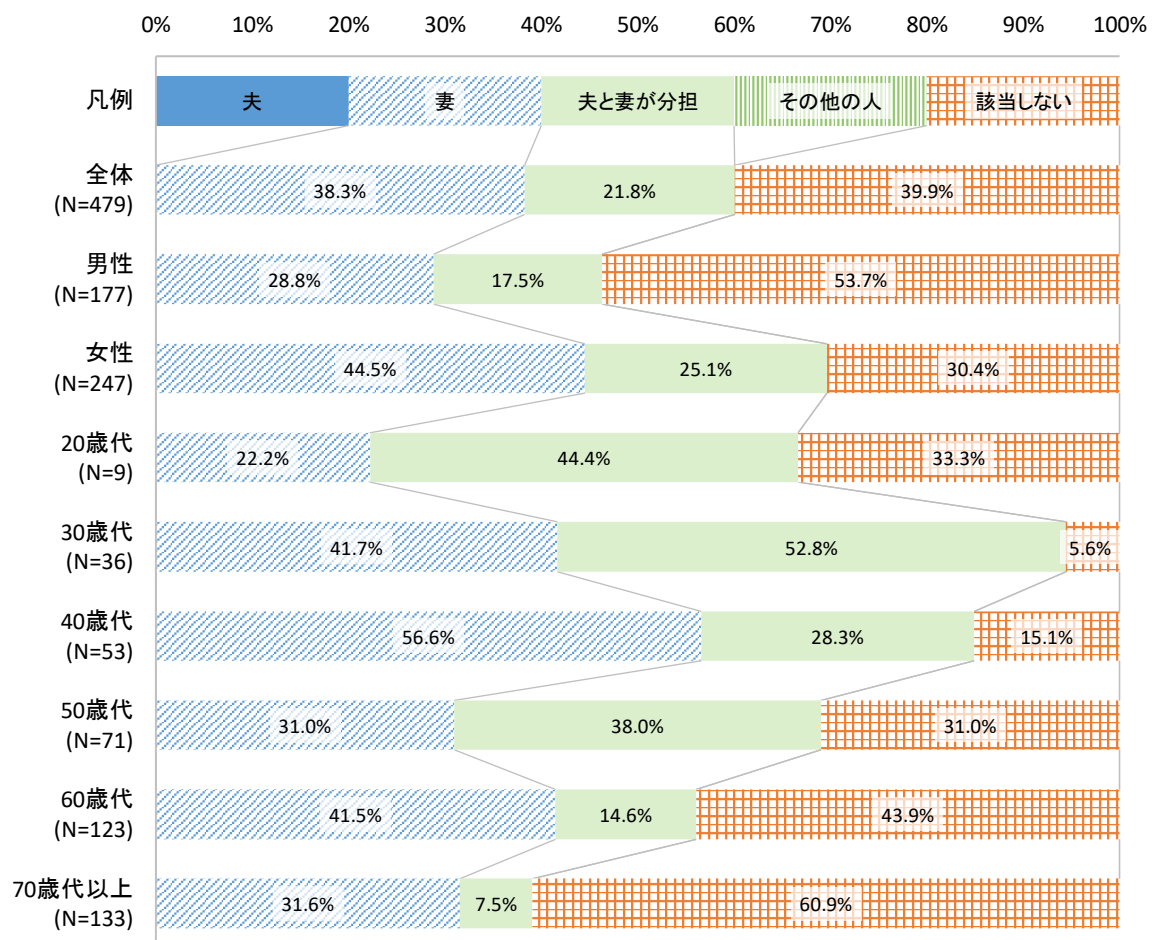


B 育児

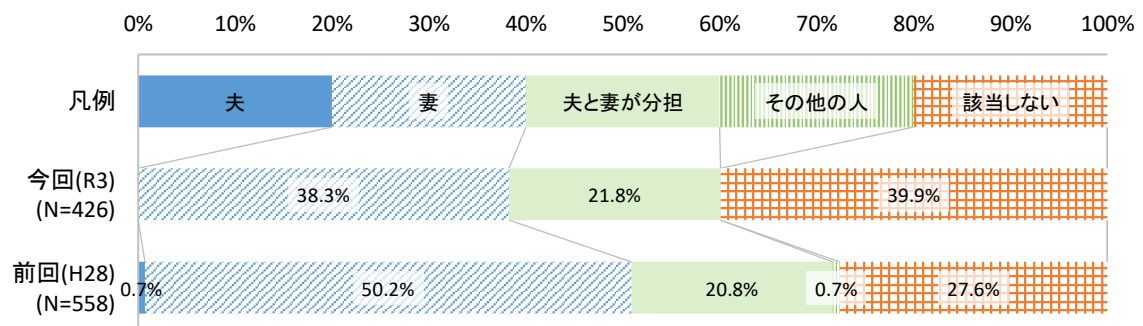
育児については、「該当しない」が39.9%で最も多く、次いで「妻」が38.3%、「夫と妻が分担」が21.8%となっている。

年代別でみると、20～30歳代、50歳代では「夫と妻が分担」が約4～5割と、他の年代より高くなっている。一方で、40歳代では「妻」が約6割を占めている。

前回調査と比較すると、「妻」が11.9ポイント減少、「該当しない」が12.3ポイント増加している。



【前回 (H28) との比較】

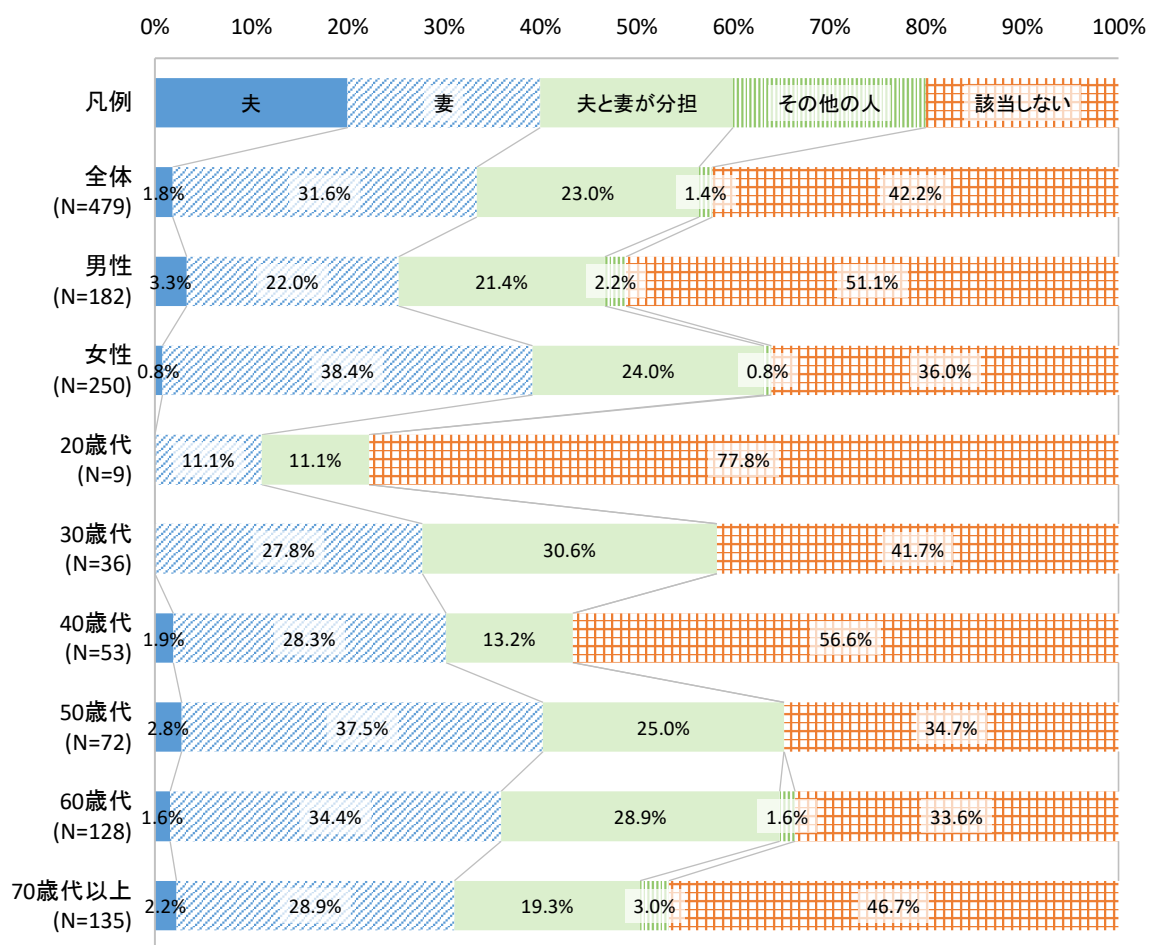


C 家族の介護・看護

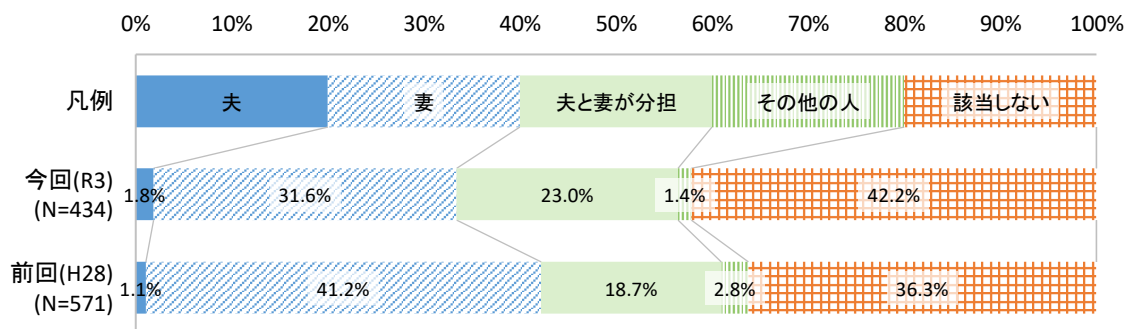
家族の介護・看護については、「該当しない」が42.2%で最も多く、次いで「妻」が31.6%、「夫と妻が分担」が23.0%となっている。

年代別でみると、20歳代では「該当しない」が約8割を占めている。50歳代では「妻」が約4割と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、「妻」が9.6ポイント減少、「該当しない」が5.9ポイント増加している。



【前回 (H28) との比較】

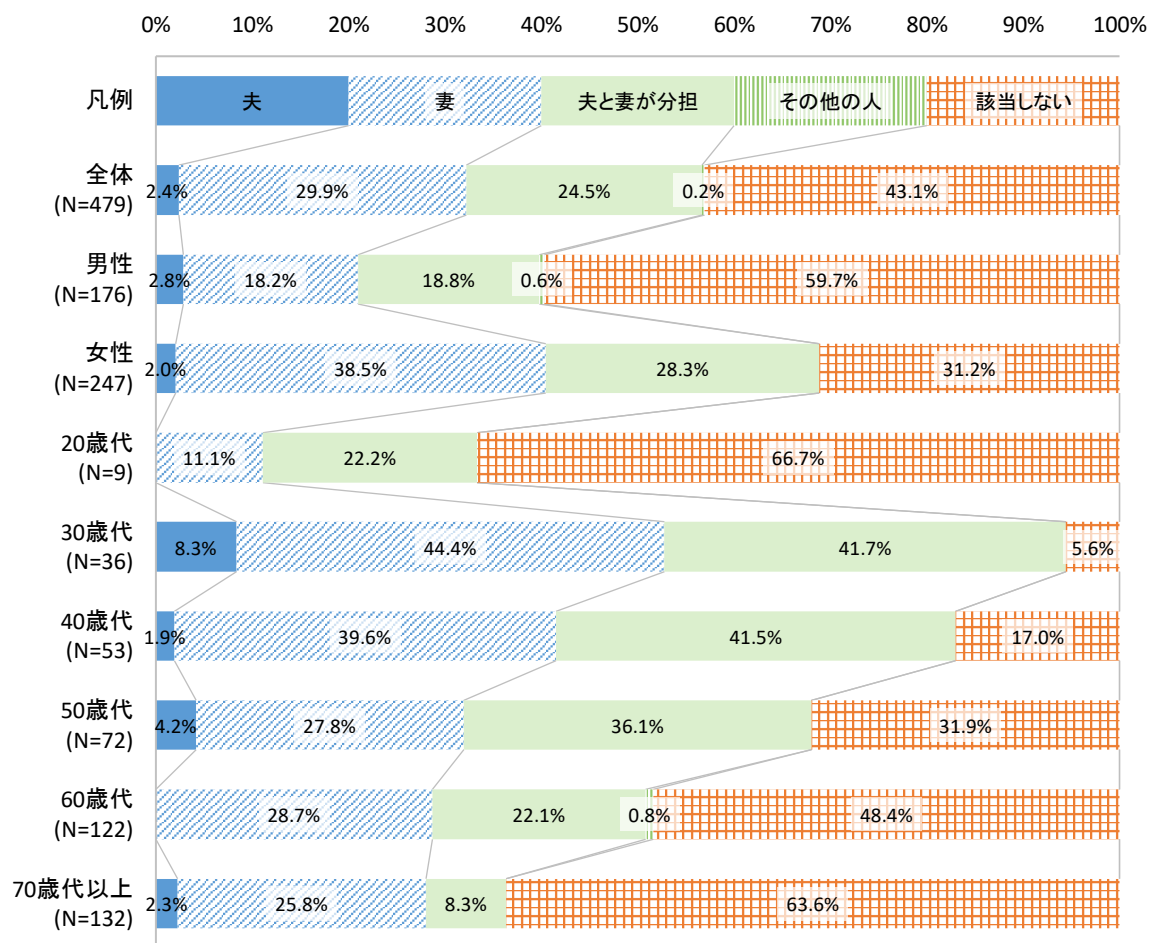


D PTAや子ども会への参加

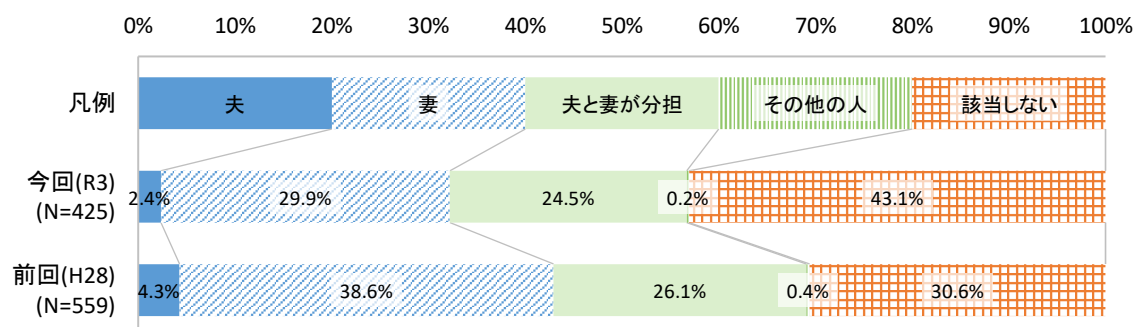
PTAや子ども会への参加については、「該当しない」が43.1%で最も多く、次いで「妻」が29.9%、「夫と妻が分担」が24.5%となっている。

年代別でみると、30歳代、40歳代では「夫と妻が分担」が4割以上と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、「妻」が8.7ポイント減少、「該当しない」が12.5ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】

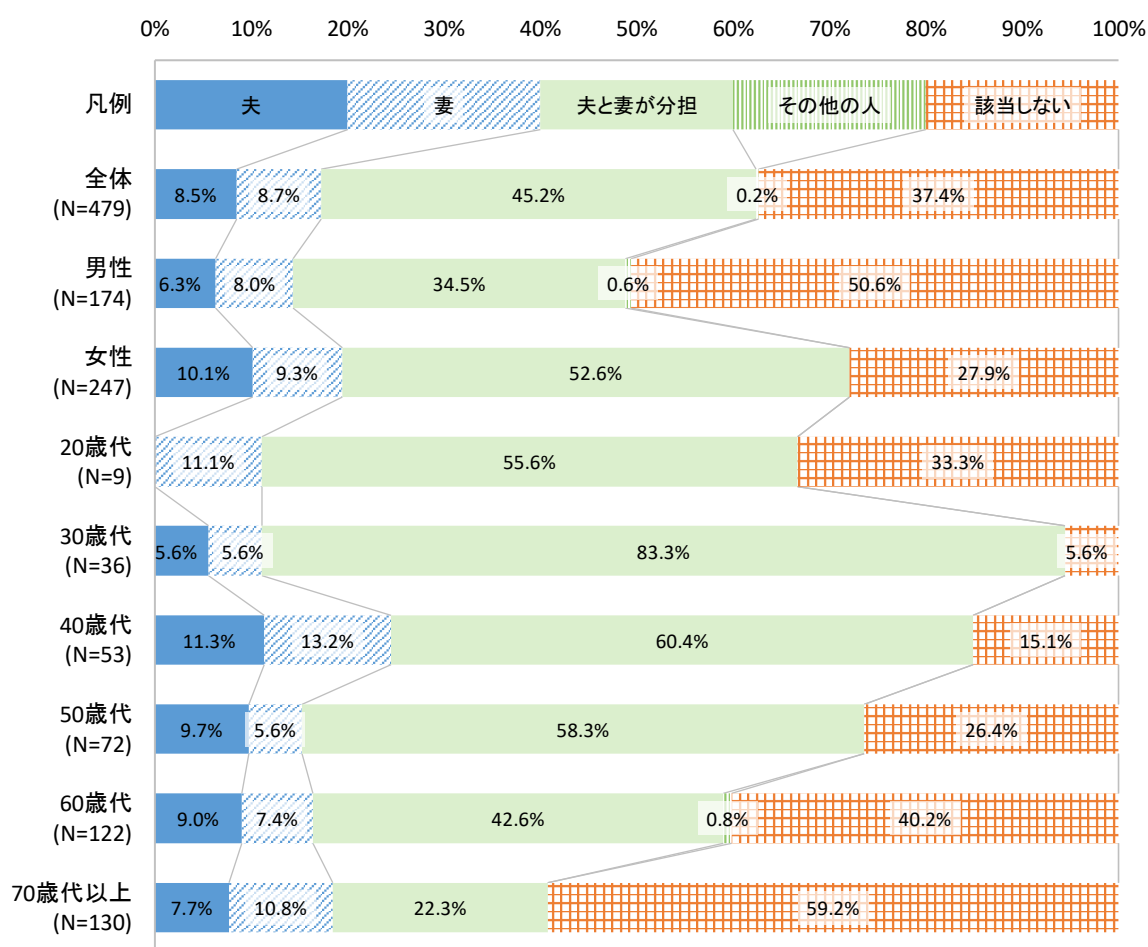


E 教育方針の決定

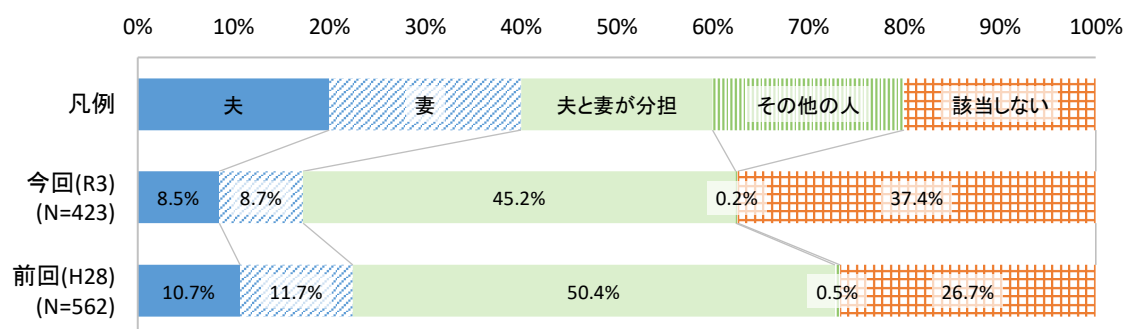
教育方針の決定については、「夫と妻が分担」が45.2%で最も多く、次いで「該当しない」が37.4%、「妻」がともに8.7%となっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっており、30歳代では約8割を占めている。

前回調査と比較すると、「夫と妻が分担」が5.2ポイント減少、「該当しない」が10.7ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】

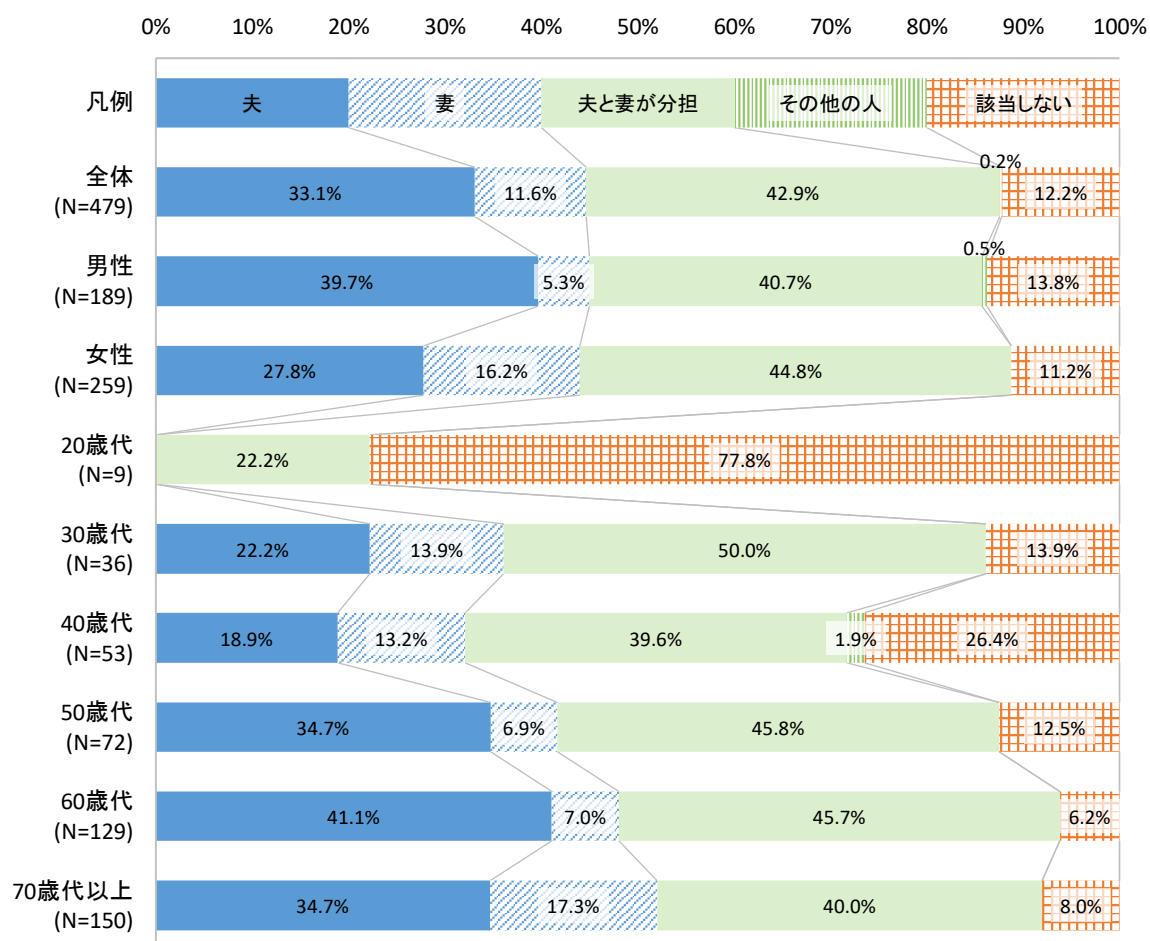


F 自治会や公民館などの地域活動への参加

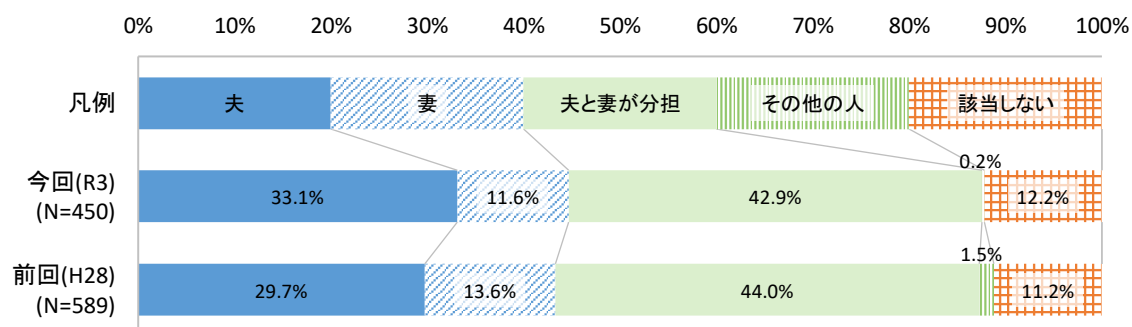
自治会や公民館などの地域活動への参加については、「夫と妻が分担」が42.9%で最も多く、次いで「夫」が33.1%、「該当しない」が12.2%となっている。

年代別でみると、20歳代を除いた全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。一方で、50歳代以上では「夫」の割合が3割以上を占めている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

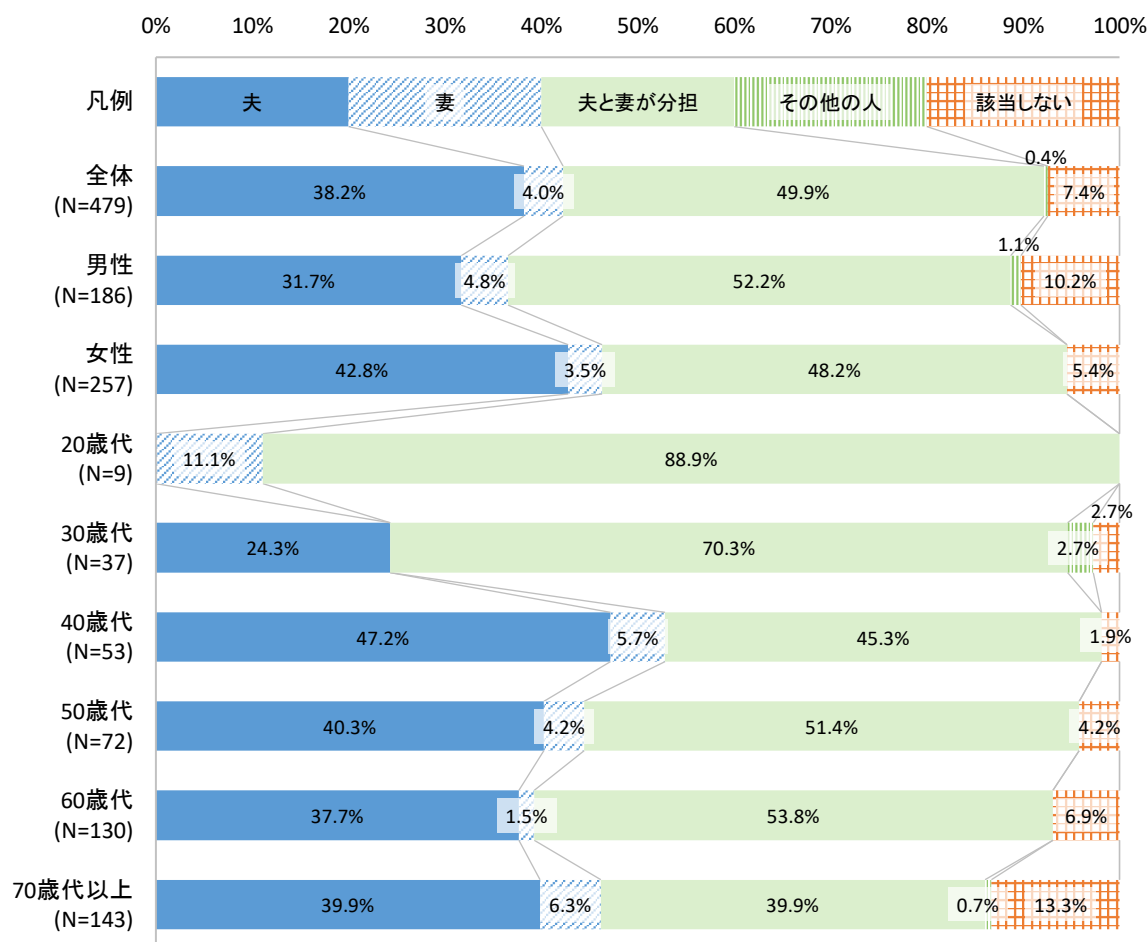


G 高額の商品や土地・家屋の購入の決定

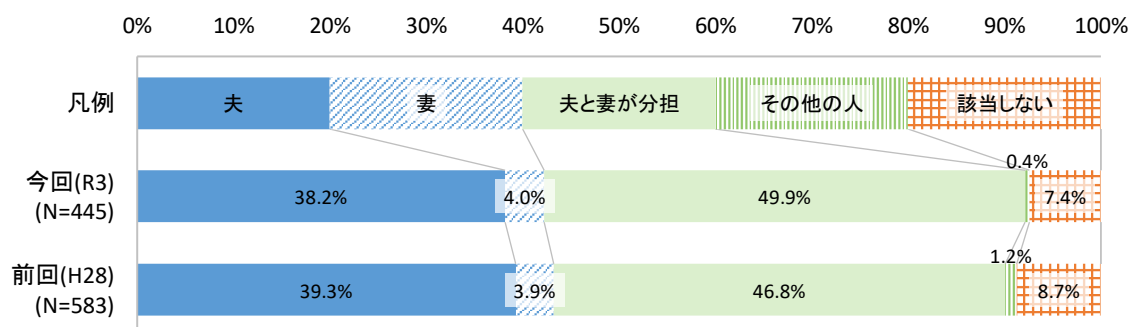
高額の商品や土地・家屋の購入の決定については、「夫と妻が分担」が49.9%で最も多く、次いで「夫」が38.2%、「該当しない」が7.4%となっている。

年代別でみると、40歳代以上では「夫」と「夫と妻が分担」がそれぞれ同様に約4～5割となっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

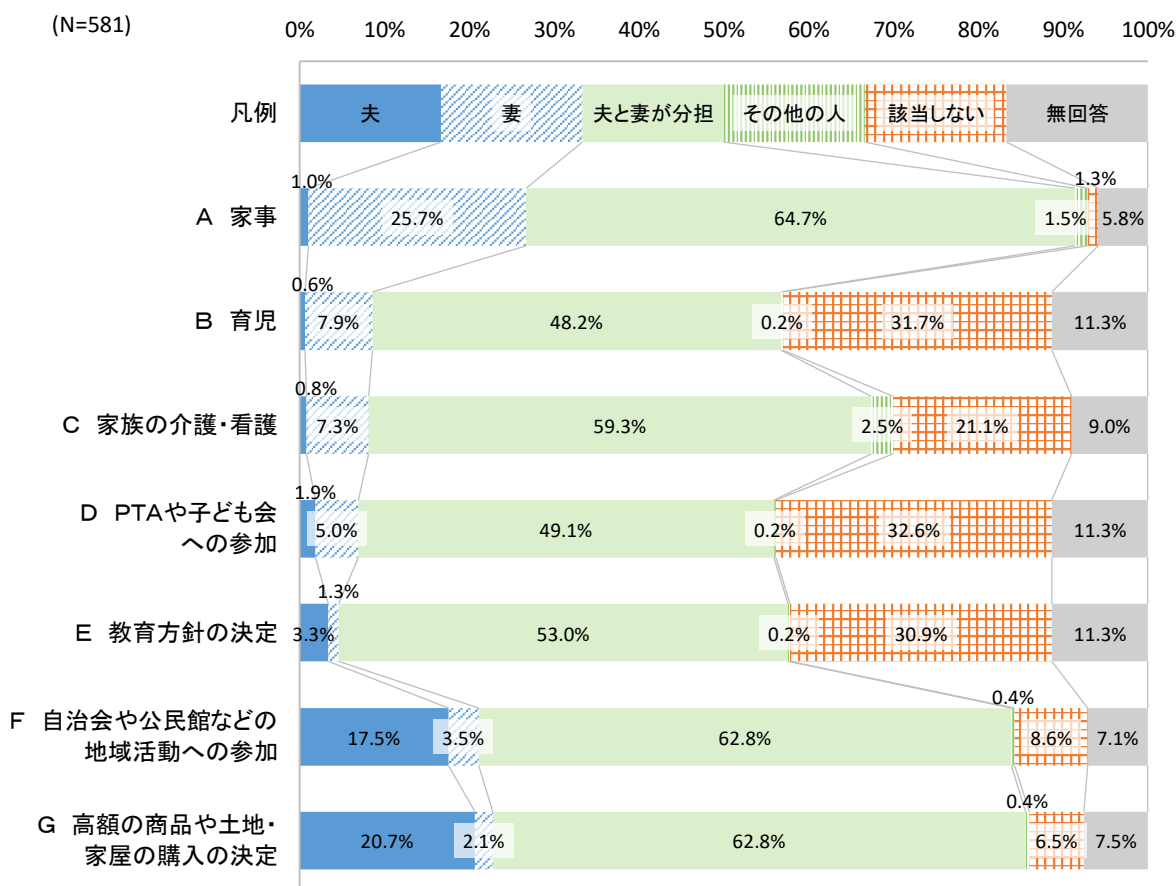


問 12 あなたは、次にあげるような家庭内の事柄を、誰にして欲しいとお考えですか。

A～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

家庭内での理想の役割分担については、全てにおいて「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。「家事」は「妻」、「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」は「夫」の割合が2割以上を占めている。



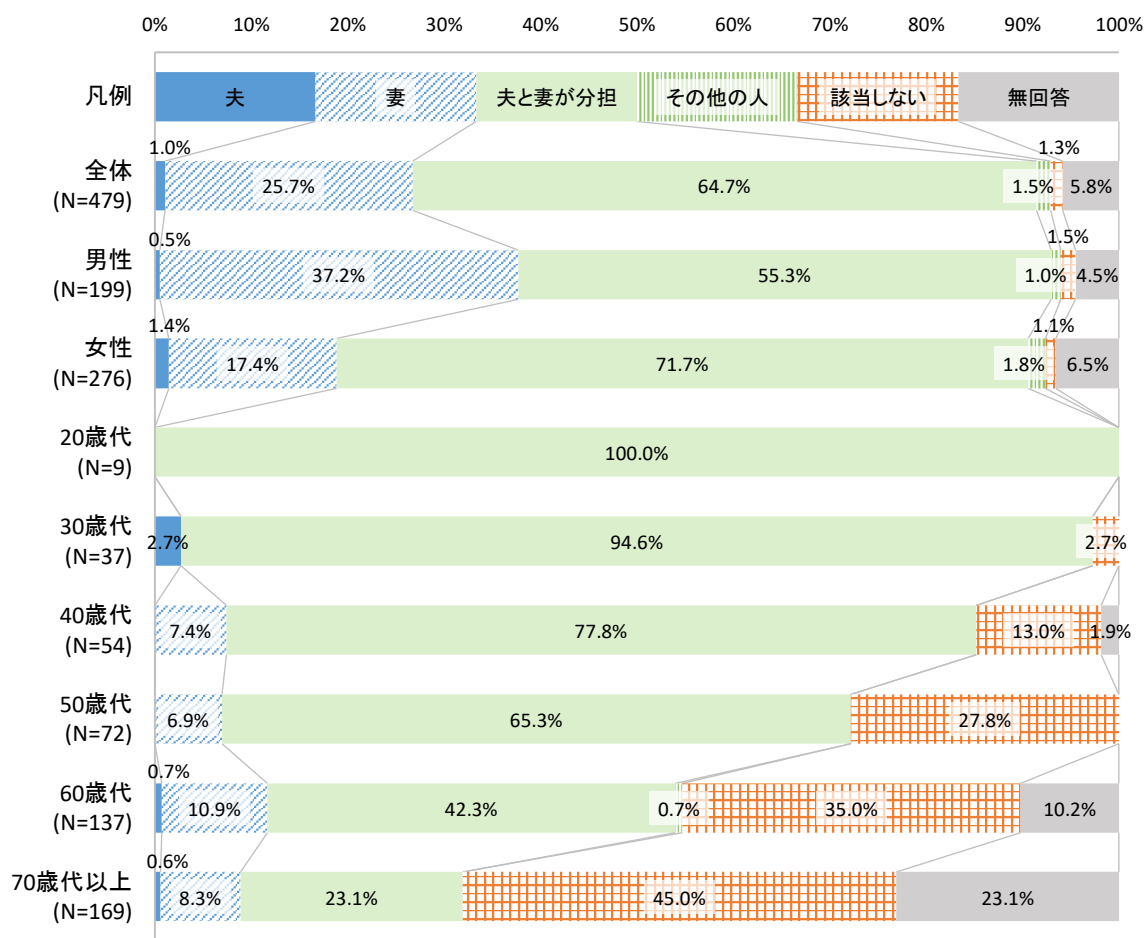
A 家事

家事については、「夫と妻が分担」が64.7%で最も多く、次いで「妻」が25.7%、「その他の人」が1.5%となっている。

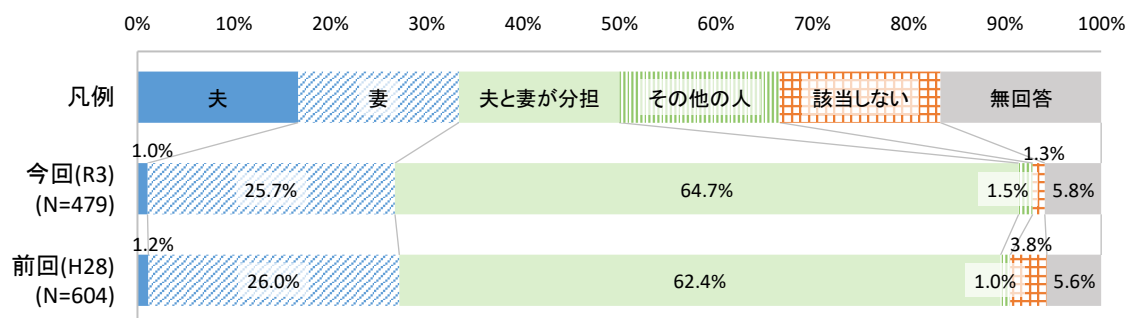
性別でみると、女性では「夫と妻が分担」が71.7%と、男性より16.4ポイント高くなっている。一方、男性では「妻」が37.2%と、女性より19.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



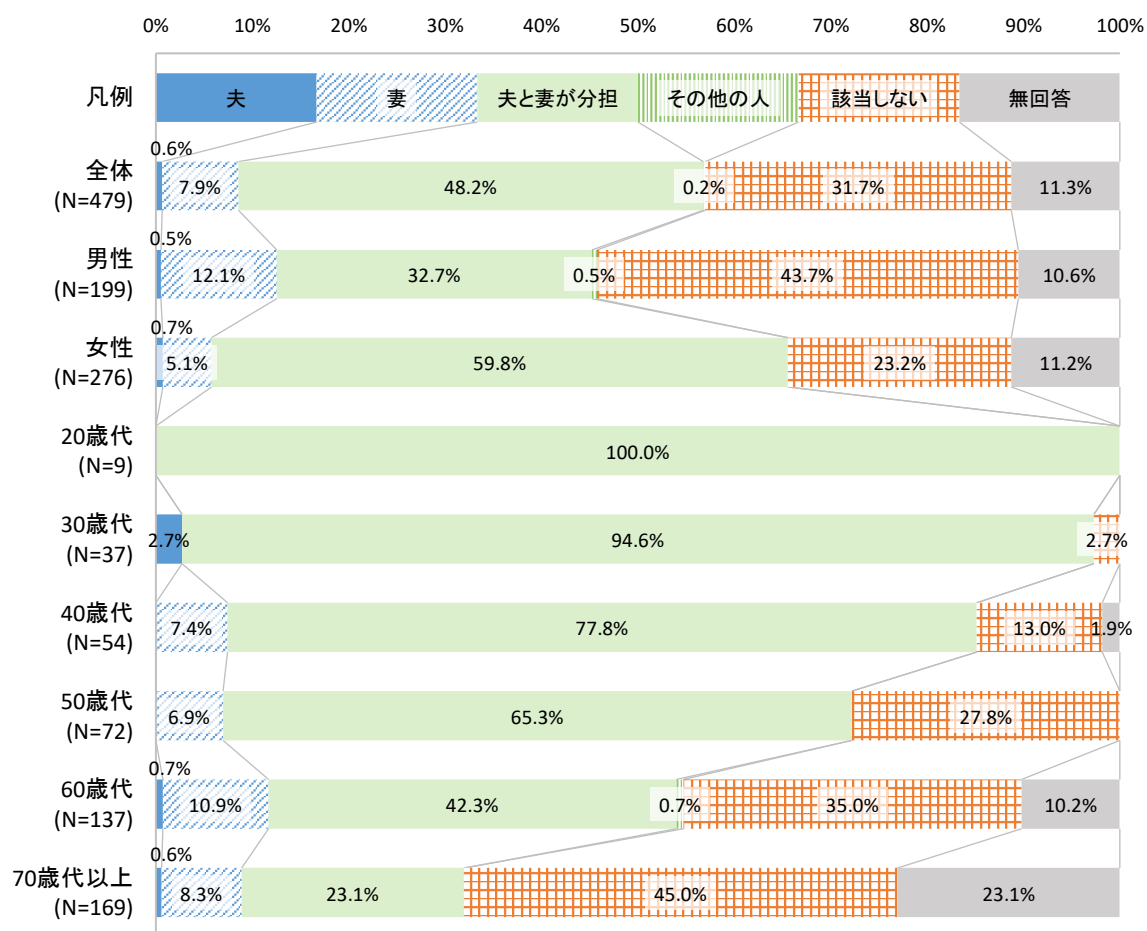
B 育児

育児については、「夫と妻が分担」が48.2%で最も多く、次いで「該当しない」が31.7%、「妻」が7.9%となっている。

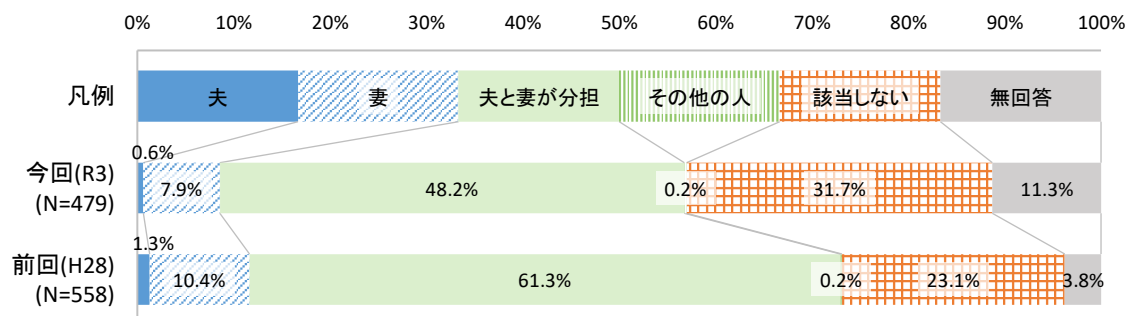
性別でみると、女性では「夫と妻が分担」が59.8%と、男性より27.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「夫と妻が分担」が13.1ポイント減少、「該当しない」が8.6ポイント増加している



【前回（H28）との比較】

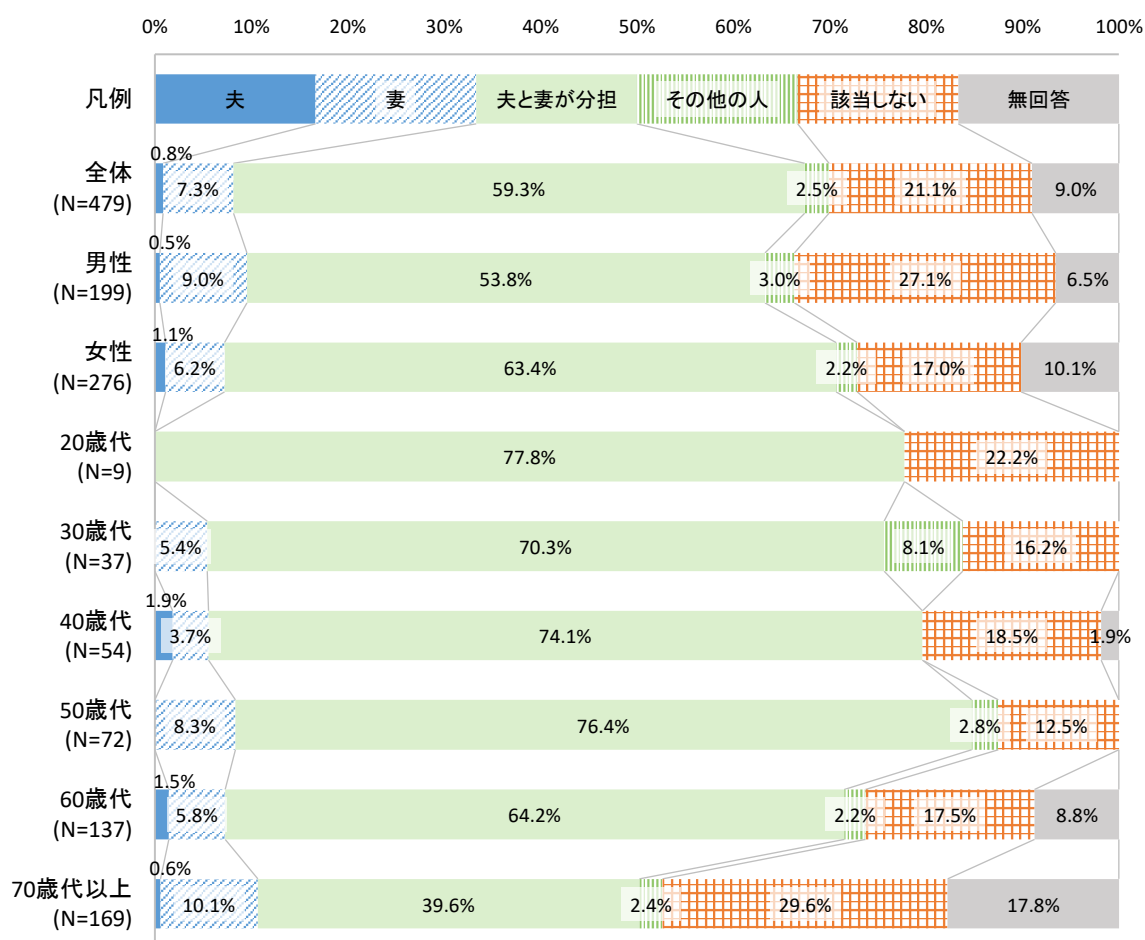


C 家族の介護・看護

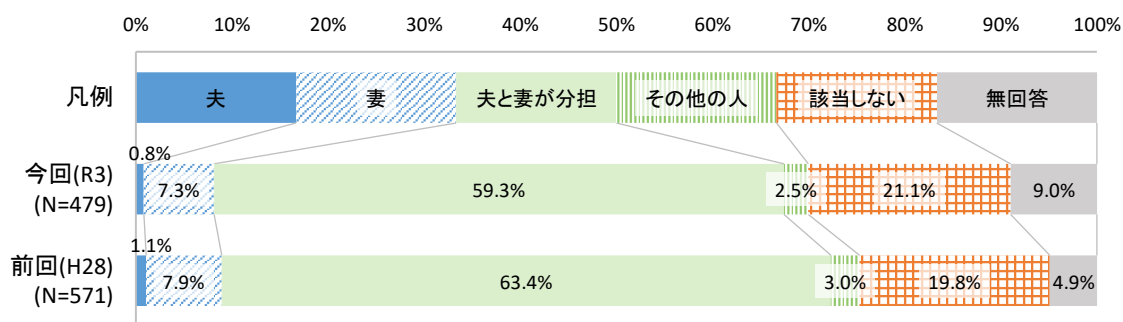
育児については、「夫と妻が分担」が59.3%で最も多く、次いで「該当しない」が21.1%、「妻」が7.3%となっている。

性別でみると、女性では「夫と妻が分担」が63.4%と、男性より9.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回 (H28) との比較】



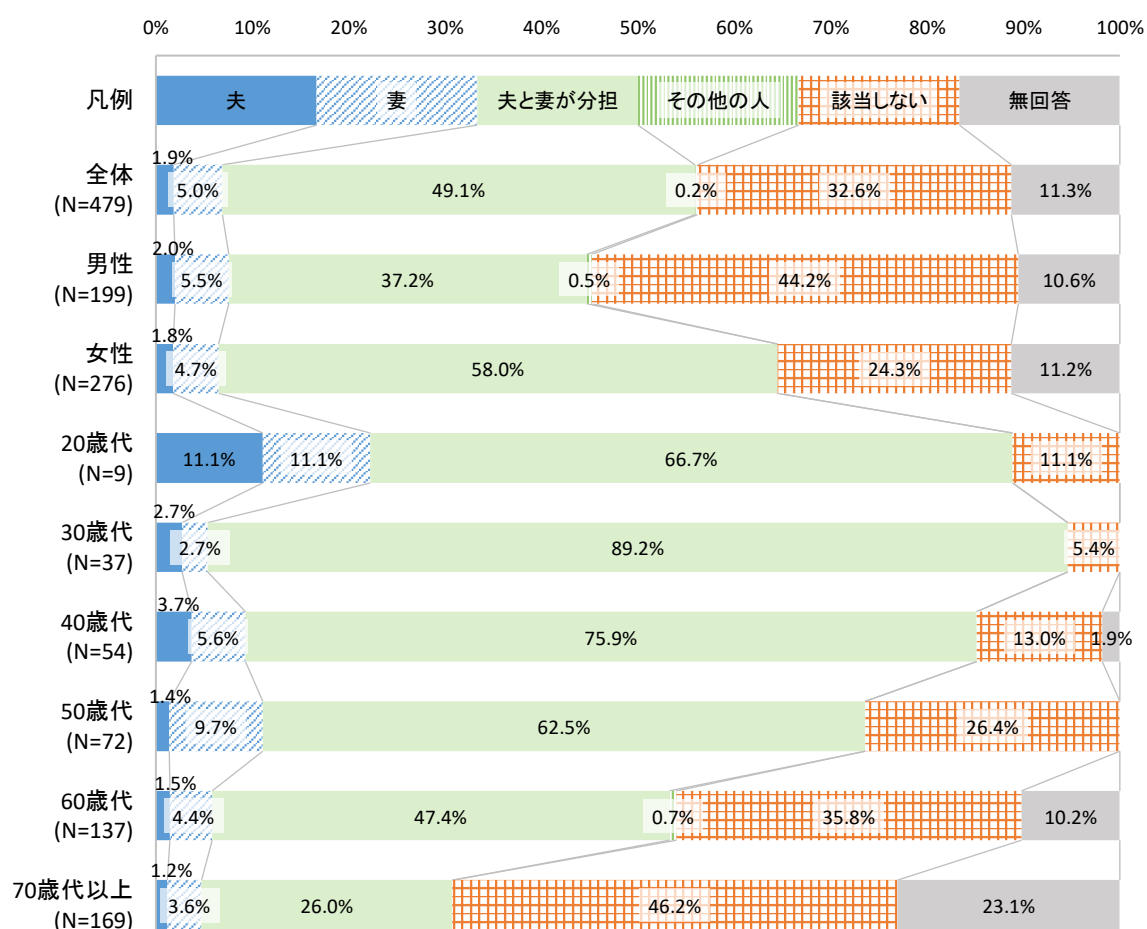
D PTAや子ども会への参加

PTAや子ども会への参加については、「夫と妻が分担」が49.1%で最も多く、次いで「該当しない」が32.6%、「妻」が5.0%となっている。

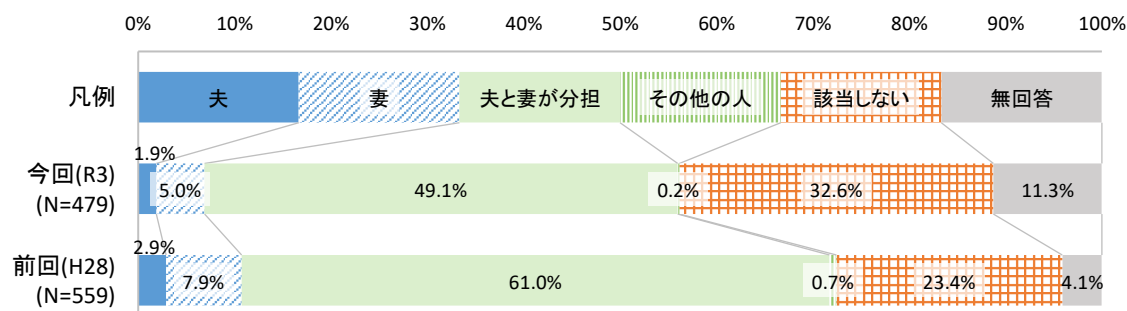
性別でみると、女性では「夫と妻が分担」が58.0%と、男性より20.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「夫と妻が分担」が11.9ポイント減少、「該当しない」が9.2ポイント増加している



【前回 (H28) との比較】



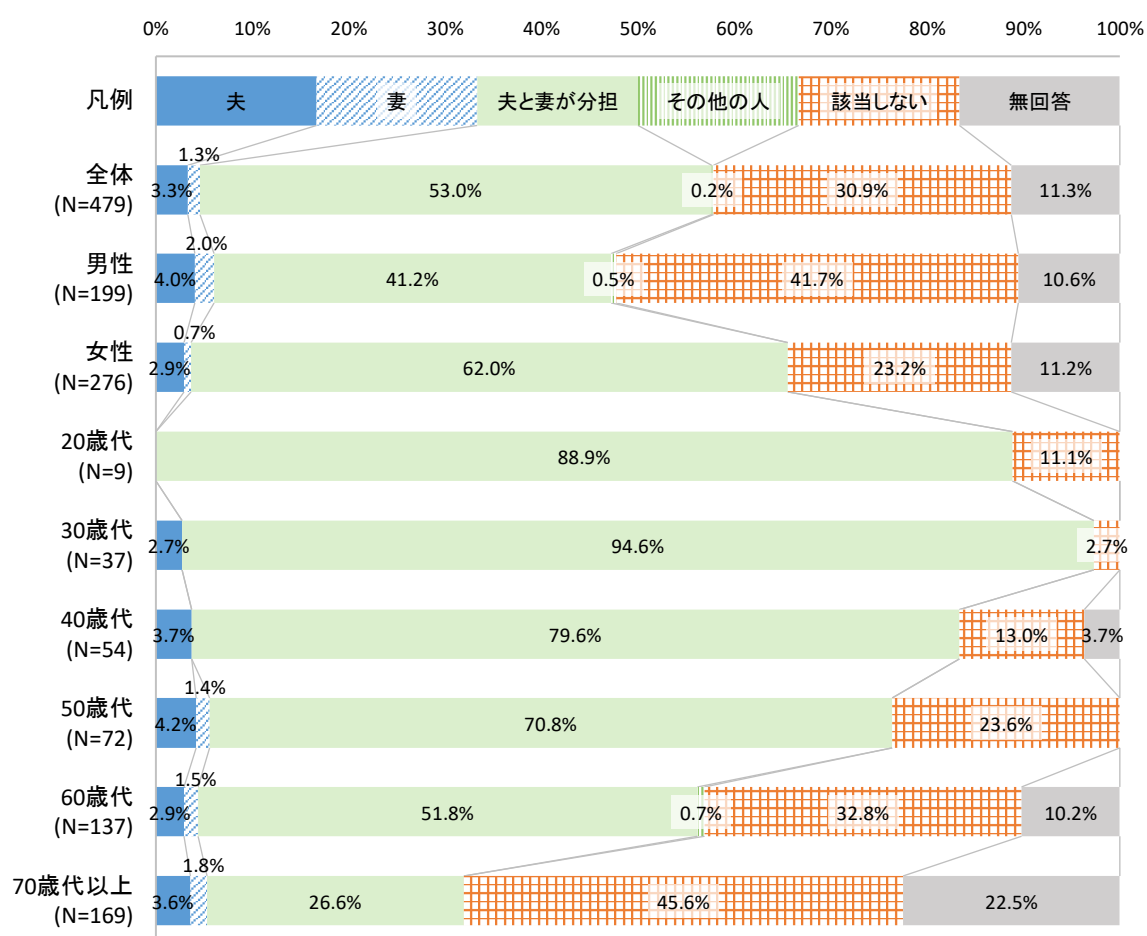
E 教育方針の決定

教育方針の決定については、「夫と妻が分担」が53.0%で最も多く、次いで「該当しない」が30.9%、「夫」が3.3%となっている。

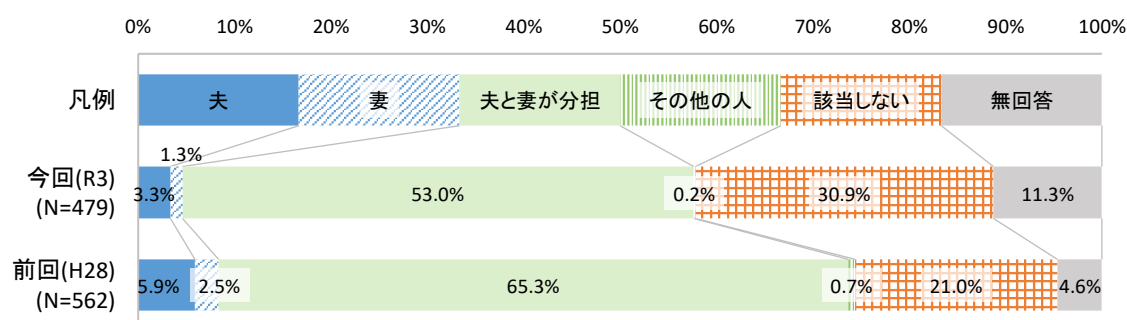
性別でみると、女性では「夫と妻が分担」が62.0%と、男性より20.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「夫と妻が分担」が12.3ポイント減少、「該当しない」が9.9ポイント増加している



【前回 (H28) との比較】



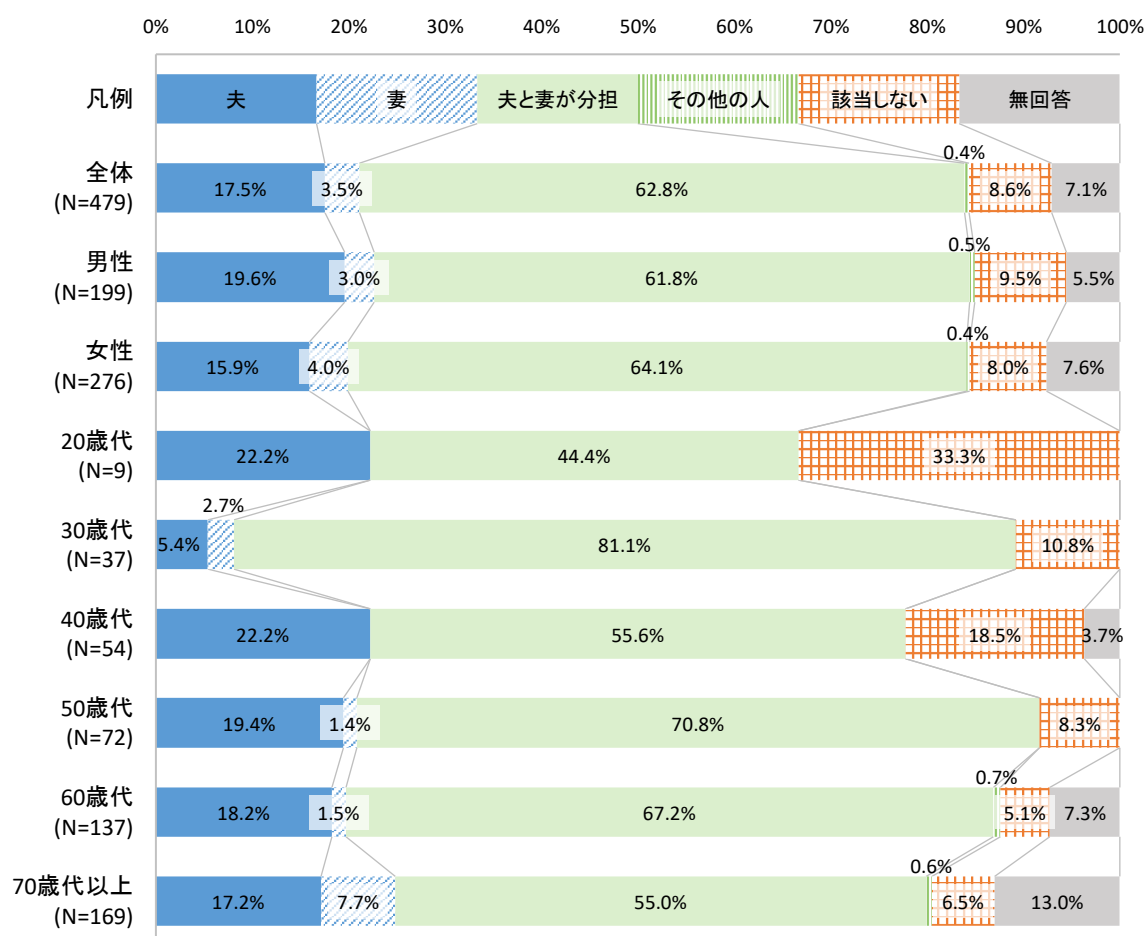
F 自治会や公民館などの地域活動への参加

自治会や公民館などの地域活動への参加については、「夫と妻が分担」が62.8%で最も多く、次いで「夫」が17.5%、「該当しない」が8.6%となっている。

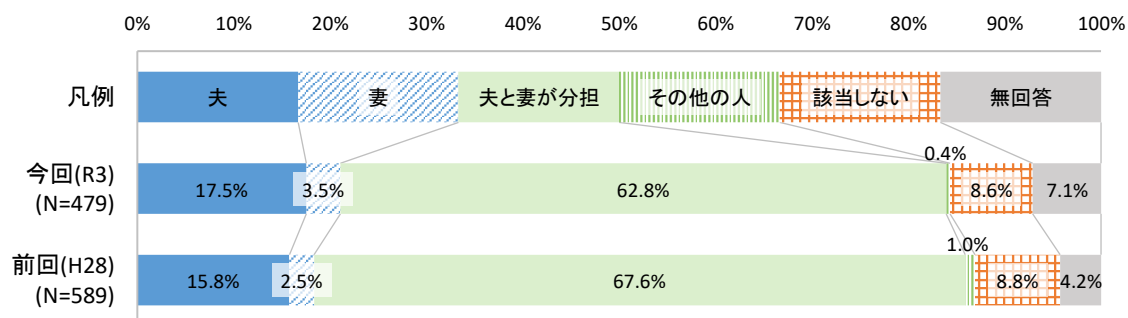
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高く、30歳代では約8割を占めている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

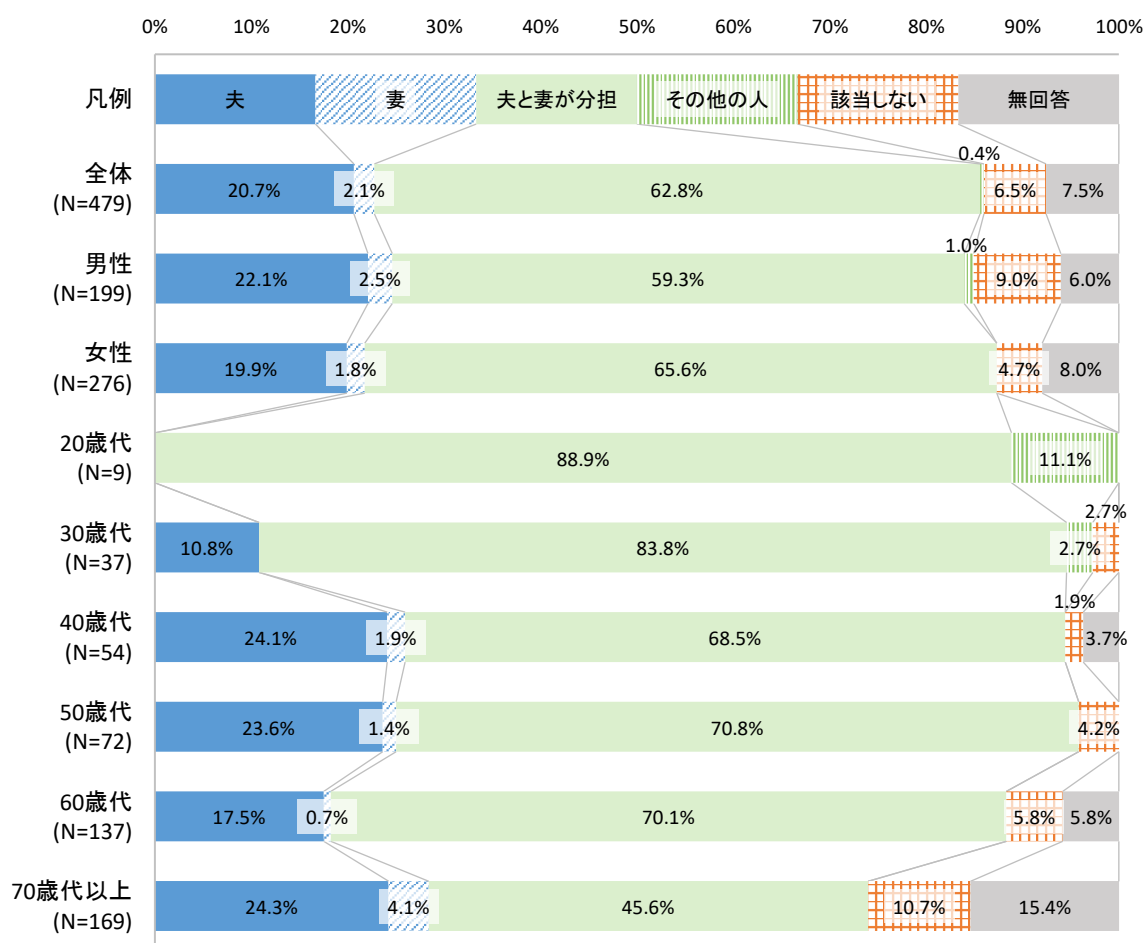


G 高額の商品や土地・家屋の購入の決定

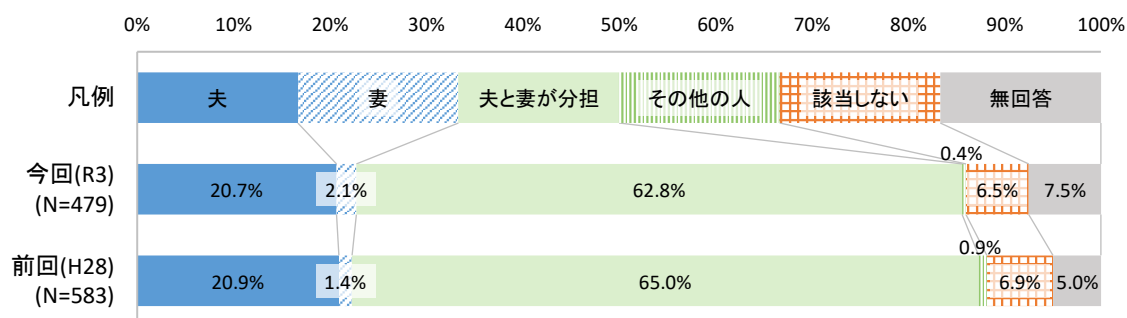
高額の商品や土地・家屋の購入の決定については、「夫と妻が分担」が62.8%で最も多く、次いで「夫」が20.7%、「該当しない」が6.5%となっている。

性別でみると、女性では「夫と妻が分担」が65.6%と、男性より6.3ポイント多くなっている。

年代別でみると、全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

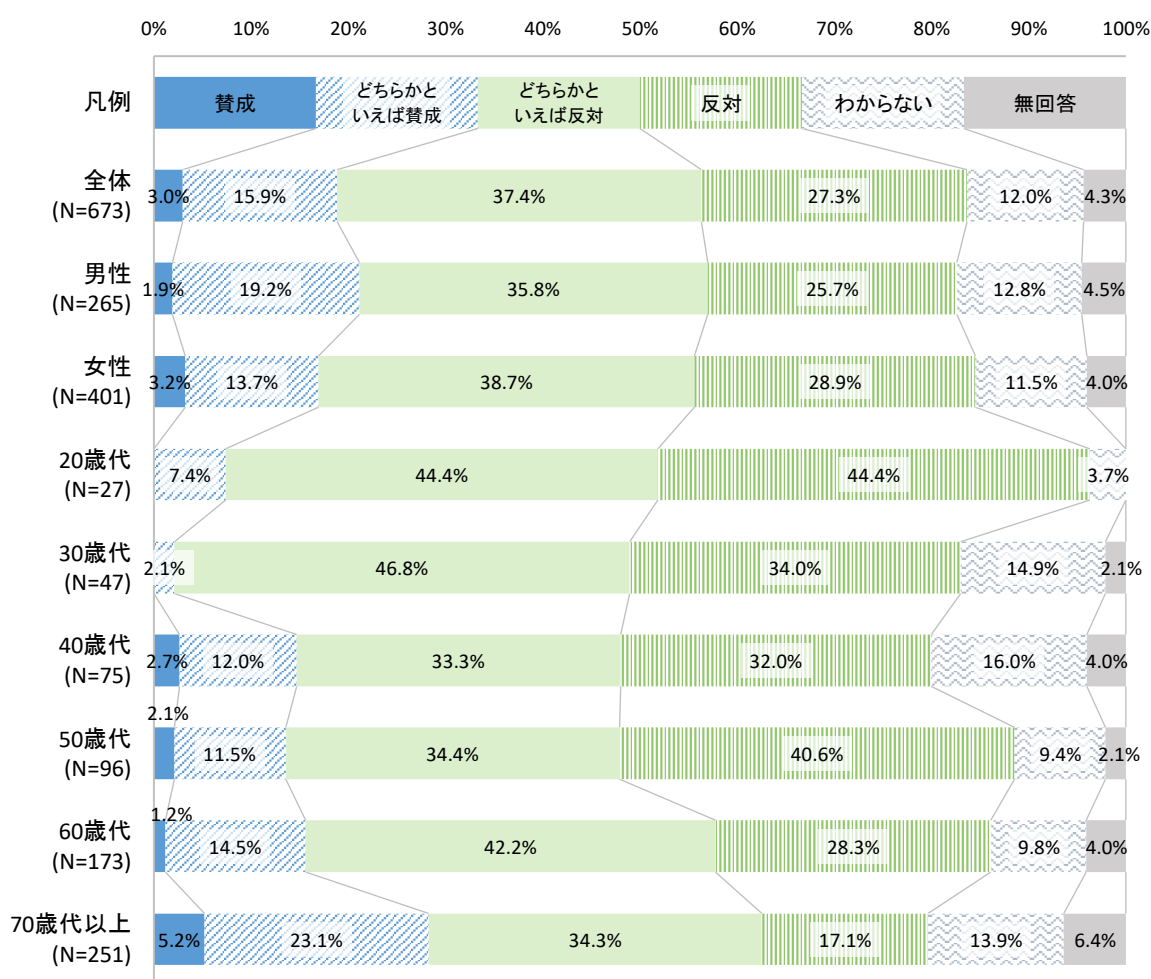


問 13 あなたは「男は仕事，女は家庭」という，性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。（○は1つだけ）

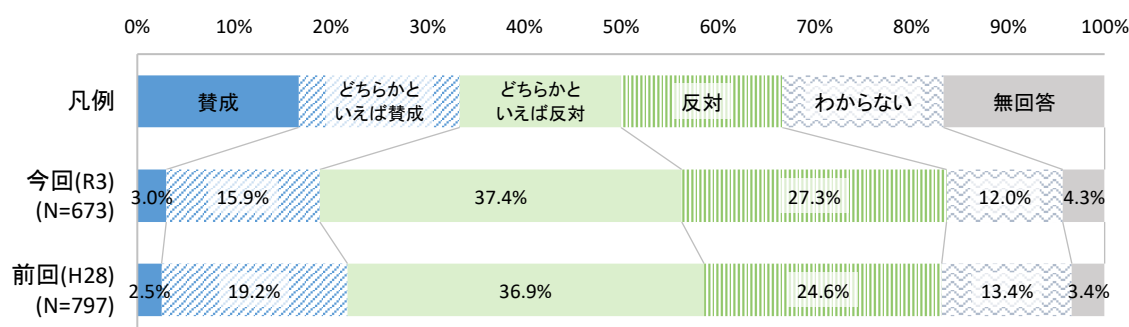
性別によって役割を固定する考え方については、『賛成』（賛成+どちらかといえば賛成）が 18.9%，『反対』（反対+どちらかといえば反対）が 64.7%と，回答者の約2割が固定的性別役割分担意識を持っている。

性別でみると，女性では『反対』が 67.6%と，男性より 6.1 ポイント高くなっている。
年代別でみると，『賛成』は 70 歳代以上で 28.3%と最も多く，次いで 60 歳代，40 歳代の順に多くなっている。

前回調査と比較すると，大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



【問13】で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」を選んだ方におたずねします。

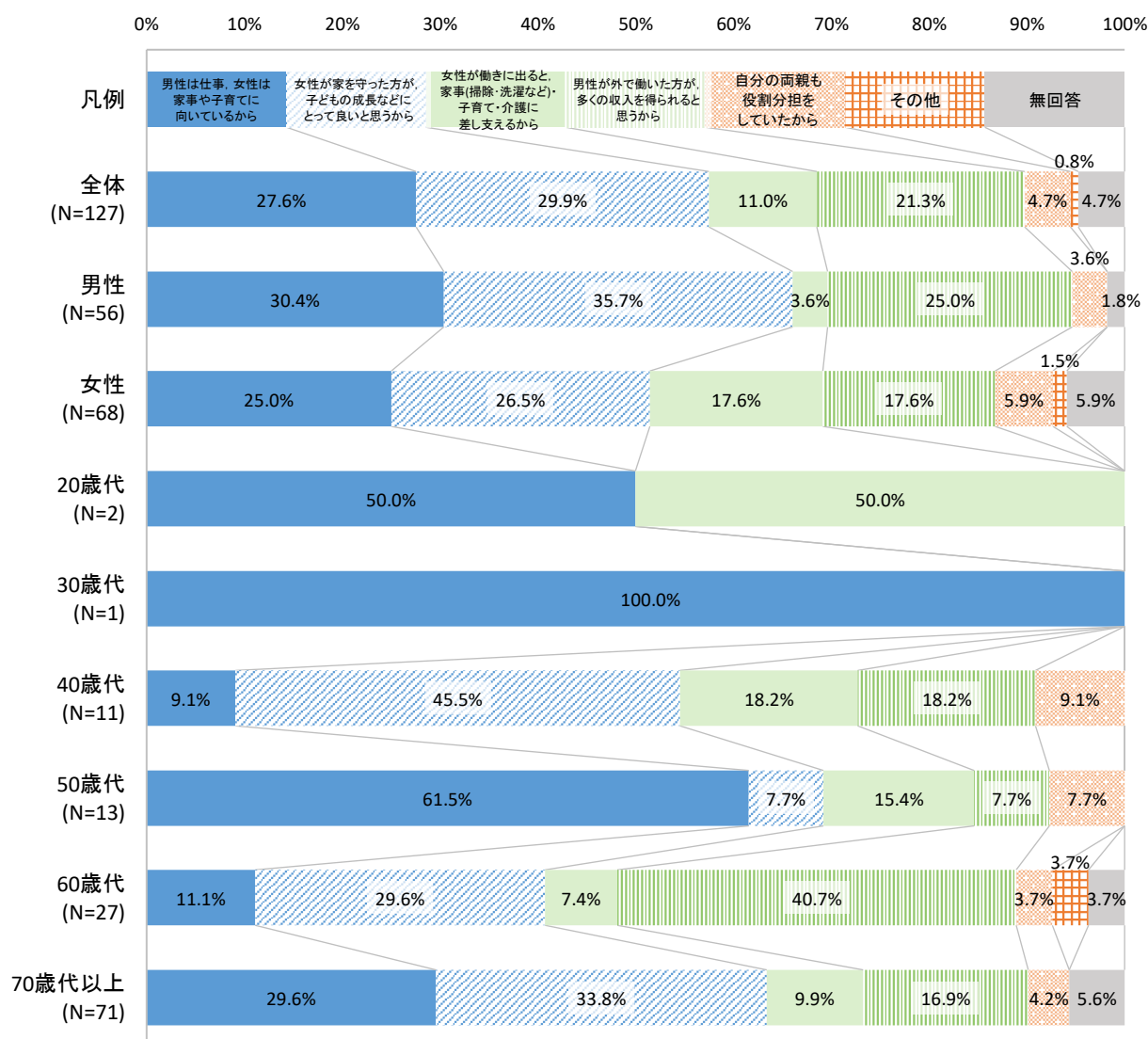
問14 それはどのような理由ですか。(〇は1つだけ)

理由については、「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が29.9%で最も多く、次いで「男性は仕事、女性は家事や子育てに向いているから」が27.6%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が21.3%となっている。

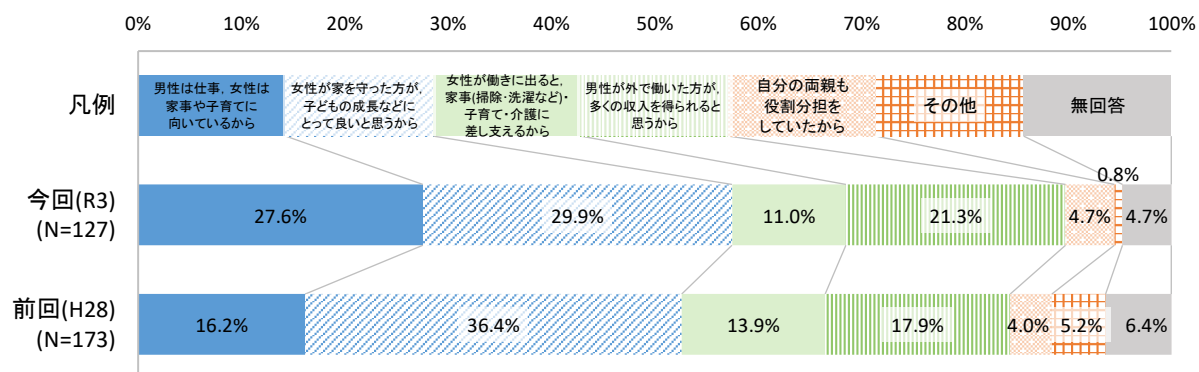
性別でみると、男性では「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が女性より9.2ポイント高く、女性では「女性が働きに出ると、家事(掃除・洗濯など)・子育て・介護に差し支えるから」が男性より14.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、50歳代では「男性は仕事、女性は家事や子育てに向いているから」が約6割、60歳代では「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が約4割と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家事や子育てに向いているから」が11.4ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



その他回答
家で分担の仕方があってよい

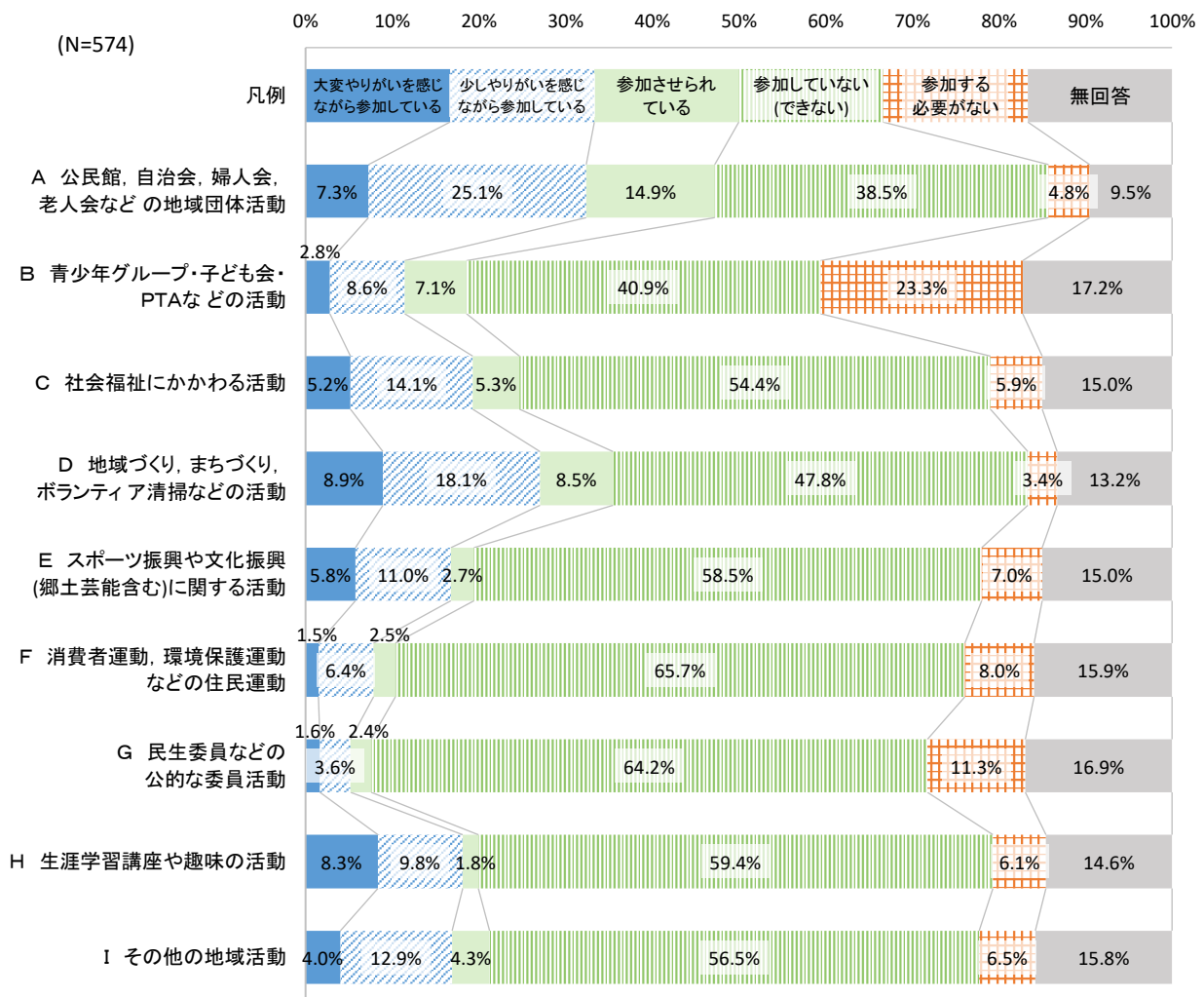
社会活動、地域活動への参加・参画について

問 15 あなたは現在、何か地域活動等に参加していますか。また活動にやりがいを感じていますか。A～Iのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

地域活動については、全てにおいて「参加していない（できない）」の割合が高く、特に「消費者運動、環境保護運動などの住民運動」、「民生委員などの公的な委員活動」では6割以上を占めている。

「公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動」、「地域づくり、まちづくり、ボランティア清掃などの活動」では、『やりがいを感じながら参加している』（大変やりがいを感じながら参加している＋少しやりがいを感じながら参加している）が約3割となっている。

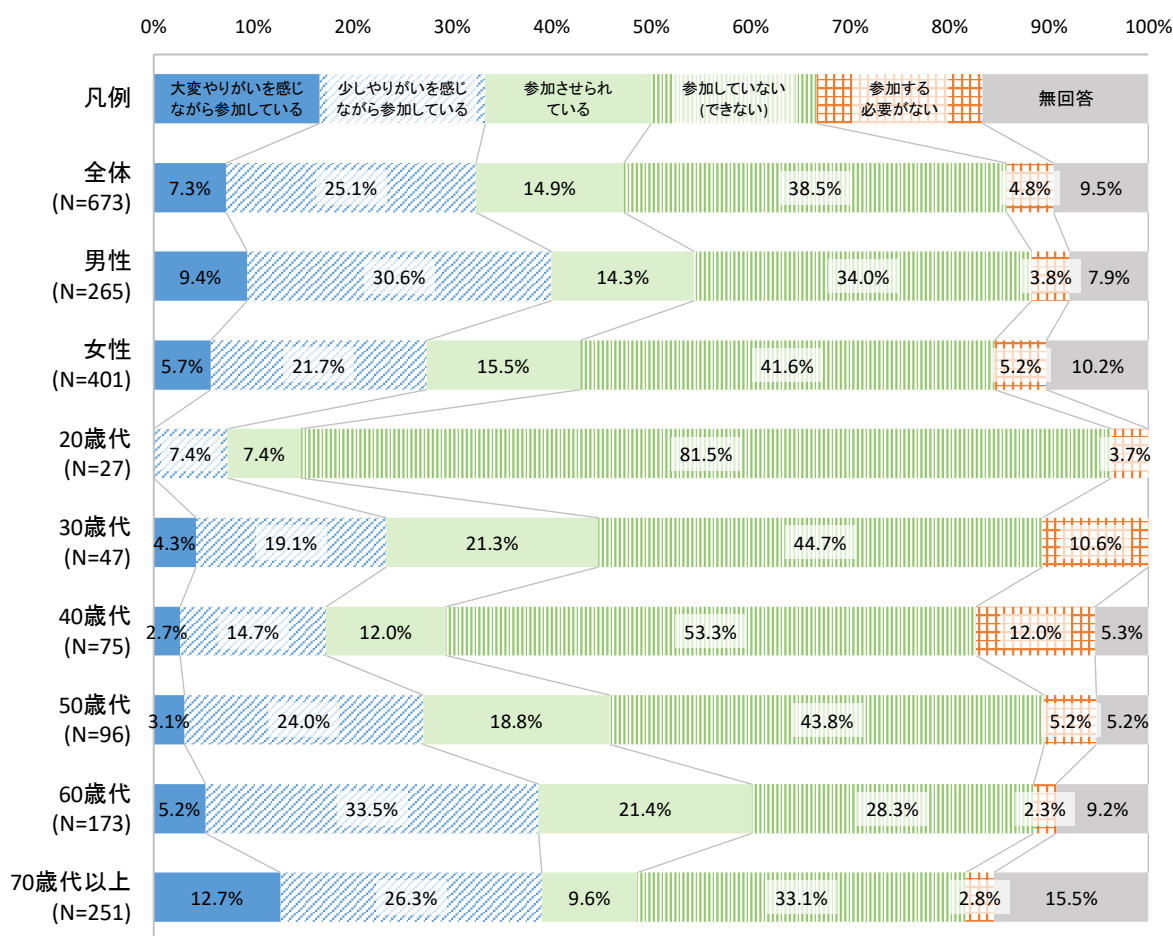


A 公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動

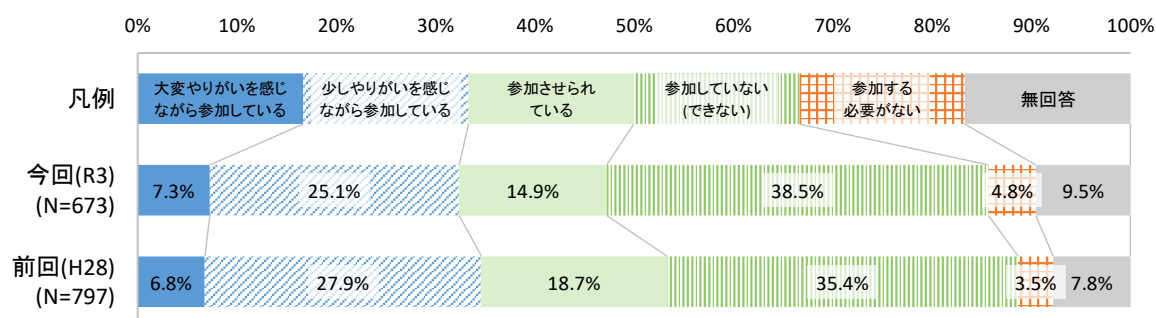
公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動については、「参加していない(できない)」が38.5%と最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が25.1%、「参加させられている」が14.9%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』(2項目合計)について性別でみると、男性では女性より12.6ポイント高くなっている。年代別でみると、高齢になるにつれて占める割合が高くなっている傾向がみられる。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回 (H28) との比較】

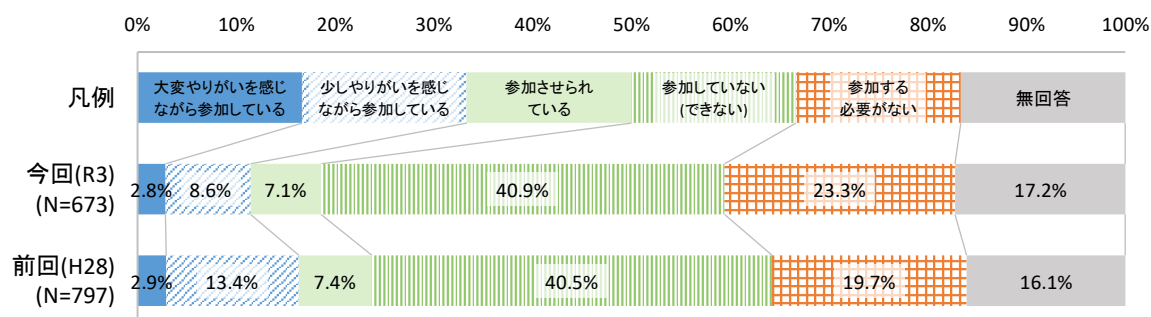
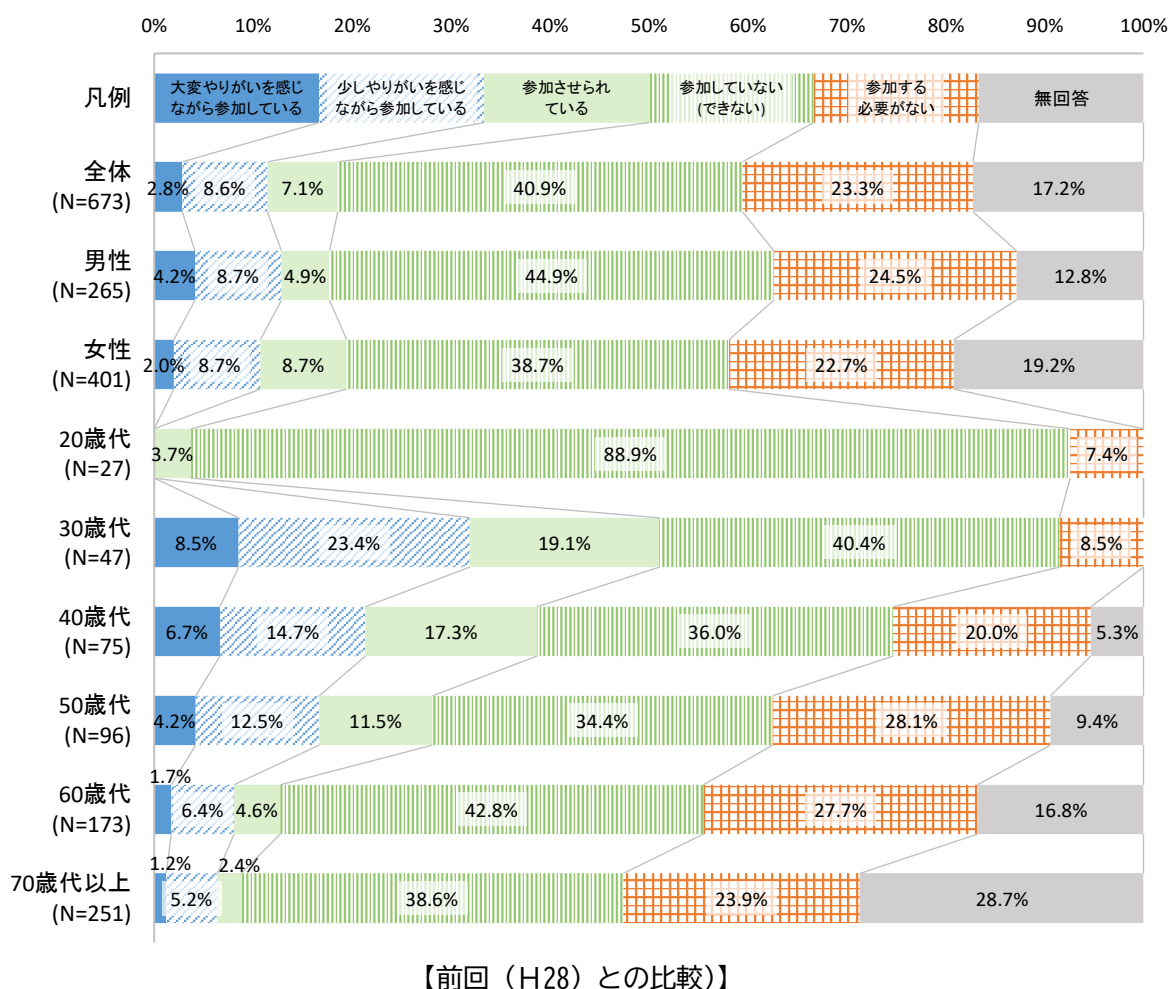


B 青少年グループ・子ども会・PTAなどの活動

青少年グループ・子ども会・PTAなどの活動については、「参加していない(できない)」が40.9%と最も多く、次いで「参加する必要がない」が23.3%、「少しやりがいを感じながら参加している」が8.6%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』(2項目合計)について性別でみると、大きな差異はみられない。年代別でみると、30歳代以降高齢になるにつれて占める割合が低くなっている傾向がみられる。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。

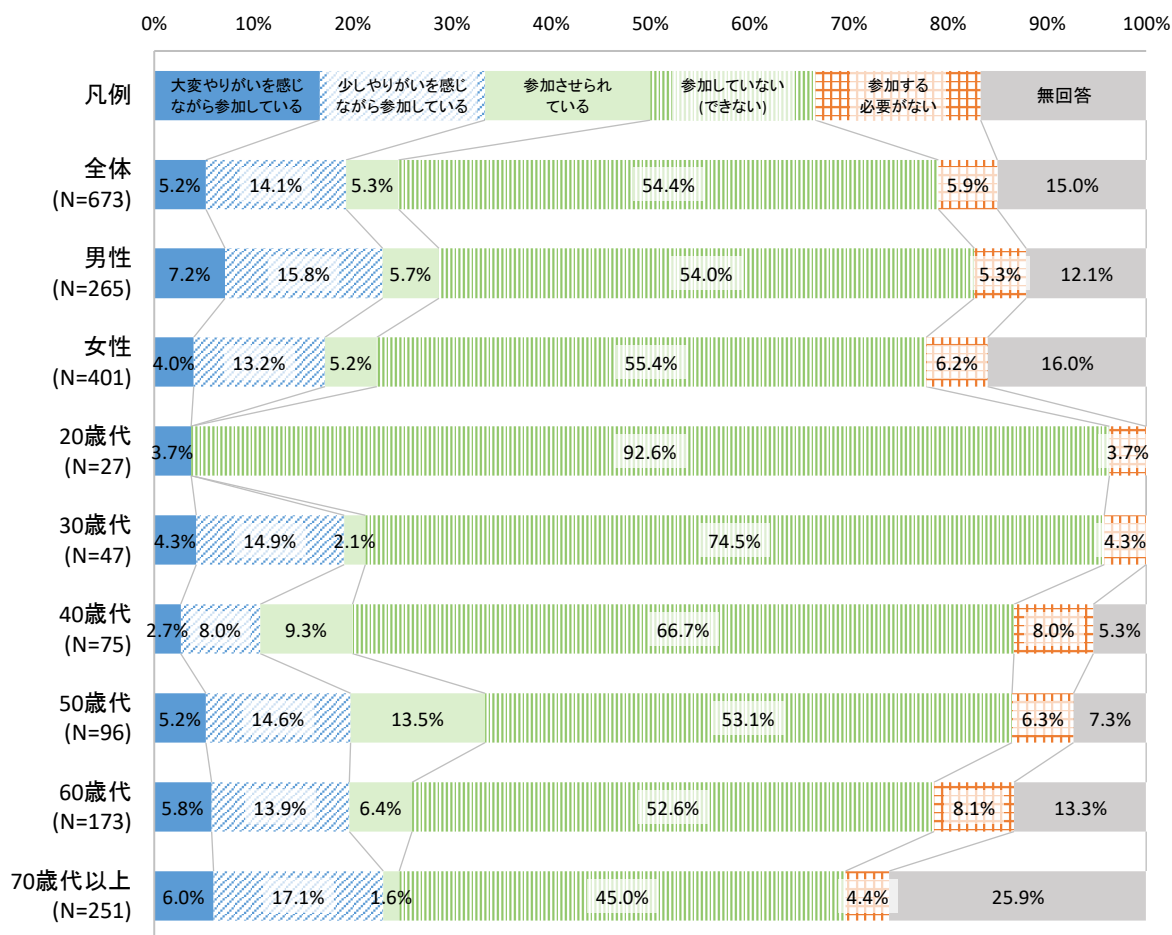


C 社会福祉にかかわる活動

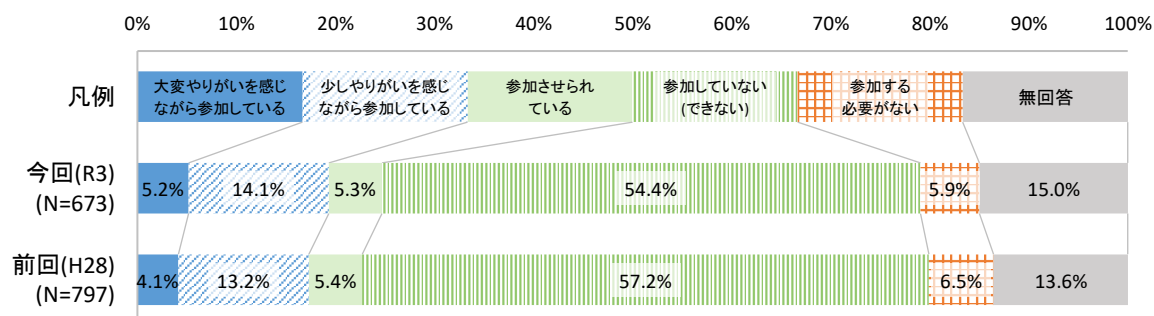
社会福祉にかかわる活動については、「参加していない(できない)」が54.4%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が14.1%、「参加する必要がある」が5.9%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、男性では女性より5.8ポイント高くなっている。年代別でみると、20歳代と40歳代では占める割合が、他の年代より低くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

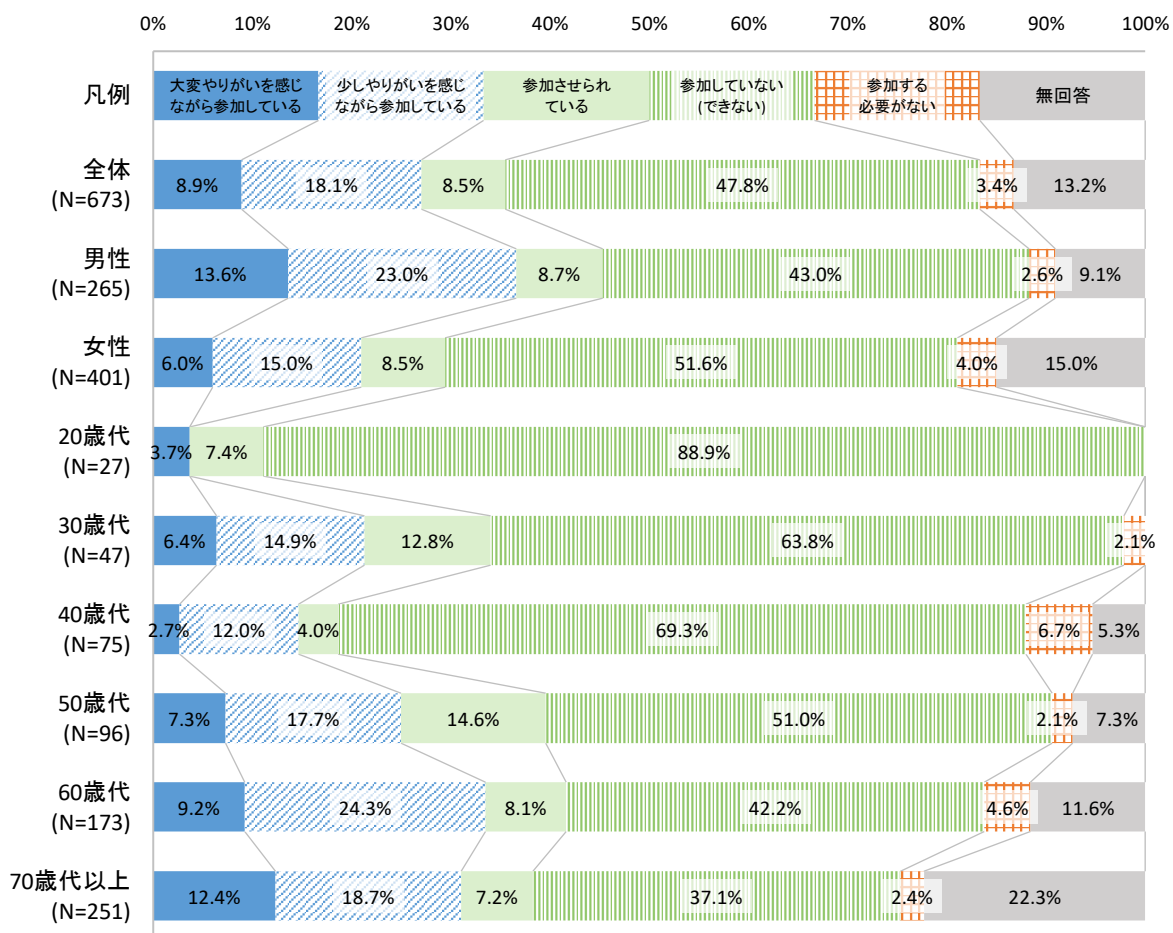


D 地域づくり、まちづくり、ボランティア清掃などの活動

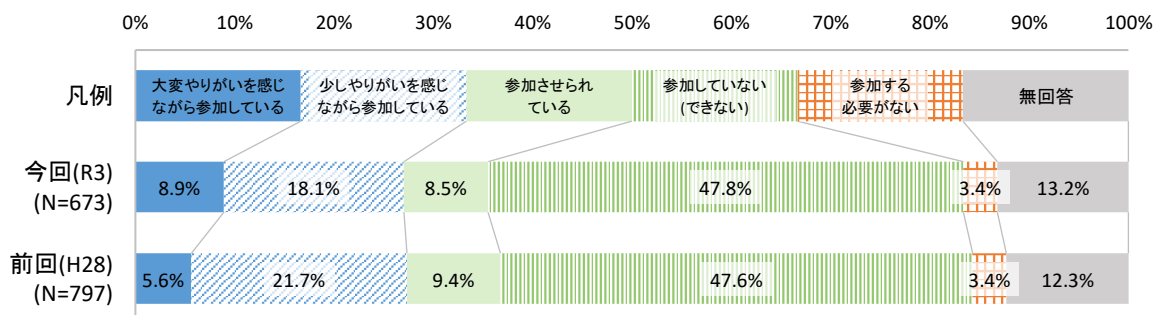
地域づくり、まちづくり、ボランティア清掃などの活動については、「参加していない（できない）」が47.8%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が18.1%、「大変やりがいを感じながら参加している」が8.9%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、男性では女性より15.6ポイント高くなっている。年代別でみると、60歳代以上では3割以上を占め、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

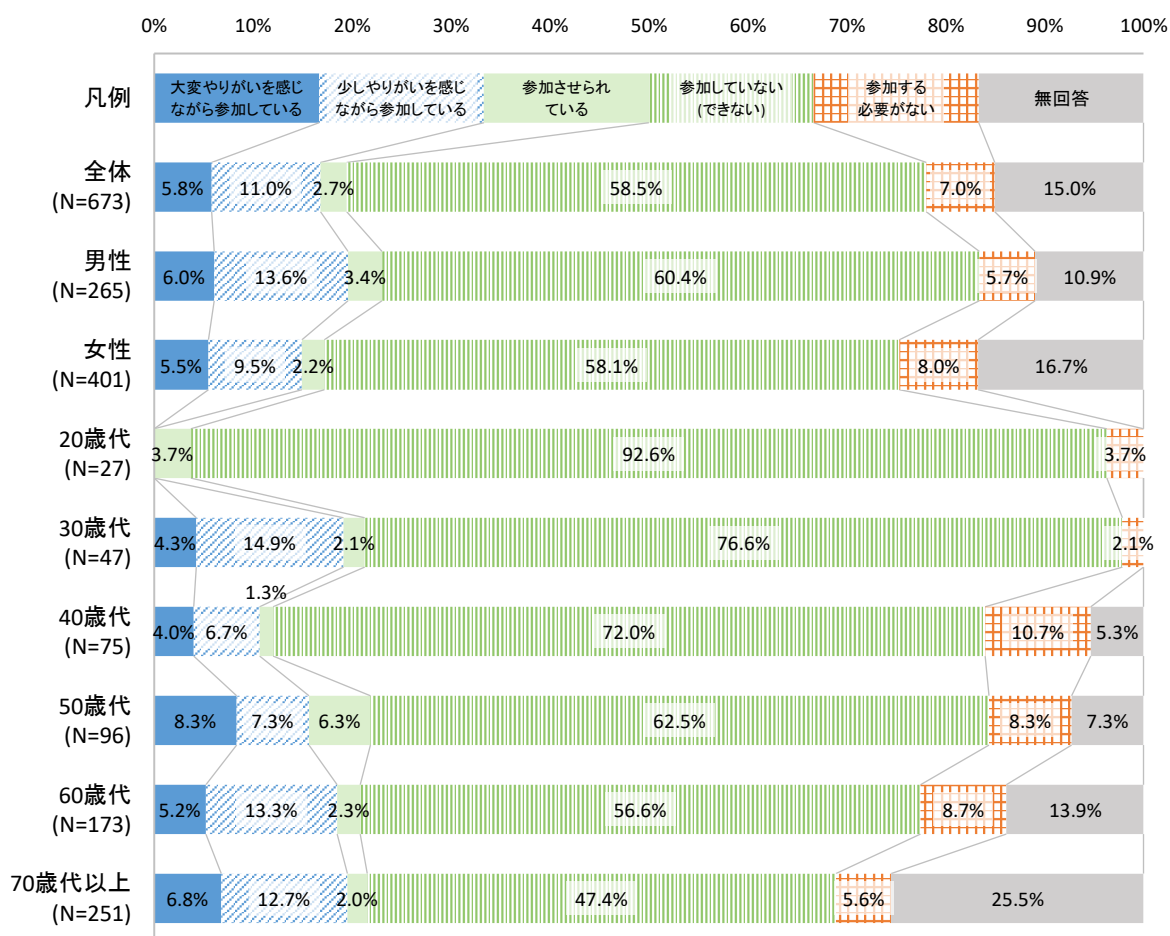


E スポーツ振興や文化振興（郷土芸能含む）に関する活動

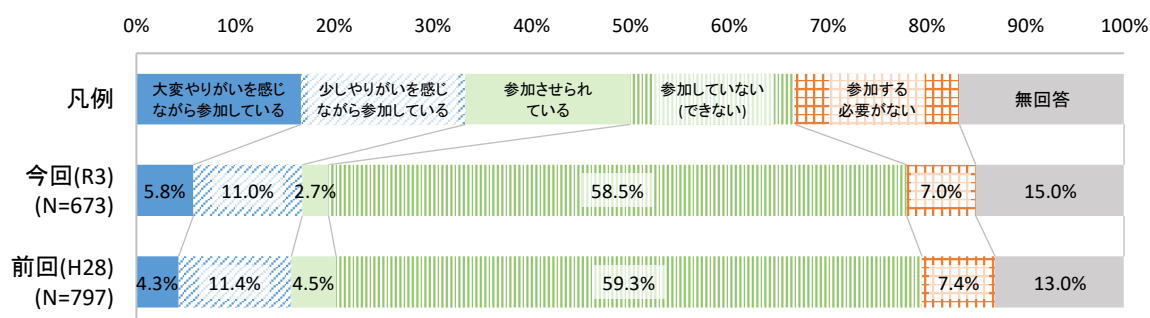
スポーツ振興や文化振興（郷土芸能含む）に関する活動については、「参加していない（できない）」が 58.5%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が 11.0%、「参加する必要がある」が 7.0%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、大きな差異はみられない。年代別でみると、20 歳代と 40 歳代では占める割合が、他の年代より低くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

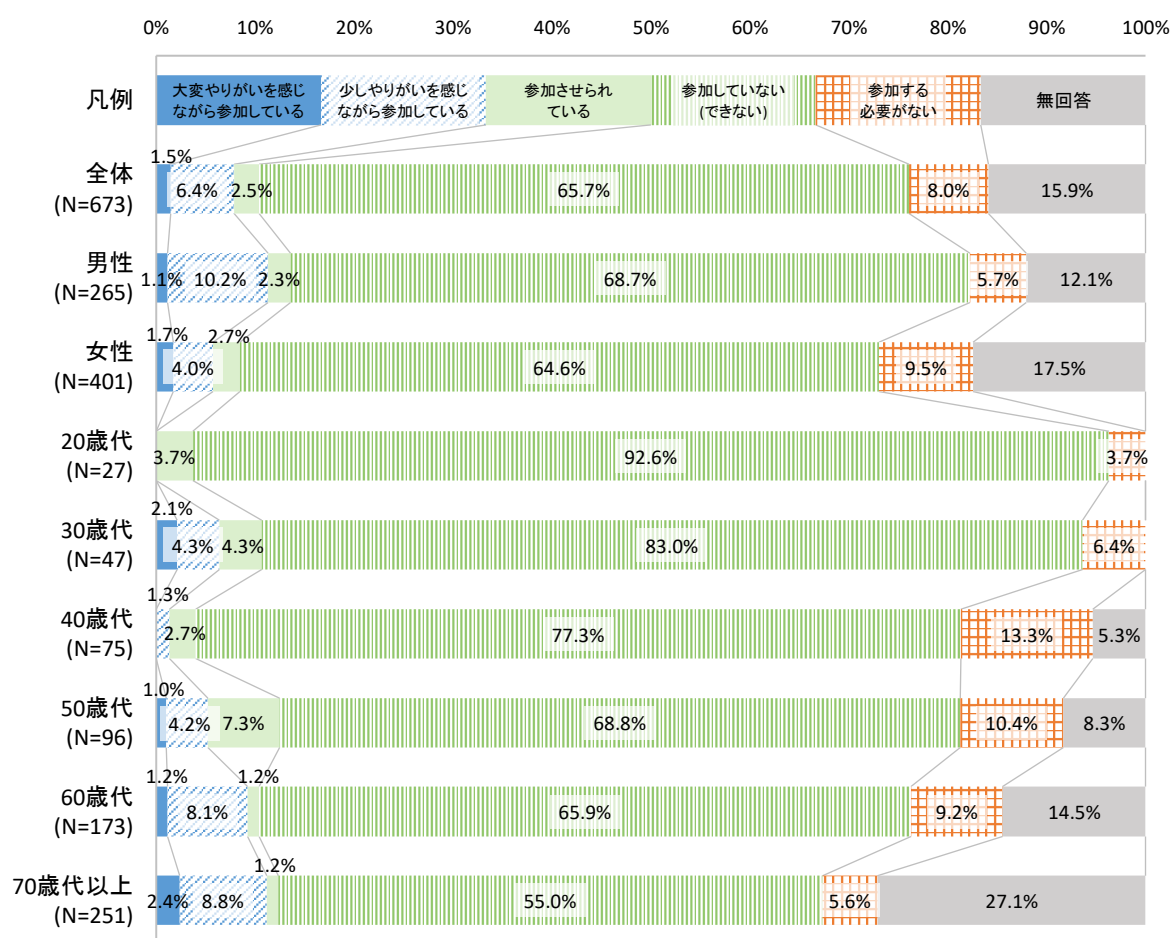


F 消費者運動、環境保護運動などの住民運動

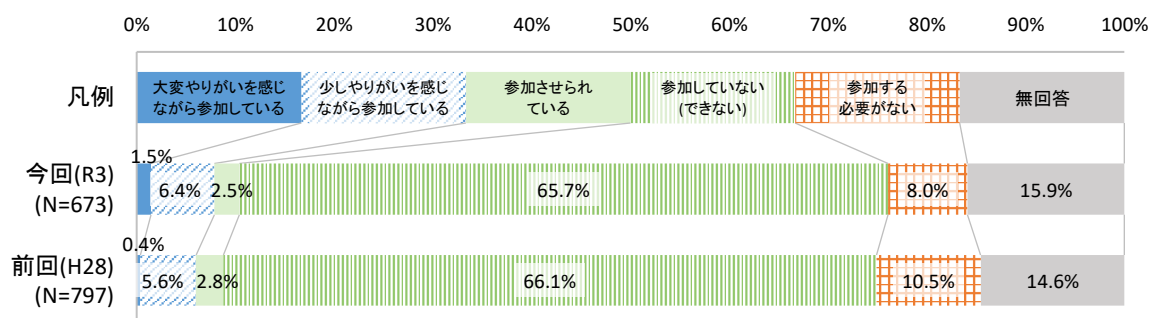
消費者運動、環境保護運動などの住民運動については、「参加していない(できない)」が65.7%で最も多く、次いで「参加する必要がある」が8.0%、「少しやりがいを感じながら参加している」が6.4%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、男性では女性より5.6ポイント高くなっている。年代別でみると、70歳代以上では11.2%と最も多く、その他の年代では1割以下となっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

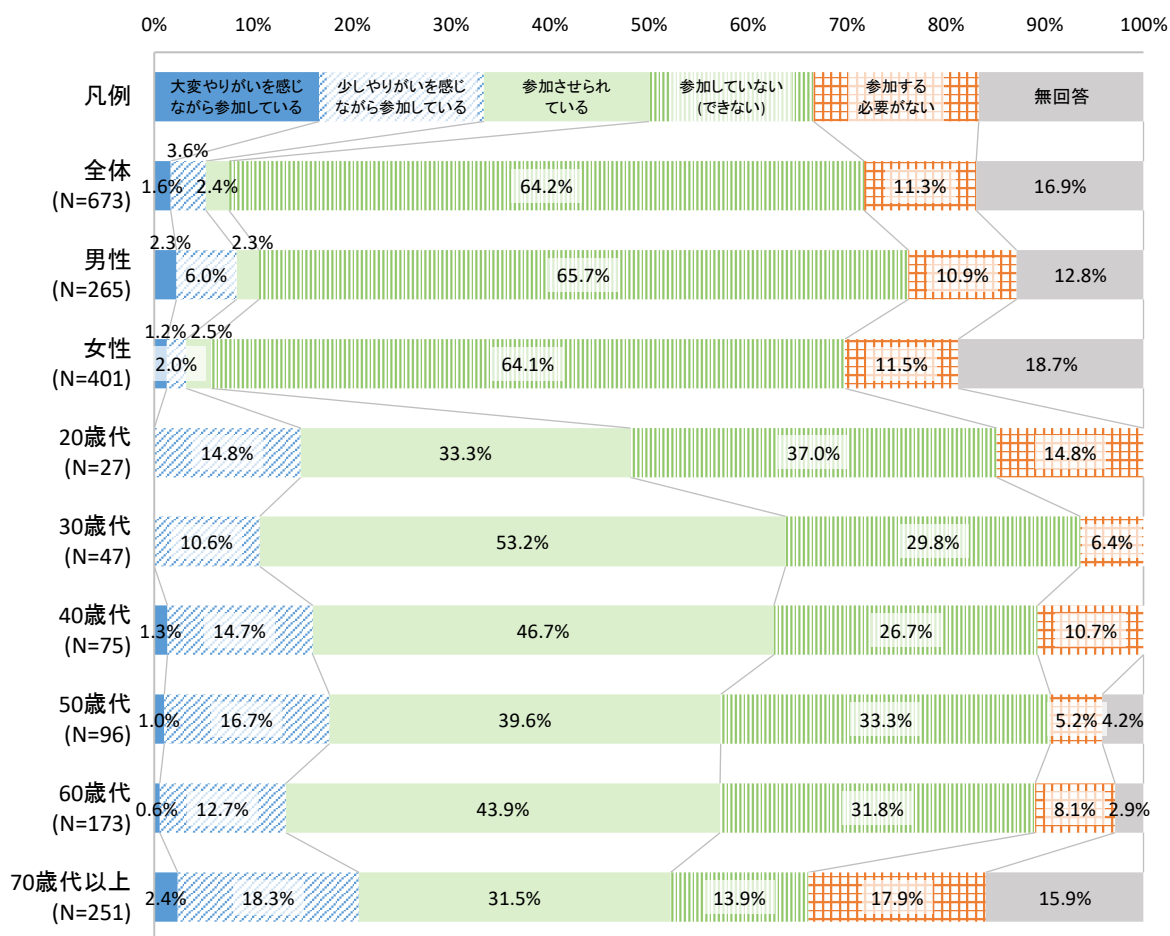


G 民生委員などの公的な委員活動

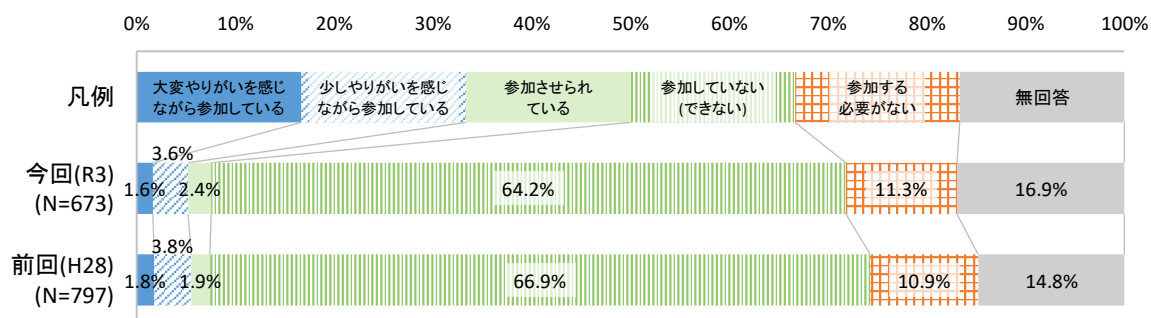
民生委員などの公的な委員活動については、「参加していない(できない)」が64.2%で最も多く、次いで「参加する必要がある」が11.3%、「少しやりがいを感じながら参加している」が3.6%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、男性では女性より5.1ポイント高くなっている。年代別でみると、40～50歳代、70歳代以上では約2割と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

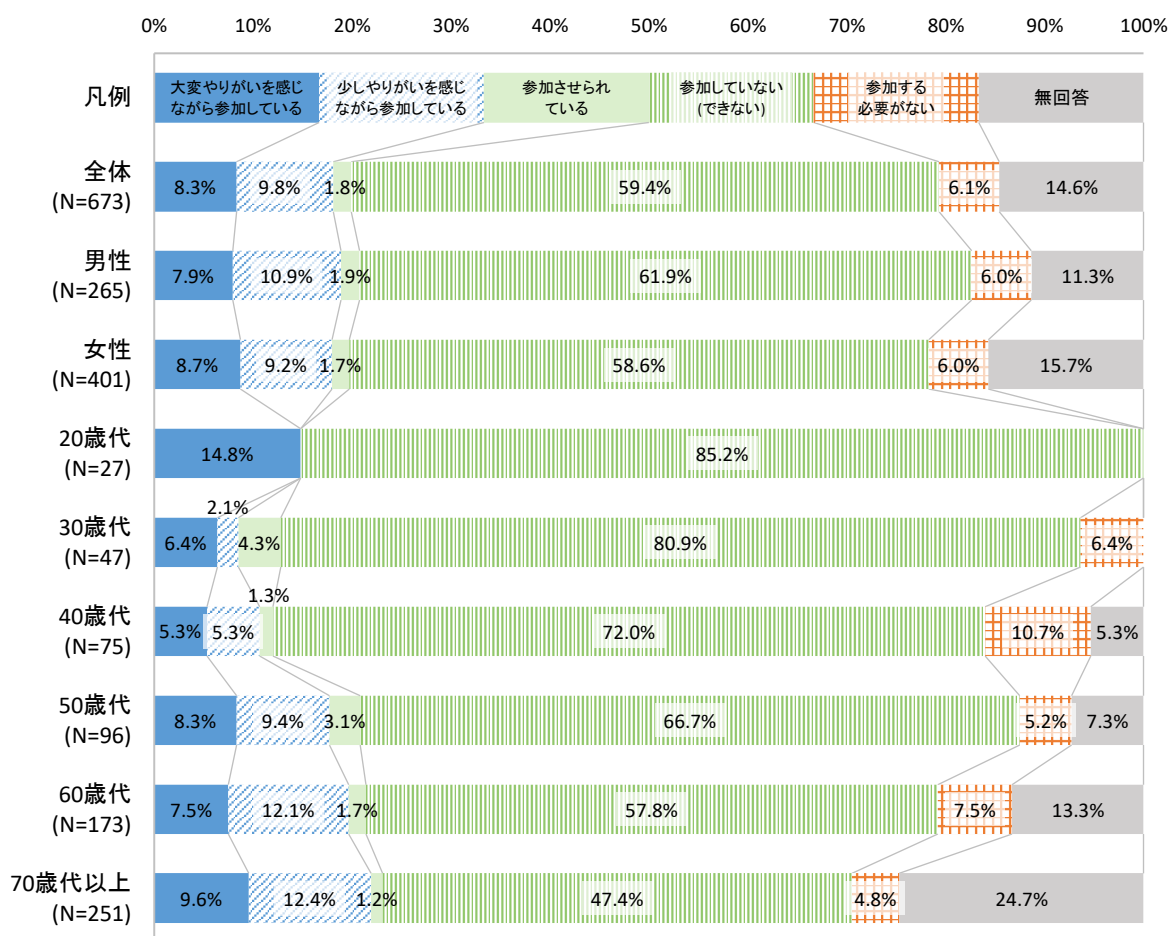


H 生涯学習講座や趣味の活動

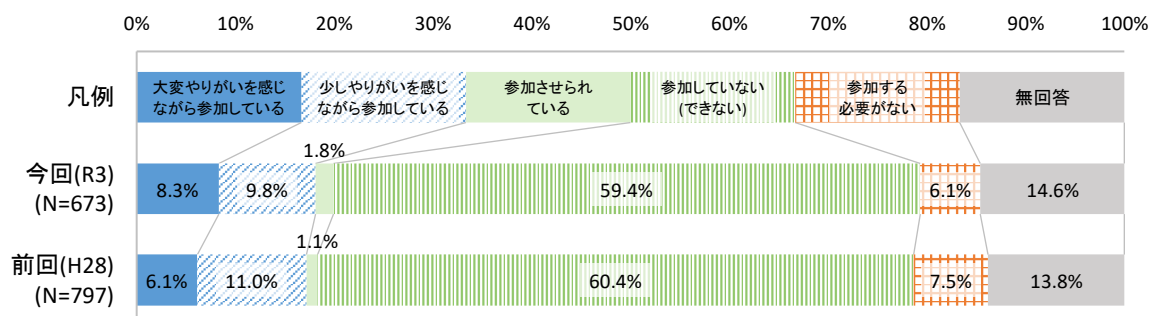
生涯学習講座や趣味の活動については、「参加していない(できない)」が59.4%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が9.8%、「大変やりがいを感じながら参加している」が8.3%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、大きな差異はみられない。年代別でみると、30歳代以降高齢になるにつれて占める割合が高くなっている傾向がみられる。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

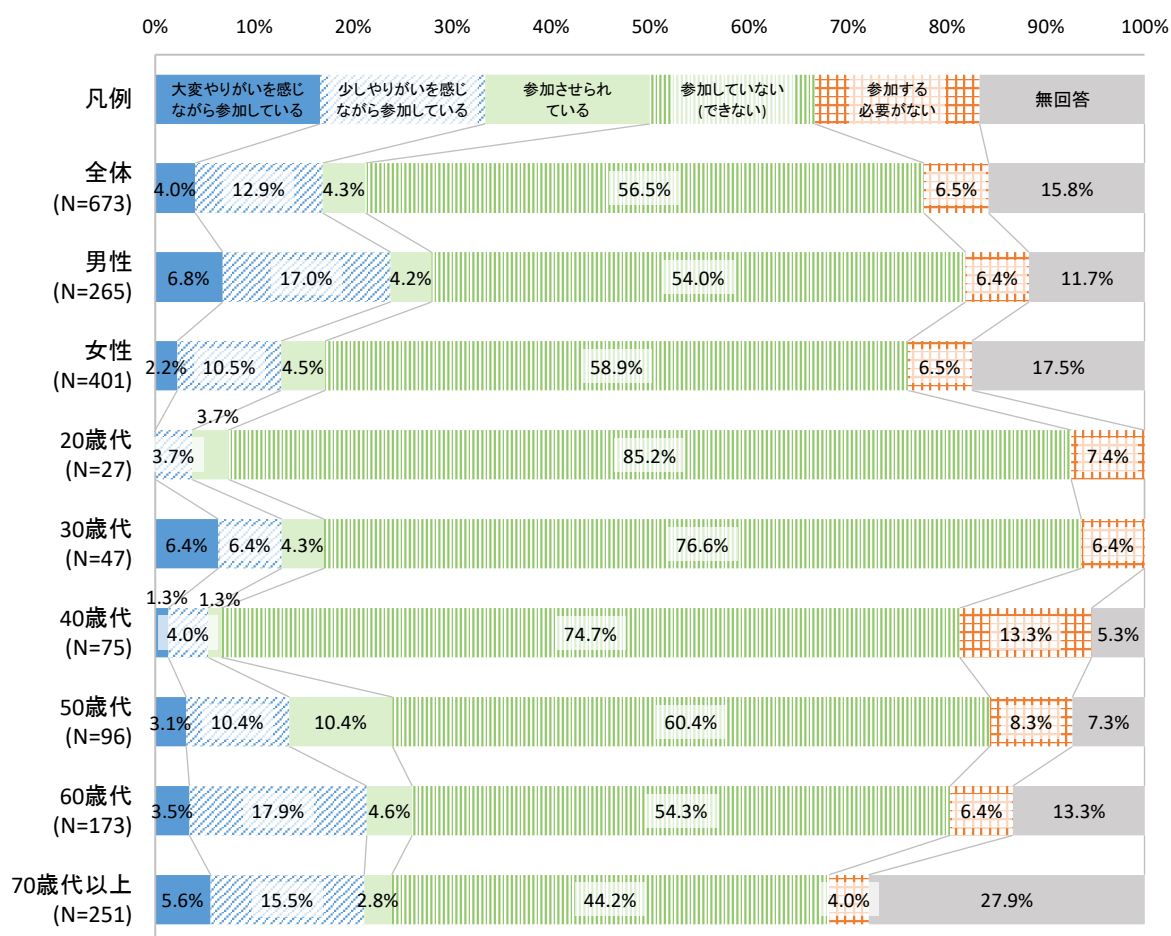


I その他の地域活動

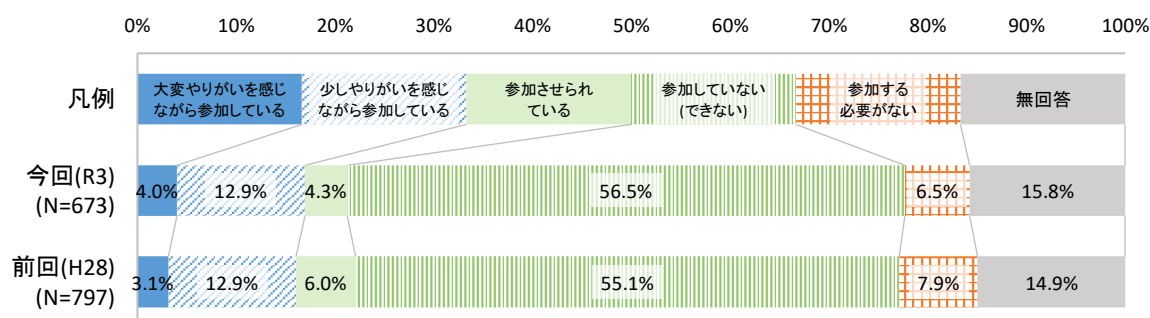
その他の地域活動については、「参加していない(できない)」が56.5%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が12.9%、「参加する必要がない」が6.5%となっている。

『やりがいを感じながら参加している』（2項目合計）について性別でみると、男性が女性より11.1ポイント高くなっている。年代別でみると、60歳代以上では2割以上と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



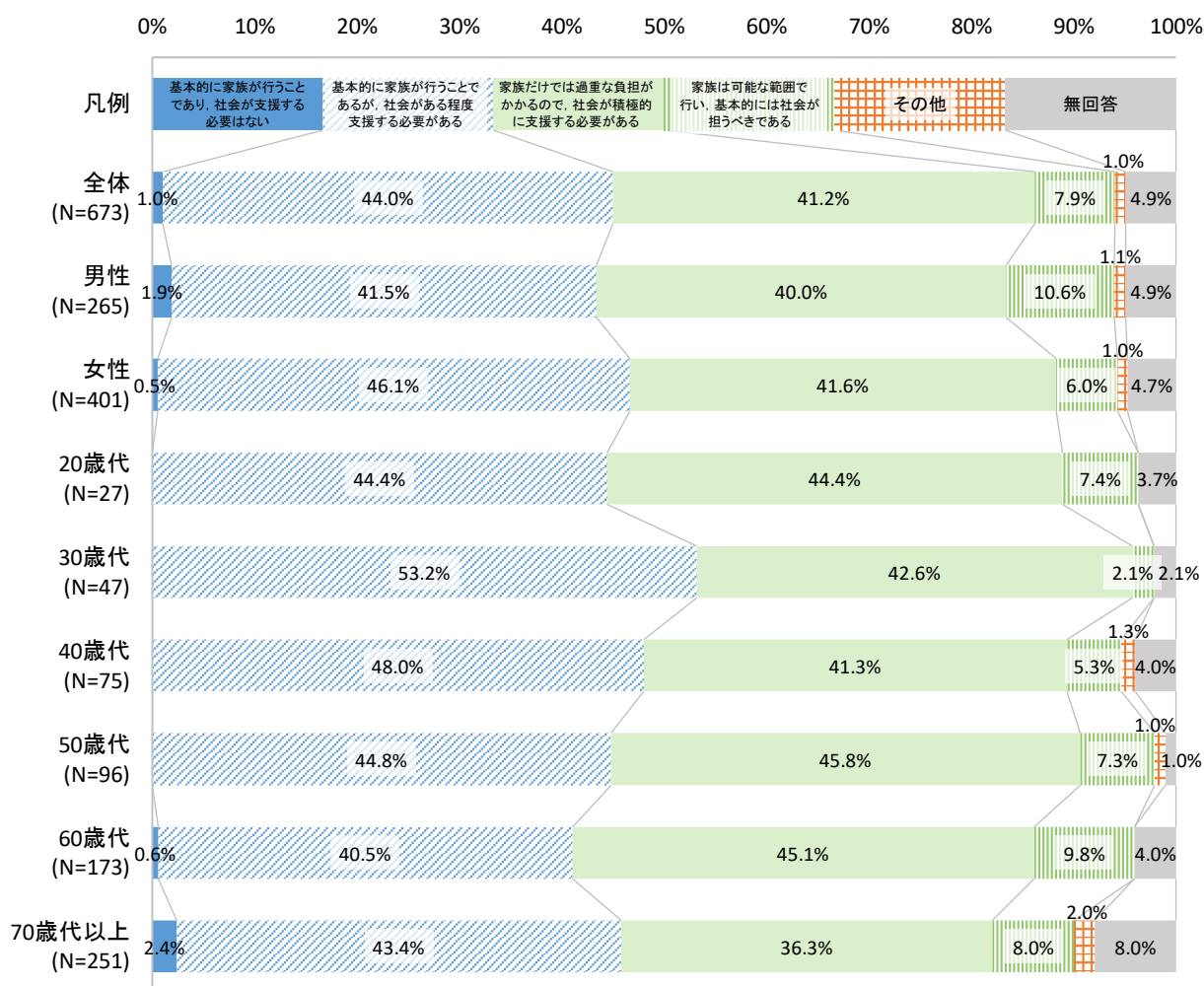
問 16 あなたは、子育てや介護に対する社会の支援について、どのようにお考えですか。(〇は1つだけ)

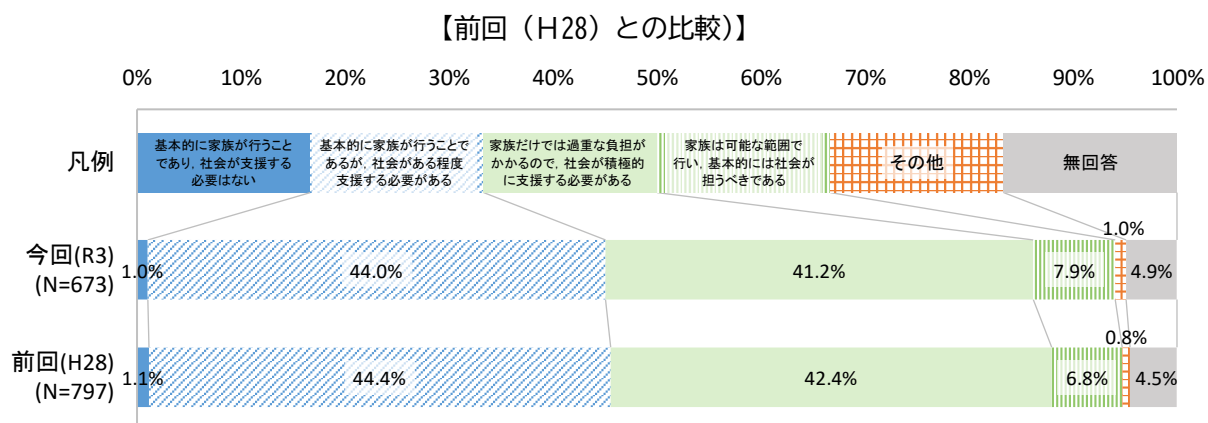
子育てや介護に対する社会の支援については、「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」が44.0%で最も多く、次いで「家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある」が41.2, 「家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである」が7.9%となっている。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、30歳代では「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」が半数以上と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。





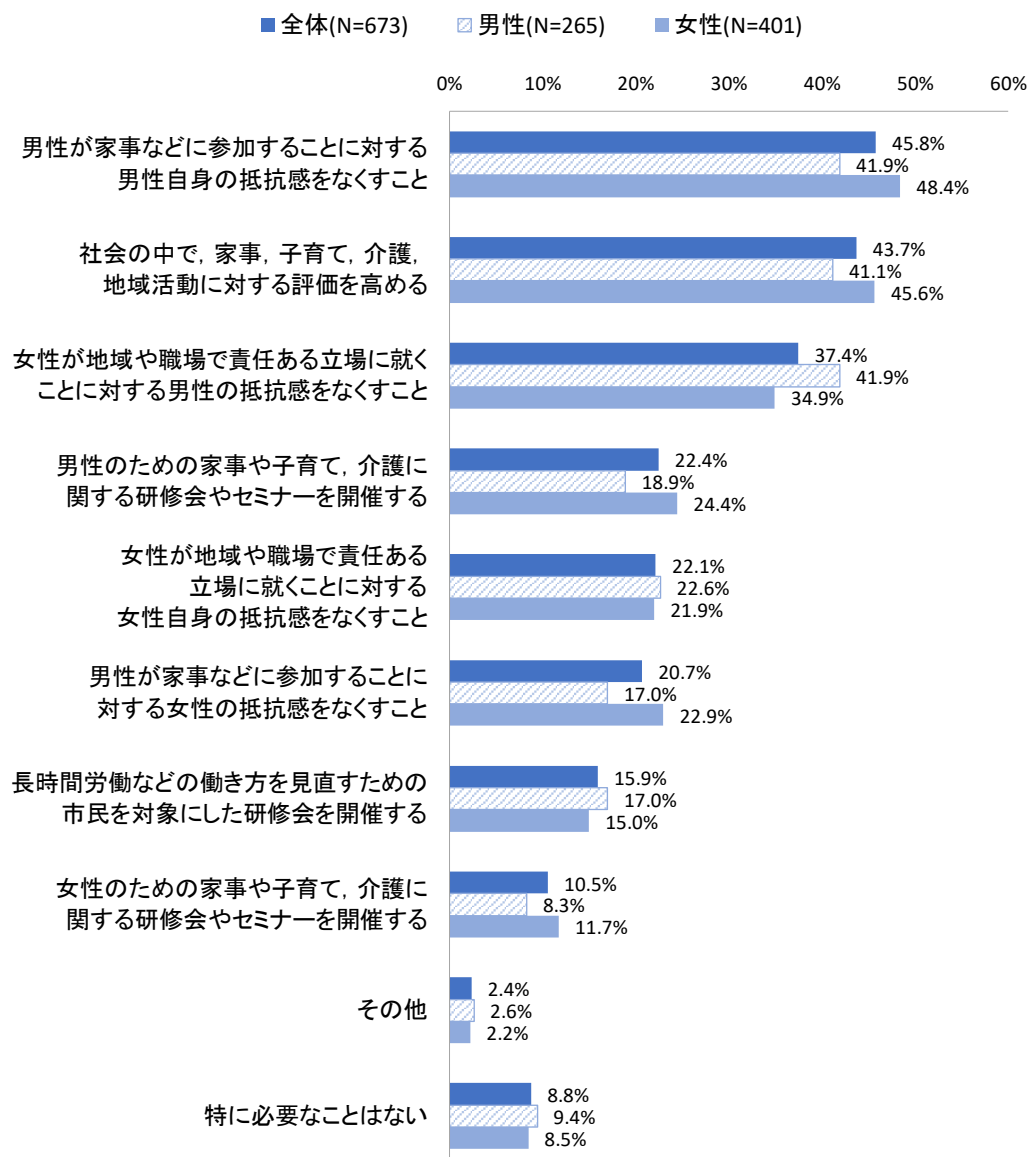
その他回答
奉仕活動を行う理性を育てる
わからない
どうにもならない時だけ②に頼みたい
病気でできません
介護する人がいない
支援制度の手続きが家族であっても同居してないと手続きが面倒

問 17 あなたは、職場や家庭、地域活動において、男女がともに責任や役割を果たすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

責任や役割を果たすために必要なことについては、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が45.8%で最も多く、次いで「社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動に対する評価を高める」が43.7%、「女性が地域や職場で責任ある立場に就くことに対する男性の抵抗感をなくすこと」が37.4%となっている。

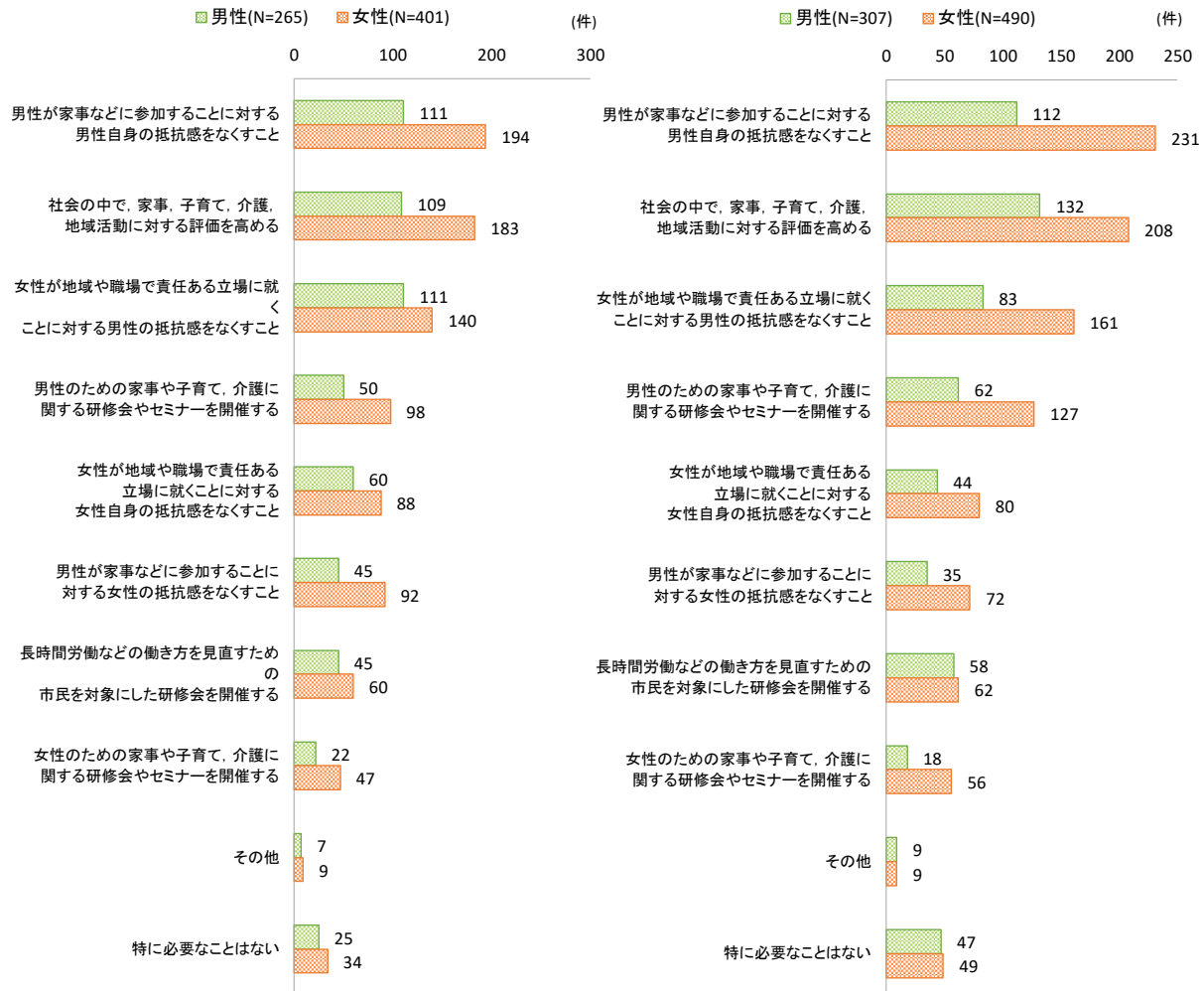
性別でみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性のための家事や子育て、介護に関する研修会やセミナーを開催する」「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」では男性より女性が、「女性が地域や職場で責任ある立場に就くことに対する男性の抵抗感をなくすこと」では女性より男性が、それぞれ5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



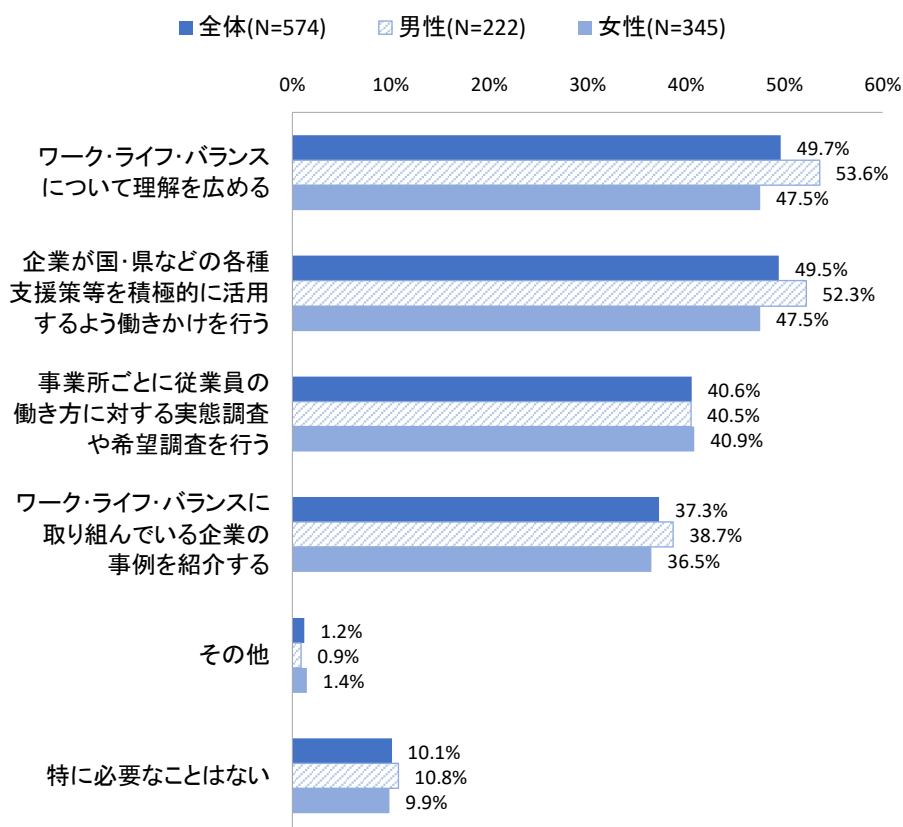
その他回答
地域活動を減らす
市職員の女性、管理職をもっと増やすこと
女性が表に立つ事に対して、女性が反対する風土をなくすこと
男女問わず仕事をしながら、家事や地域活動をしやすい環境をつくる事が重要
男女平等であるという意識を一人一人がもつ
女性の敵は女性の時が多し
ひとりひとりが社会の流れを理解することが必要だと思います
根本的な考え方（昔ながらの）を変えなくては、祖父母・家庭内から学校教育・政治家等への基本的な考え方が変わらなければ変わらない
子供たちが健康的に遊べる場所が少なすぎる、子供を産み育てる為に最も優しい地域に
男性、女性と別と考えている限り無くならない
会社の考え方、会社の協力も必要では
男性の料理教室
市民・企業に対し発信することはもちろん、行政側がどのように支援するか形成を先に行うべき
それぞれの立場でお互いに敬う気持ちが必要で、男女という時点の現在が変わる必要があると思う
女性は子を産むことで、十分に社会に貢献している
子を産み育てること以上の仕事は、この世に存在しない
そういう意味で、もともと男女は不平等であり、平等にはならない
女性の方が男より上位の立場にあるような気がする
職場や地域社会において男女が共に声を上げやすい風土づくり

問 18 あなたは、社会の中で仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるためにどのような取り組みをする必要があると思いますか。（〇は3つまで）

必要な取り組みについては、「ワーク・ライフ・バランスについて理解を広める」が49.7%で最も多く、次いで「企業が国・県などの各種支援策等を積極的に活用するよう働きかけを行う」が49.5%、「事業所ごとに従業員の働き方に対する実態調査や希望調査を行う」が40.6%となっている。

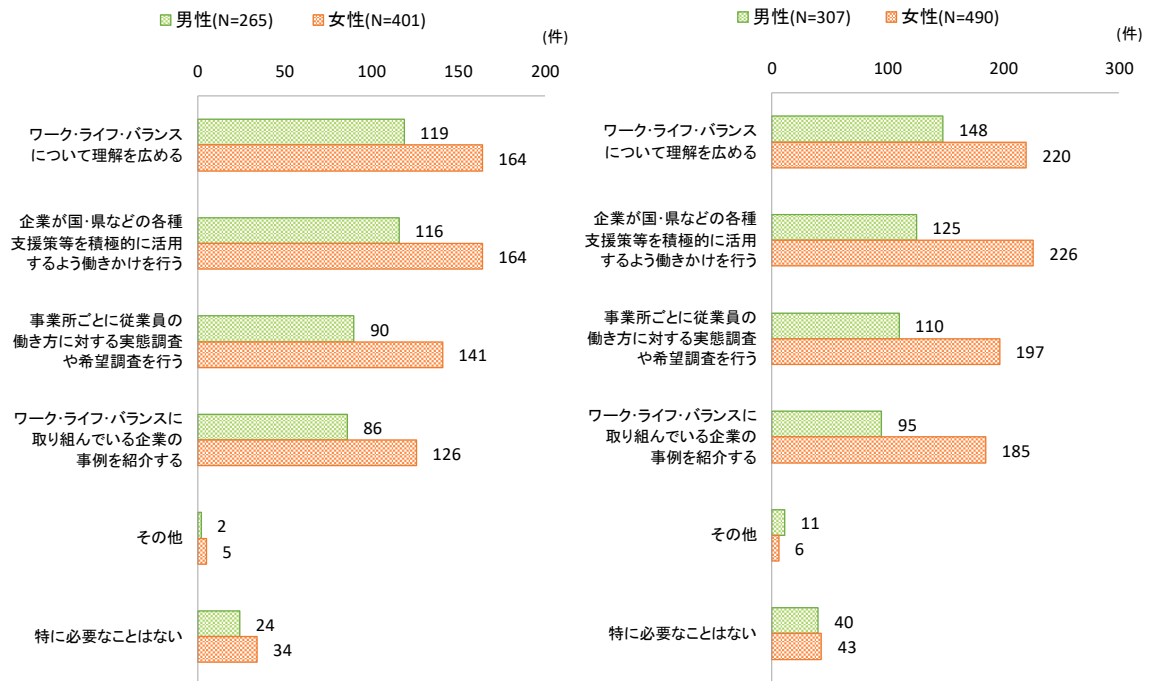
性別でみると、「ワーク・ライフ・バランスについて理解を広める」では女性より男性が、6.1ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



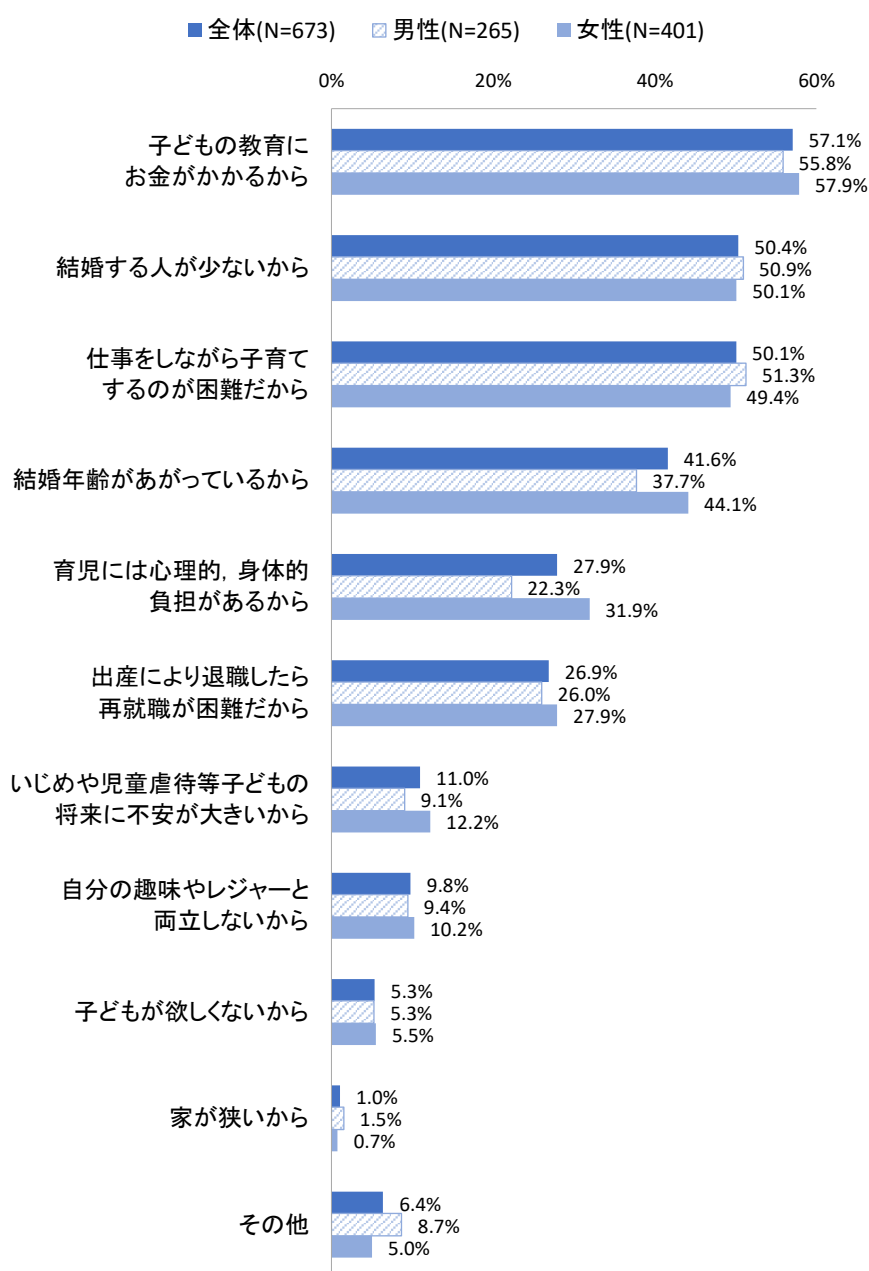
その他回答
ワークライフバランスにプッシュする
国内だけでなく海外の事例も紹介する
女性自身もっと上を向いた方が良いかも
子育て、仕事の割合を、男女どちらもバランスよくしていける社会や職場の仕組みづくり
各家庭により色々な事情があるので、「世の中がこうだから」と決めない方がよい
残業させない（男女とも）
大企業は変えられるが、末端まで行き届くような事が必要

問 19 少子化がわが国の深刻な問題となっていますが、その理由は何だと思えますか。
(いくつでも)

少子化の理由については、「子どもの教育にお金がかかるから」が 57.1%で最も多く、次いで「結婚する人が少ないから」が 50.4%、「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が 50.1%となっている。

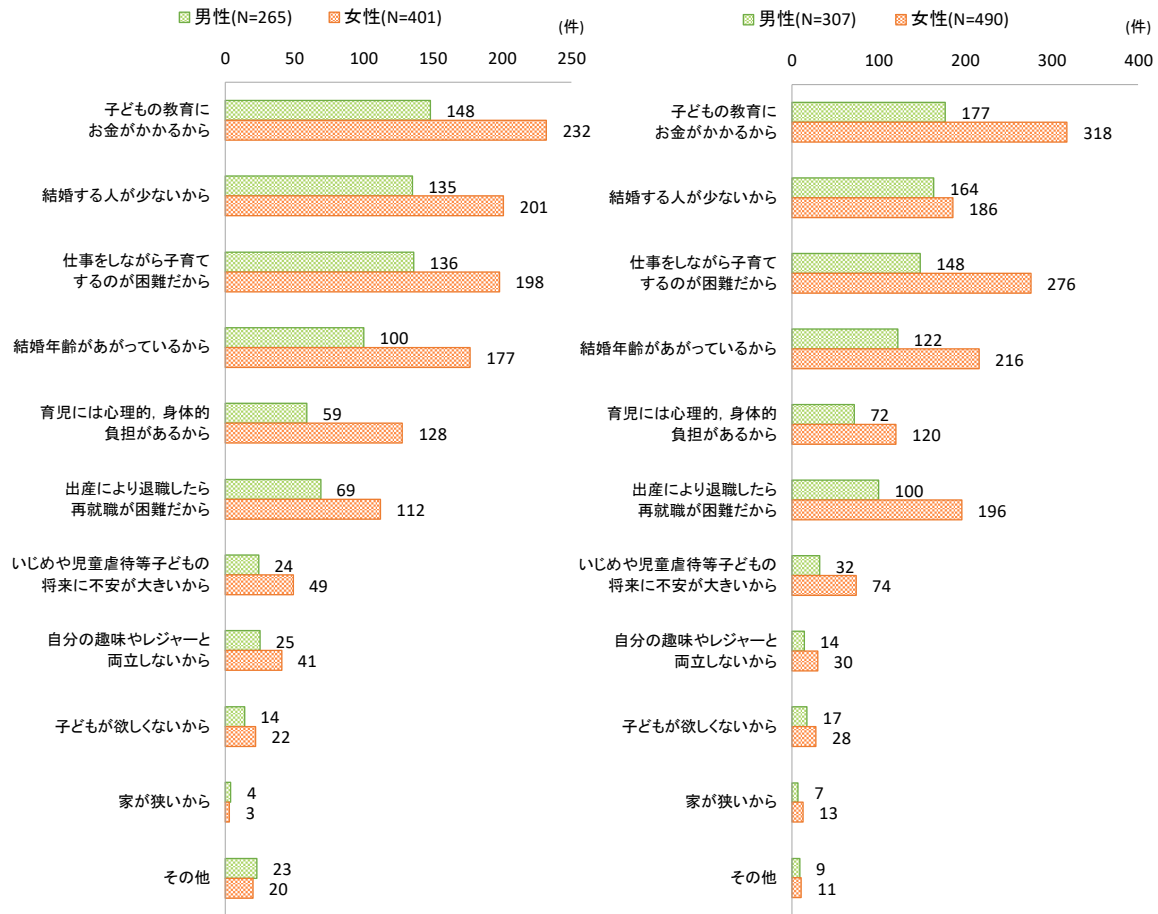
性別で見ると、「結婚年齢があがっているから」「育児には心理的、身体的負担があるから」では男性より女性が、5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、女性で「結婚する人が少ないから」が上位となっている。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



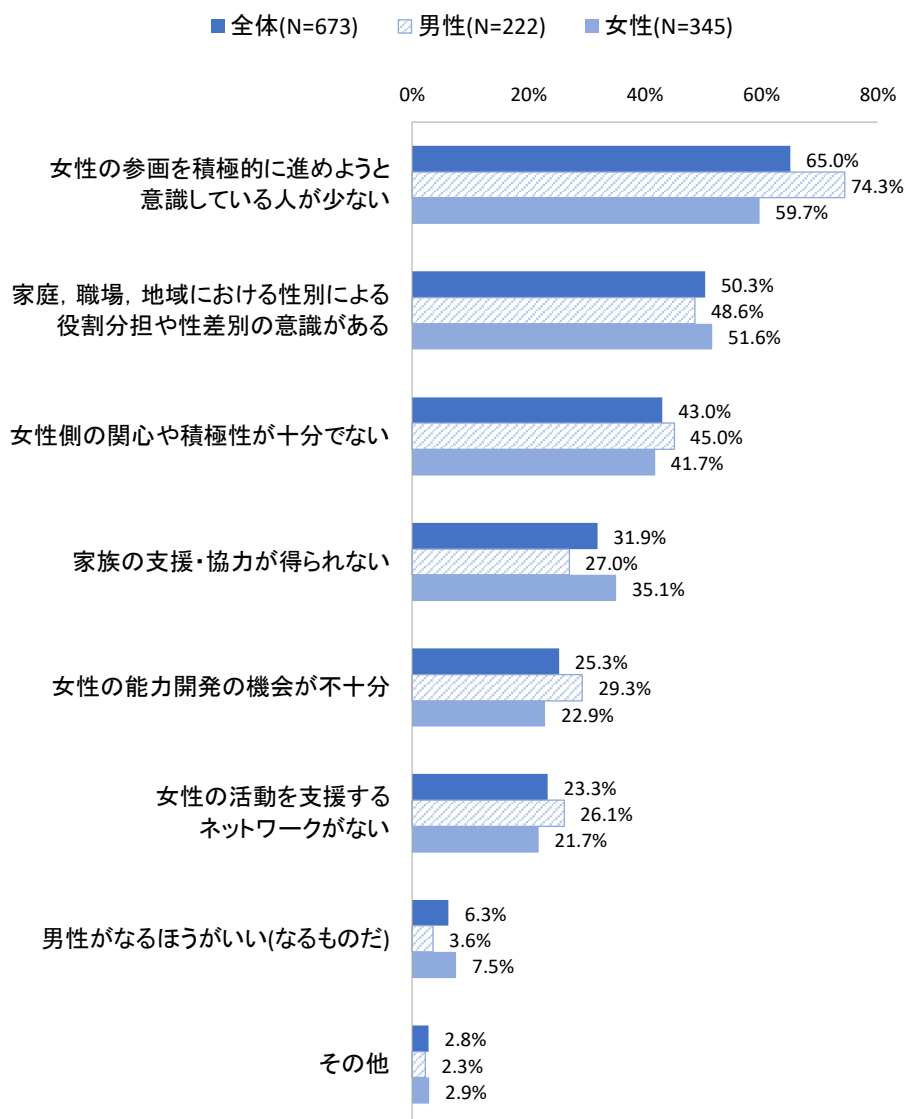
その他回答	
収入が少ないから（3）	職場環境
奨学金の返済等自分の生活でいっぱい	女性が男性より経済力が上がっている
結婚できない	特に地方が多いのでは
個々人が自分の生き方を大切にしたいから、結婚したくないから	結婚にこだわらず、自己で好きな事を楽しむ世代が増えている
時間とお金を自分だけの為にしか使いたくないのでは	企業・行政の対応力が不十分、社会的弱者に対し不親切
不況で賃金は下がり、物価は上がる、子育ては厳しい	AIが発達して多くの人間が必要なくなるから
結婚して子供を育てることが漠然としていて不安、教育を受けていない	1～10に加え、長時間労働等により少子化が進み、その少子化世代が現在出産できる年代だから
女性が独身を楽しんでいるから結婚が遅れる	不妊
高齢者でよくわからない	学童保育の充実
年金の事、将来に対する不安が大きすぎる	職がない、経済力がない
男性の職場が無いし、あっても給料が安いから	低賃金、年金など将来に対する不安
産後のケアがなさすぎ（自分達だけでは無理がある）	待機児童問題、経済的な問題
出産後のケアに社会が協力すべき（とっても大変）	国の政策
安心して出産できる社会じゃないから	社会保障への不安
1人の方が人生楽だから	夫からの子育ての協力が得られないから
国が会社任せにしている	結婚イコール出産ではない
国がそれぞれの会社状況を確認できているのか	個人の生き方の選択もある気がする
賃金安く重労働	収入のバランスがまばらだから
個々の収入、環境によって子供の生活レベルが格段の差が出るので、国が子供を大切に思うなら親に支援するより子供本人に手厚く支援するようにする（お金だけでなくインフラ（子供の）も整えるなど）	共働き家庭が増えてきているのに女性のほうが家事、育児など負担することが多い（全ての男性ではないが、割合は多い）等の男女差別がまだ残っている、また子供（男女どちらも）に対する性犯罪が年々増えている
子供3人産んだら、働かなくても生活できるくらいの給付金の拡充が必要（1人月5万の給付を求める）	保育園の受け入れや、病理保育などが整っていないなど課題を感じる所があるため
子供を授からなかった夫婦もいます	結婚して親がそれなりの賛成をしようと思うから
教育・就職に対しての貧富の差があり将来（子供たち）の不安が大きいから	経済的負担、ひとり親、子育て支援が手薄く、裕福な家庭が子供を多く育てられない、景気が悪いから
今後老年人口が増える事を鑑みると、自分の子供にその負担を掛けたくない、と考える若い世帯が増えているのではないかな	
将来の生活に希望が見いだせない社会となっている	

問 20 一般的に、政策決定の場や自治組織等の方針決定の場への女性の参画が少ないようですが、それはなぜだと思いますか。(いくつでも)

女性の参画が少ない理由については、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が 65.0%で最も多く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」が 50.3%、「女性側の関心や積極性が十分でない」が 43.0%となっている。

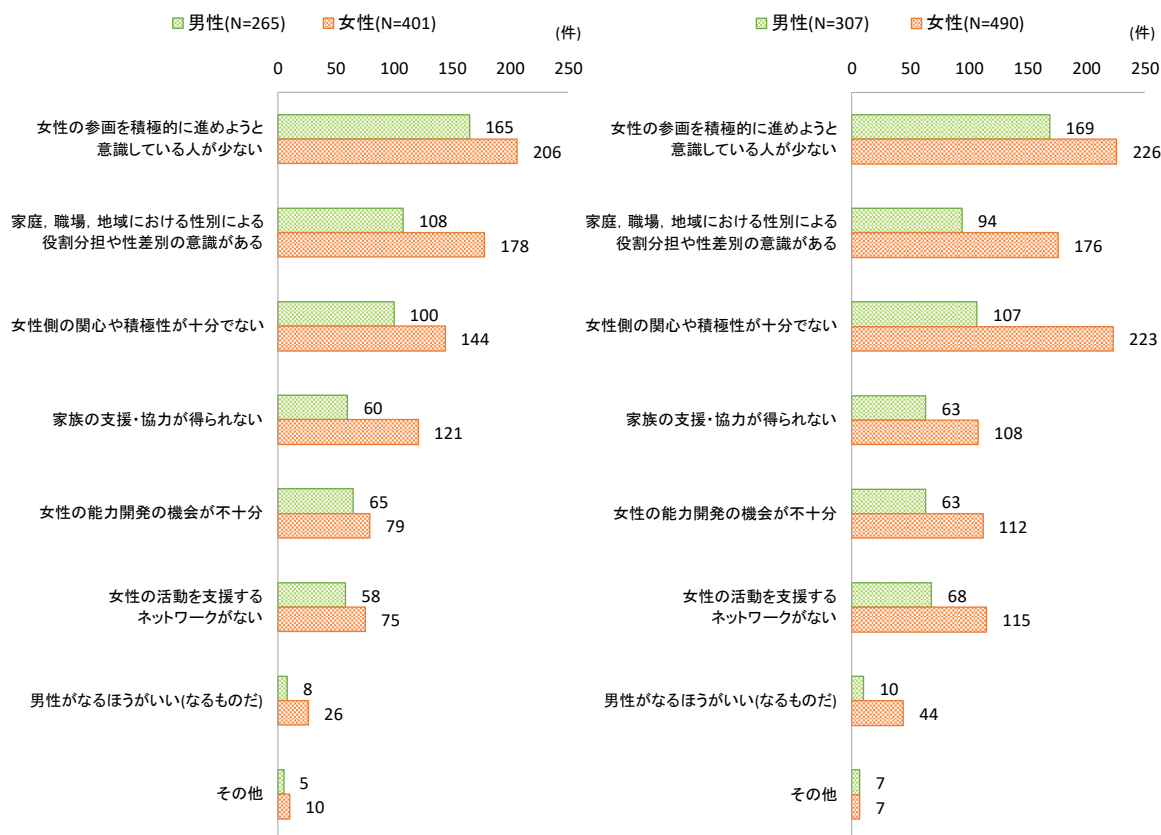
性別でみると、「家族の支援・協力が得られない」では男性より女性が、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」「女性の能力開発の機会が不十分」では女性より男性が、それぞれ5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、女性では「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」「家族の支援・協力が得られない」が上位となっている。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



その他回答
分からない（2）
仕事に追われるから
女性が男性に押し付けている所あり
家で子供を見る人がいないから
女性が男性からの妬みを恐れている、能力のある女性は多いのになあ
高齢者の方が多いのではないのでしょうか
関係ない
努力して成功した例は全国に数多くある、本人次第
家庭との両立が難しいと思う
それぞれの家庭が参画できる環境になっているのか
自分は自信がないから
特になし
年を重ねた人にまだ男尊女卑の考えがあるから
女性の必要性を訴えるようなアナウンスが不足しているので、必要性を感じづらいところがある

就労について

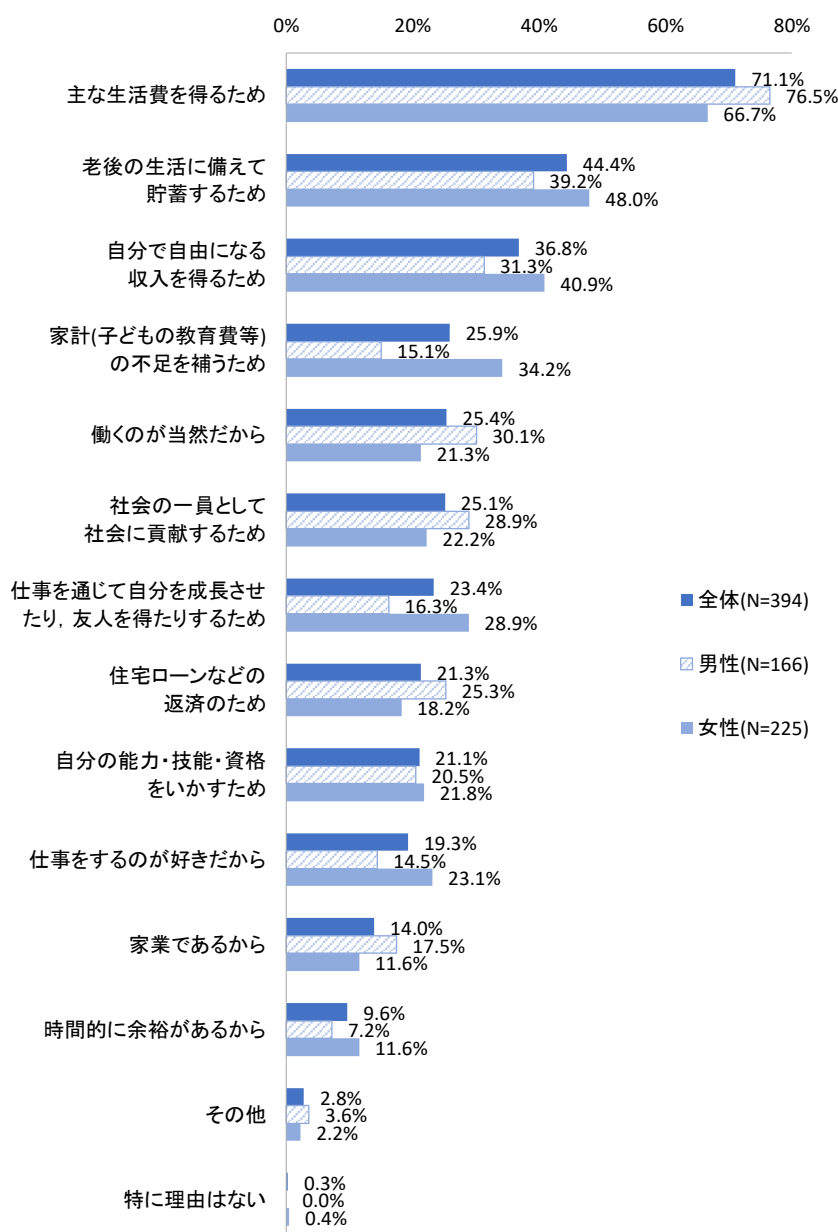
【問 21】から【問 24】は、ふだん収入になる仕事（1 年間に 30 日以上）をしている方におたずねします。

問 21 あなたが、現在仕事をしているのは、どのような理由からですか。（いくつでも）

現在仕事をしている理由については、「主な生活費を得るため」が 71.1%で最も多く、次いで「老後の生活に備えて貯蓄するため」が 44.4%、「自分で自由になる収入を得るため」が 36.8%となっている。

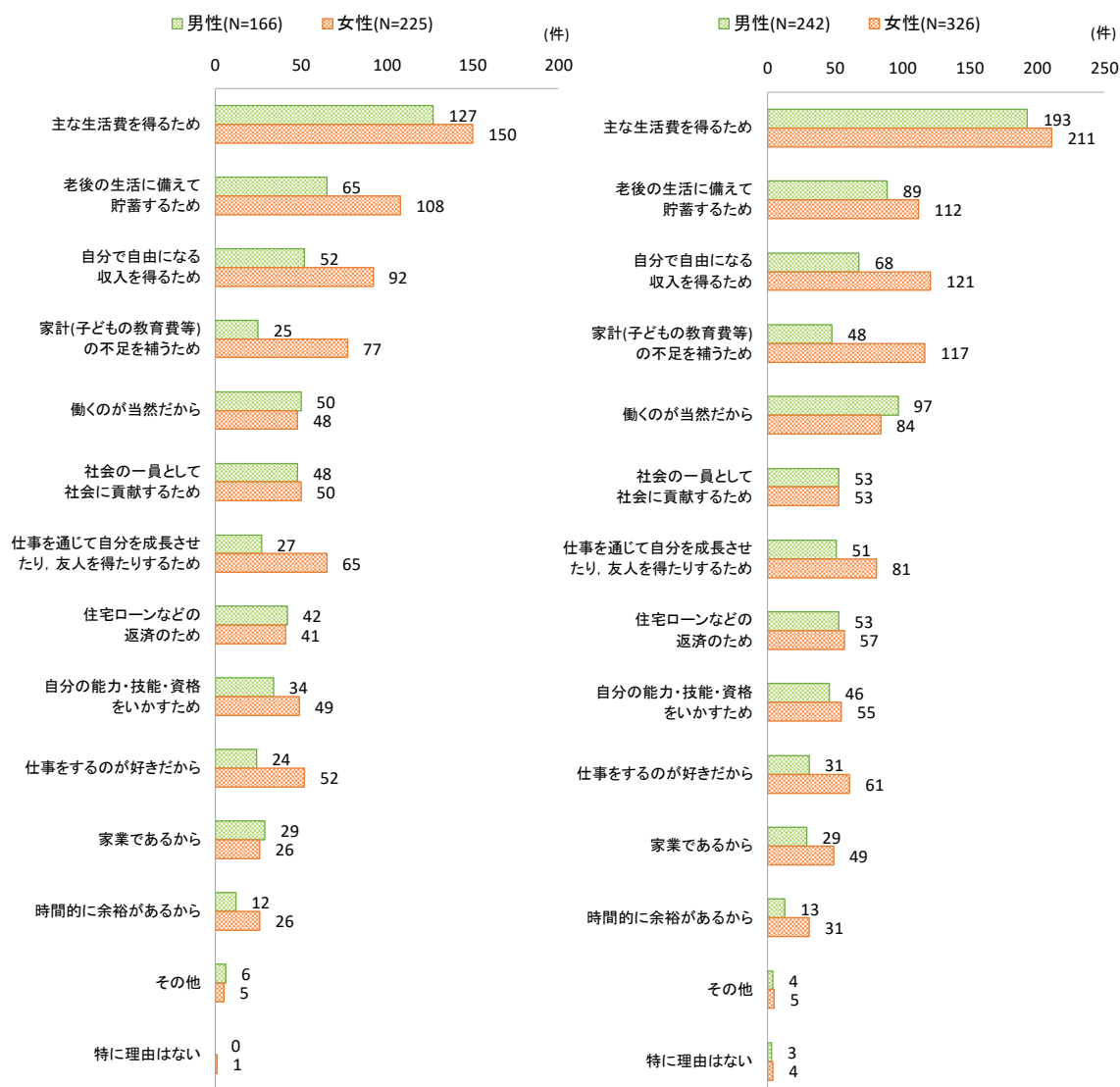
性別でみると、「家計（子どもの教育費等）の不足を補うため」「仕事を通じて自分を成長させたり友人を得たりするため」では男性より女性が、10 ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、男女共に「老後の生活に備えて貯蓄するため」が上位となっている。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



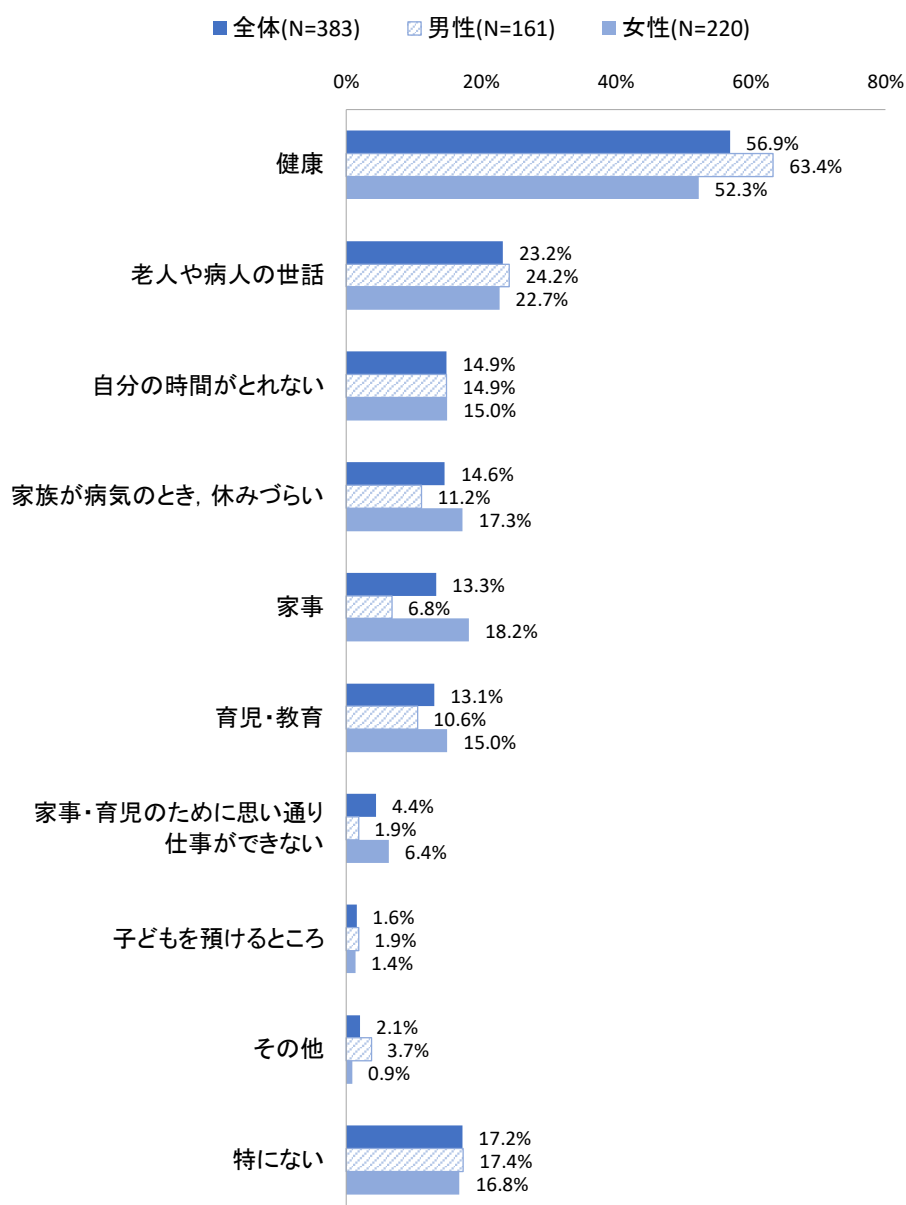
その他回答
趣味が仕事で収入になっている
税など支払う為
人生は一度だけなので、チャレンジ
子や孫に多少なり手助けしたい
奨学金返済のため
1人の時間がほしい
自分でできることをしている
体力に注意するため
少しでも力になりたい
色々な税金支払いがあるから
事業拡大を成し得たいから

問 22 あなたが現在働いている中で、気がかりなことがありますか。(〇は3つまで)

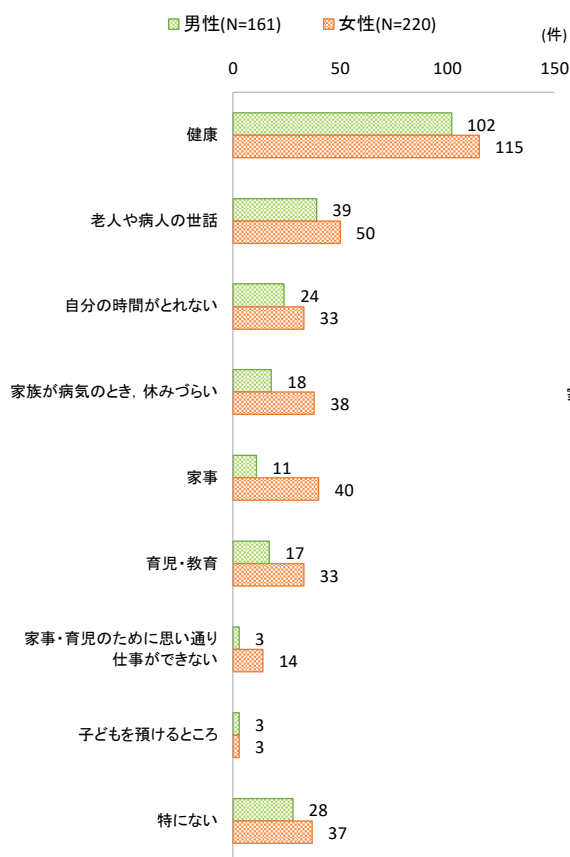
現在働いている中で、気がかりなことについては、「健康」が 56.9%で最も多く、次いで「老人や病人の世話」が 23.2%、「自分の時間がとれない」が 14.9%となっている。

性別でみると、「家事」では男性より女性が、「健康」では女性より男性が、それぞれ 10 ポイント以上高くなっている。

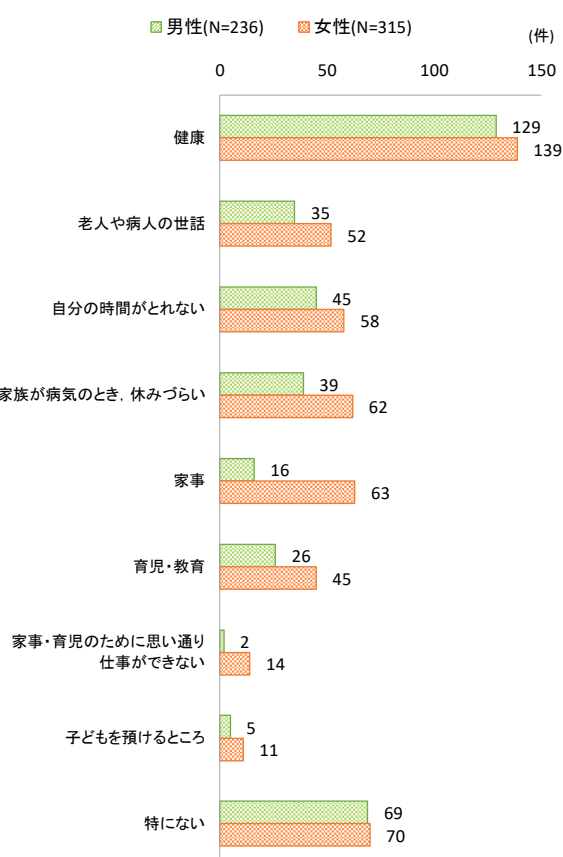
前回調査と比較すると、男女共に「老人や病人の世話」が上位となっている。



【今回（R3）】



【前回（H28）】



※「その他」は令和3年度調査から追加された項目のため、前回比較グラフでは除外しています。

その他回答
老後の生活（2）
コロナ
パワハラ
月日の経つにつれて弱っていくのが判ります
経済の先々不透明
年金受給年齢はどうなるの
若いママさんたちが子供が病気で休むのを迷惑だと本人に言った上司がいます、会社としての教育を上司が受けるべき（子供の病気は仕方がないね、早く良くなってねくらい言えないのか）

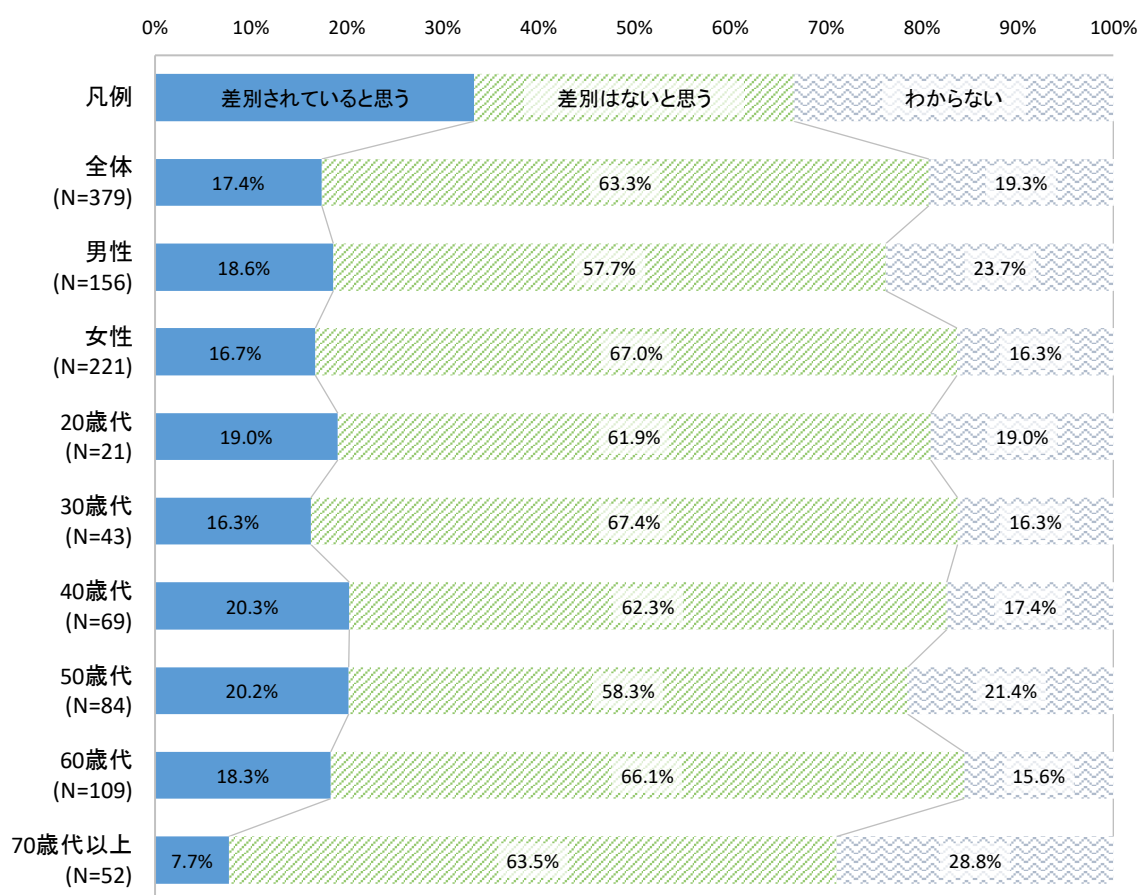
問 23 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性と男性では差別されていると思いますか。(〇は1つだけ)

職場における男女差別の有無については、「差別されていると思う」が17.4%、「差別はないと思う」が63.3%、「わからない」が19.3%となっている。

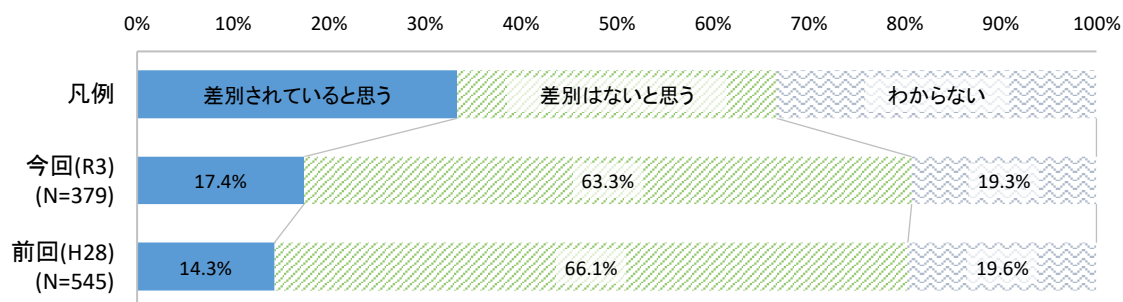
性別でみると、女性では「差別はないと思う」が男性より9.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、40～50歳代では「差別されていると思う」が2割以上と高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回 (H28) との比較】



※問 23 では集計の関係上、無回答を除外しています。

【問 23】で「1. 差別されていると思う」を選んだ方におたずねします。

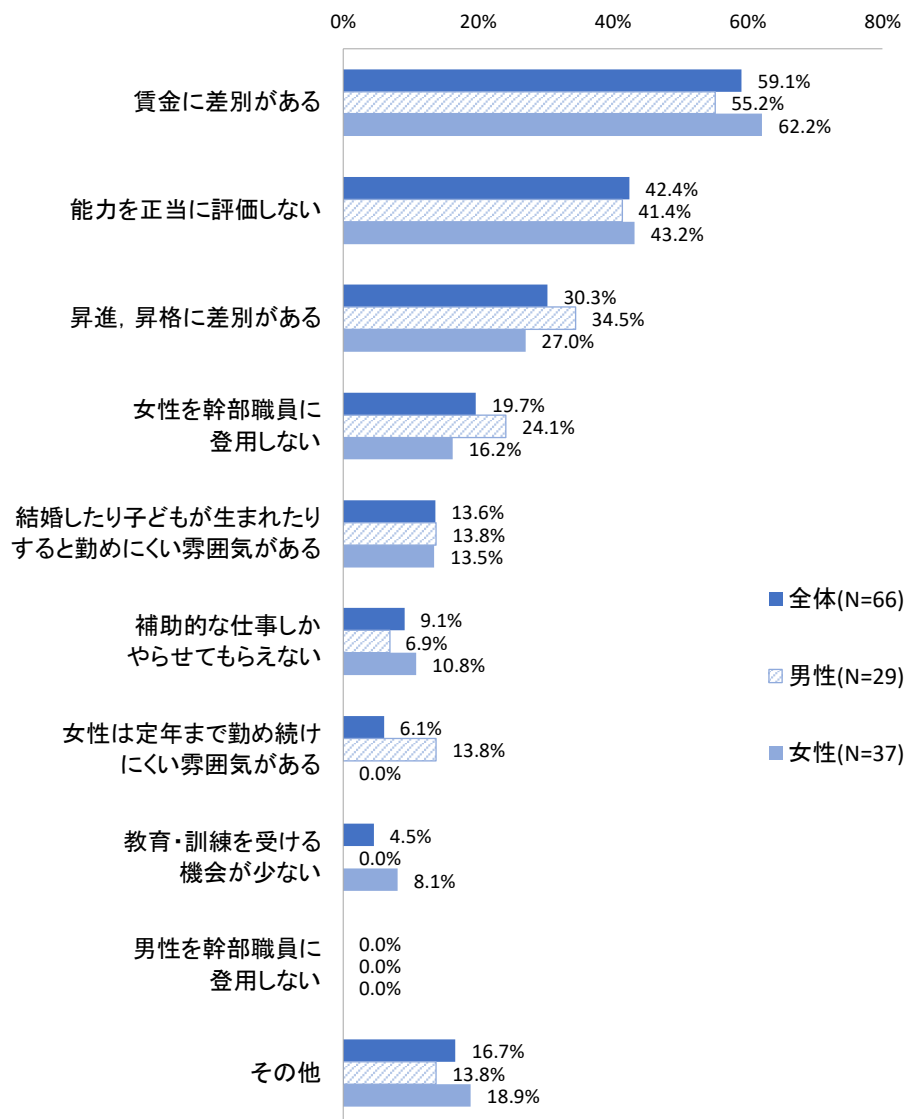
問 24 「差別されていると思う」ことは具体的にどのようなことですか。

(○は3つまで)

差別されている具体的な内容については、「賃金に差別がある」が 59.1%で最も多く、次いで「能力を正当に評価しない」が 42.4%、「昇進、昇格に差別がある」が 30.3%となっている。

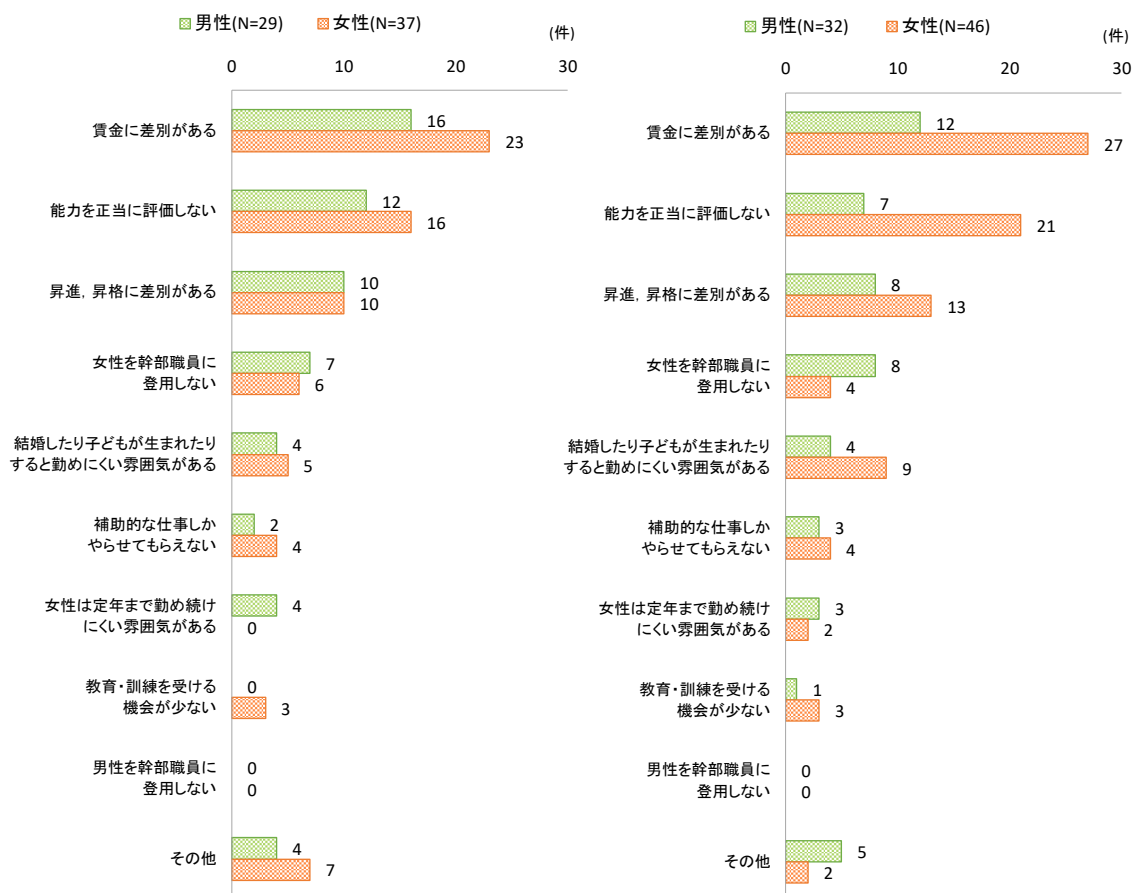
性別でみると、「賃金に差別がある」「教育・訓練を受ける機会が少ない」では男性より女性が、「昇進、昇格に差別がある」「女性を幹部職員に登用しない」「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」では女性より男性が、それぞれ5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、男性では「能力を政党に評価しない」、女性では「女性を幹部職員に登用しない」が上位となっている。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



その他回答
家庭がある女性に遅くまで仕事をさせられない
男性の育休に対して反対の雰囲気がある
男性を雇用しない部署がある（女性職員のみ構成）
上司の言葉に反論できない雰囲気がある
男性がエライという空気感
女性が会社にいない
多くの会社が事務は女性、現場は男性になっているのでは
女性ははたかたで世渡りが上手く、優遇されている
お茶汲み、電話対応など雑用を女性にだけさせる
真の男女平等とは何か定義がよくわからないので差別の定義もあいまい
女性に比べて簡単に急な休みが取りにくい

ふだん収入になる仕事をしていない方におたずねします。

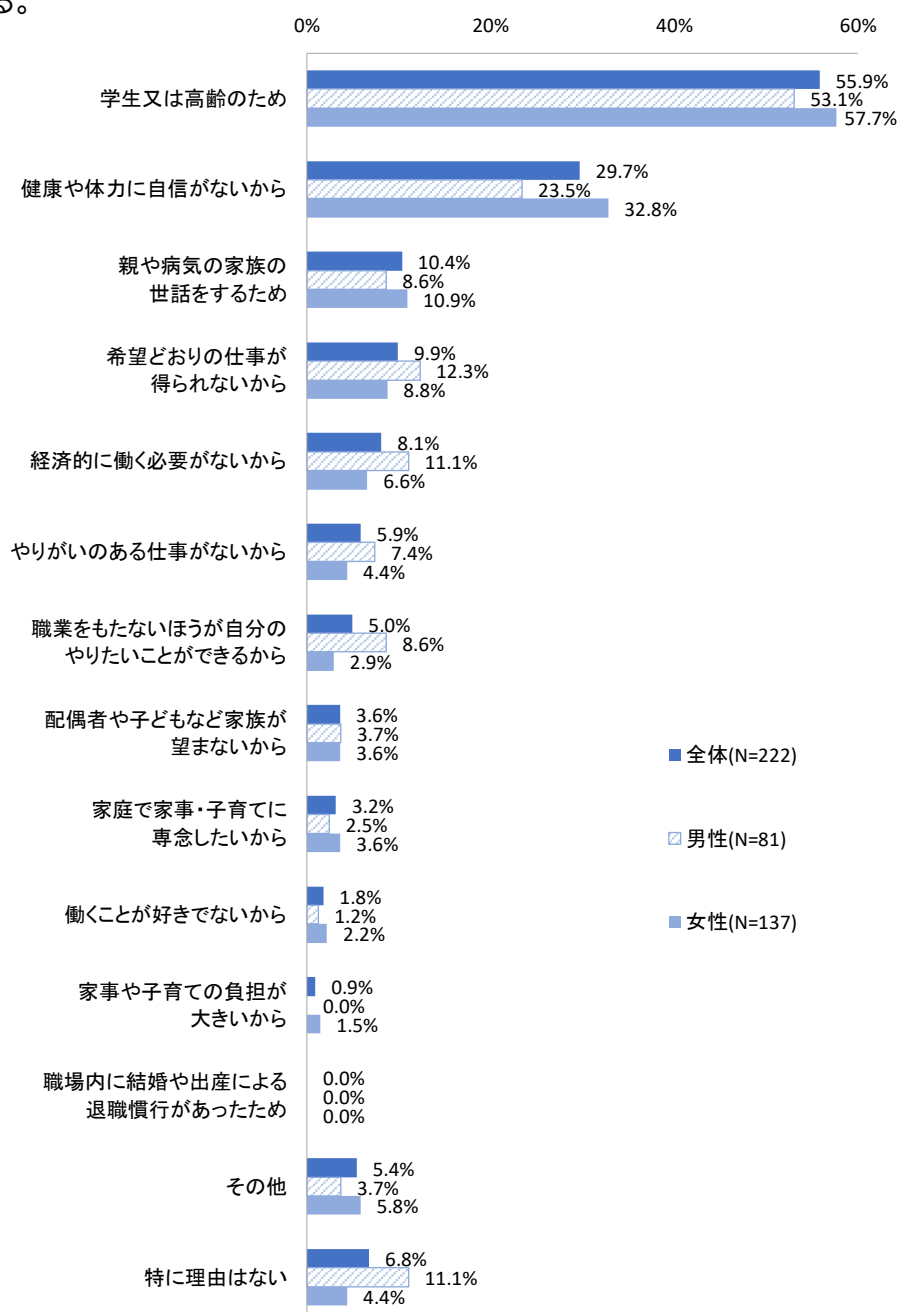
問 25 あなたが、現在、仕事をしていないのは、どのような理由からですか。

(いくつでも)

仕事をしていない理由については、「学生又は高齢のため」が 55.9%で最も多く、次いで「健康や体力に自信がないから」が 29.7%、「親や病気の家族の世話をするため」が 10.4%となっている。

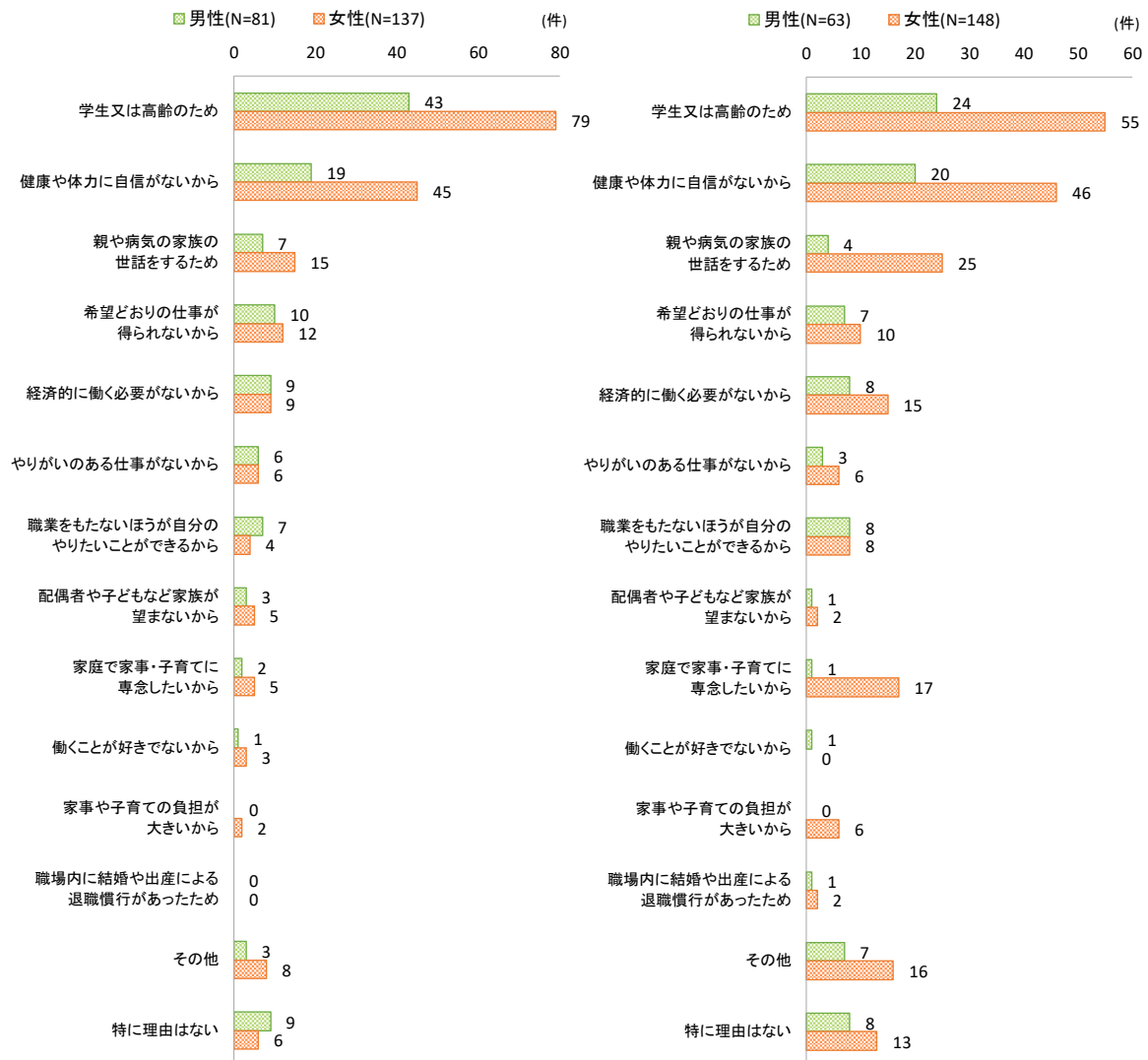
性別でみると、「健康や体力に自信がないから」では男性より女性が、「職業をもたないほうが自分のやりたいことができるから」では女性より男性が、それぞれ5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、女性では「希望どおりの仕事を得られないから」が上位となっている。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



その他回答
病気，治療のため（3）
認知症の母の介護を自宅で丸7年しています，先が見えないので，気分が落ち込みます
定年退職したため失業中
高齢者向けの職場があると良いと思います
年齢で仕事がない
県外から嫁いでいるため，子供を預けられる人がいない
孫の世話，病院
両親の世話及び，自治会ボランティアの調整
出産を機に仕事をやめたため

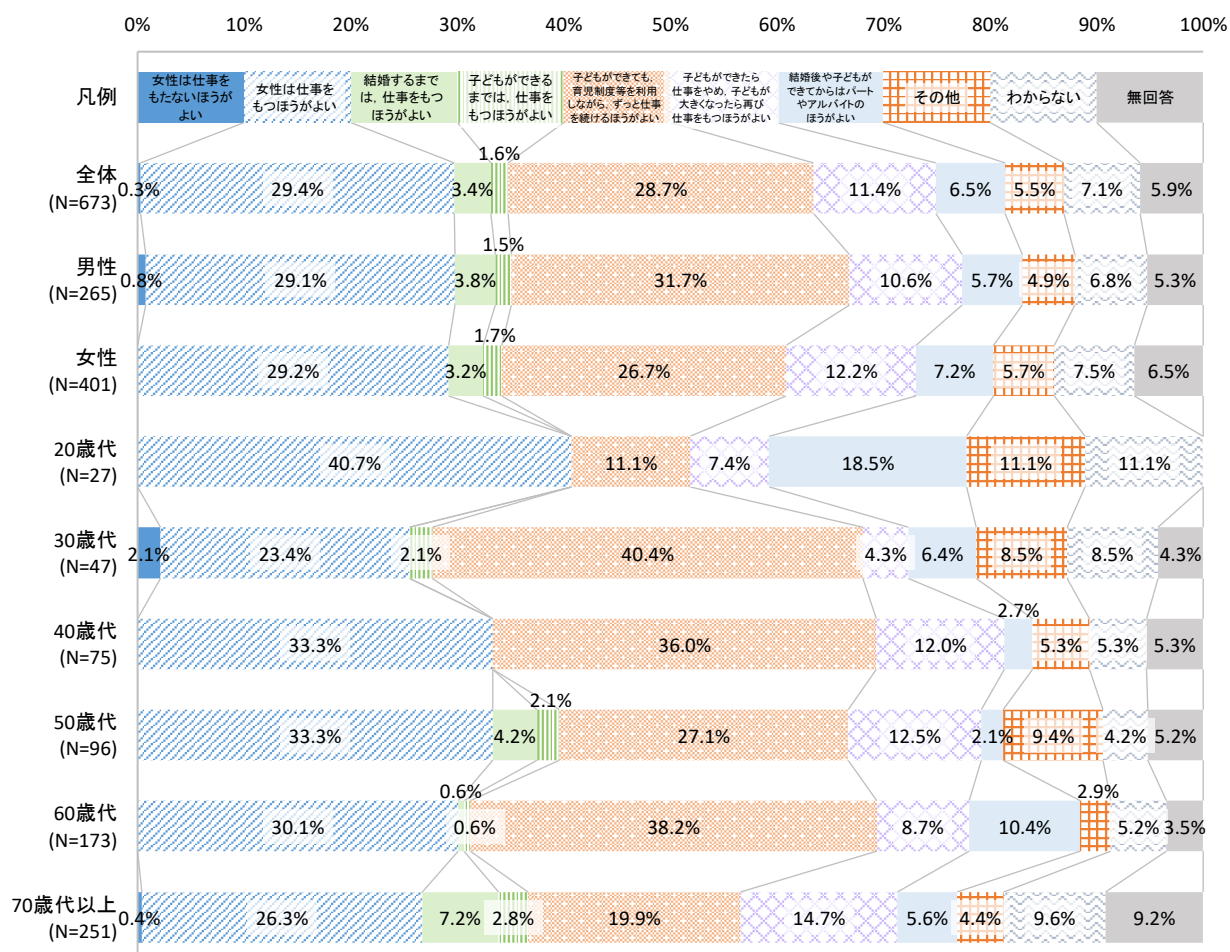
問 26 一般的に女性が仕事をもつ（外に出て働くこと）ことについて、あなたはどうか
お考えですか。（○は1つだけ）

女性が仕事をもつことについては、「女性は仕事をもつほうがよい」が29.4%で最も多く、次いで「子どもができて、育児制度等を利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」が28.7%、「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」が11.4%となっている。

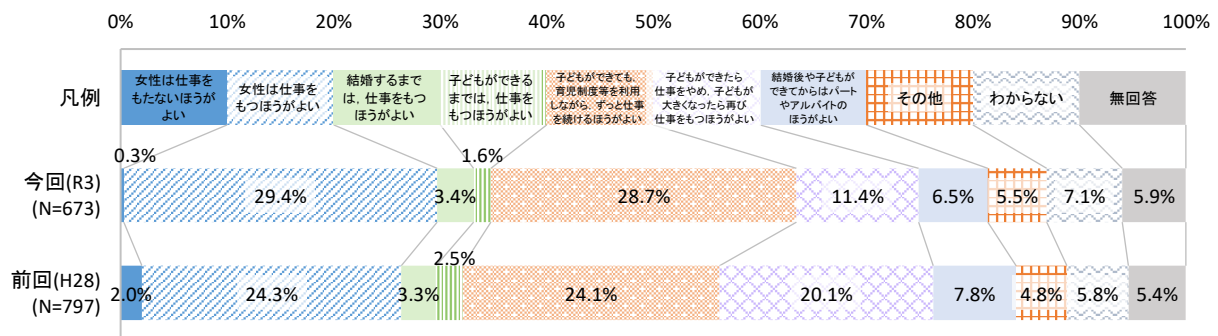
性別でみると、男性では「子どもができて、育児制度等を利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」が女性より5.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、20歳代では「女性は仕事をもつほうがよい」、30歳代では「子どもができて、育児制度等を利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」がそれぞれ4割以上と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、「女性は仕事をもつほうがよい」が5.1ポイント増加、「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」が8.7ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



その他回答
女性が希望する方法をとればどちらでも良い
できれば家事をしてほしいが、生活の為に仕方がなく思う
物価が高いので高齢者の職場がほしい
仕事をしたい人はすればよい、男女は関係ない
人それぞれの判断
その人の考え
その家庭の自由
個人の自由
家庭の事情は様々、女性は結婚で今までとは違う立場で立ち位置が変わる 1～7までにあてはまらない理由も存在する
どれが良いとは言いきれない、仕事をする・しないは本人の自由
仕事の形に第三者の理想（考え）は違うと思う
家庭での状況で変わってきくと思うので何とも言えないです
本人の希望が叶うのが一番良いと思う
働きたい気持ちがあるのなら働いたほうがよい
働きたい人、そうでない人、それぞれが希望する方法を選べば良いと思う
女性自身が決め、場合によっては周りの人々の理解を得ること、努力をする
子供の成長には母親の役割は仕事しながらは出来ない位大きすぎる、体が大変
子供がいても十分に働く社会も必要、女性次第で選べる事が重要
子育てに専念する事ができるのは理想だが、育児で孤立したり不安定にならない 為に仕事で気分転換することも良い事だと思う
経済的、企業に貢献できるから
子供が小学校に入るぐらいまでは一緒にのんびり育児をしたら？
夫婦で話し合い互いに協力し合えばよい、ゆるぎない信頼関係を
職業選択は本人の自由であり、特に女性にこだわる必要はないと考える
この問い自体が問題では、それぞれが考えて行動するのは
決めつけは良くない、働く年齢になるまでに何をして生計をたてるのか本人が 決めるのが良い
仕事を続けるか育児に専念するかは本人が決めるべきである
本人が決めることだと思う

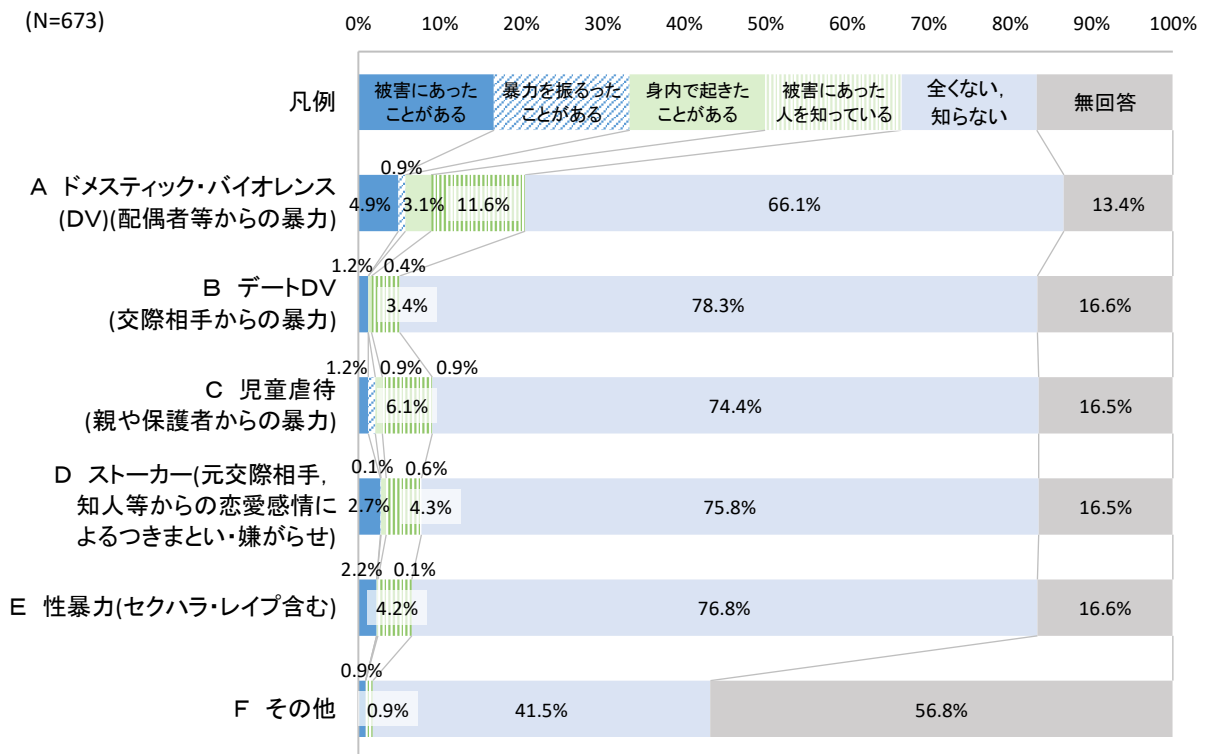
人権・暴力について

問 27 あなたは、DV（夫・妻（事実婚や別居中，離・死別を含む）や交際相手（過去の相手も含む）からの暴力）や児童虐待，ストーカー（つきまとい・嫌がらせ），性暴力などについて経験，あるいは見聞きしたことがありますか。A～Fのそれぞれの項目について，右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

DVや交際相手（過去の相手も含む）からの暴力や児童虐待，ストーカー，性暴力などについて経験したり，見聞きしたりしたことがあるかについては，全てにおいて「全くない，知らない」の割合が高くなっている。

次いで，「被害にあった人を知っている」「被害にあったことがある」が多くなっている。



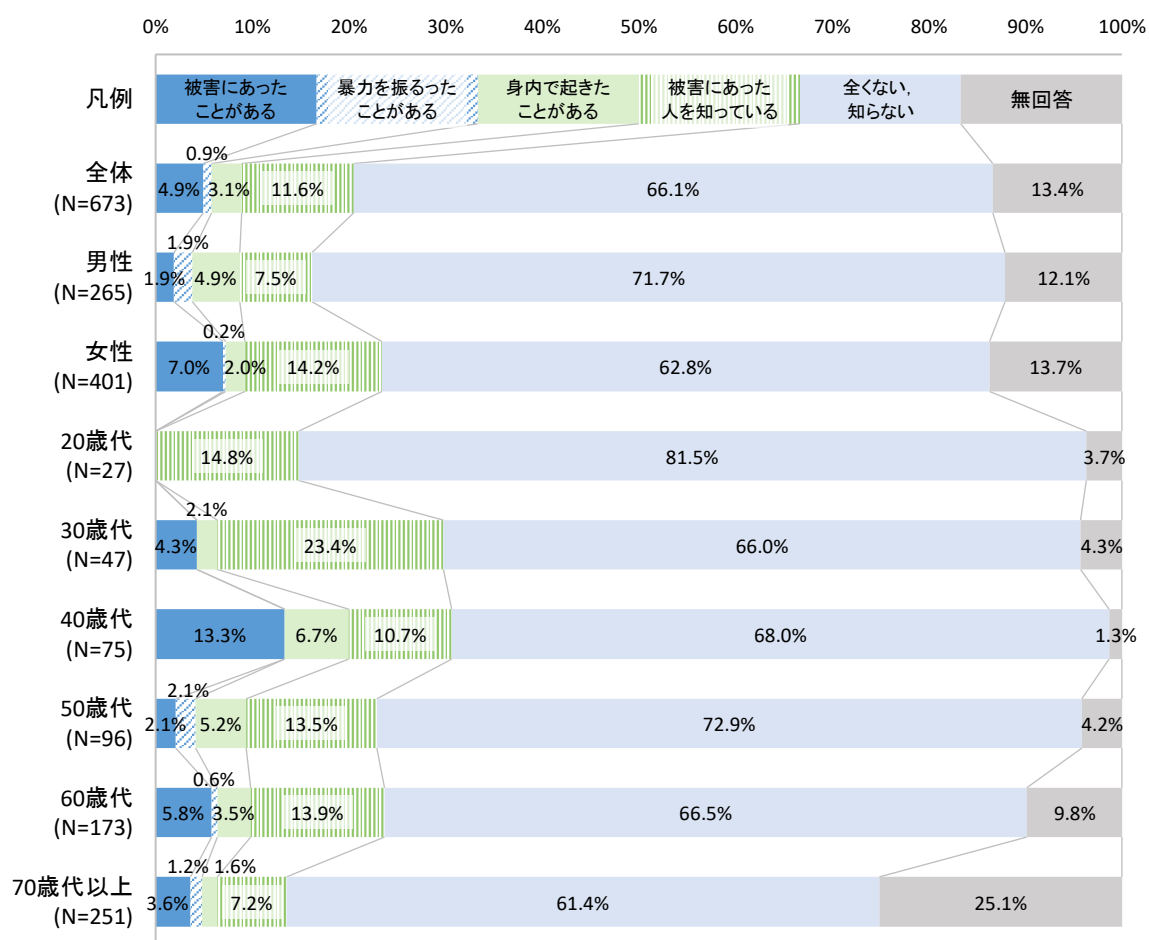
A ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）

ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）については、「全くない、知らない」が66.1%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が11.6%、「被害にあったことがある」が4.9%となっている。

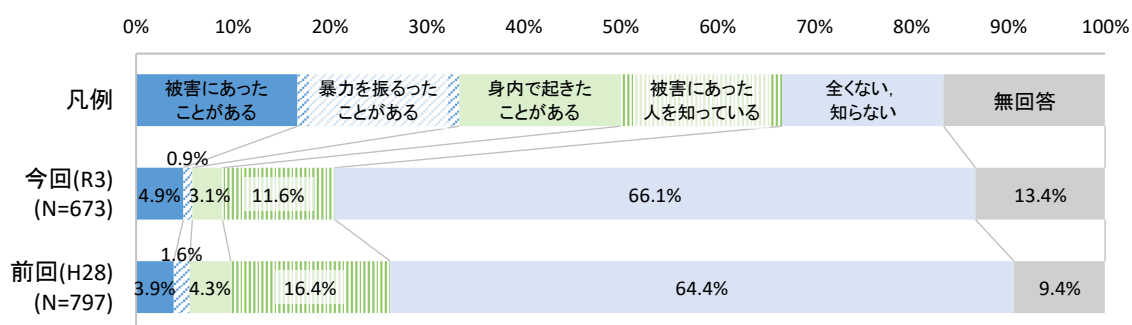
性別でみると、女性では「被害にあった人を知っている」が男性より 6.7 ポイント高くなっている。

年代別でみると、30 歳代で「被害にあった人を知っている」が約 2 割、40 歳代では「被害にあったことがある」が 1 割以上と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較）】

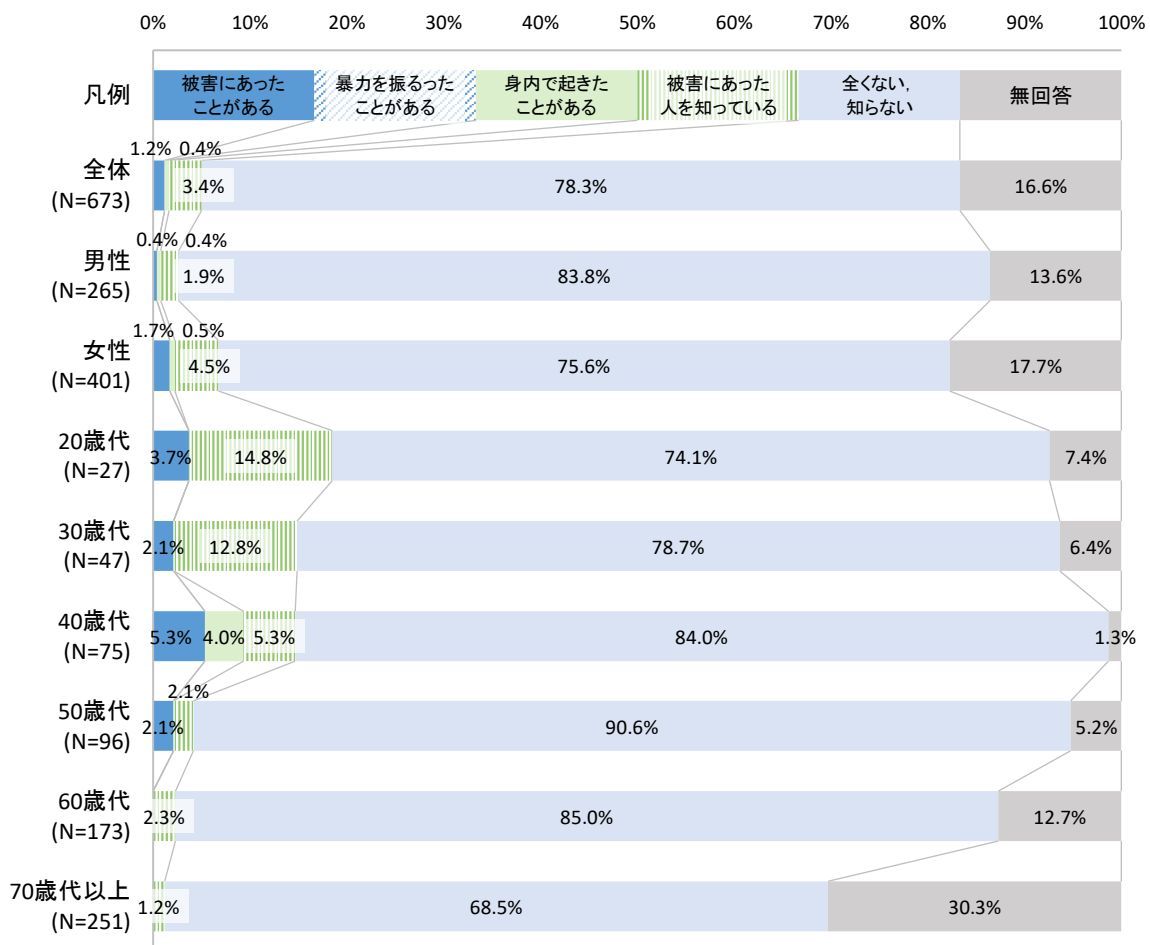


B デートDV（交際相手からの暴力）

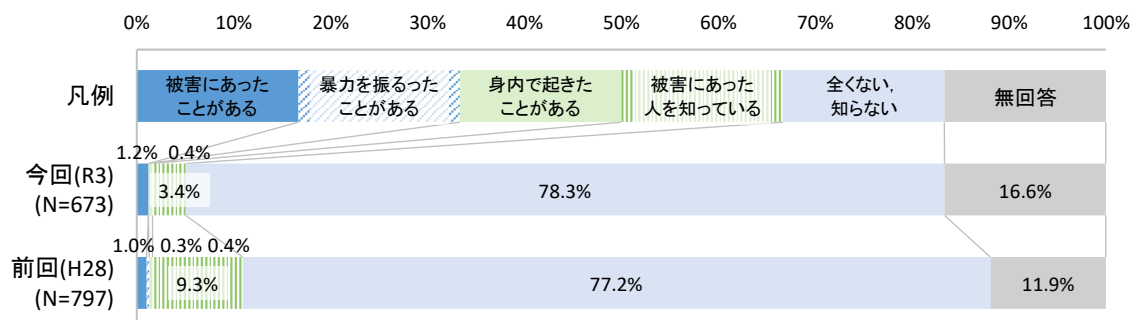
デートDV（交際相手からの暴力）については、「全くない、知らない」が78.3%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が3.4%、「被害にあったことがある」が1.2%となっている。

性別でみると、男女で大きな差異はみられない。

年代別でみると、「被害にあったことがある」「身内で起きたことがある」では40歳代、「被害にあった人を知っている」では20歳代が、それぞれ他の年代より高くなっている。前回調査と比較すると、「被害にあった人を知っている」が5.9ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



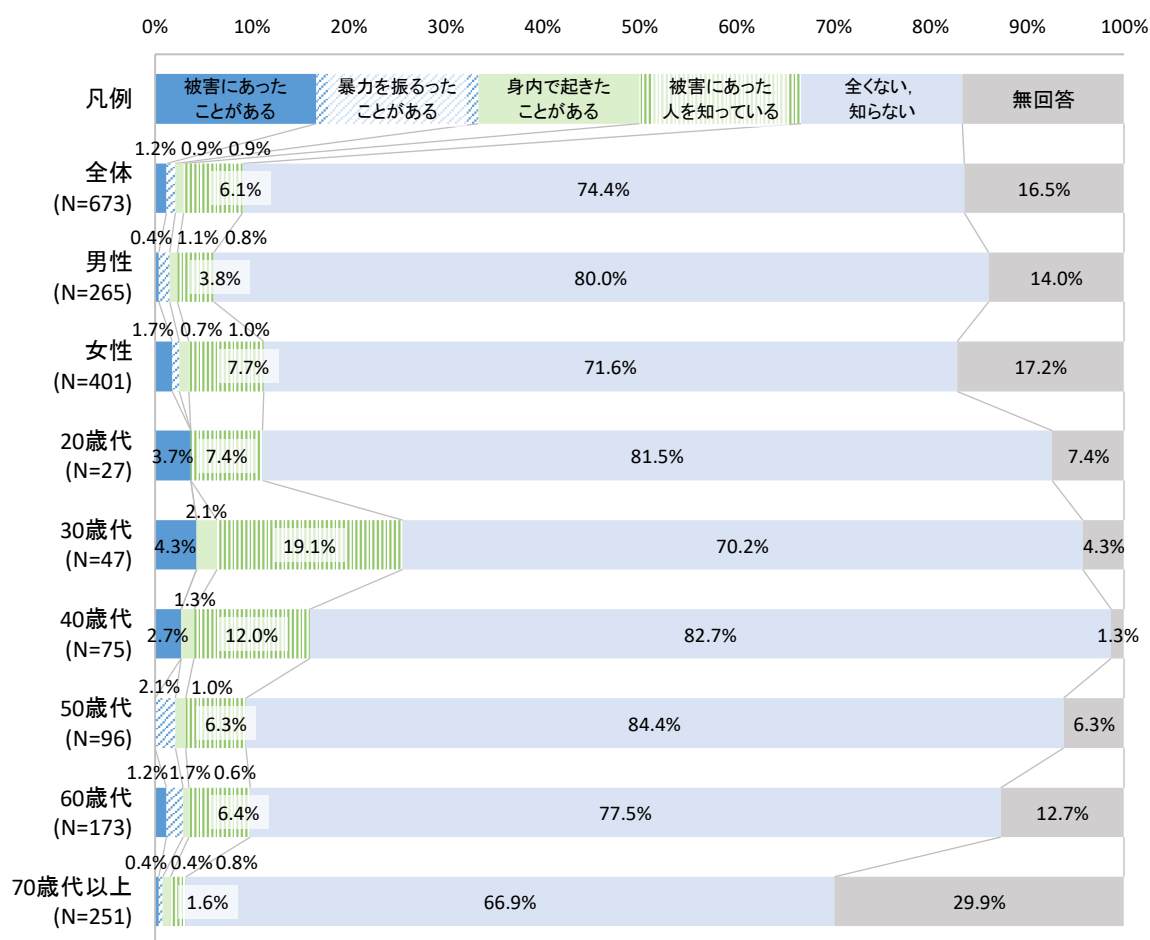
C 児童虐待（親や保護者からの暴力）

児童虐待（親や保護者からの暴力）については、「全くない、知らない」が74.4%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が6.1%、「被害にあったことがある」が1.2%となっている。

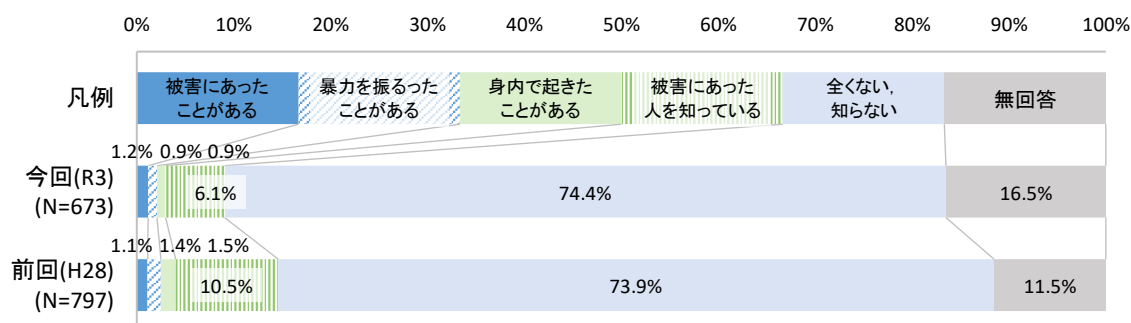
性別でみると、女性では「被害にあった人を知っている」が男性より3.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、30歳代では「被害にあったことがある」「身内で起きたことがある」「被害にあった人を知っている」が、それぞれ他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、「被害にあった人を知っている」が4.4ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



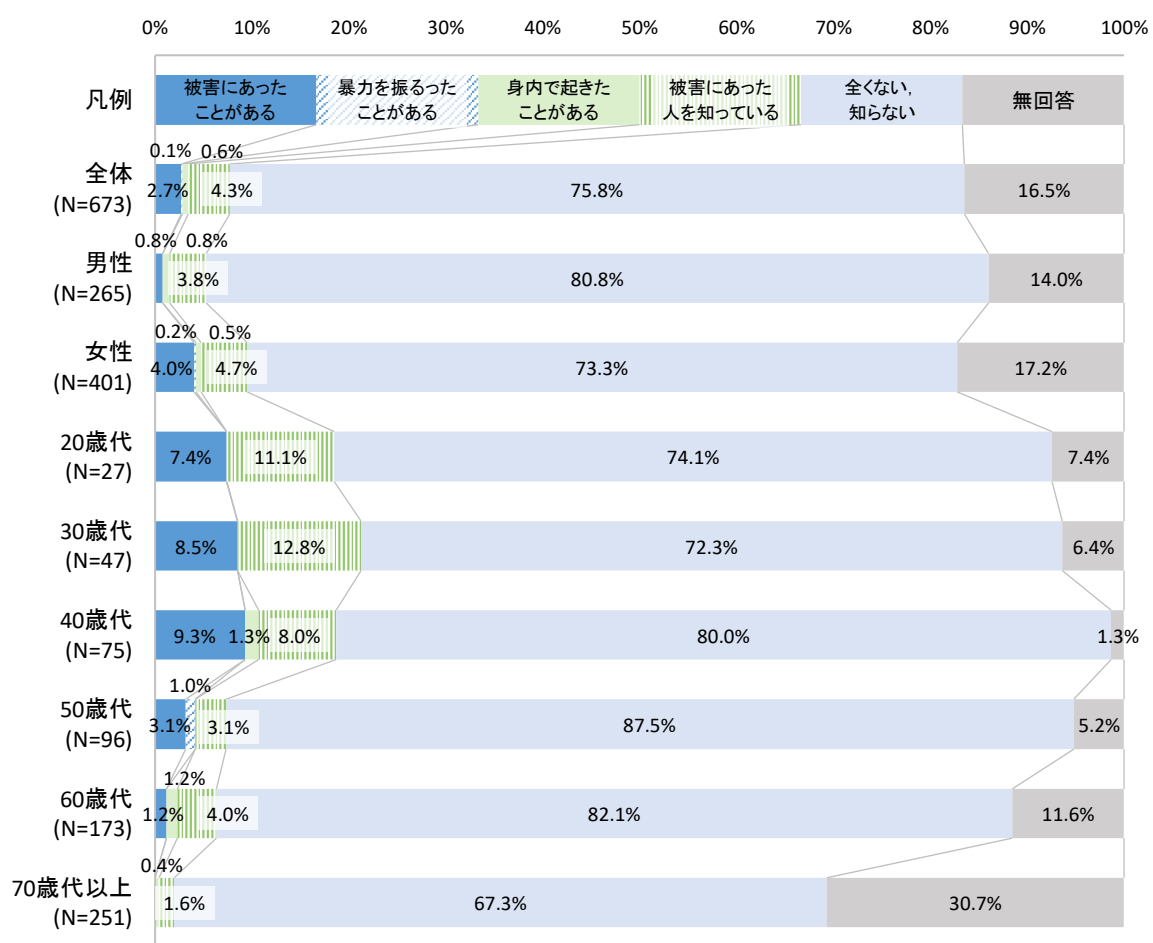
D ストーカー（元交際相手，知人等からの恋愛感情によるつきまとい・嫌がらせ）

ストーカー（元交際相手，知人等からの恋愛感情によるつきまとい・嫌がらせ）については、「全くない，知らない」が75.8%で最も多く，次いで「被害にあった人を知っている」が4.3%，「被害にあったことがある」が2.7%となっている。

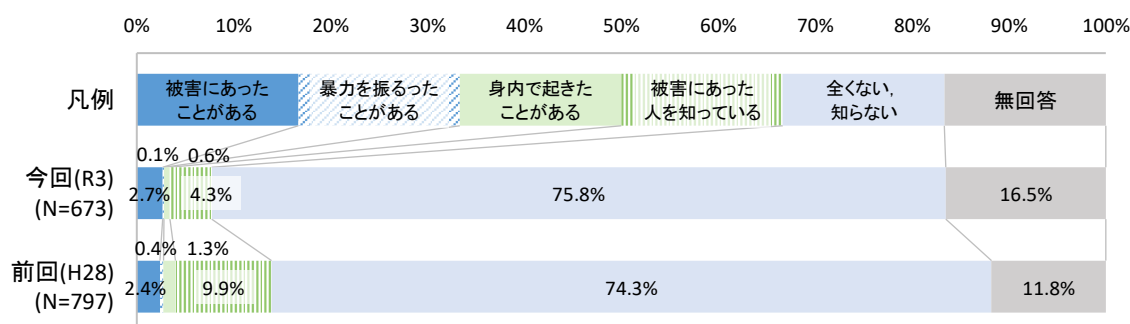
性別でみると，女性では「被害にあったことがある」が男性より3.2ポイント高くなっている。

年代別でみると，20～40歳代では「被害にあったことがある」「被害にあった人を知っている」が，他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると，「被害にあった人を知っている」が5.6ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



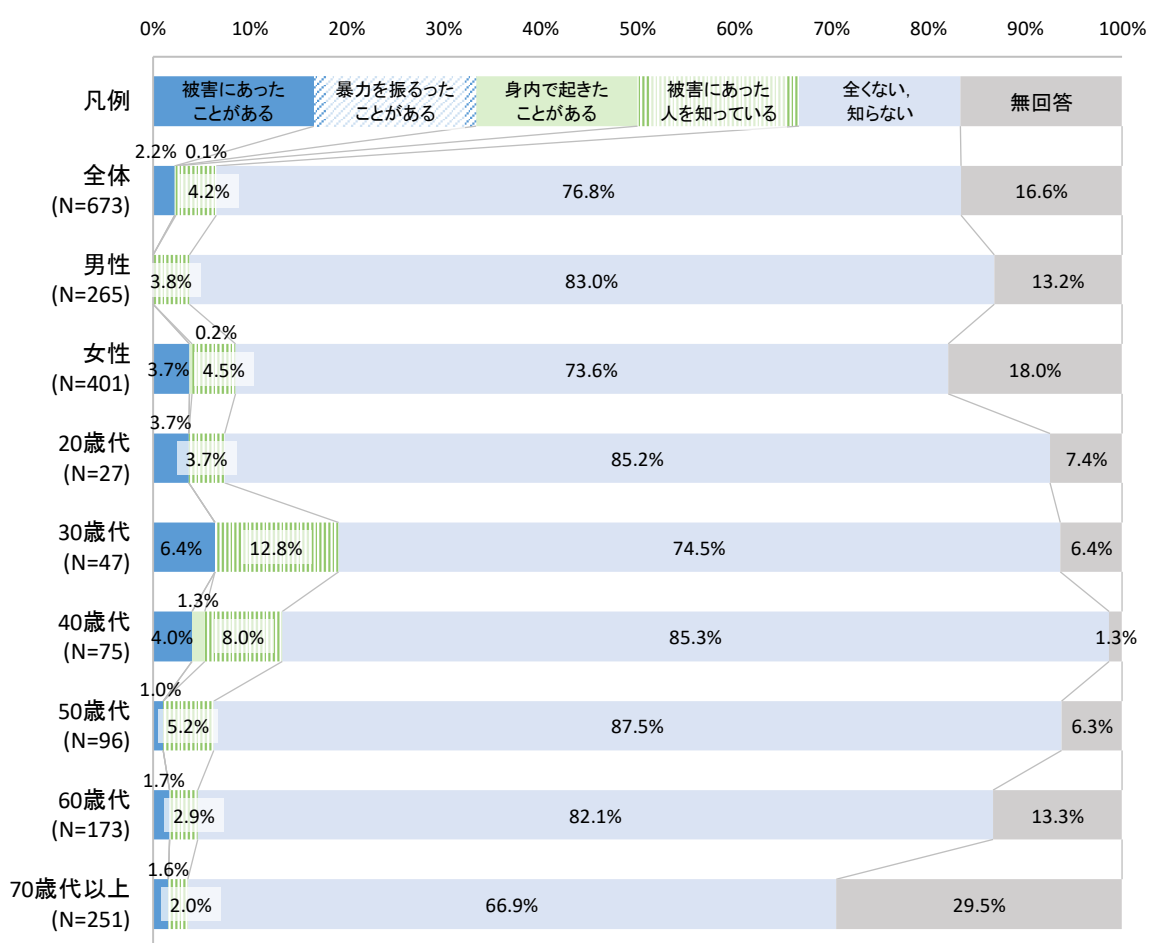
E 性暴力（セクハラ・レイプ含む）

性暴力（セクハラ・レイプ含む）については、「全くない、知らない」が76.8%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が4.2%、「被害にあったことがある」が2.2%となっている。

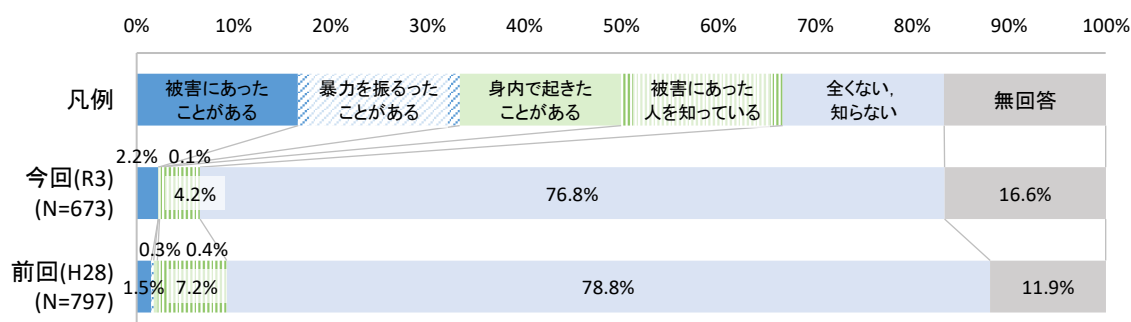
性別でみると、男性では「被害にあったことがある」が0.0%、女性では3.7%となっている。

年代別でみると、30歳代では「被害にあったことがある」「被害にあった人を知っている」が、それぞれ他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、「被害にあった人を知っている」が3.9ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



F その他

その他については、「被害にあったことがある」が0.9%、「被害にあった人を知っている」が0.9%、「全くない・知らない」が41.5%との回答があった。

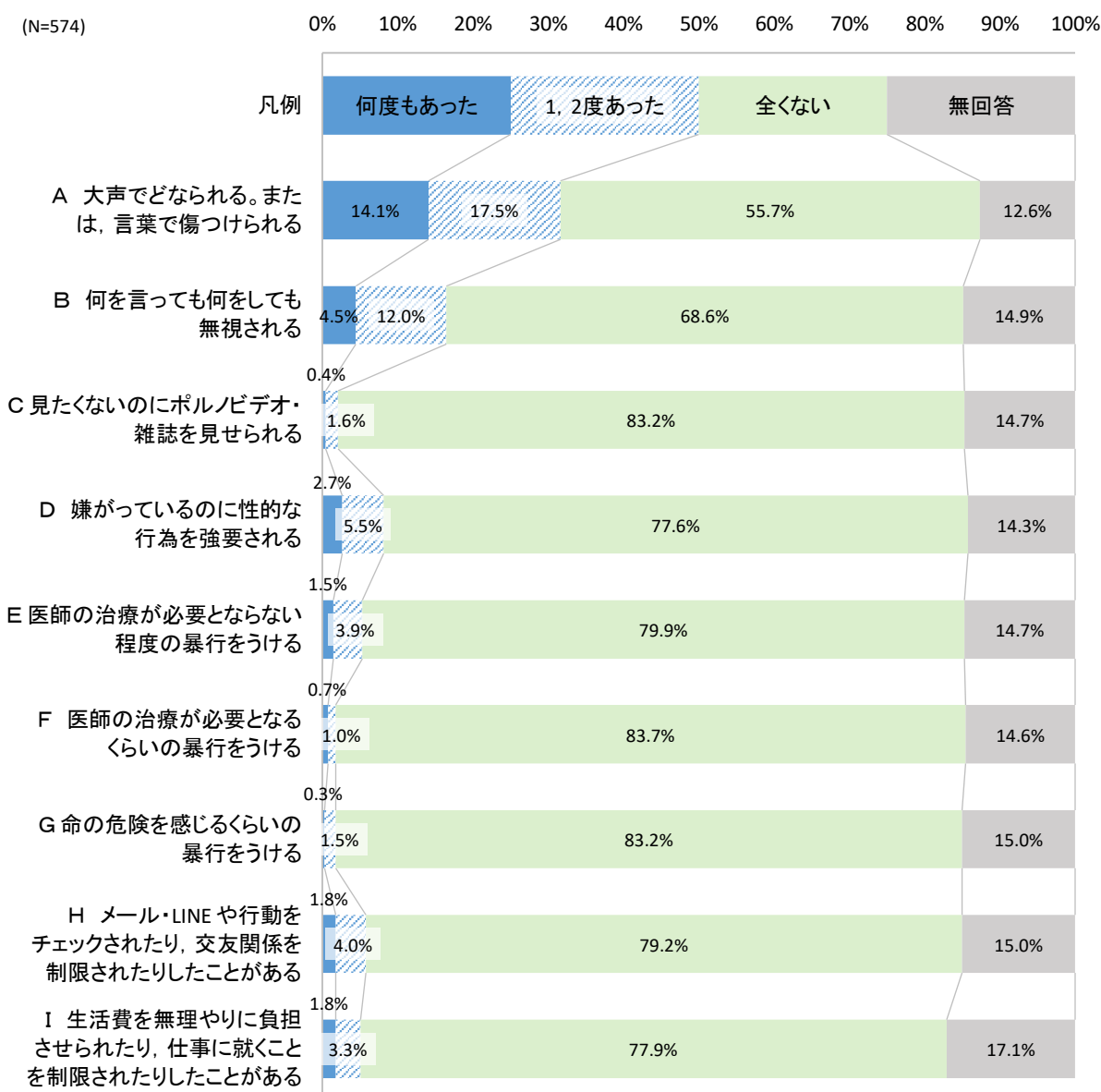
その他回答
アル中
若い時に、電車内映画館等で何度も痴漢に合い腹が立った
浮気
暴言

問 28 あなたはこれまでに、あなたの夫や妻（事実婚や別居中，離・死別を含む），交際相手（過去の相手も含む）から、次のようなことをされたことがありますか。A～Iのそれぞれの項目について、右欄の1～3にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

あなたの夫・妻（事実婚や別居中，離・死別を含む），交際相手（過去の相手も含む）からされたことについては、全てにおいて「全くない」の割合が高くなっている。

『あった』（何度もあった+1，2度あった）が多かったのは、「大声でどなられる。または、言葉で傷つけられる」で31.6%，「何を言っても何をしても無視される」で16.5%となっている。その他の項目においては、10.0%以下となっている。

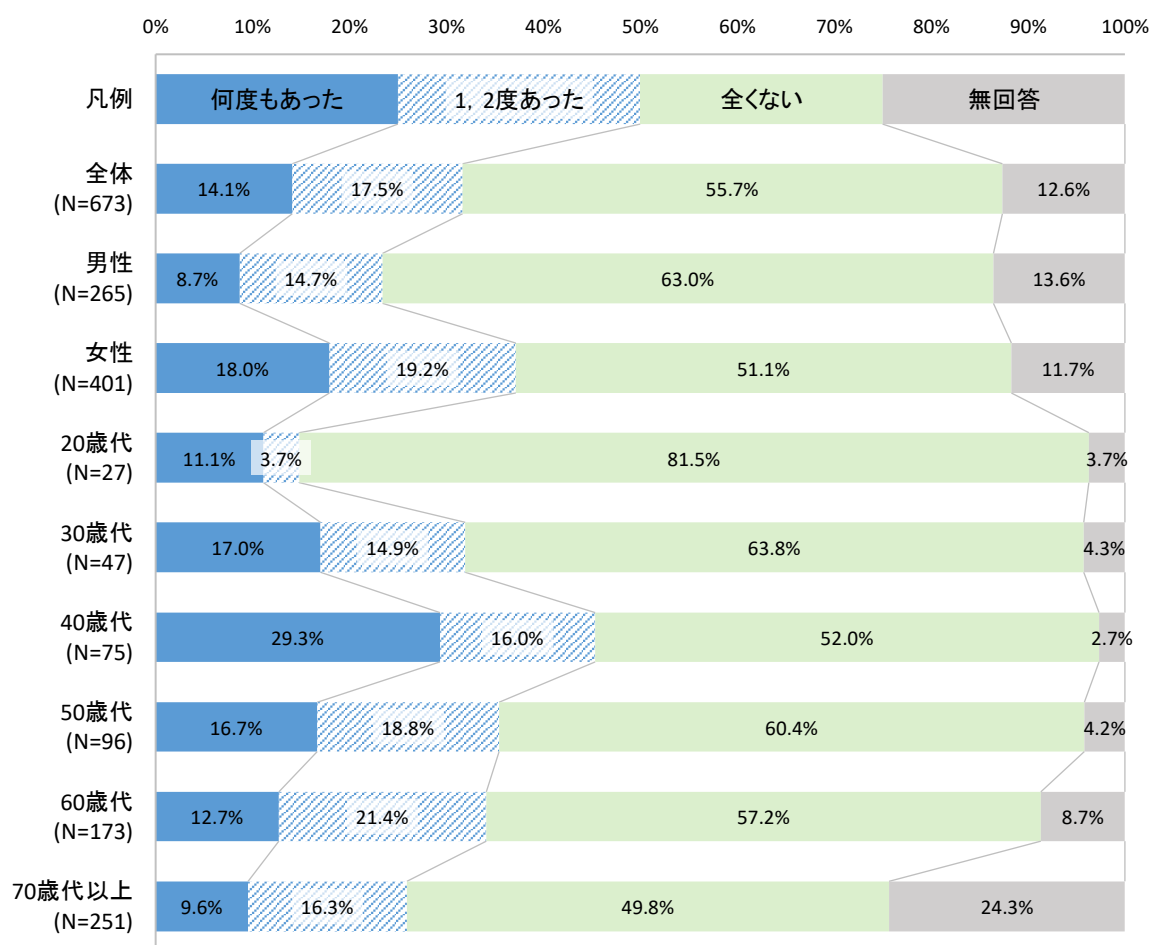


A 大声でどなられる。または、言葉で傷つけられる

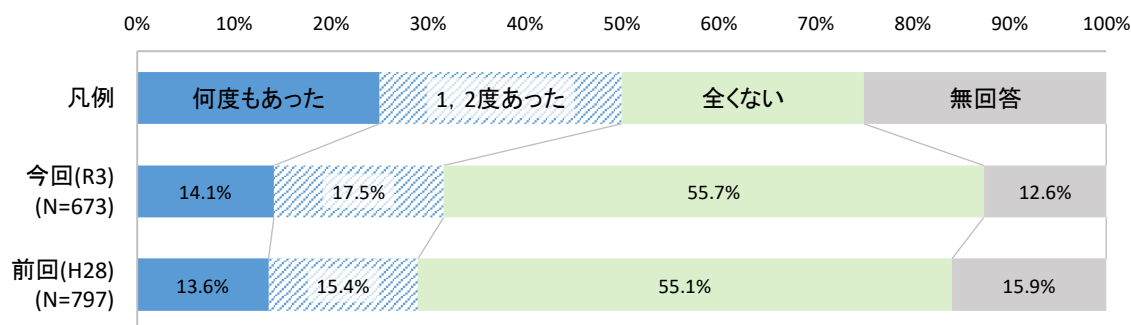
大声でどなられる、または、言葉で傷つけられるについては、「何度もあった」が14.1%、「1, 2度あった」が17.5%、「全くない」が55.7%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より13.8ポイント高くなっている。年代別でみると、40歳代では4割以上を占め、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

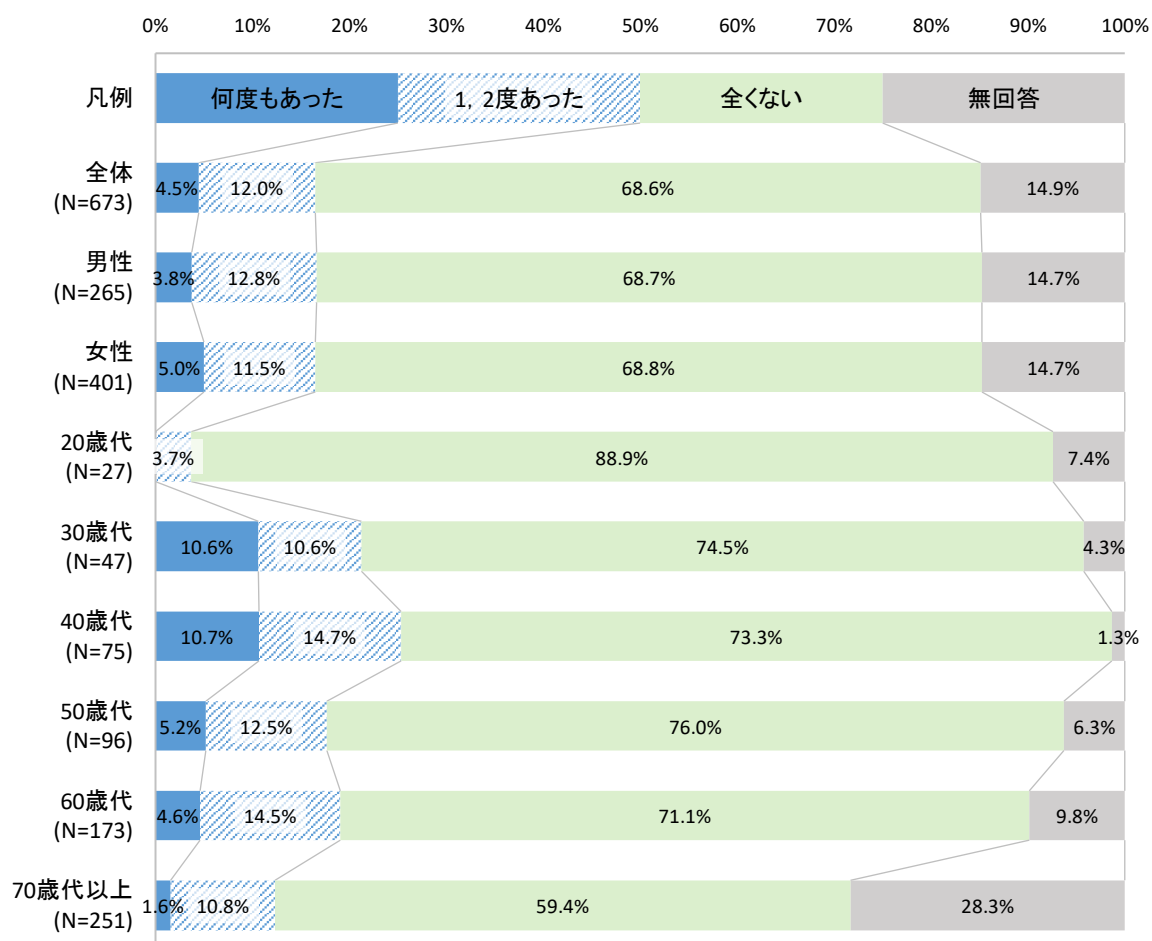


B 何を言っても何をしても無視される

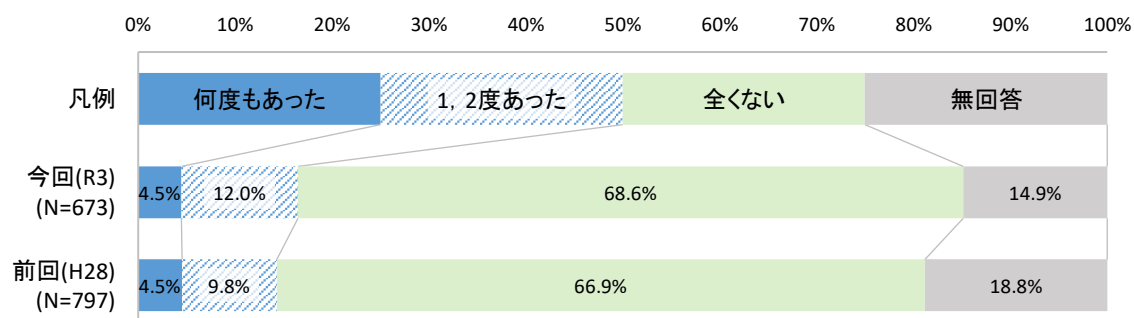
何を言っても何をしても無視されるについては、「何度もあった」が4.5%、「1，2度あった」が12.0%、「全くない」が68.6%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、大きな差異はみられない。年代別でみると、30～40歳代では2割以上を占め、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

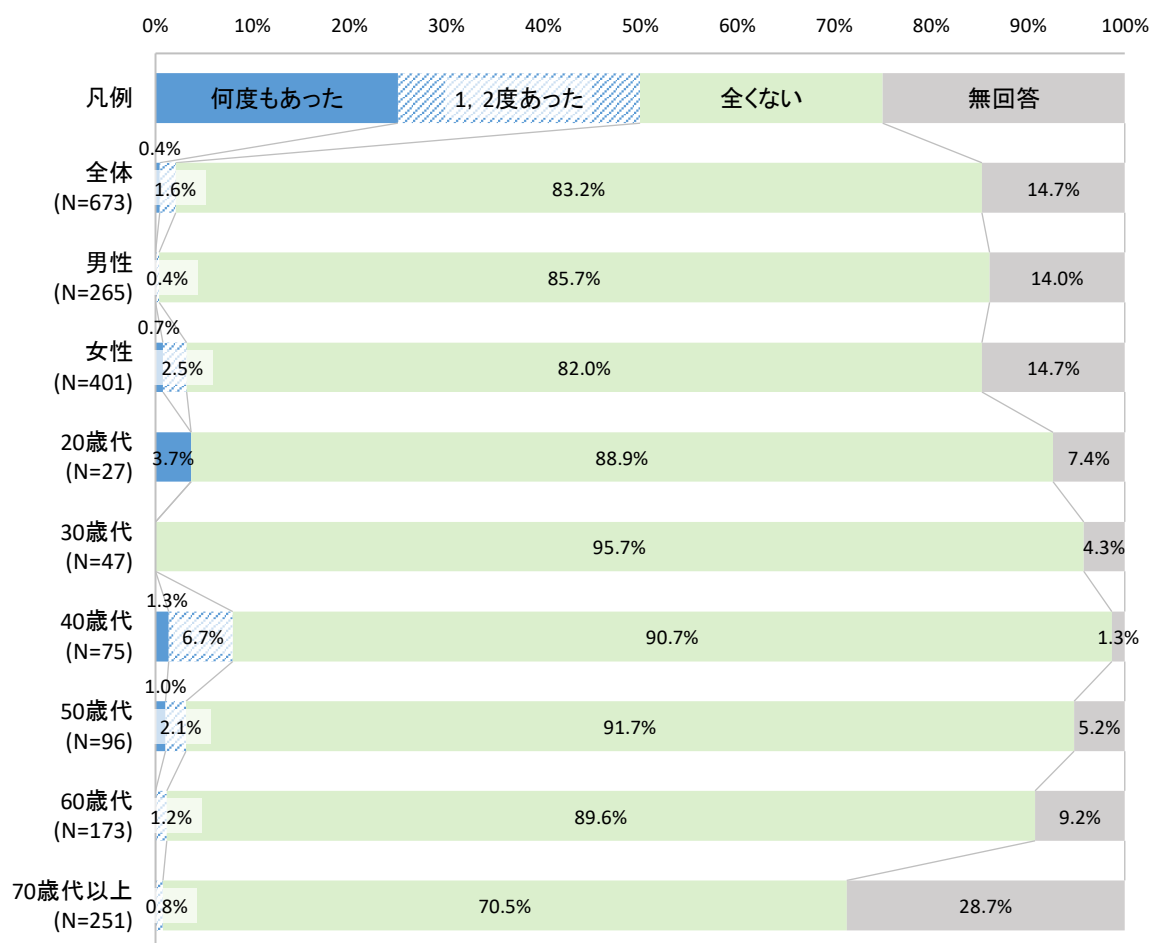


C 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる

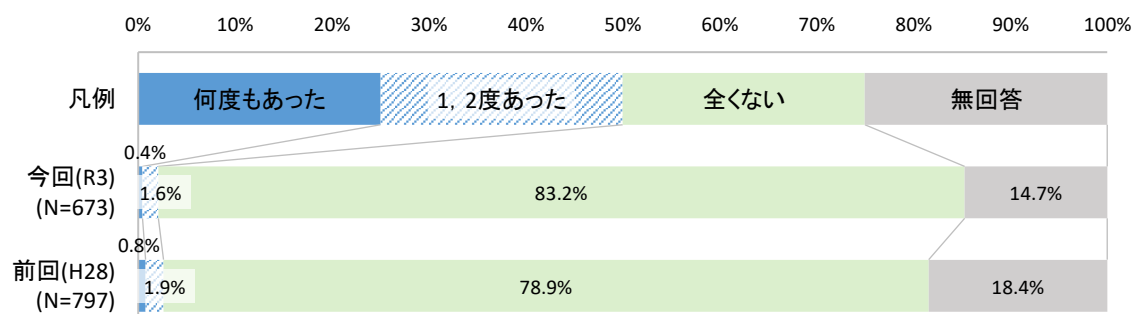
見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられるについては、「何度もあった」が0.4%、「1, 2度あった」が1.6%、「全くない」が83.2%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より2.8ポイント高くなっている。年代別でみると、40歳代では約1割を占め、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

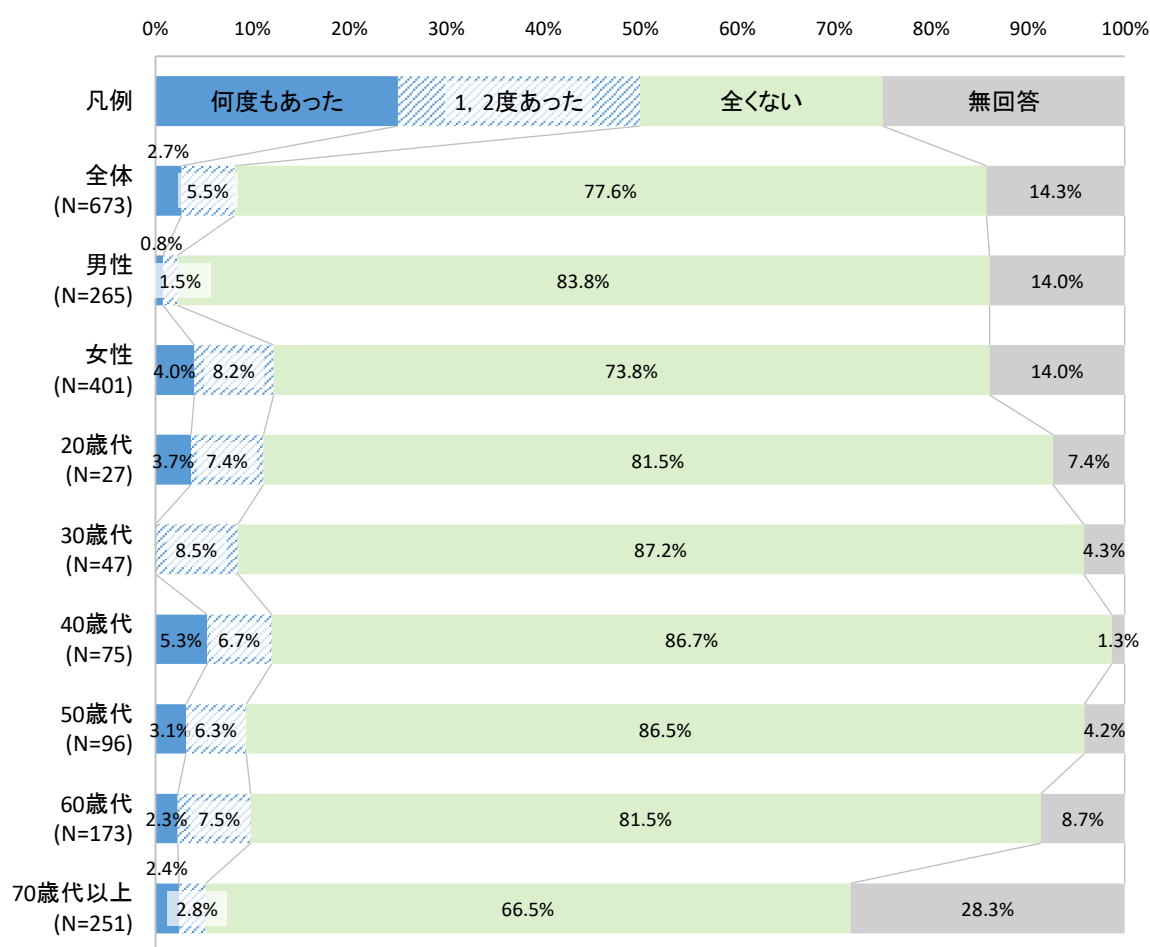


D 嫌がっているのに性的な行為を強要される

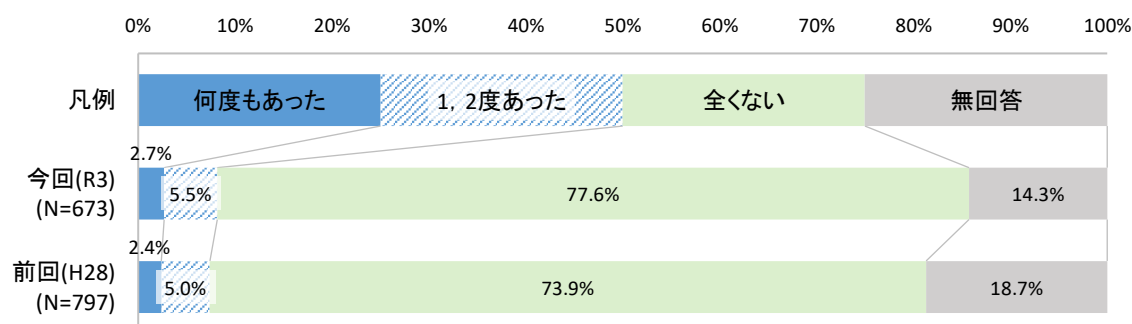
嫌がっているのに性的な行為を強要されるについては、「何度もあった」が2.7%、「1，2度あった」が5.5%、「全くない」が77.6%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より9.9ポイント高くなっている。年代別でみると、20歳代と40歳代では1割以上を占め、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

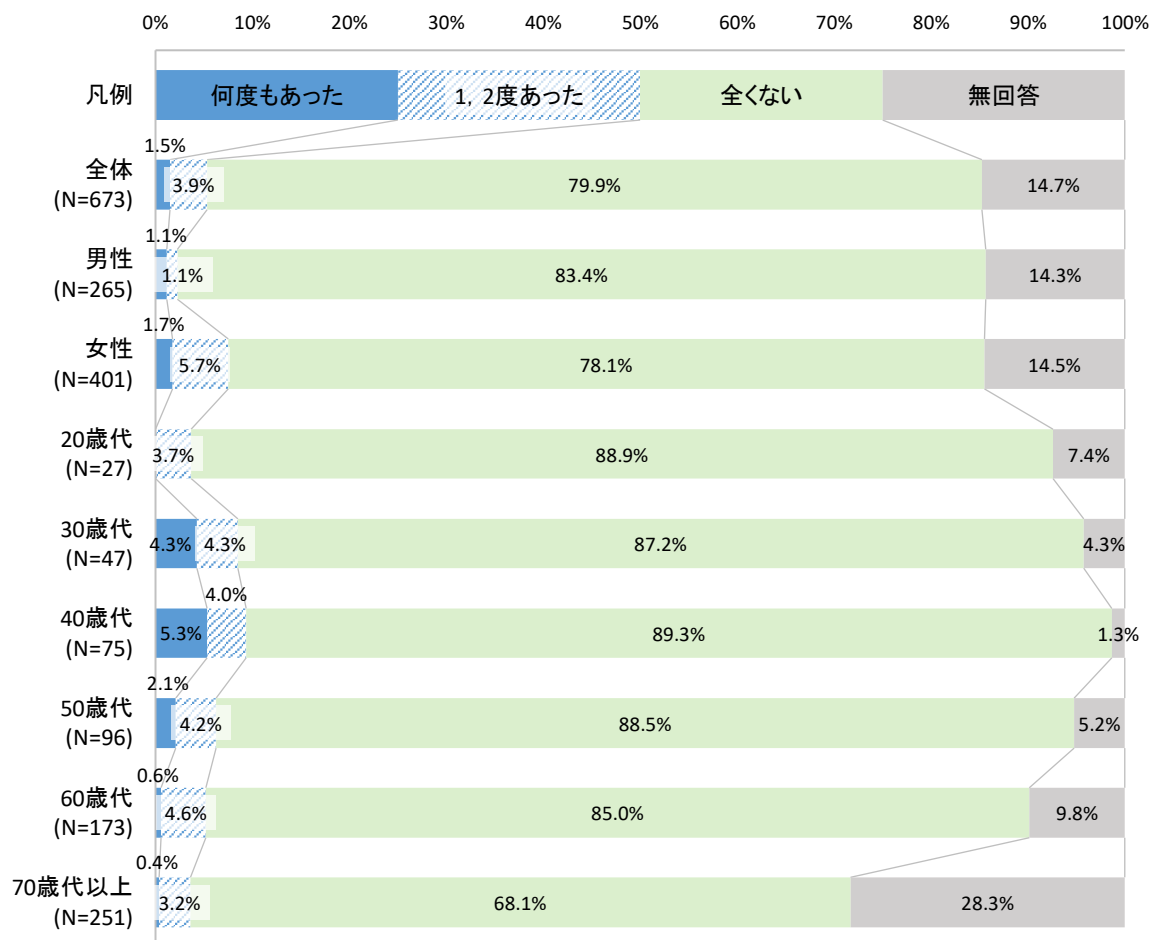


E 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける

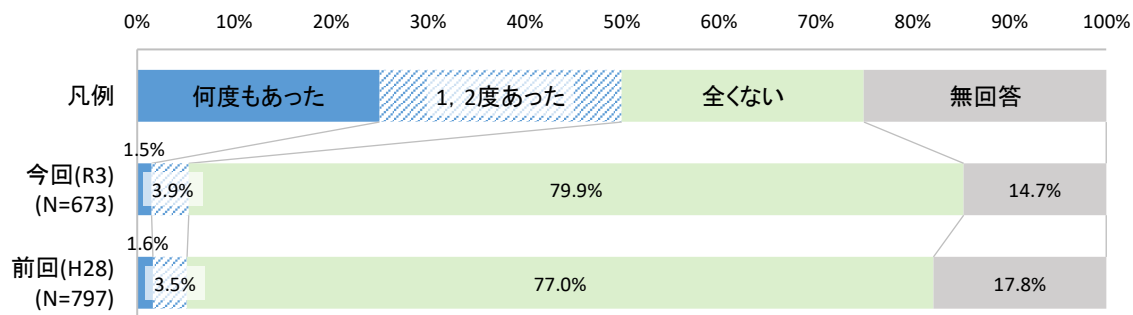
医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けるについては、「何度もあった」が1.5%、「1, 2度あった」が3.9%、「全くない」が79.9%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より5.2ポイント高くなっている。年代別でみると、40歳代では9.3%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

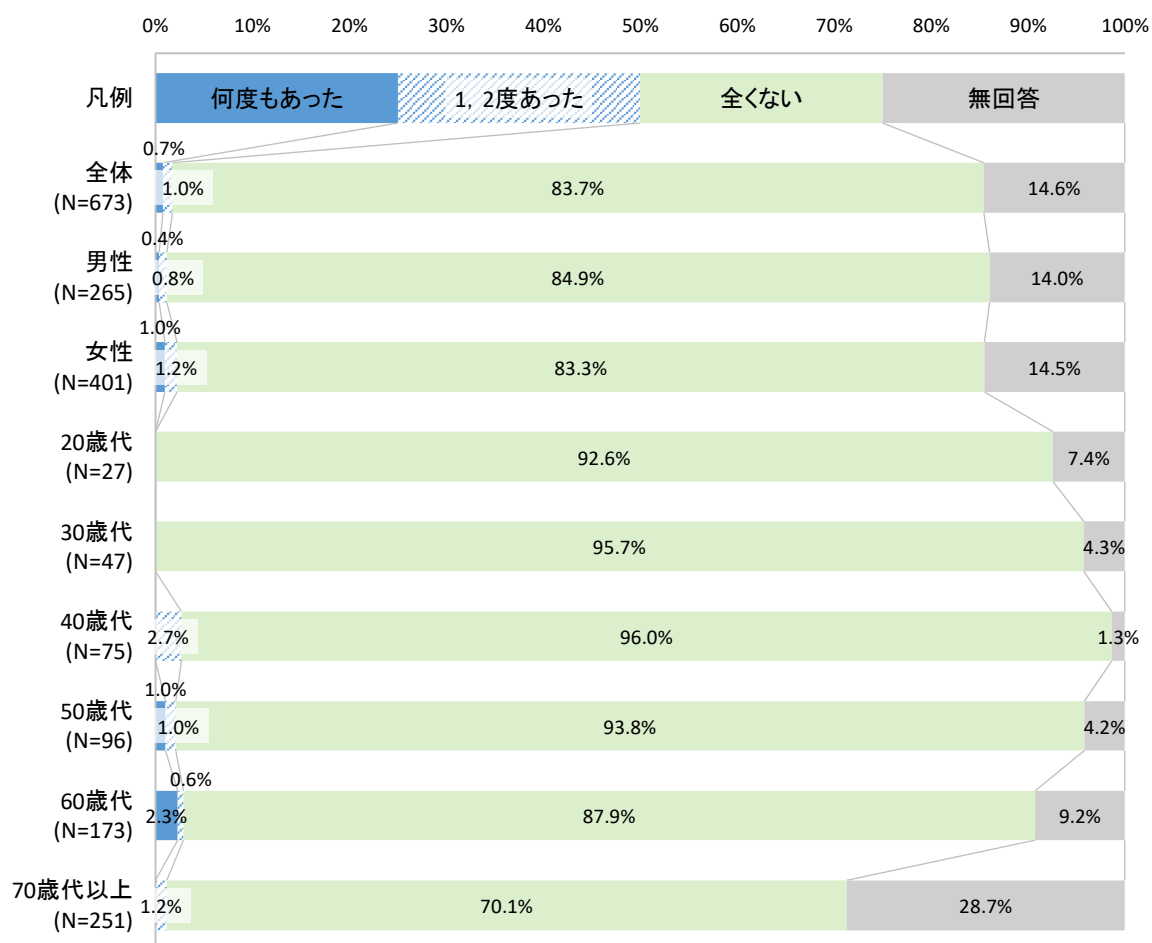


F 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける

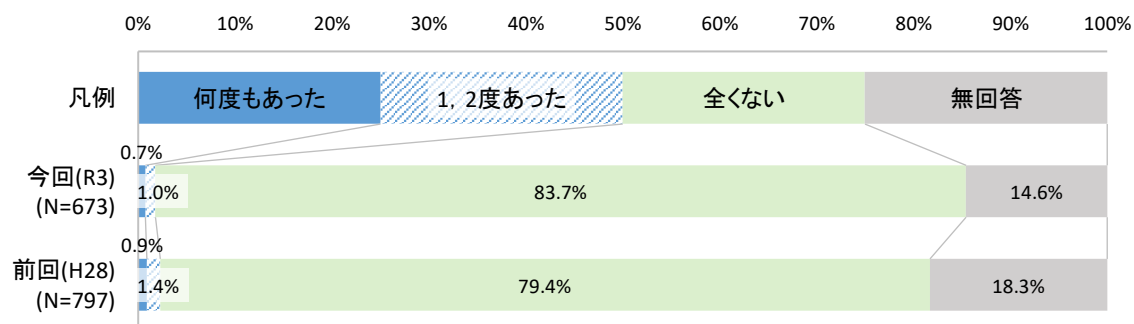
医師の治療が必要となるくらいの暴行を受けるについては、「何度もあった」が0.7%、「1, 2度あった」が1.0%、「全くない」が83.7%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、大きな差異はみられない。年代別でみると、60歳代では2.9%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】

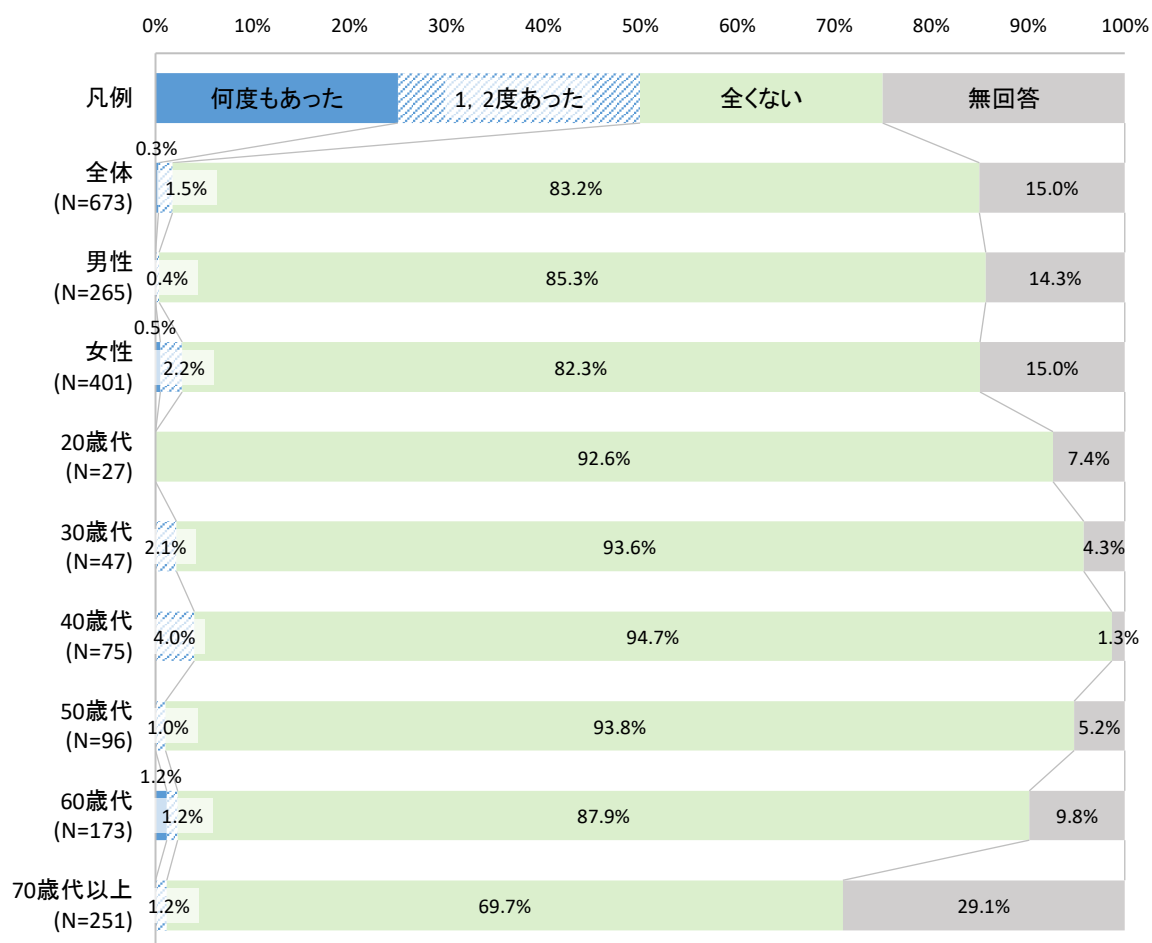


G 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける

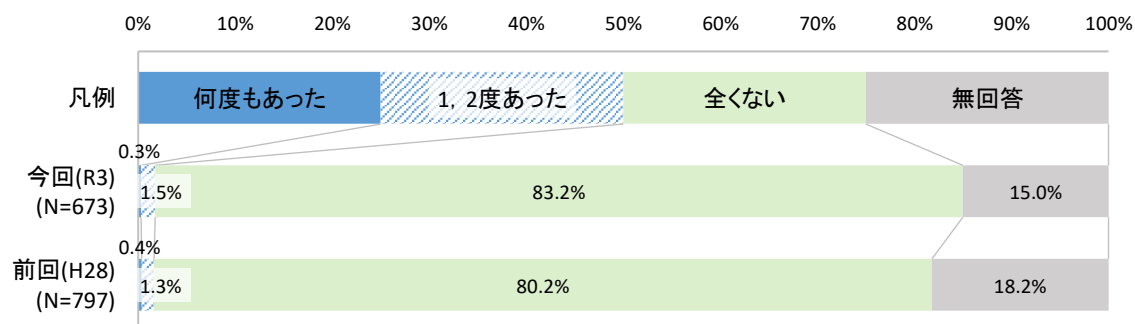
命の危険を感じるくらいの暴行を受けるについては、「何度もあった」が0.3%、「1, 2度あった」が1.5%、「全くない」が83.2%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より2.3ポイント高くなっている。年代別でみると、40歳代では4.0%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



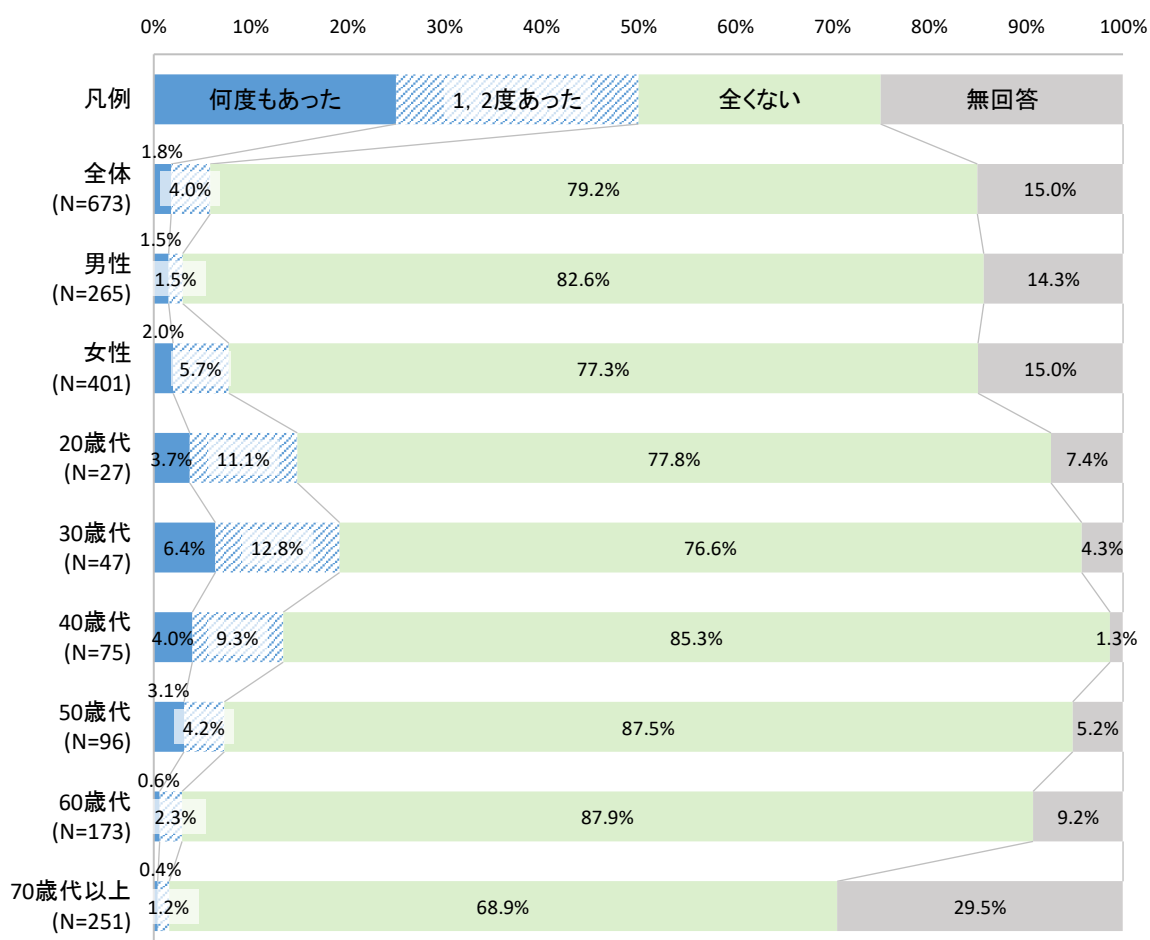
【前回（H28）との比較】



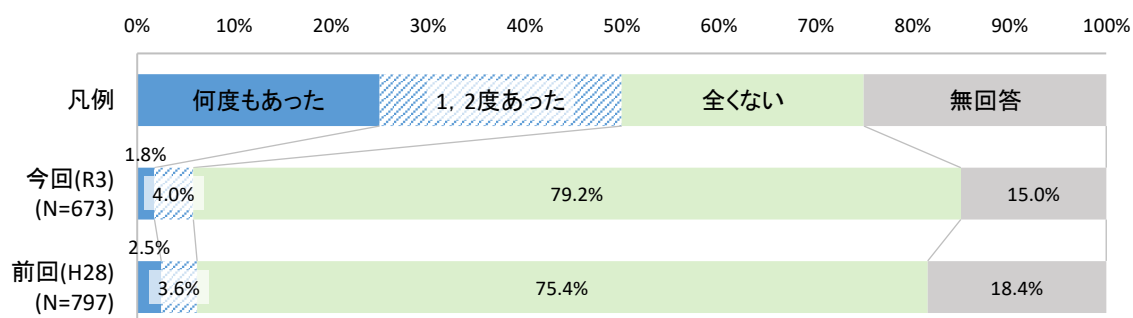
H メール・LINEや行動をチェックされたり、交友関係を制限されたりしたことがある

メール・LINEや行動をチェックされたり、交友関係を制限されたりしたことがあるについては、「何度もあった」が1.8%、「1, 2度あった」が4.0%、「全くない」が79.2%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より4.7ポイント高くなっている。年代別でみると、30歳代では約3割を占め、他の年代より高くなっている。前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



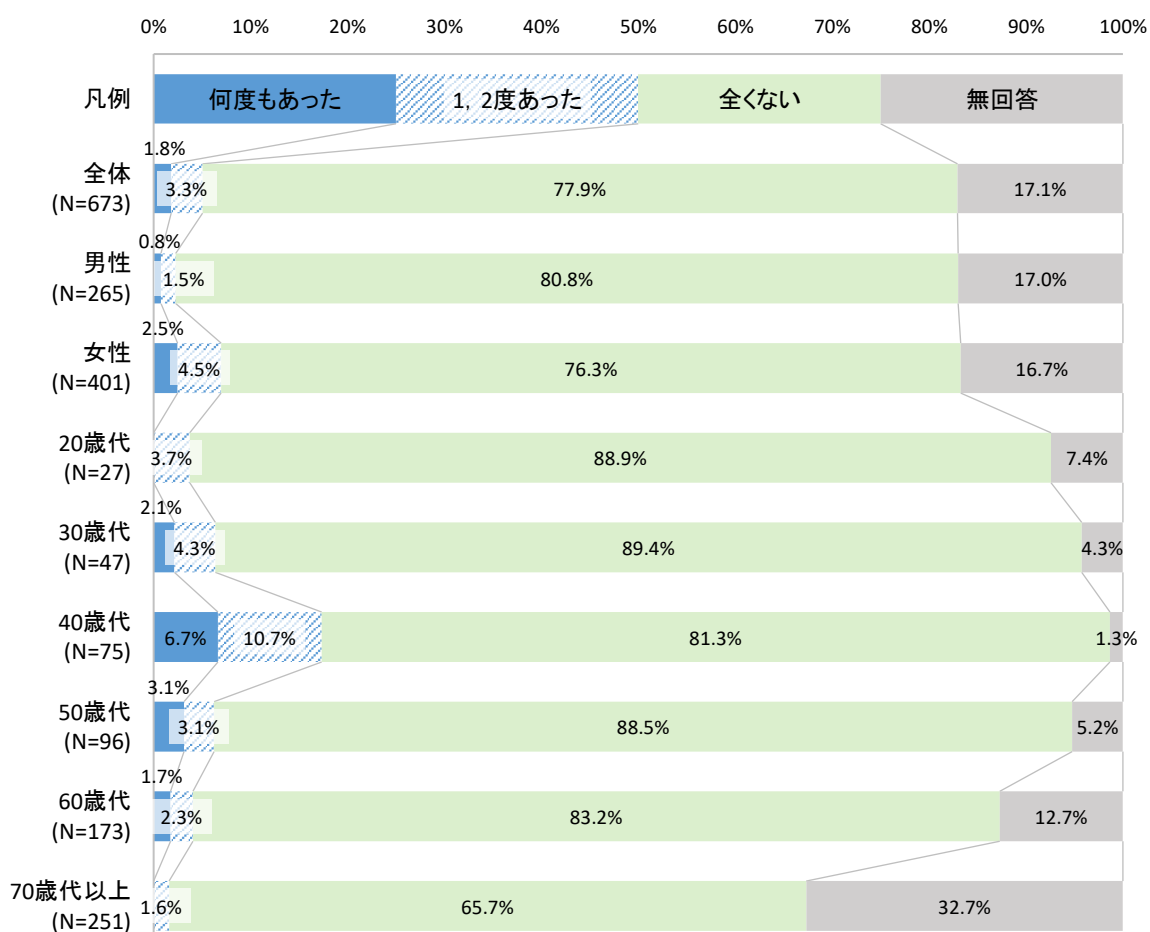
【前回（H28）との比較】



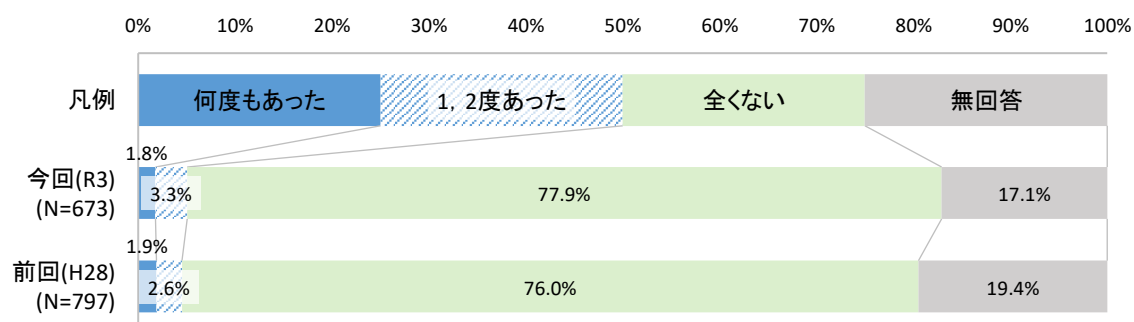
I 生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたりしたことがある

生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたりしたことがあるについては、「何度もあった」が1.8%、「1, 2度あった」が3.3%、「全くない」が77.9%となっている。

『あった』（2項目合計）について性別でみると、女性では男性より4.7ポイント高くなっている。年代別でみると、40歳代では約2割を占め、他の年代より高くなっている。前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



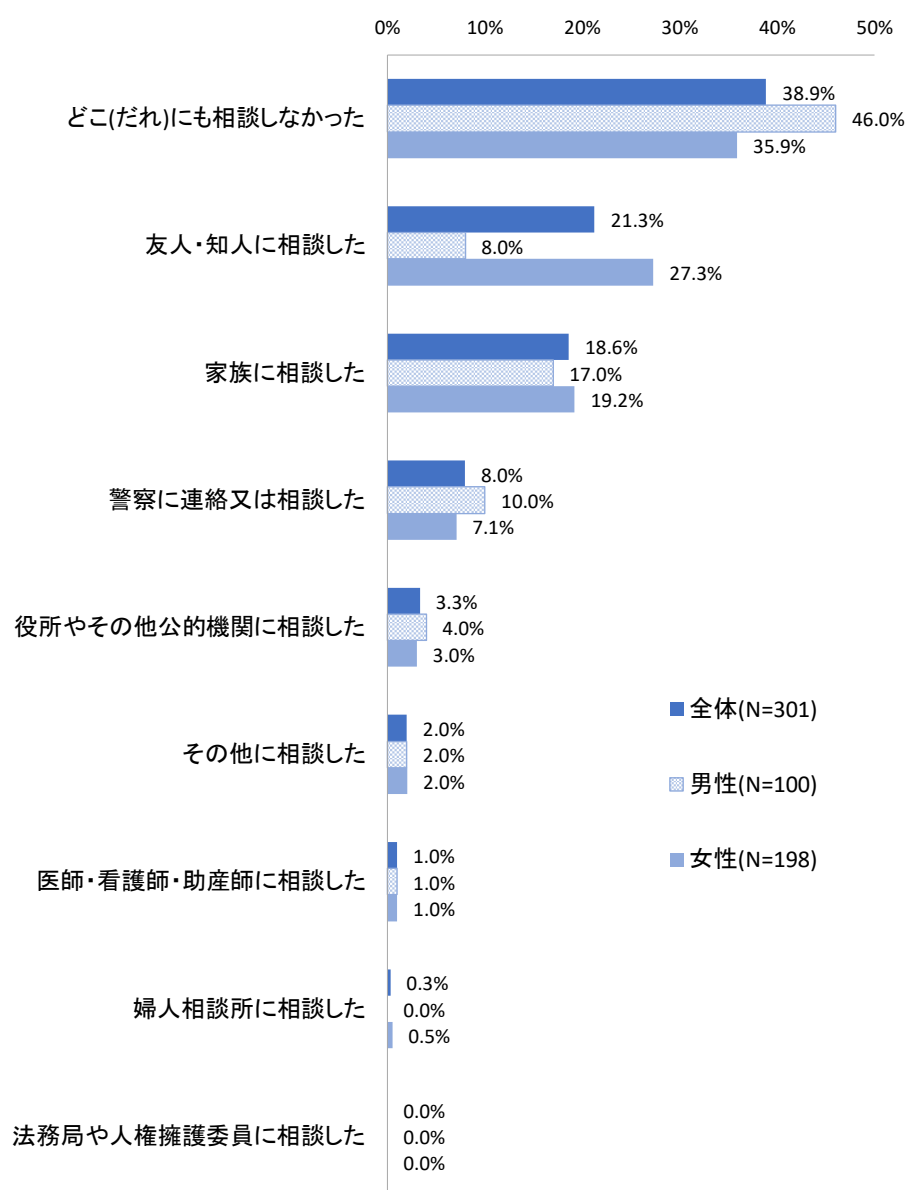
【問 27】でどれか1つでも「1～4」、または【問 28】でどれか1つでも「1または2」を選んだ方におたずねします。

問 29 そのようなとき、あなたはどうしましたか。(〇は3つまで)

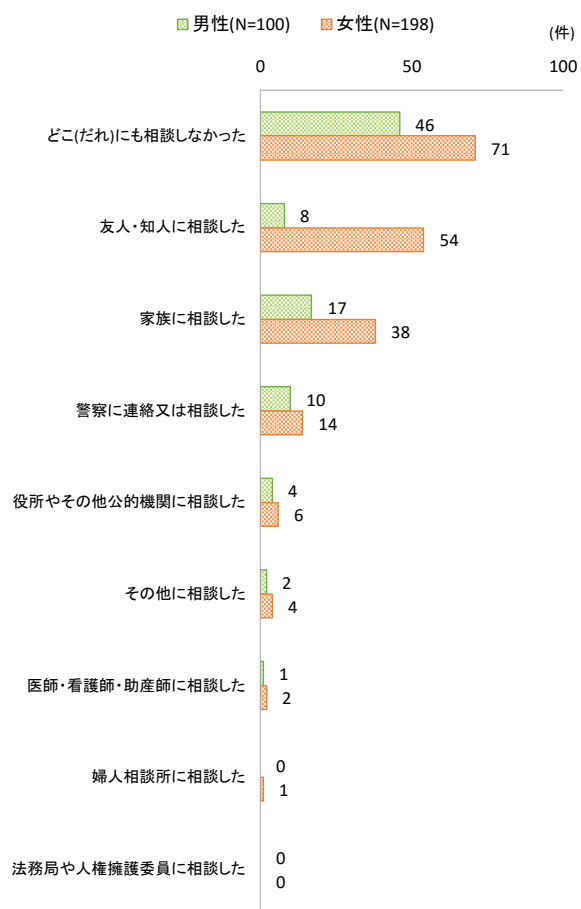
被害後の行動については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 38.9%で最も多く、次いで「家族に相談した」「友人・知人に相談した」がともに 21.3%となっている。

性別でみると、「友人・知人に相談した」では男性より女性が、「どこ（だれ）にも相談しなかった」では女性より男性が、それぞれ 10 ポイント以上高くなっている。

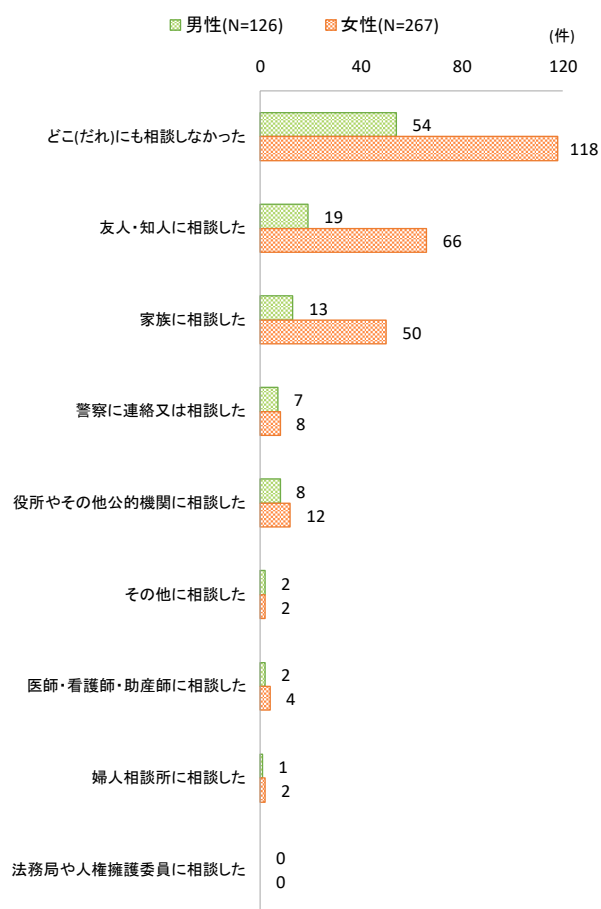
前回調査と比較すると、男性で「家族に相談した」が上位となっている。



【今回（R3）】



【前回（H28）】



その他回答
兄弟
職場
元夫の親

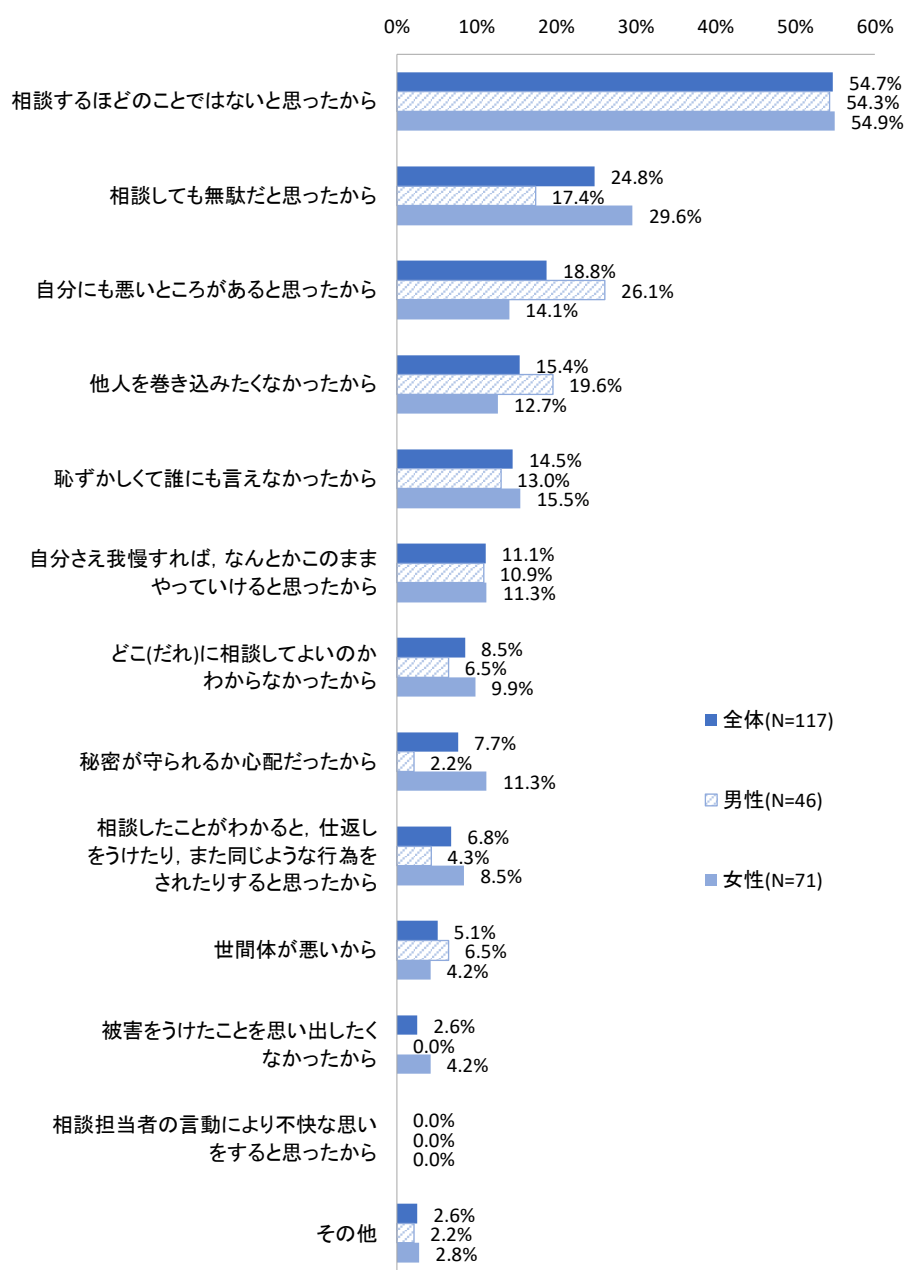
【問 29】で「9. どこ（だれ）にも誰にも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。

問 30 どこ（だれ）にも誰にも相談しなかった（できなかった）のは、どのような理由からですか。（いくつでも）

誰にも相談しなかった（できなかった）理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 54.7%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 24.8%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 18.8%となっている。

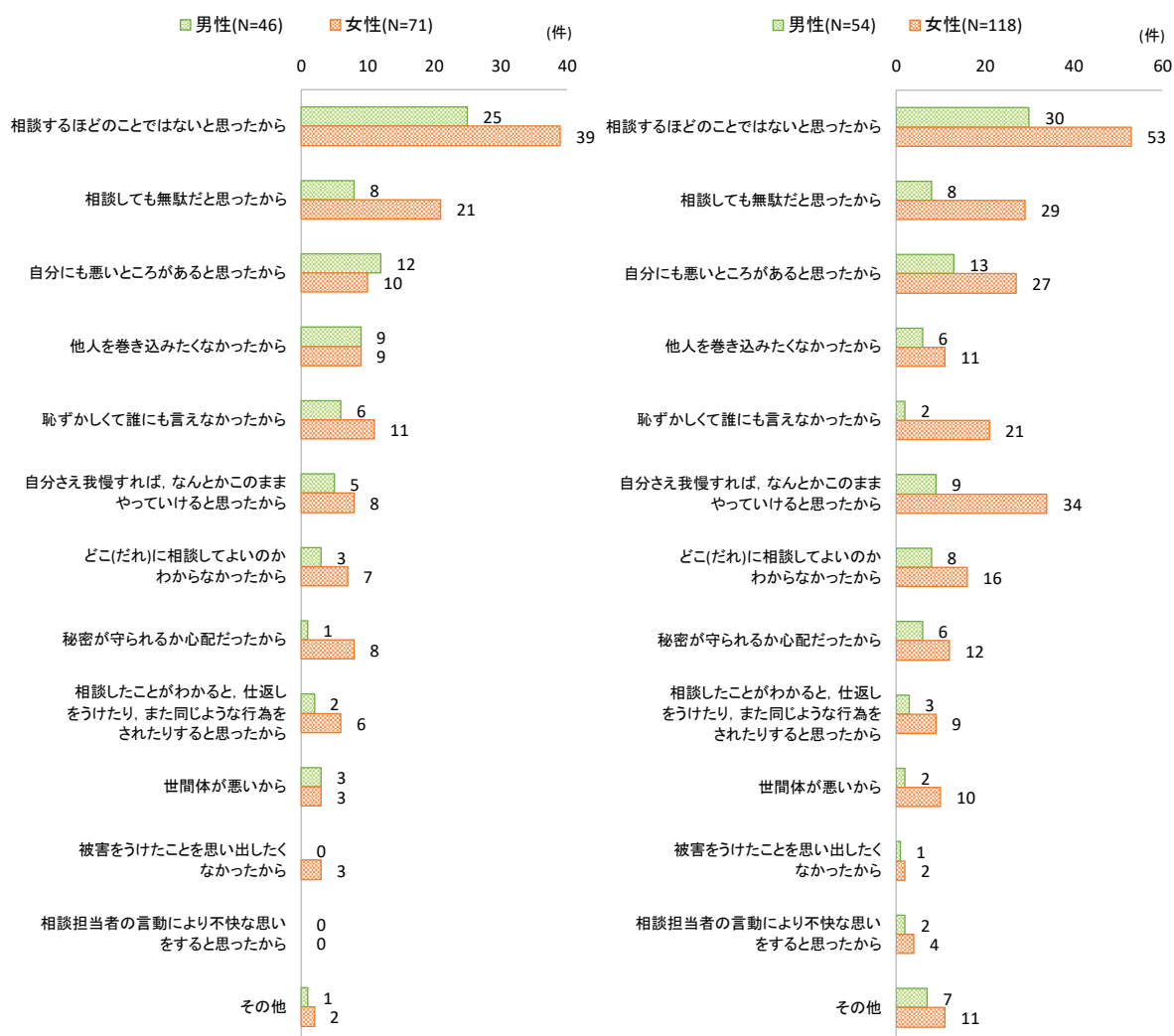
性別でみると、「相談しても無駄だと思ったから」では男性より女性が、「自分にも悪いところがあると思ったから」では女性より男性が、それぞれ 10 ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、女性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が下位となっている。



【今回（R3）】

【前回（H28）】

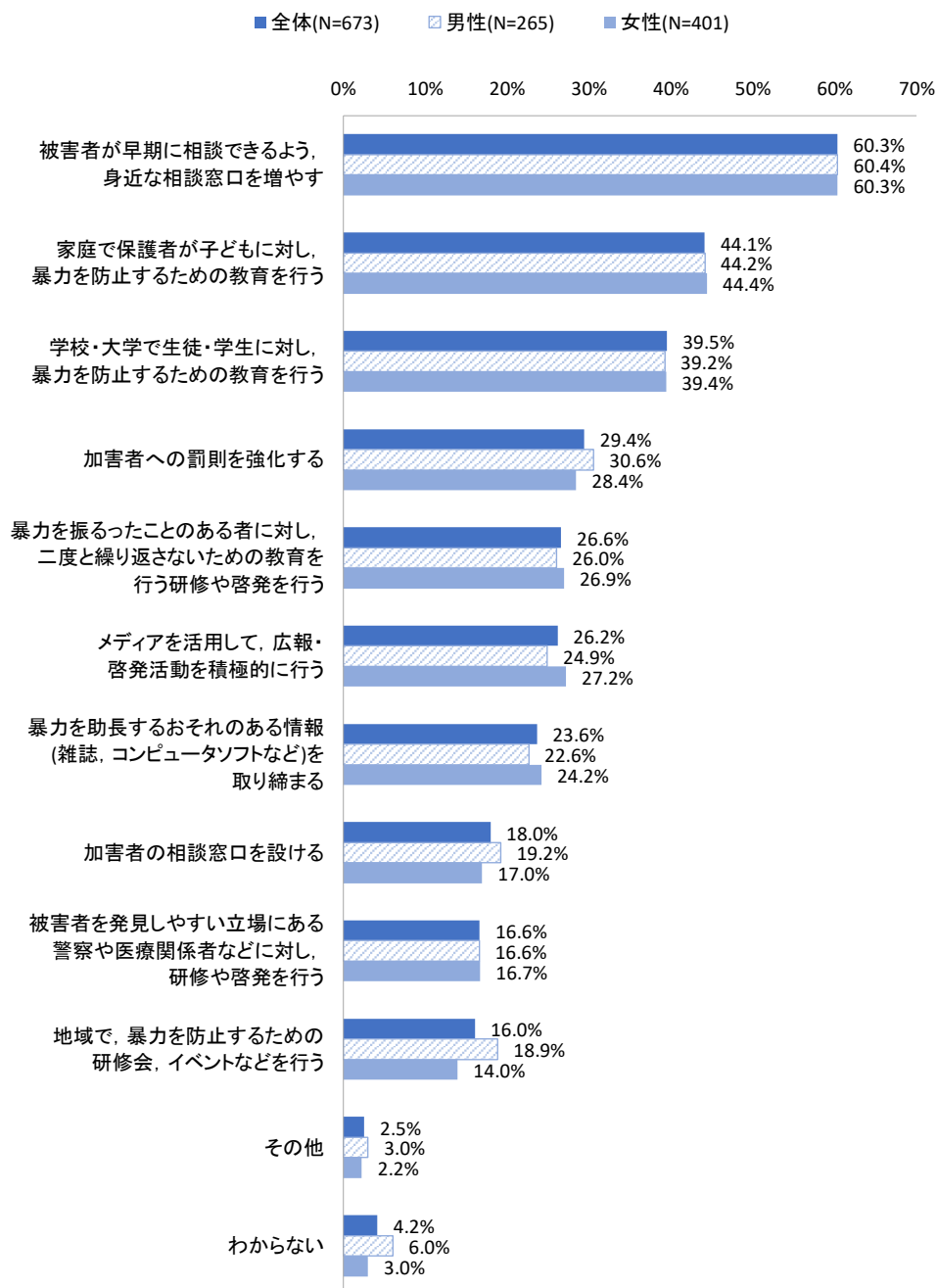


その他回答
自分で解決した
暴力に対する教養がなく仕方がないと思い、対策をとらない
そのような事象にあったことがない

問 31 あなたは、男女間における暴力や児童虐待などを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

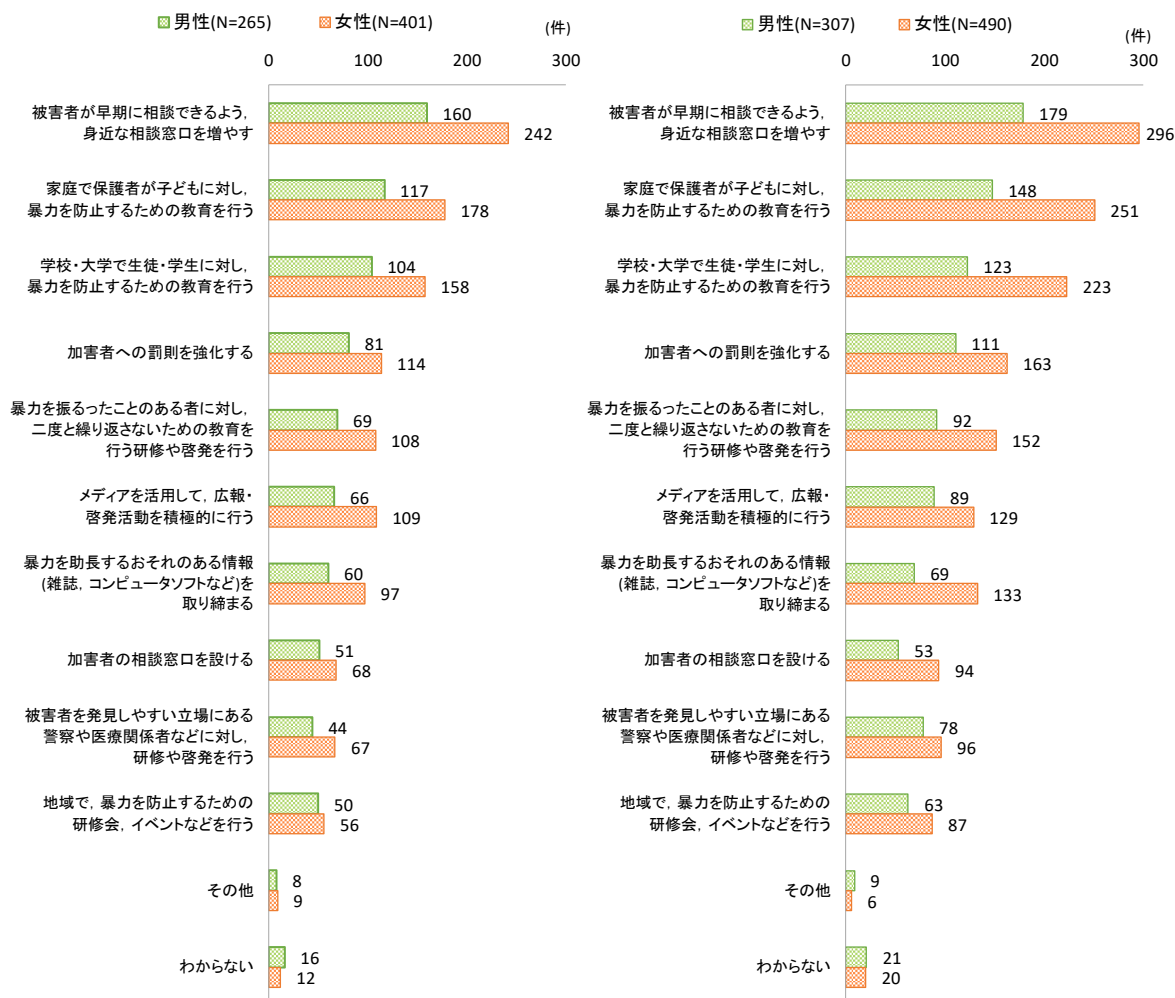
男女間における暴力や児童虐待などを防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が60.3%で最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が44.1%、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が39.5%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【今回（R3）】

【前回（H28）】



その他回答
自分のやっていることが暴力だと思っていないから意識を変えることが必要と思う
生活にゆとりをもたせる社会になると良い
日本の法律が時代に合わない
被害者はすぐに警察に駆け込み、児童虐待の場合は通報されたら警察が担当し、親から子供を引き離し、親にカウンセリングなりして改善させる
法改正、警察などに相談しても何もできないのでは意味がない
児童虐待する方は何してもすると思いますので、分かった時は親から子どもを離す事をしてほしい
男尊女卑からくるものもあるので、幼少期からの教育
男が女装しても良いし、ミシンで服を作ってもよし、男が青で女が赤とかその時点でどうかと感じる、女性を下にみてる人が多い
親の親が悪い
普段の付き合いが大切である、声かけなどで早期に気づけると一番良いが、今は自治会の加入者も減っているの、昔のやり方を押し付けるのではなく若い人の意見を聞くことが一番大切である
社会を昔に少しでも帰りたいものです
基準が明確になっている場合、教育の場で学ぶ事から
幼い時から道徳教育をする
幼少期及び学生時代で人としての道徳時間を多く設ける、また、市民と行政との定期的な情報収集
特になし
警察などの公的な人の権限強化する法整備
物理的な暴力だけでなく言葉の暴力をどうするかなどいろいろなケースがあると思うので、上記だけでは片付かない、しっかりと議論すべき
職場や地域社会において、気遣い、心遣いのできる思いやりのある人になる為の取組を行う

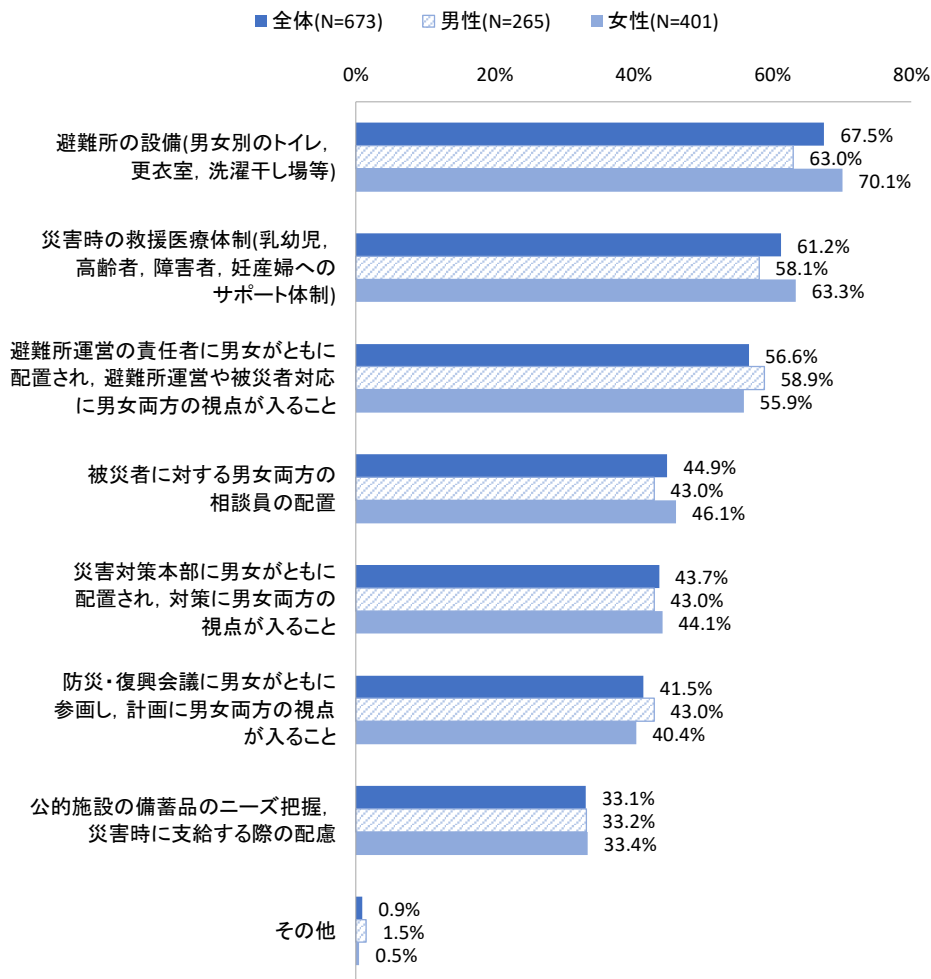
男女共同参画全般について

問 32 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためにはどのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

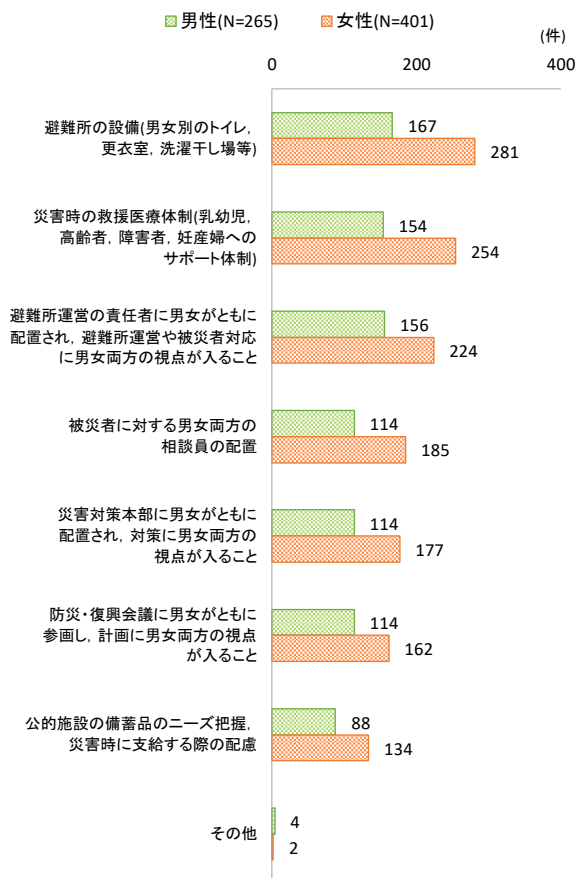
性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なことについては、「避難所の設備（男女別のトイレ，更衣室，洗濯干し場等）」が 67.5%で最も多く，次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児，高齢者，障害者，妊産婦へのサポート体制）」が 61.2%，「避難所運営の責任者に男女がともに配置され，避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が 56.6%となっている。

性別でみると，「避難所の設備（男女別のトイレ，更衣室，洗濯干し場等）」「災害時の救援医療体制（乳幼児，高齢者，障害者，妊産婦へのサポート体制）」では男性より女性が，5ポイント以上高くなっている。

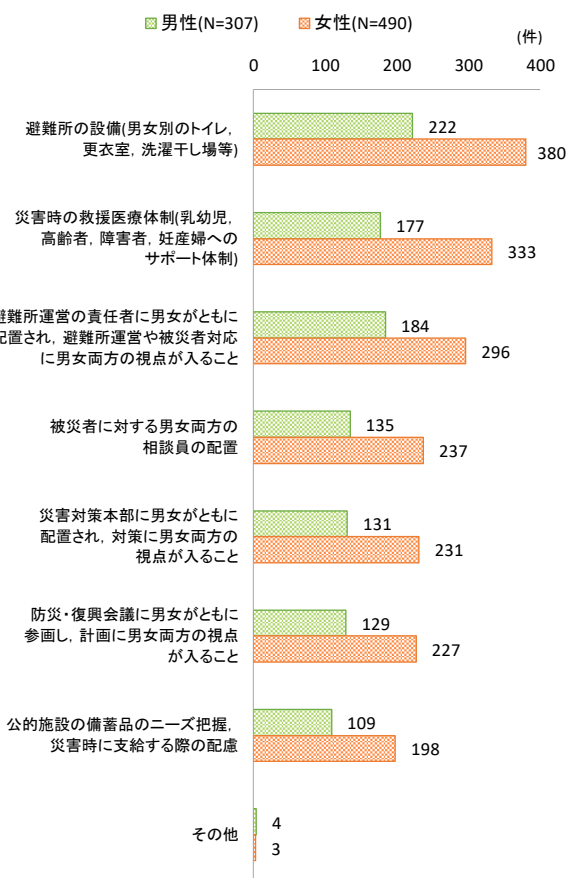
前回調査と比較すると，大きな差異はみられない。



【今回（R3）】



【前回（H28）】



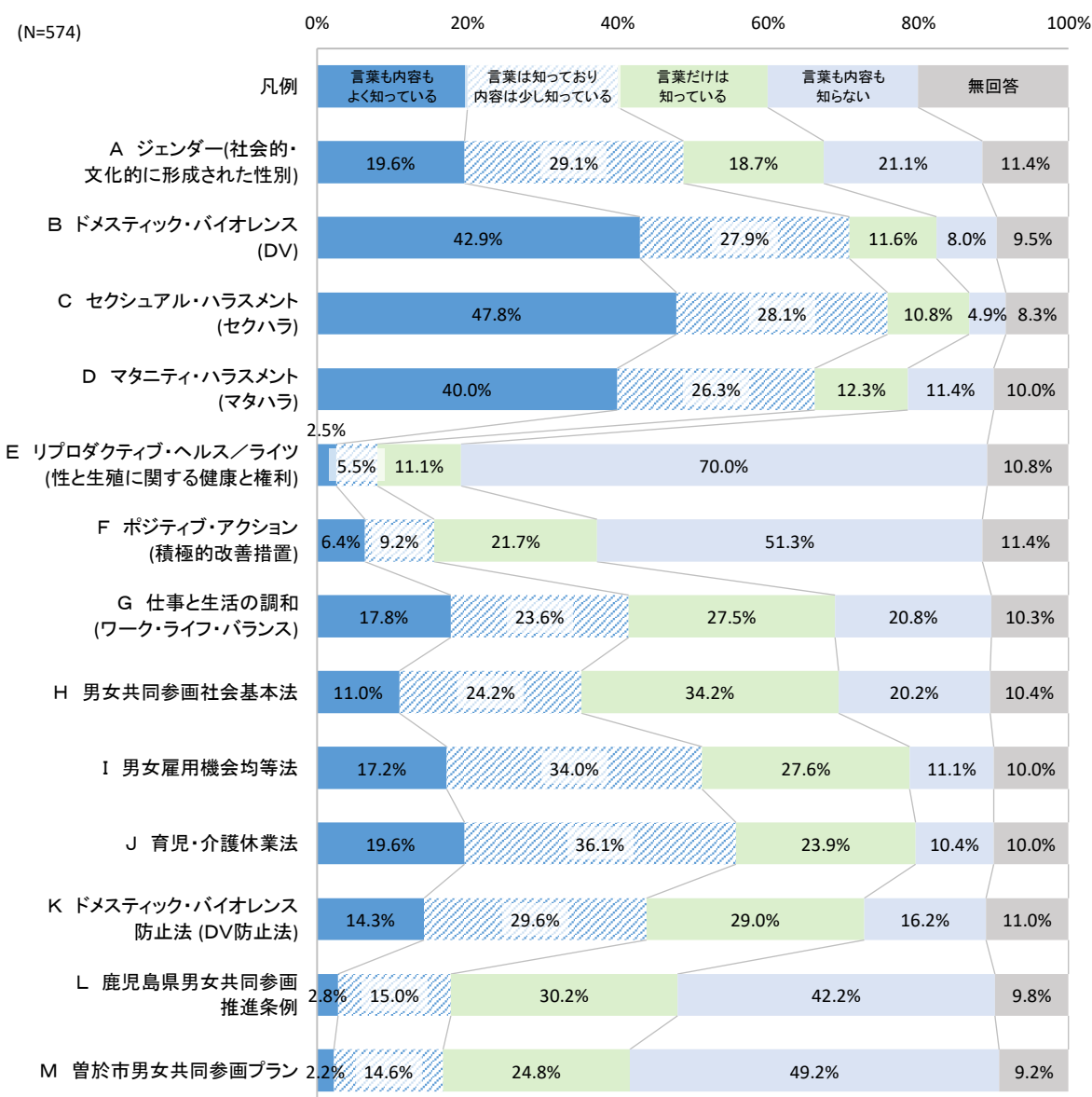
その他回答
髪等の草花整理を清潔にすること
避難したことがない
高齢者に洋式トイレは必ず必要である
避難所の冷暖房設置, 他人との仕切りをする（段ボールベッドなど）
トランスジェンダーの方への配慮（トイレや入浴などを男女2パターンで分けない）
公共の防災において地域企業の協力は必要不可欠であることから, 企業のBCP策定においても男女がともに参画し, 計画に男女両方の視点が入ること

問 33 あなたは、次の言葉についてご存知ですか。A～Mのそれぞれの項目について
右欄の1～4にあてはまる番号を1つお選びください。

総括

男女共同参画に関する言葉の認知度については、ドメスティック・バイオレンス(DV),
セクシュアル・ハラスメント(セクハラ), マタニティ・ハラスメント(マタハラ), 男
女雇用機会均等法, 育児・介護休業法では、『知っている』(言葉も内容もよく知ってい
る+言葉は知っており内容は少し知っている+言葉だけは知っている)が約8割となっ
ている。この中で、ドメスティック・バイオレンス(DV), セクシュアル・ハラスメン
ト(セクハラ), マタニティ・ハラスメント(マタハラ)では「言葉も内容もよく知って
いる」が4割以上と、認知度が高いことが伺える。

「言葉も内容も知らない」では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関
する健康と権利)が70.0%と最も多く、次いでポジティブ・アクション(積極的改善措置)
が51.3%, 曾於市男女共同参画プラン49.2%となっている



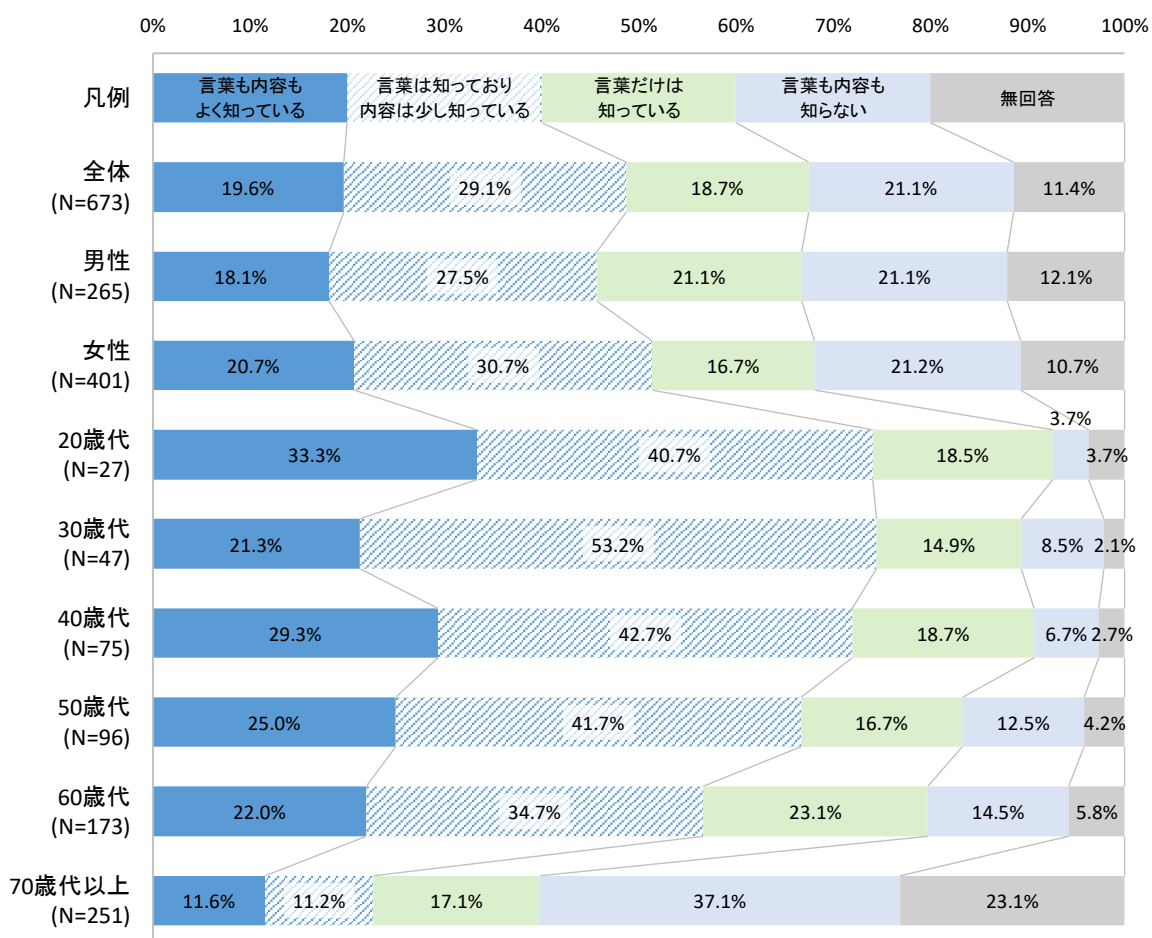
A ジェンダー

ジェンダーについては、「言葉は知っており内容は少し知っている」が29.1%と最も多く、次いで「言葉も内容も知らない」が21.1%、「言葉も内容もよく知っている」が19.6%となっている。

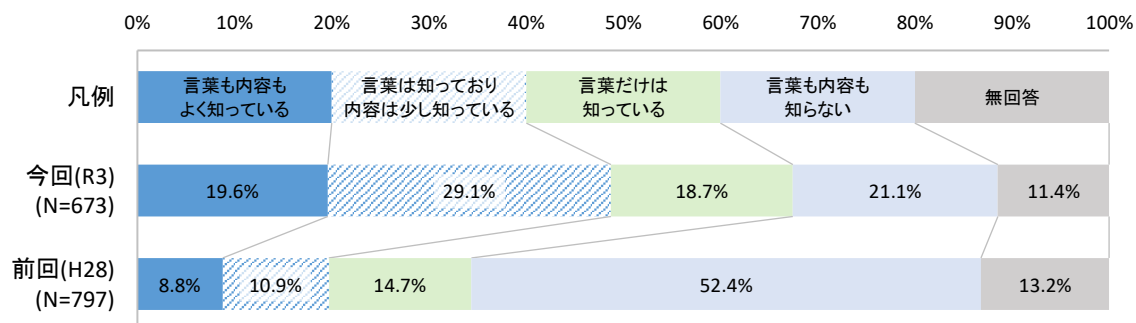
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が約8割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、『知っている』（3項目合計）が33.0ポイント増加しており、認知度が大きく上がっている。



【前回（H28）との比較】



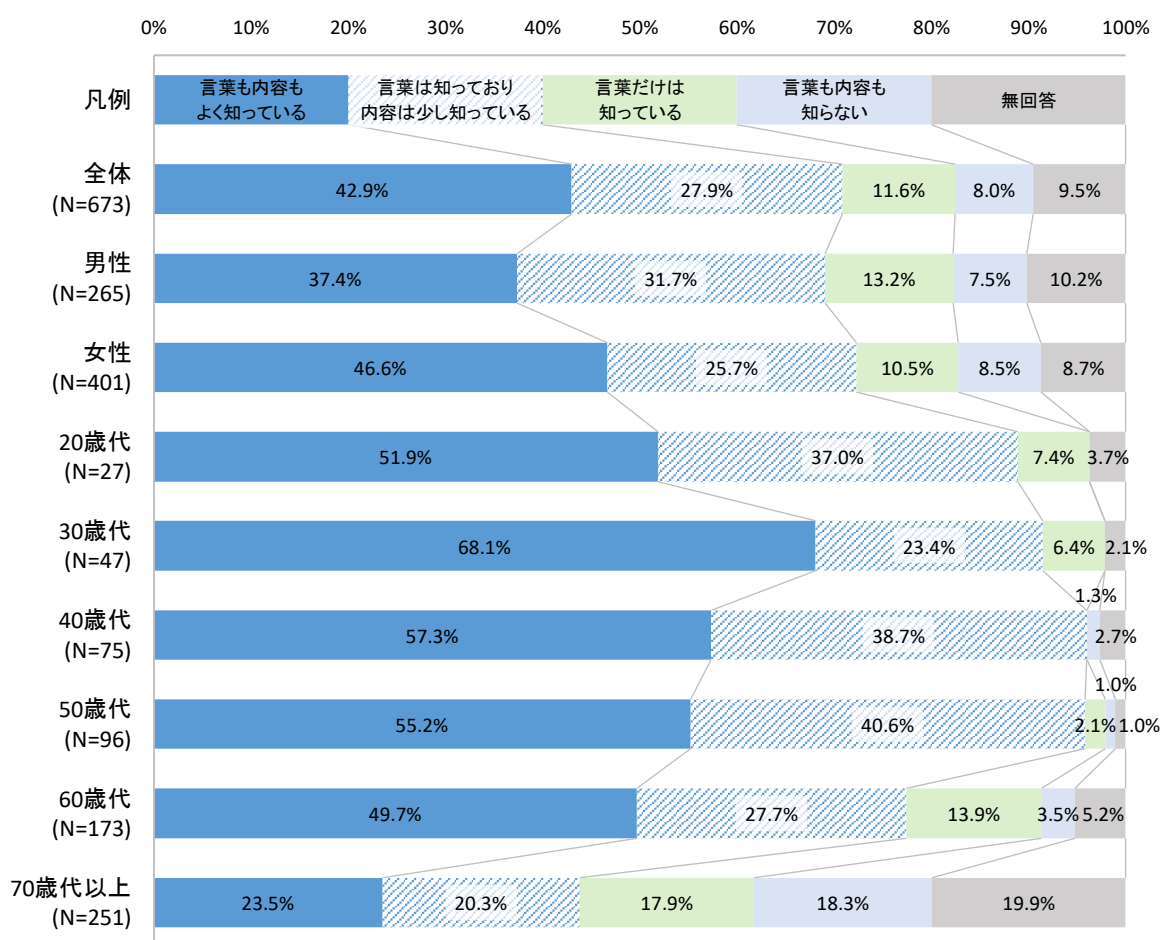
B ドメスティック・バイオレンス(DV)

ドメスティック・バイオレンス(DV)については、「言葉も内容もよく知っている」が42.9%と最も多く、次いで「言葉は知っており内容は少し知っている」が27.9%、「言葉だけは知っている」が11.6%となっている。

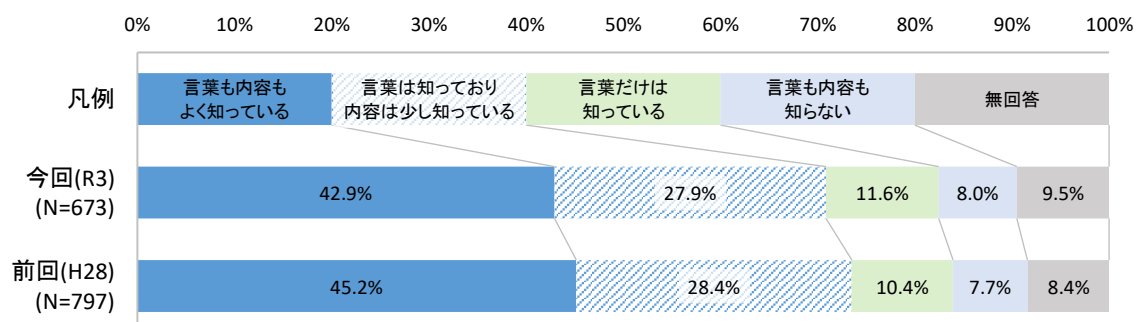
性別でみると、女性では「言葉も内容もよく知っている」が男性より9.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』(3項目合計)が9割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回 (H28) との比較】



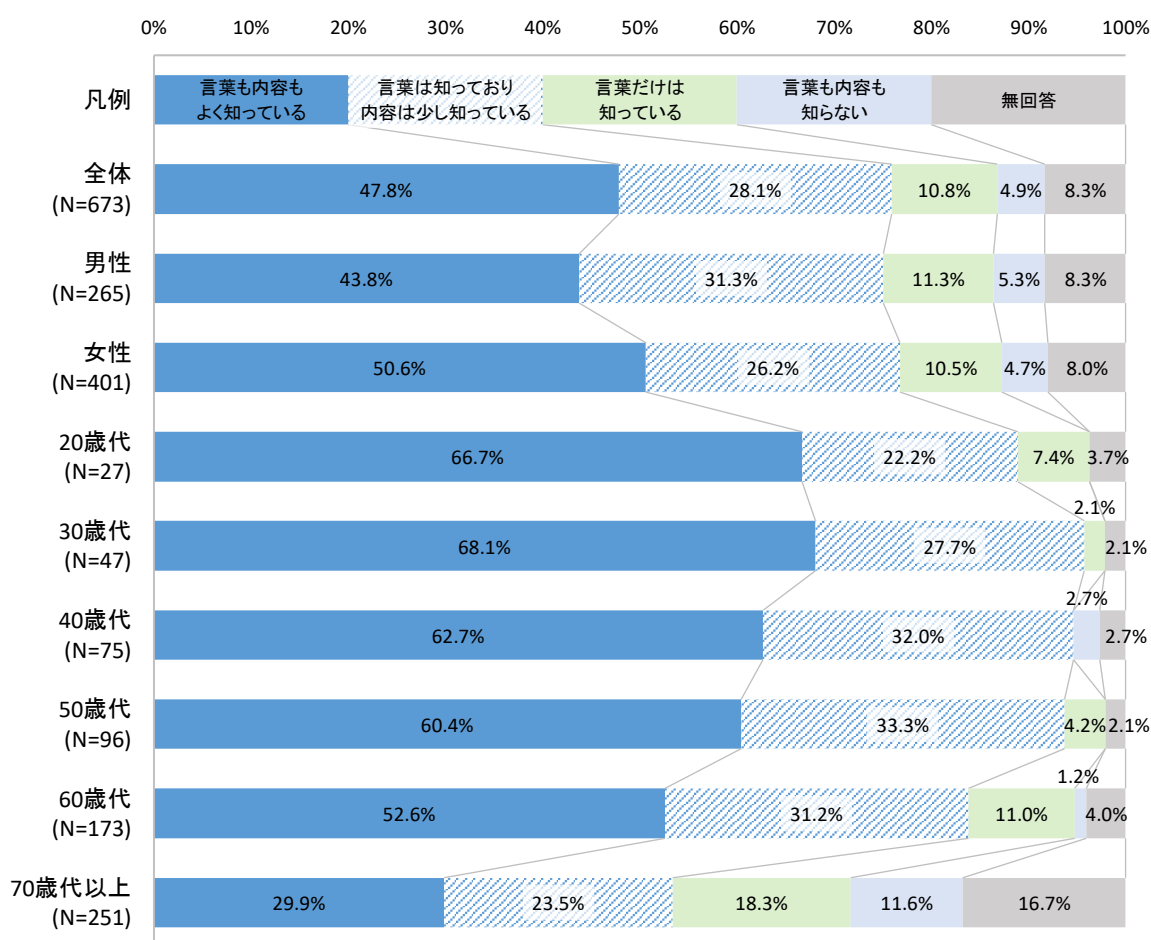
C セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）については、「言葉も内容もよく知っている」が47.8%と最も多く、次いで「言葉は知っており内容は少し知っている」が28.1%、「言葉だけは知っている」が10.8%となっている。

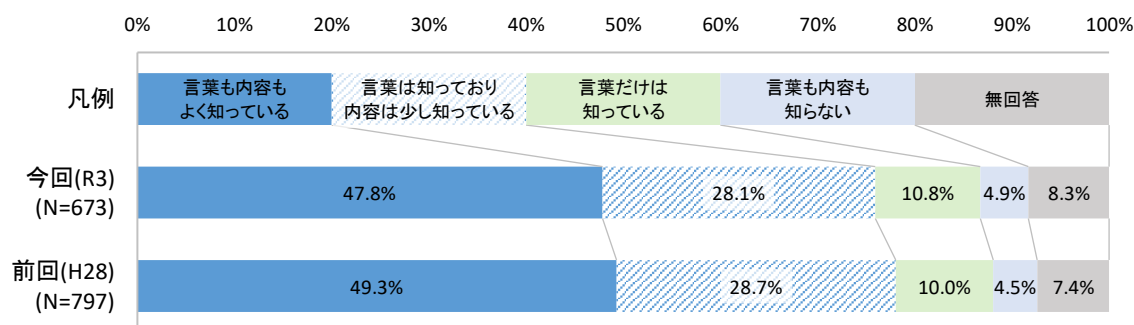
性別でみると、女性では「言葉も内容もよく知っている」が男性より6.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が9割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



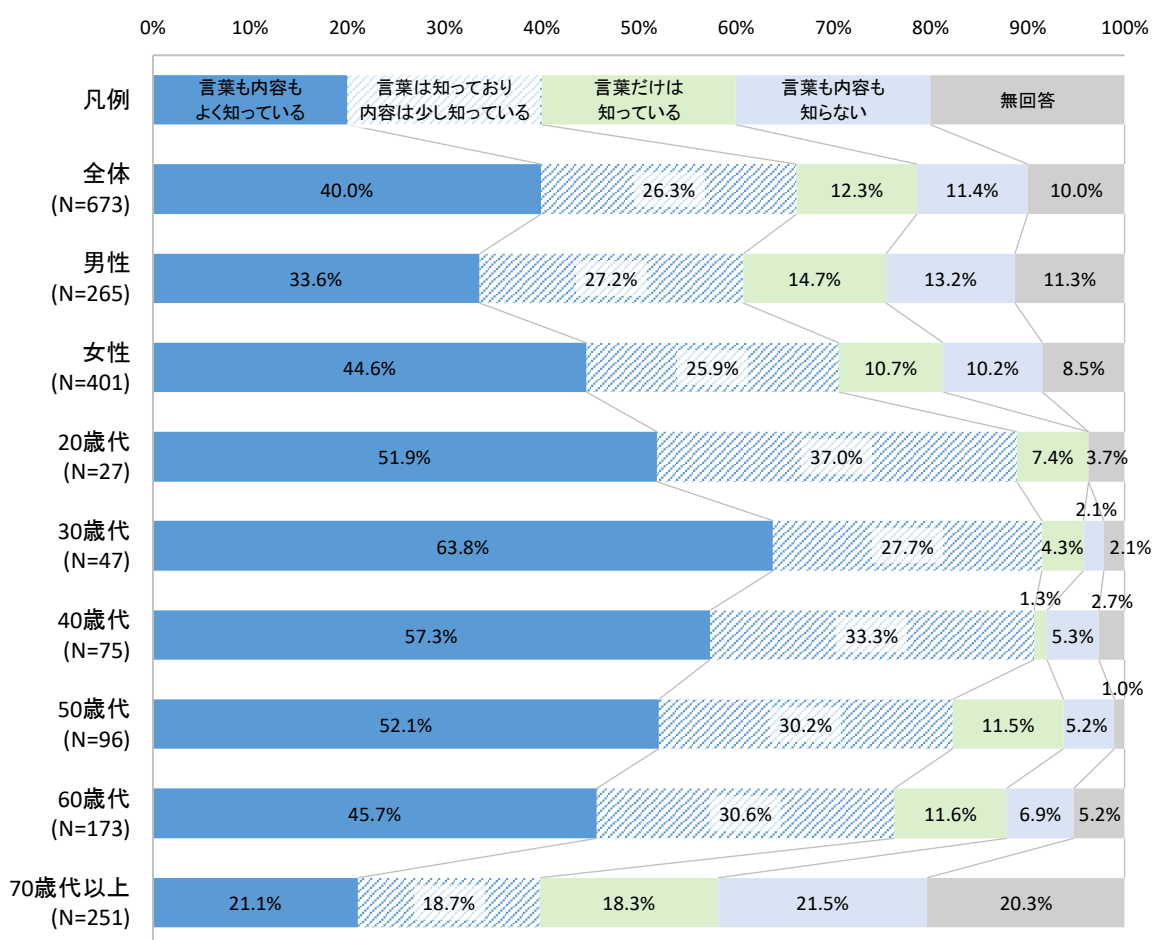
D マタニティ・ハラスメント（マタハラ）

マタニティ・ハラスメント（マタハラ）については、「言葉も内容もよく知っている」が40.0%と最も多く、次いで「言葉は知っており内容は少し知っている」26.3%、「言葉だけは知っている」が12.3%となっている。

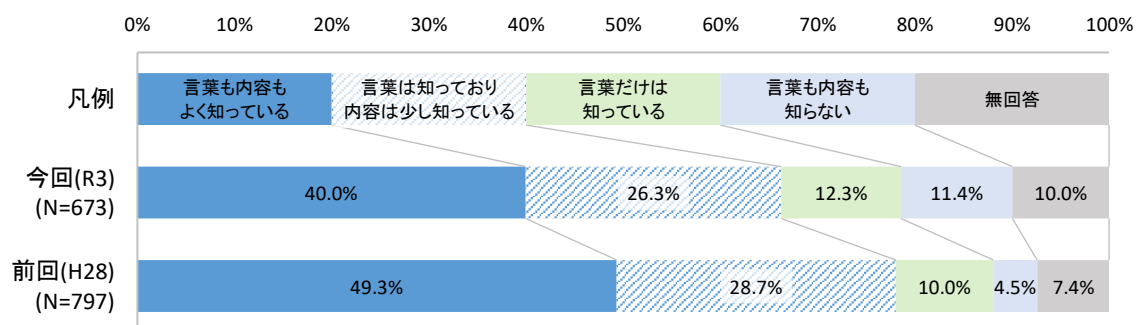
性別でみると、女性では「言葉も内容もよく知っている」が男性より11.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が約9割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、『知っている』が9.4ポイント減少している。



【前回（H28）との比較】



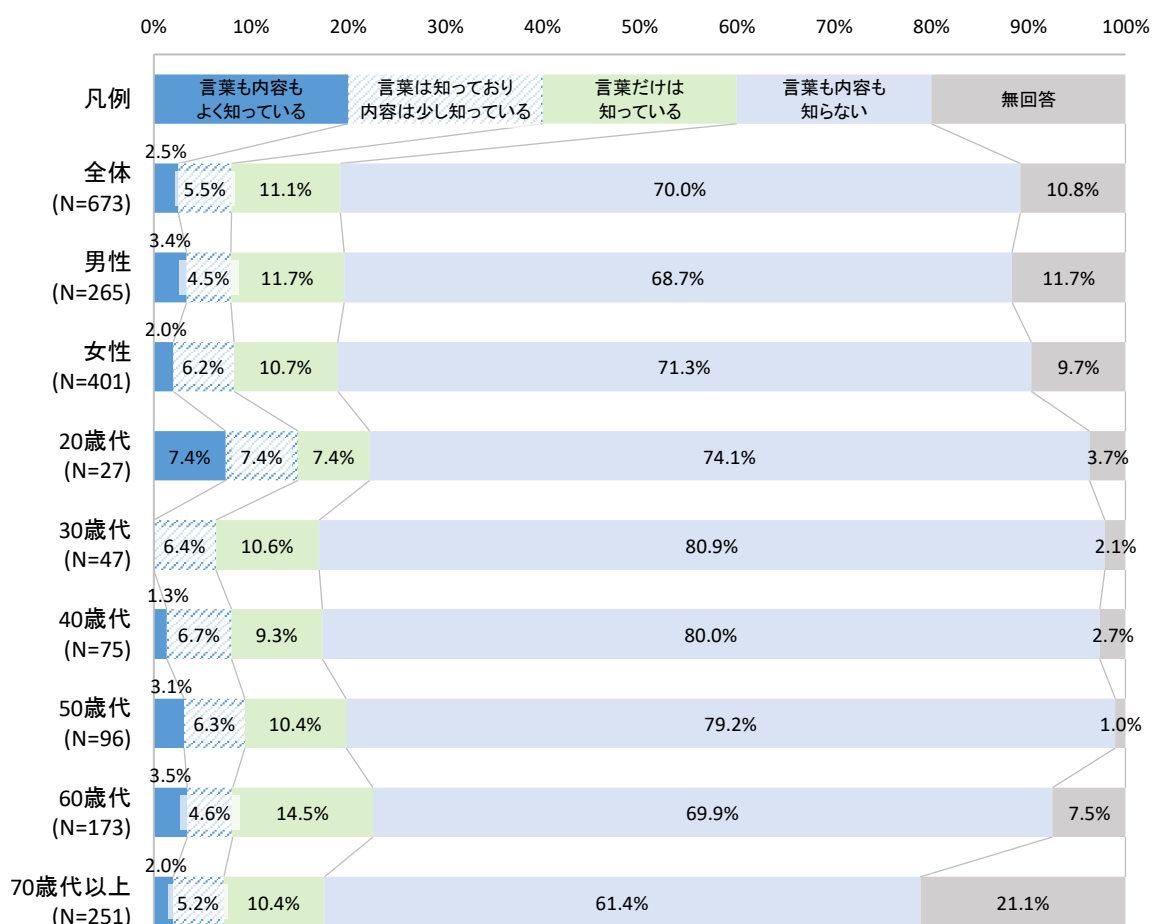
E リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）については、「言葉も内容も知らない」が70.0%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が11.1%、「言葉は知っており内容は少し知っている」が5.5%となっている。

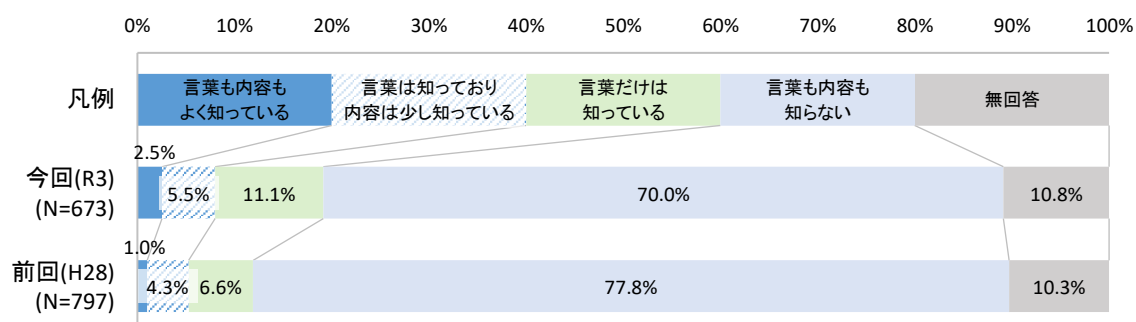
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、20歳代と60歳代では『知っている』（3項目合計）が2割以上、30～50歳代では「言葉も内容も知らない」が約8割と、それぞれ他の年代より高くなっている。

前回調査と比較すると、『知っている』（3項目合計）が7.2ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



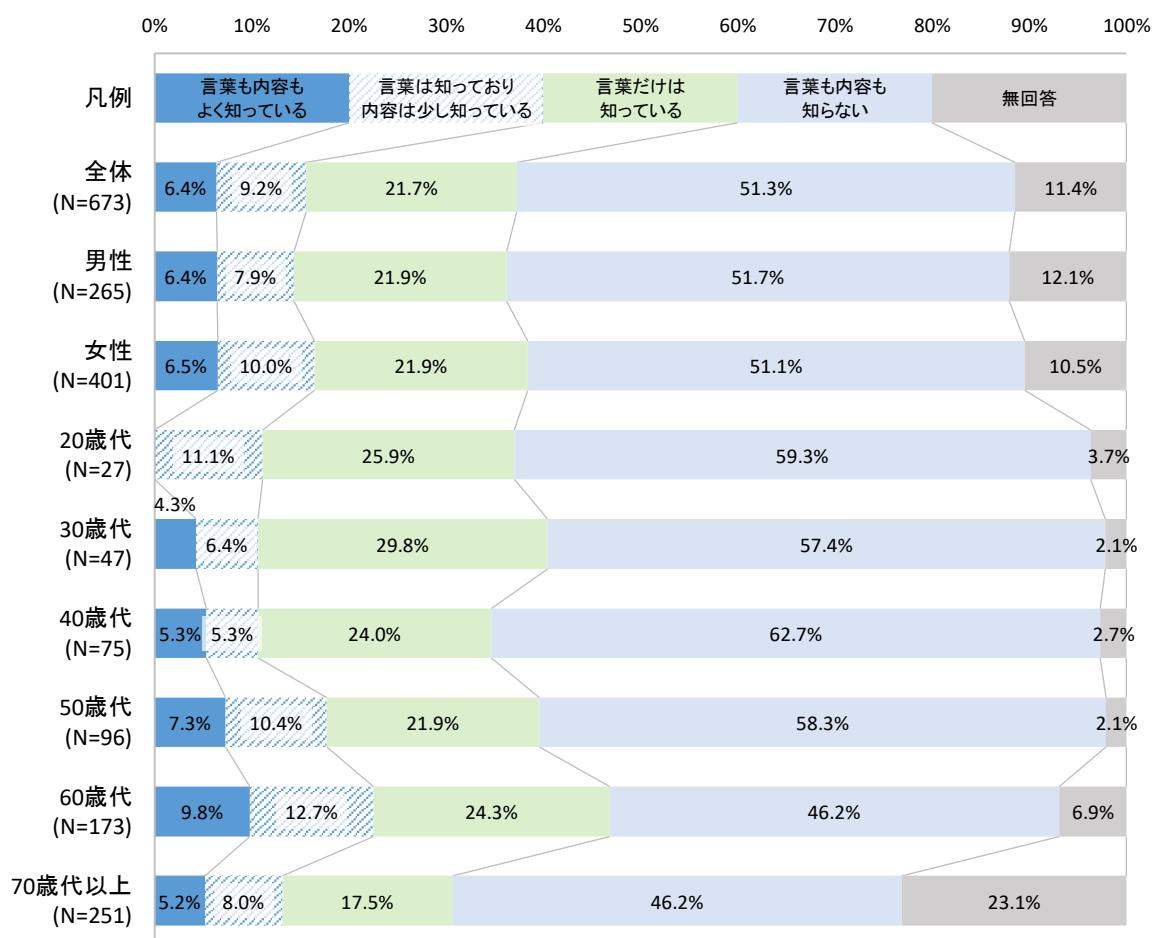
F ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）については、「言葉も内容も知らない」が51.3%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が21.7%、「言葉は知っており内容は少し知っている」が9.2%となっている。

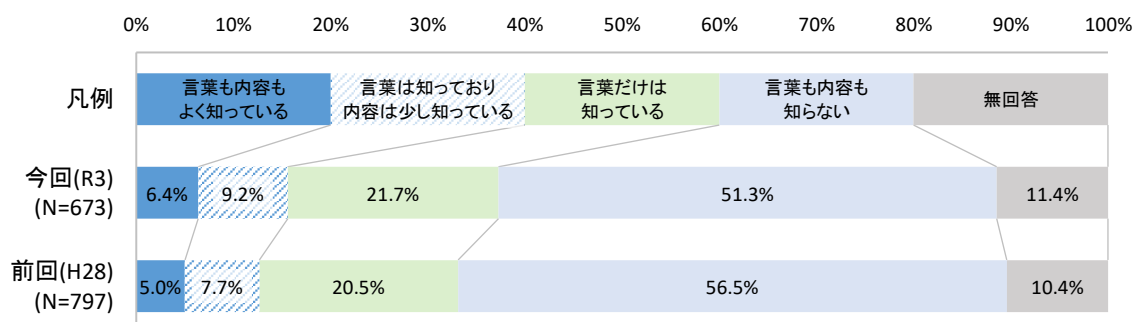
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、60歳代では『知っている』（3項目合計）が46.5%と最も多くなっている。また40歳代では「言葉も内容も知らない」が6割以上を占めている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



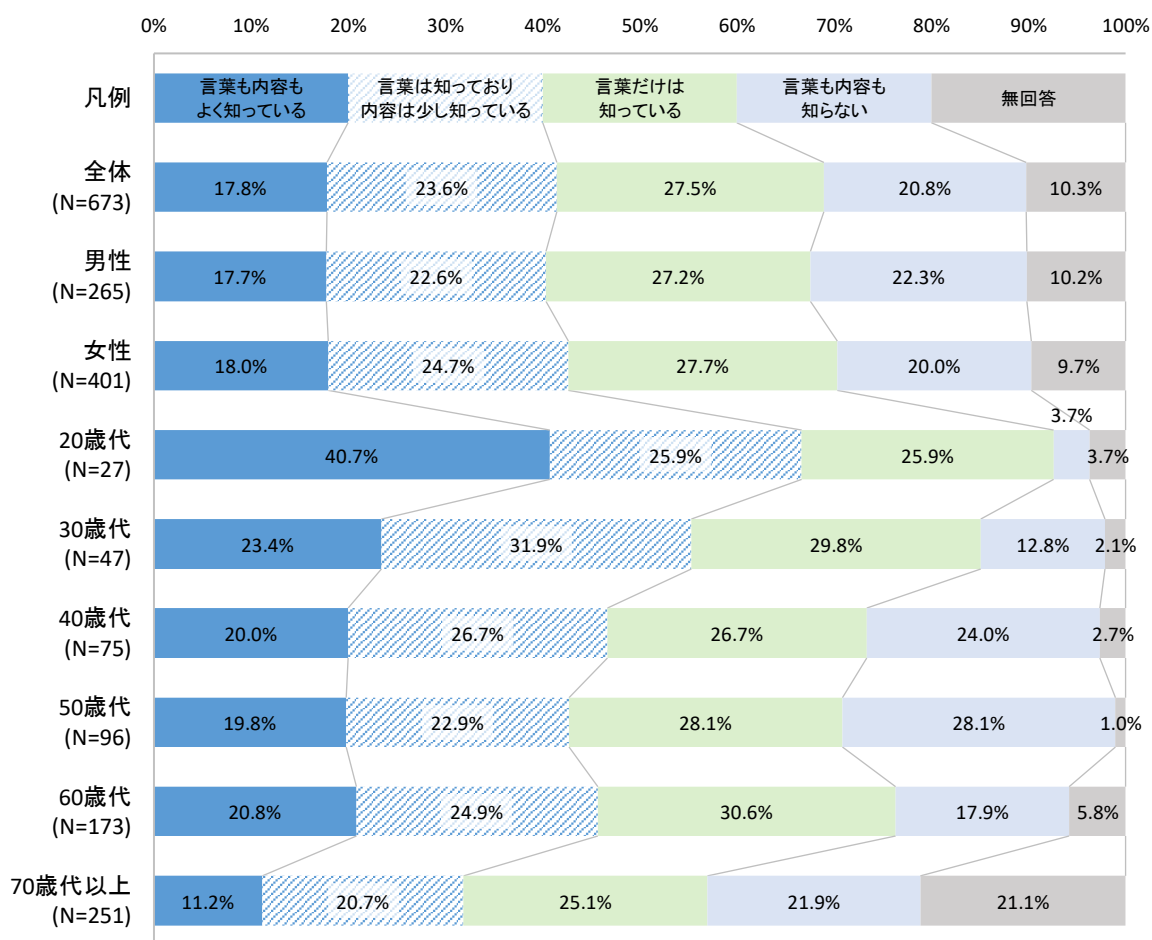
G 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）については、「言葉だけは知っている」が27.5%と最も多く、次いで「言葉は知っており内容は少し知っている」が23.6%、「言葉も内容も知らない」が20.8%となっている。

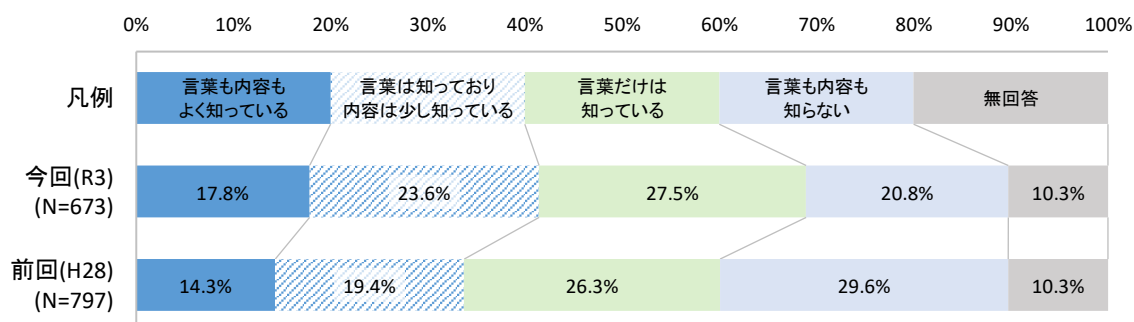
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が7割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、『知っている』が8.9ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



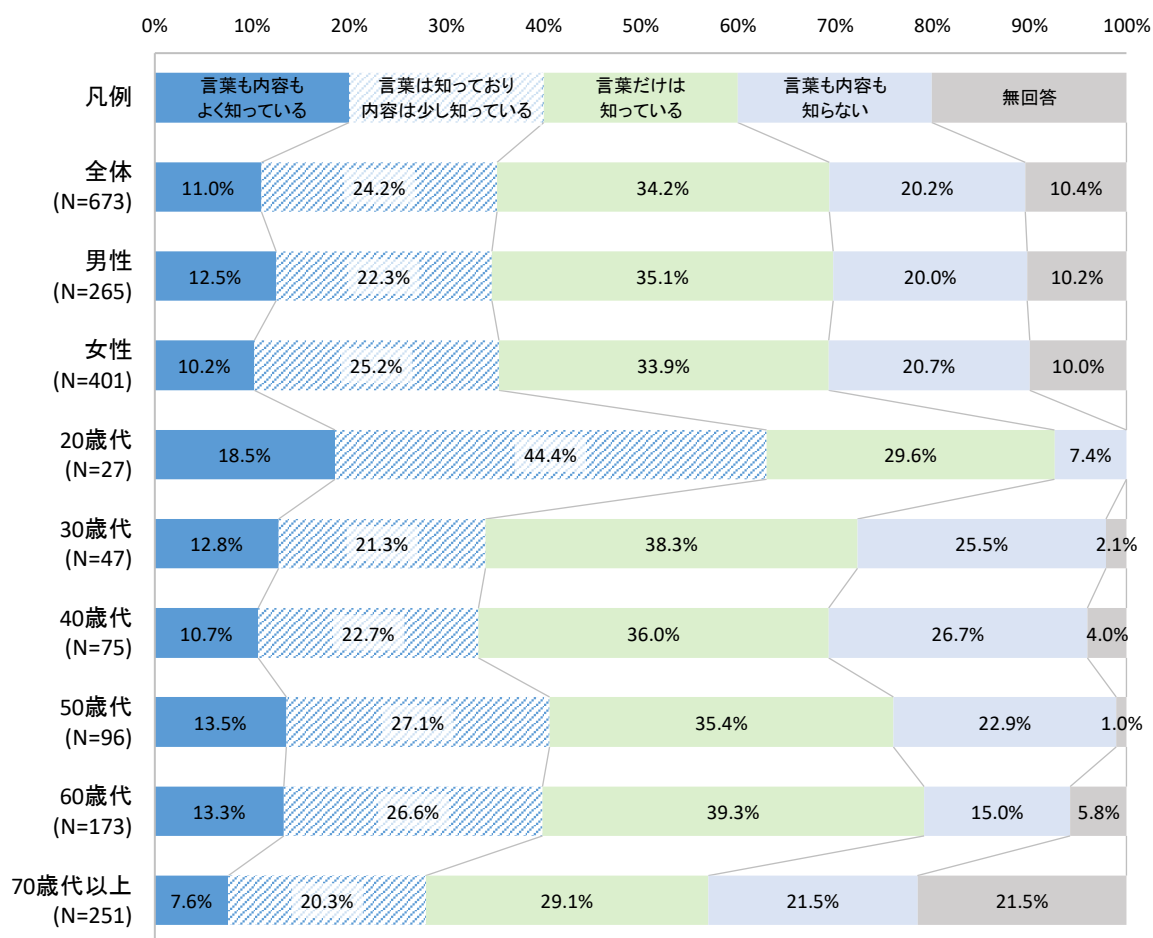
H 男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会基本法については、「言葉だけは知っている」が34.2%と最も多く、次いで「言葉は知っており内容は少し知っている」が24.2%、「言葉も内容も知らない」が20.2%となっている。

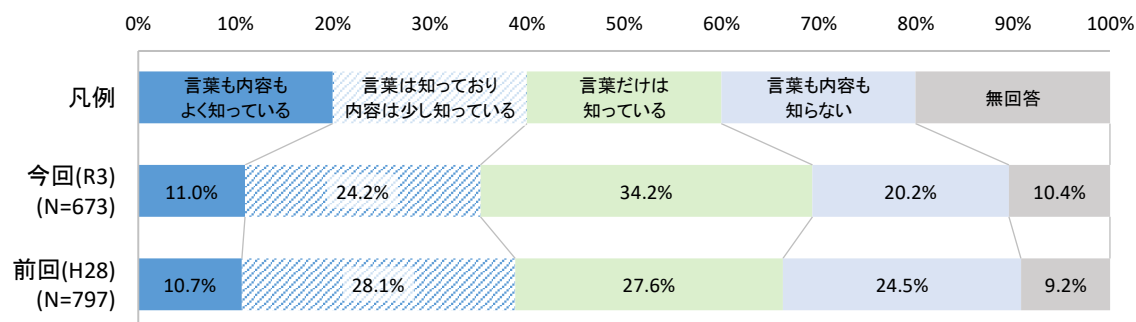
性別でみると、女性では大きな差異はみられない。

年代別でみると、20歳代では『知っている』（3項目合計）が9割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、「言葉だけは知っている」が6.6ポイント増加している。



【前回（H28）との比較】



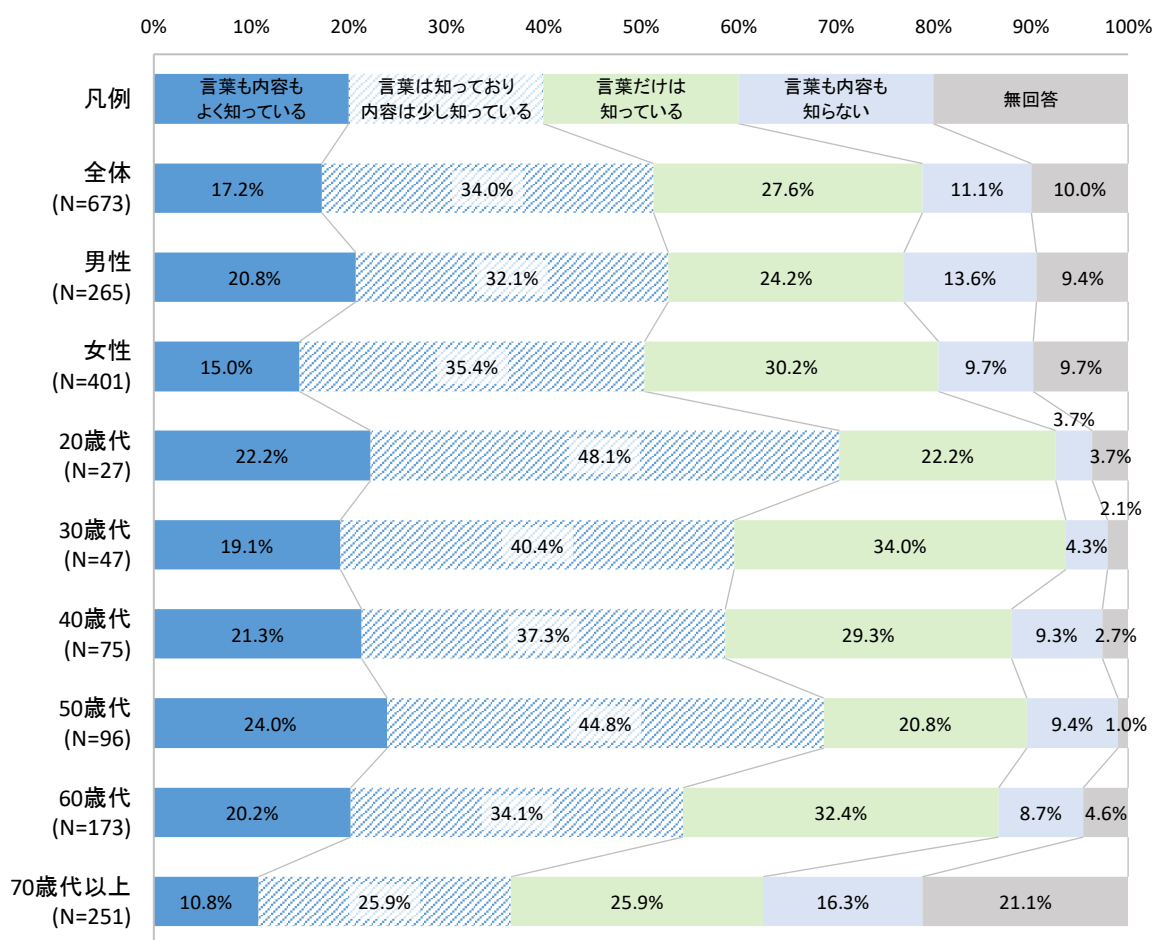
I 男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法については、「言葉は知っており内容は少し知っている」が34.0%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が27.6%、「言葉も内容もよく知っている」が17.2%となっている。

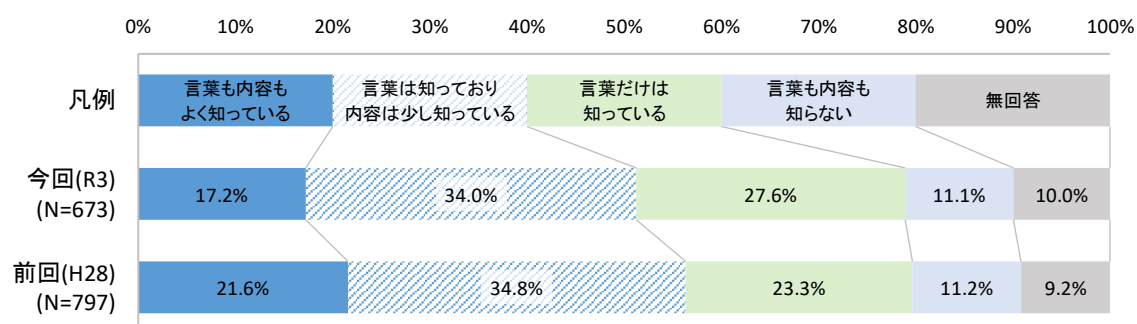
性別でみると、男性では「言葉も内容もよく知っている」が女性より5.8ポイント、女性では「言葉だけは知っている」が男性より6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が約9割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



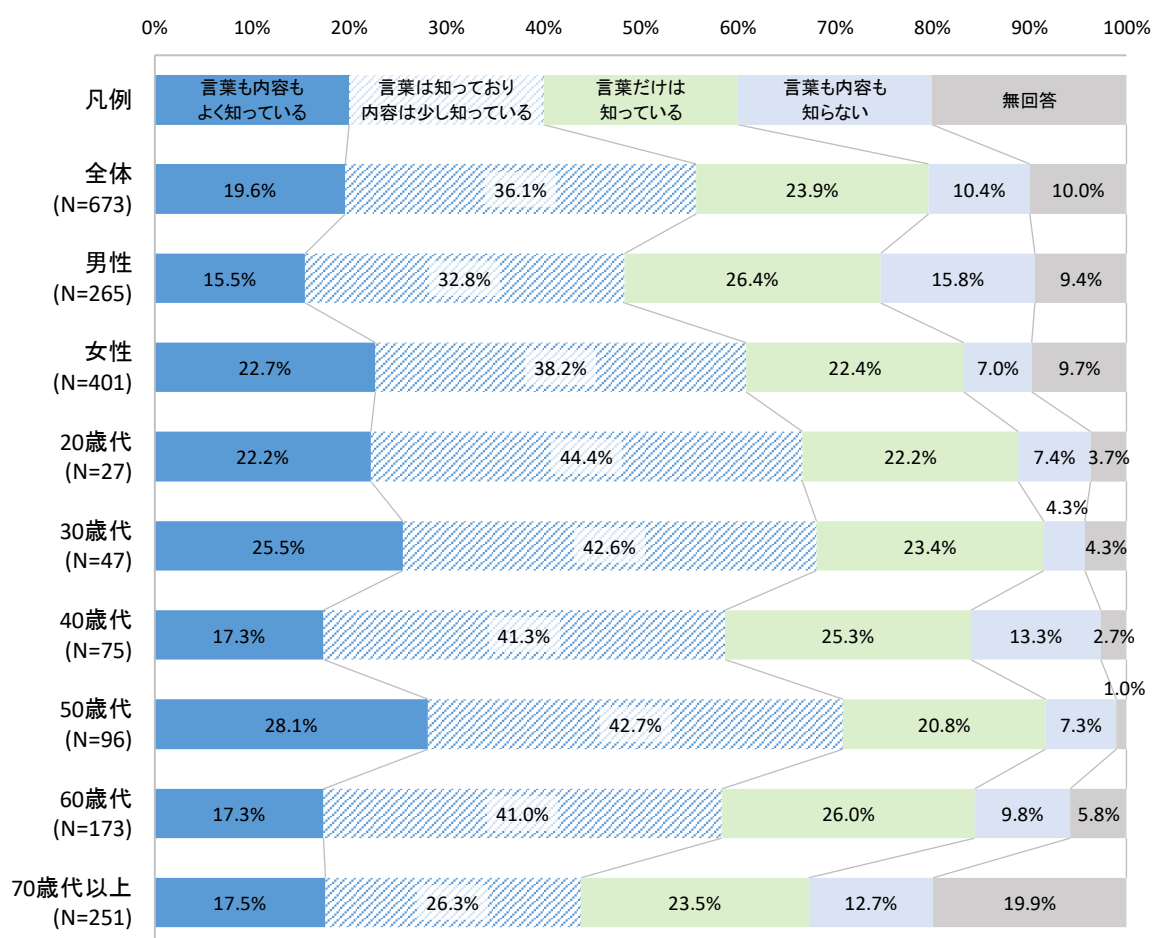
J 育児・介護休業法

育児・介護休業法については、「言葉は知っており内容は少し知っている」が36.1%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が23.9%、「言葉も内容もよく知っている」が19.6%となっている。

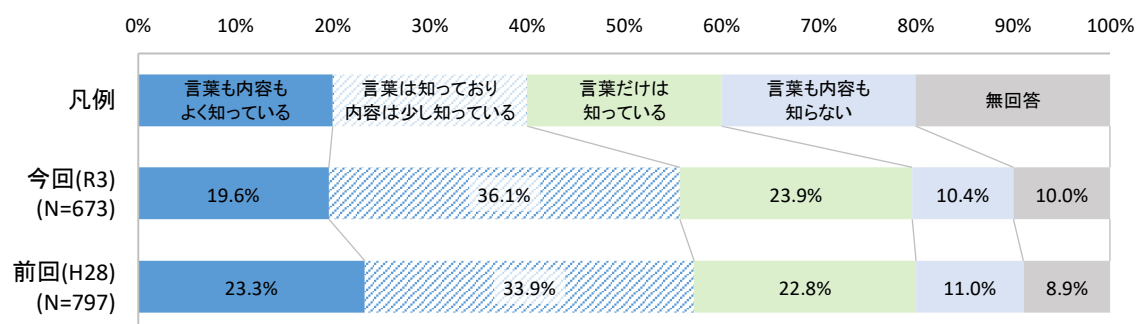
性別でみると、女性では『知っている』（3項目合計）が男性より8.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が8割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



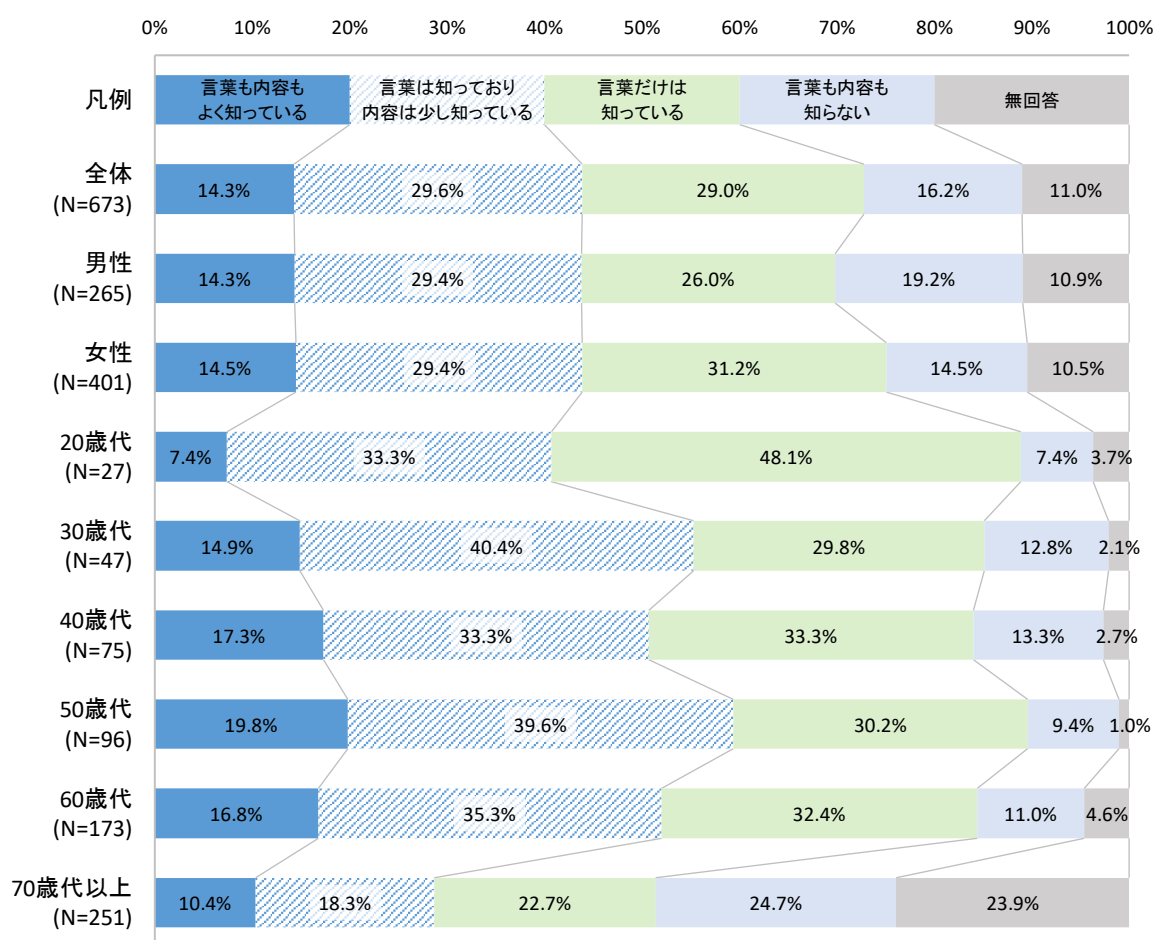
K ドメスティック・バイオレンス防止法

ドメスティック・バイオレンス防止法については、「言葉だけは知っている」が29.6%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が29.0%、「言葉も内容も知らない」が16.2%となっている。

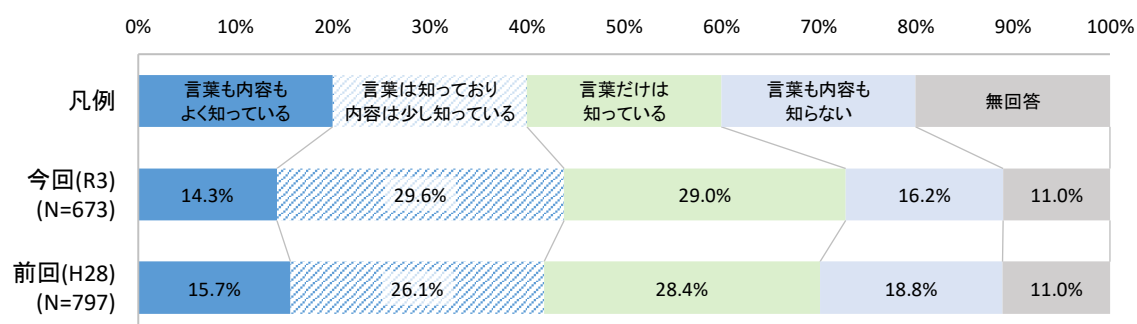
性別でみると、女性では「言葉だけは知っている」が男性より5.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、70歳代以上を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が8割以上と、認知度が高くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



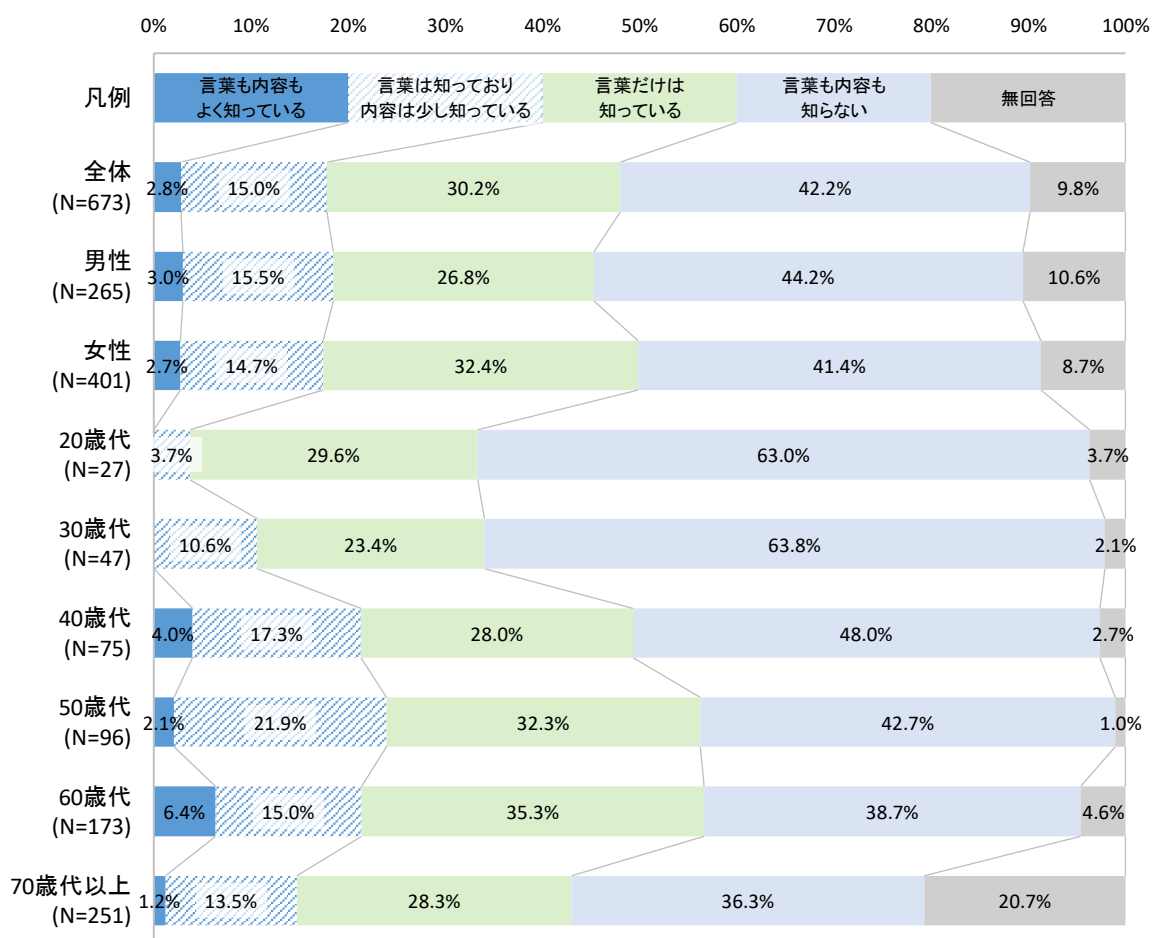
L 鹿児島県男女共同参画推進条例

鹿児島県男女共同参画推進条例については、「言葉も内容も知らない」が42.2%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が30.2%、「言葉は知っており内容は少し知っている」が15.0%となっている。

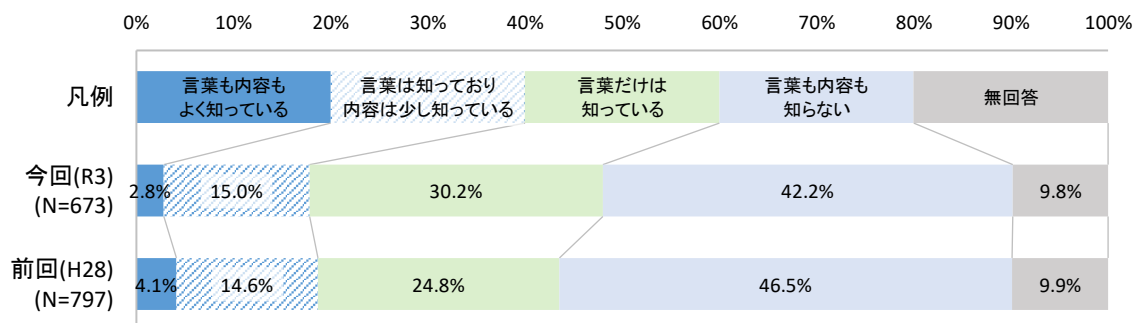
性別でみると、女性では「言葉だけは知っている」が男性より5.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、50～60歳代を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が半数以下と、認知度が低くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



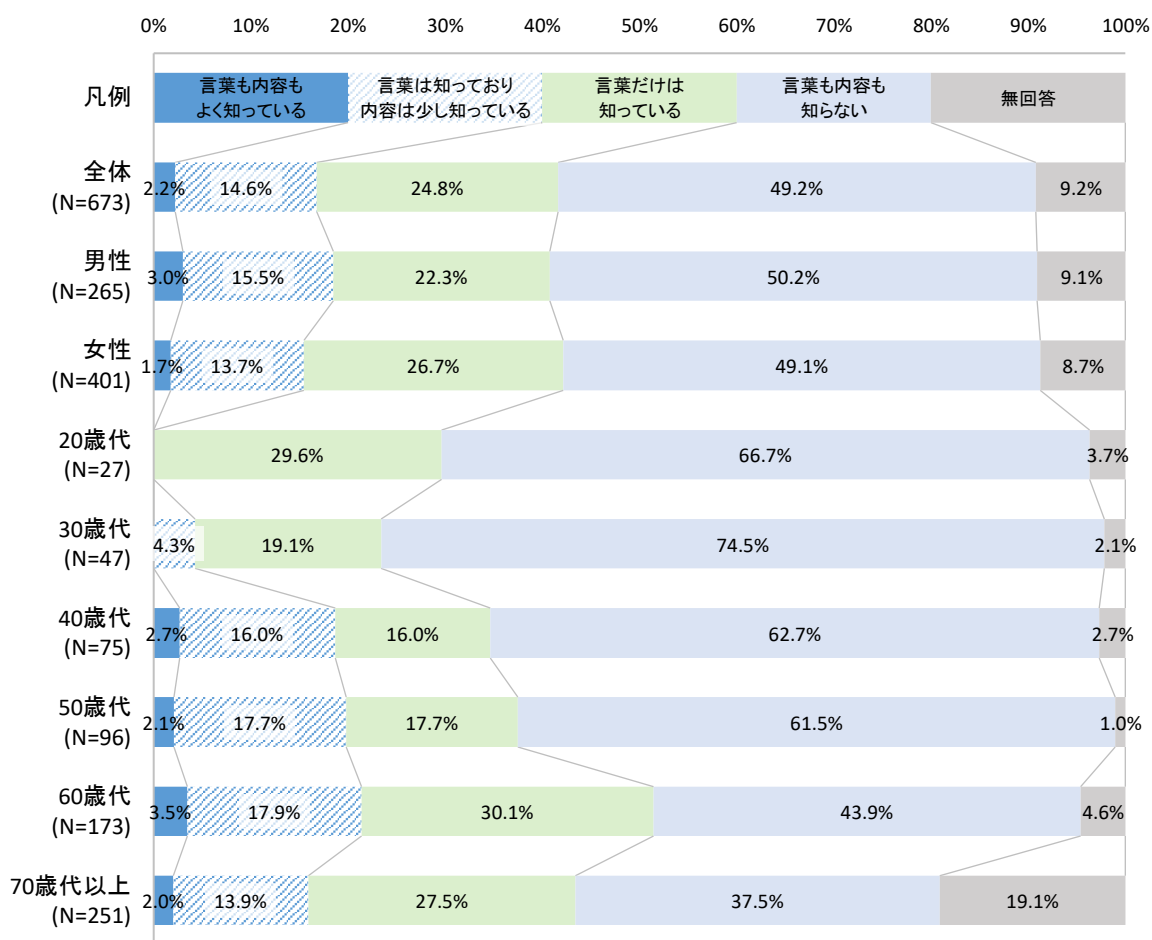
M 曾於市男女共同参画プラン

曾於市男女共同参画プランについては、「言葉も内容も知らない」が49.2%と最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が24.8%、「言葉は知っており内容は少し知っている」が14.6%となっている。

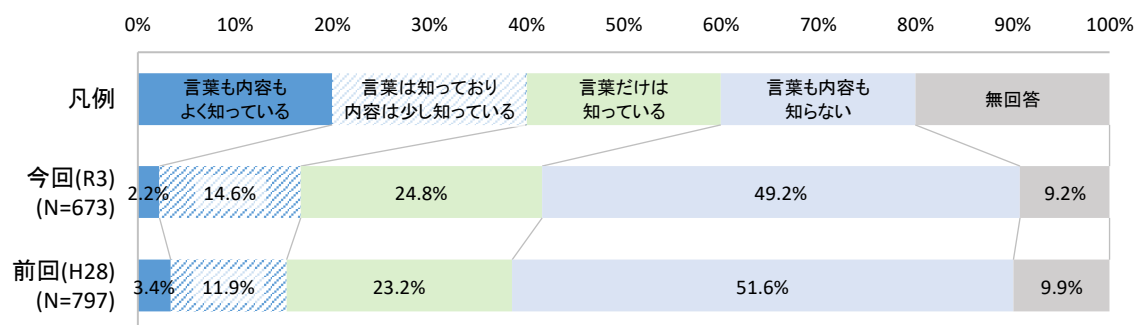
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、60歳代を除いた全ての年代では『知っている』（3項目合計）が半数以下と、認知度が低くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



【前回（H28）との比較】



自由記述回答

<地域で生活していて又は地域に生活する人々を見ていて気になること>

- DVなどを相談できる部署を知らない。(女性／50 歳代)
- いつどこで何をしているかわからない。(男性／60 歳代)
- いまだに女より男が偉い考える人がいる地域なのでいくら行政が対策をとってもどうにもならないと思います。(女性／20 歳代)
- まだまだ高齢者がいる自治体などは、昔はこうだったと強くいわれて何も言えないときもある。時代の流れを感じてほしいです。夫の代わりに出席しても妻だから黙っておけといわれるようです。(男性／60 歳代)
- まだまだ昔の風習が根強く残っていて人の目を気にして思っていることがいえないで人の意見に合わす人が多いと思う。(女性／60 歳代)
- マナーと常識。(男性／60 歳代)
- ゆとりのある生活を送れるような社会づくりが必要。古い考え方の人が多く苦しかったことを自慢しているようではだめ。(男性／40 歳代)
- 暗い時間に散歩されている人が反射材などを身に着けずに歩いている方が危ないなと思います。街灯も少なくとももう少し明りがあればいいのにと思うところがあります。(女性／40 歳代)
- 育児や家事は女性がすることと考えている人が多い。しかし最近は共働きが当たり前で女性の負担が増えているように感じる。(女性／20 歳代)
- 家事育児パートの資格取得に追われて日々の周りの状況を見渡す余裕はない。結婚を機に福岡や大分から鹿児島に引っ越してきたが南九州の男性の方が女性に優しく節度を持って接して下さる傾向がある。しかし男性優位に変わりはなく女性の社会進出への理解は低いと感じられる。男性女性がともに不平等を感じることなく働ける社会や会社というのはトップが本当に平等の気持ちがあるかどうかによる。企業の部下たちはトップの考えに沿って流れる事なかれ主義になるのでそういう雰囲気を作らない男性や管理職の意識改革が一番重要であると思う。たとえば部下の社員にたまには家族サービスをして来いとか家事を手伝ってあげなさいという言葉かけはやめていただきたい。サービスをしてやっている、手伝ってあげているという父親の自己満足を満たすだけで平等に機能していないことを自覚したほうがよい。(女性／30 歳代)
- 岩川方面に子供が遊ぶところがない。(女性／50 歳代)

- 希望の保育園に入れず遠い保育園に入れることになった人がいる。二人目以降の子供が生まれた際すぐに仕事に復帰しなければ保育園が退園になってしまい結果下の子が病気など多くなり休み仕事がしにくくなっていく悪循環がある。鹿児島はただでさえ賃金が少ないのに子育て世代への助成などが少ないので子どもを産むことをためらっている。(女性／30 歳代)
- 急激な人口減の対策は行政の産業創生のへの努力不足。コミュニティの構築や教育の充実が高齢者化により困難に思う。(男性／60 歳代)
- 厳しいこの時代に男女問わずみんなよく頑張っていると思う。この地域は賃金も安くその中で頑張っている。私の周りでは男女お互いに助け合い調和をとっていると思う。(女性／60 歳代)
- 公共的な住居にもっと入所しやすい方法をとってもらいたい。高齢者になれば保証人などが難しくなってきます。(女性／70 歳代以上)
- 高齢の身でこのような企画に参加させていただきありがとうございます。質問に対して的を得ないところもあると思いますがご容赦ください。(女性／70 歳代以上)
- 高齢化が進み自治体の役員や会長や会計を引き受ける人がいなくなり苦慮している自治体もある。市役所はあまり難しくならないように配慮してほしい。(男性／60 歳代)
- 高齢化になり集落の生活や介護も不安です。(女性／60 歳代)
- 高齢者が多く今までやってきている習慣が平等とかはあまり感じていない(意識していない)。(男性／50 歳代)
- 高齢者の独り暮らし。(女性／40 歳代)
- 今の若い夫婦は夫の協力が多いいのではないかなと思う。理解もあり逆に女性が強いのかなと思う。年をとると言い合うこともなくなります。夫婦で参加できるような趣味を持てればいいと思う。(女性／50 歳代)
- 今の若者は子供を作ること難しい体になっている人が多い気がします。小さいころから食事の大切さを勉強するのも大事だと思う。(女性／60 歳代)
- 仕事をしているためなかなか休みを取ることができません。地域には昔からの行事や風習が残っていて参加しないと地域の方々(特に年配の方)の言葉にもうその場には住んでいられないような気持ちになります。仕事をするということは社会の風習を相反することだと思います。孤独でも一人でも構わない自分の生き方をしようと仕事に日々頑張っています。男女共同参画社会の前に働く者への理解が欲しいです。(女性／60 歳代)

- 子育てやDVに悩み相談したいがどこに相談すればいいかわからないという人がいた。自分自身そういう状況になった時どこでどのような相談ができるのか全く知らない。また警察などに連絡されて大きな問題になってしまうのでは。秘密を絶対に守ってくれるのか。そういう不安を感じる人もいることを分かってほしい。(女性／20 歳代)
- 市役所女性職員も管理職に登用して才能を引き出すべきである。(男性／50 歳代)
- 私どもの地域では65歳以上の方々は職場をやめて家にこもる人が多くみられます。もっと社会にでて働いてみられたらと思います。私は75歳になりますが介護施設で働いています。老人たちはもっと元気を出して頑張りましょう。(女性／70 歳代以上)
- 自治会で準備や片付けをするのは女性であり男性も当たり前だと思っている。自治会の参加を無視やりさせられる。参加しないと影で言われる。これはいじめだと思う。参加したくない人に無理に参加させたくないし参加が少ないのであれば需要が低いのでやめればよい。自治会の参加がいやで入らない人が多い。(女性／30 歳代)
- 自治会に入らない人が多くなった。市の方で対策してほしい。(男性／70 歳代以上)
- 自治会の整理をしてほしい。街灯を多くしてほしい。町内を明るくしてほしい。(男性／50 歳代)
- 自治会の中で高齢者であるほど男女格差があるように思える。今後時がたつにつれて格差はなくなっていくと思うが小学教育からより一層男女平等の内容を教えていった方がよい。(男性／30 歳代)
- 自治体の男性が家をうろうろして困っている。家の庭にいる犬に食べ物をあげにきて困っている。相手にはわからなくてもいつも何かする人に対して犬の動きで誰までわかる。分かるうえに気持ちが悪い。思いこみをしている。子供まで相手をしていて勘違いしていると思う。(女性／50 歳代)
- 自分でもそうなると思うが年配者の交通安全の意識が薄れている。歩行者や特に運転者は基本的な技術の勉強が必要だと思う。(男性／60 歳代)
- 自分の生活に精いっぱい地域に貢献する時間がない。(女性／40 歳代)
- 鹿児島という風土がそうさせているのか女性に対し軽んじているのではないが、仕事や進学社会生活でも男尊女卑と感じる場面が多いように思われる。女性でも男性でもその人間性を尊重するべきだと思う。(男性／60 歳代)
- 鹿児島という風土的に男女に差があるため平等とは無縁のようだ。基本的な考え方を男女とも変えない限り進歩はないと考える。(男性／50 歳代)

- 鹿児島市などと比べて曽於市は所得が低いため仕事のため時間的に余裕がなく学びの意欲や自分を向上させようという意識が低いと思う。男女共同参画プランの認知度も低く学びの場も少ないしキッズルームなども少ない。(女性／40 歳代)
- 住んでいる自治会で掃除や行事など戸主（男性）が参加することになっているが用事などで参加できないときに代わりに妻が参加すると罰金があるのが納得いかない。不参加よりは金額は少ないが同じ作業をしているのに罰金を払ってまで参加したくはないと思うことがある。(女性／30 歳代)
- 女性の社会進出はもう当たり前になってきていますが男女ともそもそも違う動物であることに間違いないと思います。どちらともに役割を持って生きていくことは忘れてはいけないと思います。上手に共同していく道を探っていけますように。(女性／40 歳代)
- 女性は何か問題があると女性だからと逃げてしまうところがある。(男性／50 歳代)
- 少々の騒音はあるが快適に過ごしている。(男性／60 歳代)
- 障害者のいる家庭を訪問し仕事ができる支援をしてほしい。(女性／50 歳代)
- 身の回りは高齢者ばかりで若い人とはなかなか話をするのではない。あまり近所づきあいがなのでさびしいです。(女性／70 歳代以上)
- 人がともに生きる中で思いやり仲良く楽しく暮らしていける倫理観を学びたい。老親との同居を嫌がる人が増えてきているように思います。しかし私たちは家庭の中で愛情に囲まれて育ったのではないのでしょうか。(女性／60 歳代)
- 他県出身ということもあり南九州における男女の役割はまだ根強い印象があります。年齢が高いほど「男はこうであるべき」という考えがあるのだろうと感じさせる言動はよく耳にします。また子どもをなかなか授からないことに対する周囲の目を気にする人もいます。自己決定権は誰にでもありますし一人一人がいきいきと生活できることを心から願います。(女性／30 歳代)
- 体罰をいまだに肯定する人がいる。だから暴力は決してしてならない。(男性／50 歳代)
- 男社会が根強い。女性の年配の方が強いので若い人はやりにくそう。(女性／50 歳代)
- 男女が平等で協力していける町や地域づくりにしていけば仲間意識も違ってくると思うのでそのような社会にしてほしい。(女性／40 歳代)
- 男女は社会的にも何ともならないことがまだ多くあると思いますがともに助けあうこ

とが大事だと思いました。子供たちへの思いやりの心を育てていけるようにできたらいいのですが学校現場も大変だと思うので。(女性／40 歳代)

- 男女間というよりも曾於市では他所から来た者に対してのいじめがあった。男尊女卑の考え方も強く古臭い考え方の人が多くあまり付き合いたくない。(女性／50 歳代)
- 男女共同参画が現在どんな活動をしているのか分かりません。(女性／60 歳代)
- 男女共同参画をよく聞きますがまだまだ現実には差があるように思う。もっともっとすべての行事や運営などにも女性の立場をもっと上げる努力が社会全体で必要だと思う。(女性／60 歳代)
- 男女参画以前に自治会活動が入らなければいけない感覚や差別など昔ながらのイメージが強く不平等不公平を感じる。(男性／50 歳代)
- 男性の人々が女性の人々への言葉遣いが荒い。男性の理性の低さを感じる。(女性／60 歳代)
- 地域でも高齢化が進み近隣の人とのつながりも年々薄くなってきて家から一步を踏み出せない人もいる。地域内でのつながりが深ければもっと安心して日々を送れると思うのですが。(女性／70 歳代以上)
- 地域的にまだ古い考えから抜け出せていない方が多くあることも事実だしいくら新しい現状へと踏み出しても世間体の圧力に消極的にならざるを得ない方も多くいらっしゃる方も多い気がします。行政でいくら指導したとしても表面と内面の差は難しい状況を今後どのようなアクションでしていくのか期待します。(男性／40 歳代)
- 地域内での自治会が乱れているのが気になる。万が一一大災害が発生した時自治会の機能が発揮されすぎるのではと気になる。(男性／60 歳代)
- 中年男性以上の意識改革をしてほしい。特に鹿児島はレベルが低いことをもっとアピールして具体的な例を書いたりしてアピールしてほしい。(女性／50 歳代)
- 町に人が少なくなった気がします。商店街もガランとしていて町に人が集まるイベントなどが増えるといいなと思います。子供から年配まで楽しめる施設や無料開放の施設など暮らしに役立つ情報など曾於市内だけではなく県外の方にも足を運んでもらえるような町づくりを希望しています。(女性／30 歳代)
- 得るものはあり失うものはなし。(男性／30 歳代)
- 年だから外に出るより家にいた方がいいとテレビ相手の生活をして人との会話や遊びに参加しない人が多いからもっと誰でも参加できるような楽しみを作ってあげることが必要だと思う。体を動かすことが一番だと思う。(女性／70 歳代以上)

- 付き合いがなく情報が入ってこない。月々か年に1回位集落での若者の集いや集まる場所で情報提供をしてほしい。報告連絡相談の徹底。集落でのいじめや無視にあっている。悪口を言われている。(男性／40 歳代)
- 夫が支配・上位の家庭はかなり少なくなっているように思う。夫を掌で動かす妻も多い。互いの意思を聞きつつ求めつつ与えられた職務に就きつつ家事育児介護社会貢献などに努めていけたら満足できる人生になると思う。(女性／60 歳代)
- 部落に入ってなかったので全然部落のことは知らない。(男性／70 歳代以上)
- 母子家庭の方とか介護で仕事に就けない方のためによりよい社会づくりをしてほしい。(女性／50 歳代)
- 役員や議員を信用していないのでない。きちんと金額に合った仕事たとえば弱い者いじめなど本当に必要なことをしてほしいと思う。(女性／40 歳代)
- 老人ばかりで子どもたちの遊ぶ声が聞こえない。大型車で道路を壊しても直そうとしない。自分の敷地内は整理する。境界ぎりぎりに杭を立てて所有権を主張するが他人の通行の便意を図るなどの公共性がない。親しい人には親切だが広く社会のためや地域のためといった視点がなく見知らぬ人に譲る広い心がない。ひたすら自己中心的である。地域のトラブルを調整する潤滑油になる人がいない。老人や年配者には社会のリーダーとして若い人を指導する自信がなく遠慮しつつ生きている。子供はスーパーなどで暴れまわるが親は無論誰も注意しない。年配者が権威をもって道徳的社会を支配するという形は崩壊したがそれに代わる新しい秩序はできていない。出来つつもない。行き過ぎたジェンダーフリーには抵抗がある。男女は別の生き方をして役割を果たすように脳にプログラミングされている。それを否定されて教育され続けると子どもはむしろ混乱しアイデンティティーはうちたてられなくなる。家庭内では依然として暴力で支配する例があると聞くが社会の暴力を許容する背景があるとは思わない。絶対に許容してはいけないのなら外に訴えやすいシステムを作るべき。役所や警察は積極的に関与して罰し暴力を許さない社会にしていけるべきである。そうすれば近隣住民の警察に訴えやすいと思う。そういう雰囲気がないと田舎の人はなかなか突出した行動はとらないように思う。市役所は家庭訪問をして積極的に啓発活動をするべきだ。集会もいいが集まる人は少ないとも思う。就職差別や職場差別に関して今は年齢や性別で差別してはいけないが実際は面接などでやんわり断られているようだ。女子が多く就業している職場では男子を拒む傾向があるがその逆は聞かない。女子で職場のルールや秩序が形成されている場所に男子が入るとそれが崩れ雇用者にとって仕事の成果に悪影響が出るだろう。女子が狭量で保守的である。男子も受け入れて新たな職場環境を作る姿勢と努力が必要だと思う。(男性／60 歳代)

- 直接は関係無いですが、市道、県道の脇にゴミが散乱して、あまりにも汚いイメージがあるので、ゴミの投げ捨て禁止の条例を作り施行して欲しいものです。(男性／60 歳代)
- 我が家は共働きで、特に私は土日祝日の休みが無く働いています。そうになると、土日に多い自治会の行事に小さい子ども達を置いて夫が出向く事や一人で子ども達と参加することは大変難しいです。両親も祖母の介護をしており、頼るに頼られない状況です。我が家の場合は子どもも多いので少し特殊かもしれませんが、私が働きに出ている以上とても負担です。自治会での活動も大切なのは分かっています。しかし、まずは自分達の生活、子どもたちの部活動などの行事を優先せざるを得ません。自治会での活動がどれだけ大切か分かっているつもりではありますが、今は負担の方が大きく感じてしまいます。私が仕事を辞めればいいのかとも考えますが、それでは生活が成り立ちません。(女性／30 歳代)
- 男女みんなで助け合いながら生活出来るようになればいい (女性／20 歳代)
- お年寄りの買い物、孤独老人 (女性／30 歳代)
- 年配の方はセクハラする方が多いです。介護、医療職においてはそのようなセクハラをされることが多く、セクハラをする人に対する罰則など不明な点が多いので泣き寝入りすることもあります。(女性／20 歳代)
- 女性の社会進出とは言いが妊娠して出産できるのは女性だし、子供には愛情が必要。その一方で虐待する親から子供を守らないといけないのにそれすらできていないことに問題がある。(女性／40 歳代)
- 宮崎県出身ですが、比べて鹿児島県は男尊女卑を感じ、協調性も不足している。(男性／70 歳代以上)
- 70 代以上の世代の地位ある方の行動が好き嫌いだったりして、次世代へのいろいろな引継ぎや地域の調和が上手くいっていないと思う。最後には「議を言うな」で片づけようとする。(男性／50 歳代)
- 高齢化率が高い曾於市ではまだまだ女性が虐げられている地域だと感じます。(男性／50 歳代)
- 日本のジェンダーギャップは 156 カ国中 120 位で先進国の中で最低レベル。その日本においても鹿児島県はかなり低いレベルです。歴史的背景など原因は様々ありますが、性別にかかわらず一人ひとりの人権の尊重は絶対です。性別による偏見、差別、性別による固定的な役割分担等がつくられたものであることを理解して変えていかなくてはなりません。また、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）も知らず知らずの

うちに植え付けられているのが現状です。職場において、また地域社会において知識を深め正していくことが必要でしょう。(男性／50 歳代)

<その他>

- DVや暴力などについて親からや交際相手から受けた方が加害者になるケースがよくあると聞きました。長期のケアが必要なのではないかと思います。(女性／40 歳代)
- DVを受けた人への対応をしっかりとすることも大切だと思う。言葉の表現力が大事。(女性／60 歳代)
- このようなアンケートがある自体男女平等ではない証のような気がします。人生の選択肢が増え支える人の形も個々で変わっていいのではないかと思います。男が働き女は家と決めるのではなく個々に柔軟に支えあえる社会になればいいと思います。(女性／40 歳代)
- どこまでがしつけでどこからが暴力なのか分けられない。自分は悪くない自分を怒らせる相手が悪いという性格が変わらない限りはどうすることもできない。毎日そのような状況というわけではないがこれからも我慢しながら生活していくと思う。(女性／60 歳代)
- 以前男女共同参画の勉強をしましたが適材適所であれば女だろう男だろうとどちらでもいいのでは。昔は女に学は必要ないといわれましたが今は平等です。(女性／70 歳代以上)
- 意識と現状についての調査とありますがそのあとにアンケート回収はどのようにされているのでしょうか。曾於市に男女参画や協働推進というものがあるの知りませんでした。具体的に何をしているのか知りたい。(男性／60 歳代)
- 何をしているのか知る方法を教えてほしい。(男性／60 歳代)
- 家庭において教育の現場において国を愛すること家族を愛すること隣人を愛することを教えるべきである。優しさが不足していると思います。男女共同参画社会にもつながると思う。(女性／60 歳代)
- 我が家にも年頃の娘がいます。結婚しても曾於には産科がなく都城と鹿屋に行くしかありません。少子化対策のためにも若い人が喜んで子育てができるように産科が必要だと思います。(女性／60 歳代)
- 官公庁では男女共同参画についての理解が進んでいるように感じるが一般企業ではそ

ういった配慮がなされているようには感じない。特に地方では何も変わっていないのではないのでしょうか。見ていて気持ちのいい場面とは言えないところも見たことがあります。将来のある子どもたちや現代を生きる市民が気持ちよく過ごせる社会に近づきますように。(女性／20 歳代)

- 議員や公務関係者の「常識」への認識。(男性／60 歳代)
- 給料は増えないのに差し引かれる金額が年々増えていくため何のために働いているのかわからない。(男性／50 歳代)
- 近所に引っ越してきて新築されても集落に入らずあいさつも来られない。これでは地域活動は無理である。(女性／60 歳代)
- 近年自治会を脱会する人が増えている。住居はあるのに入会することもなく。高齢化や人数の減少は自治会の行事や奉仕作業にも影響が出てくる。参加する人は大変です。人数が減っていくなかでの自治会の在り方も考えるべきだと思う。(女性／70 歳代以上)
- 公務員と同様に子育てしながら働きやすい育児休暇が取得できる社会になるよう共同推進係で曾於市の各会社への積極的な啓発を期待します。各企業への女性の働きに対しての意識調査など実施して企業への意識改革の啓発を期待します。(男性／60 歳代)
- 項目自体差別的なものが見られますがあの項目は差別している側の人間をあぶりだすためにやっているのですか？(男性／20 歳代)
- 高齢者には難しいアンケート調査でした。(女性／70 歳代以上)
- 今までを通して仕事のみの生活だったのであまり周りのことや男女共同参画について興味もなかった。今後あらゆる活動を知り参画できればいいと思う。今年曾於市に引っ越してきたので今の曾於市内のこともよくわかりません。(女性／60 歳代)
- 最低賃金を上げてほしい。(女性／40 歳代)
- 子どものいじめについてですが曾於市の小中学校をときどき抜き打ちで子供たちにアンケートをした方がいいと思います。先生たちも研修をした方がいいと思います。(男性／50 歳代)
- 子育てと介護は別々のアンケートを取った方がいいと思いました。それぞれの立場で細かい意見が届けられるのではないかと思います。(女性／40 歳代)
- 私の感覚的な意見になりますが比較的 50 歳以下の方は男尊女卑や性差別による慣習やしきたりなどは見受けないように感じます。(男性／40 歳代)
- 字が見えないので答えることができません。(男性／70 歳代以上)

- 質問が多すぎる。文言が難解なため回答するのが大変です。(男性／50 歳代)
- 社会的マナーが低いと感じます。(女性／70 歳代以上)
- 世代によって考え方は違うと思う。「女医」や「女性議員」などわざわざ女をつけることに違和感がある。私自身は女性ということで配慮を受けたことはありますが差別を感じたことはないので平等にということは大切なことだと思います。(女性／50 歳代)
- 政治が変わり政策を見直し今一度人の道德心を教育することから考えるべき。日本でも曾於市でも中心からもう少し考えていくべきだと思う。今のままで将来に夢が持てるでしょうか。(女性／60 歳代)
- 正しい教育が大事だと思う。(女性／50 歳代)
- 正規職員で子供がいる場合小学生までは残業などはない又は減給でもいいから短時間で勤務できるような制度を作してほしい。(男性／30 歳代)
- 曾於市や近隣の地域は仕事も少なく賃金もかなり低いいためまず地域の活動に参画する余裕が持てない状態だと思います。年金暮らしになった時点でいざ参画したいと思っても体がついて行かない可能性もあるので家庭の収入に対する税金をもっと見直してほしい。親から引き継いだ土地などの税金も収入によっては考慮してほしいです。余裕がないので。(女性／50 歳代)
- 曾於市男女共同参画プラン。当局としては一生懸命に曾於市のために努力されていることだと存じますがその一生懸命さが私どもに伝わってこないです。こういう件をわれわれにどう伝えるか考えてほしいものです。恥ずかしいことですが初めて知りました。(男性／60 歳代)
- 男女共同参画社会づくりはどこで知ることができますか？(男性／50 歳代)
- 著名人や有名な方の公演を聴く機会があるといいなと思いますが夫婦で聞きに行くことはないと思いますが、一人でカリカリするしかないのかなと思っています。(女性／70 歳代以上)
- 年を重ね夫婦ともに生活する役割を若い時から学び実行していく互いに思いやりを持ち励ましながら年を重ねていくことが大切だと思います。(男性／70 歳代以上)
- 年齢制限で仕事もないので 60 歳になったらシルバーの仕事があるかもしれないと思いき。短時間でもいいので少しでも稼いで楽しみたい。(女性／50 歳代)
- 夫と息子違いは感じます。家事育児積極的に協力するのは息子です。時代の流れもあるのですがやはり男性の考えを変えてお互いに協力が必要かと思う。(女性／60 歳代)

- 問 21 と 22 は質問内容がよくわからなかった。(女性／70 歳代以上)
- 男女平等というが、何か男が悪いような考え方やサービスが横行しているので、非常に違和感がある。男女は基本的に生物学的なものの考え方が違うので、その理解をまず深めるべきではないだろうかと思う。そこを前提に平等とは何かを考えることが重要ではないか。女性進出を隠れ蓑に労働力不足改善を図ろうとしていることも理解している人は少ないと思う。(男性／50 歳代)
- 男女間には、体力的なことや社会的なことで性差があり、全てを平等にするということとはできないと思う。性差を理解した上でお互いを尊重し、平等というよりお互いの長所を生かした社会を構築するべきだと思う (男性／40 歳代)
- 集落では高齢者の一人暮らしが、二人暮らしのみで、集落の存続が難しくなることが心配です。(女性／60 歳代)
- 年齢問わず、みんなで楽しめるイベントが開催出来たらいいです。(女性／20 歳代)

